
八雲町
高齢者保健福祉・介護保険に関する
アンケート調査結果報告書

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査／在宅介護実態調査】

平成 29 年 11 月

八雲町

目 次

I. 調査の概要	1
1. アンケート調査の概要	1
2. 本報告書の留意点	1
II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	2
1. 回答者について	2
2. 家族や生活状況について	4
3. からだを動かすことについて	9
4. 食べることについて	21
5. 毎日の生活について	33
6. 地域での活動について	51
7. たすけあいについて	54
8. 健康について	62
9. 介護予防について	69
10. 介護保険制度及び保健福祉施策について	78
III. 在宅介護実態調査結果	93
1. 回答者について	93
2. 在宅で介護されている方の状況について	95
3. 主な介護者の状況について	117

I. 調査の概要

1. アンケート調査の概要

第7期介護保険事業計画策定にあたって、高齢者の生活状況や支援ニーズ、在宅介護者の状況等を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査を実施しました。

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査の目的	要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況、社会参加の状況などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しました。	要介護認定者の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向け、介護サービスの在り方を検討し、計画に反映させることを目的として実施しました。
対象者	65歳以上の一般高齢者及び要支援認定者	要介護認定者及び介護者の家族（施設入所者は除く）
調査時期	平成29年7月～8月	平成29年7月～8月
調査方法	郵送による配布 訪問による回収	郵送による配布 訪問による回収
配布数	500	288
有効回収数	457	202
有効回収率	91.4%	70.1%

2. 本報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

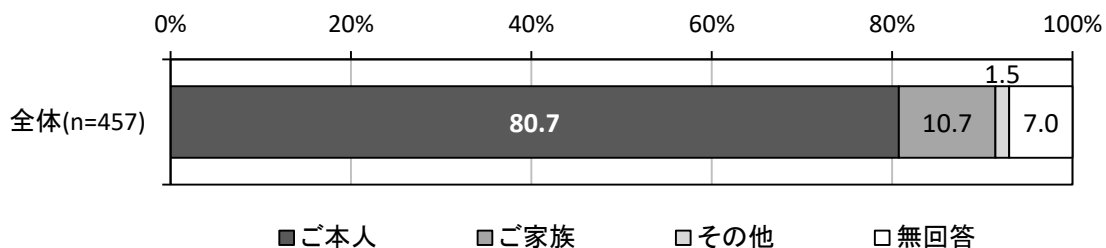
- ・比率は百分率（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を100%として算出しています。
- ・グラフに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
- ・文中の「要支援認定者」は、要支援1及び要支援2の認定者です。

II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1. 回答者について

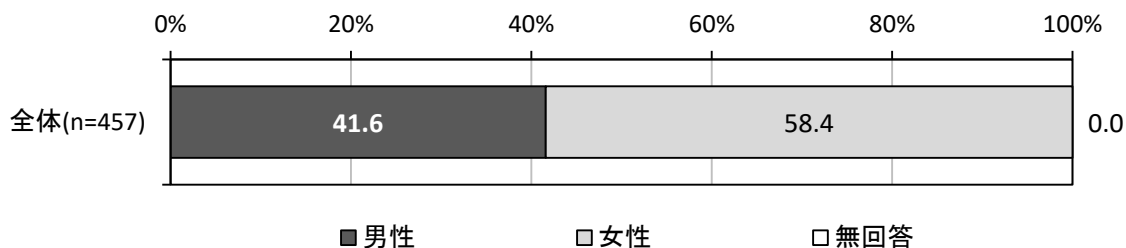
(1) 記入者

アンケートの記入者は、「ご本人」が80.7%を占め、「ご家族」は10.7%となっています。



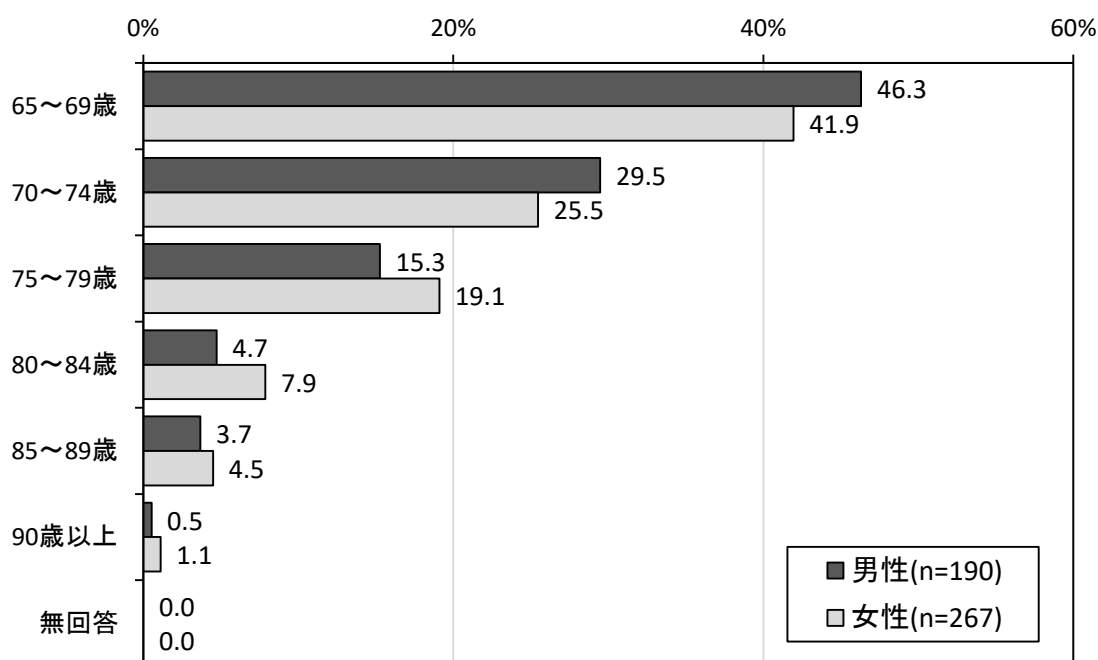
(2) 性別

調査対象者の性別は、男性が41.6%、女性が58.4%です。



(3) 年齢

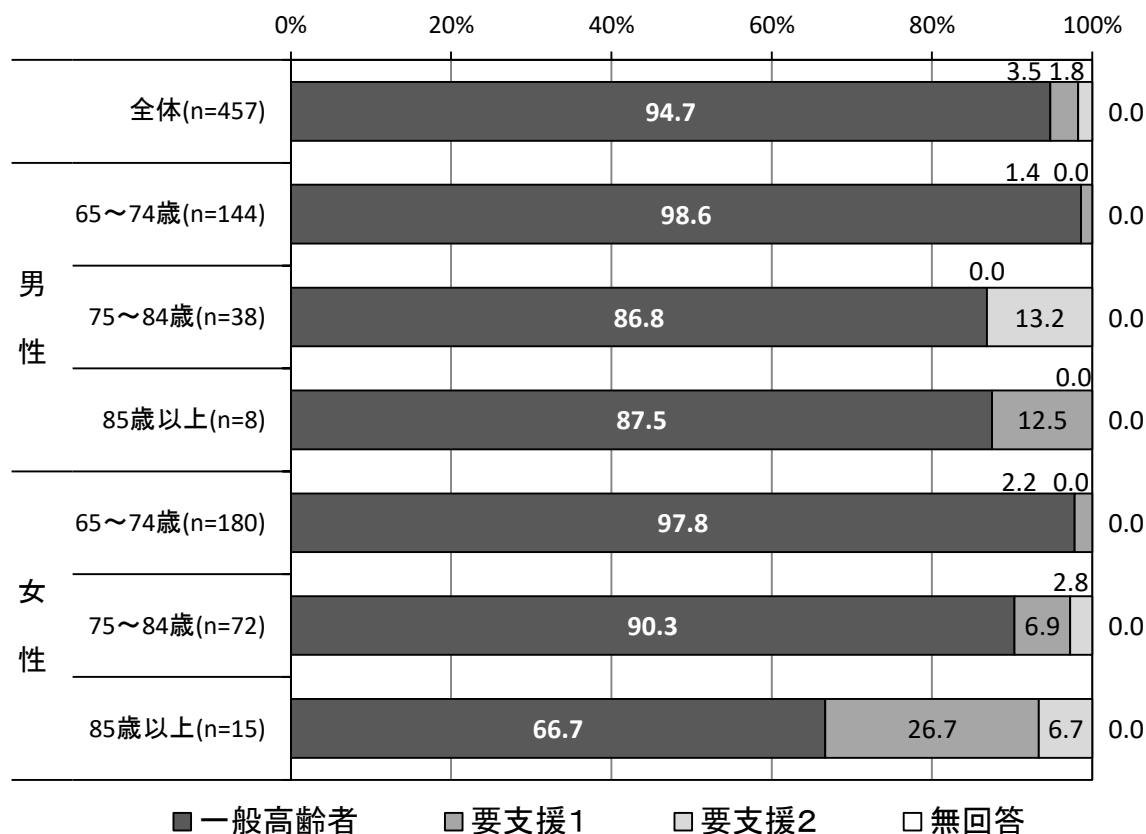
調査対象者の年齢は男女ともに「65～69歳」が最も多く、年齢が高くなるにつれて少なくなっています。



(4) 要支援認定

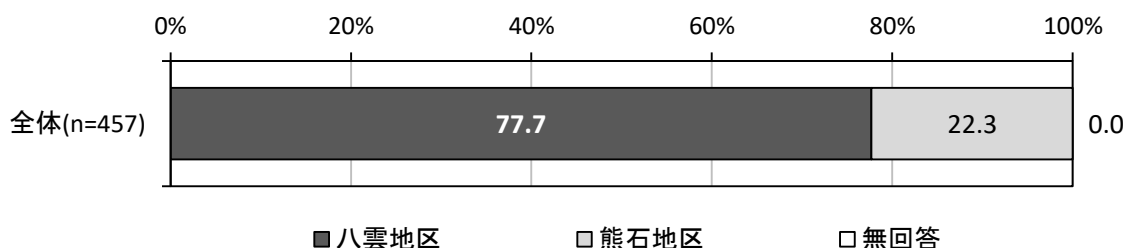
全体では、「一般高齢者」が 94.7%を占め、「要支援 1」(3.5%)、「要支援 2」(1.8%)は合計で 5.3%となっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれて要支援認定者の割合が多くなっており、特に 85 歳以上の女性は「要支援 1」及び「要支援 2」の合計が 33.4%となっています。



(5) 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、「八雲地区」が 77.7%、「熊石地区」が 22.3%となっています。



2. 家族や生活状況について

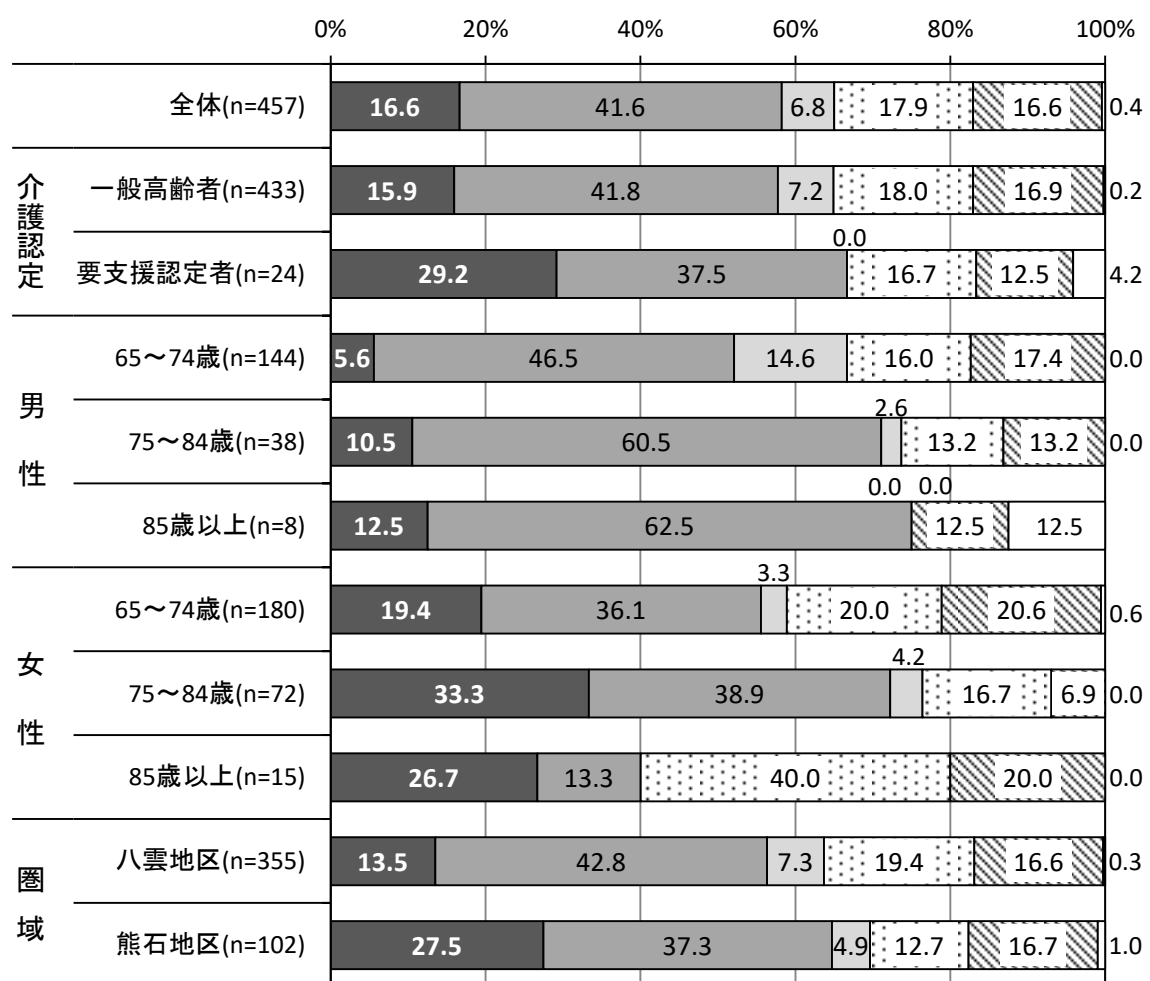
(1) 家族構成

全体では、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 41.6%で最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が 17.9%で続いています。

介護認定別でみると、一般高齢者と比べて要支援認定者は「1人暮らし」が 29.2%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男性の「1人暮らし」は年齢が高くなっても 15%未満ですが、女性の「1人暮らし」は 75～84 歳で 33.3%と多くなっています。

圏域別でみると、熊石地区は「一人暮らし」が 27.5%で八雲地区の 13.5%と比べて多くなっています。



■ 1人暮らし

■ 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)

□ 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)

□ 息子・娘との2世帯

▨ その他

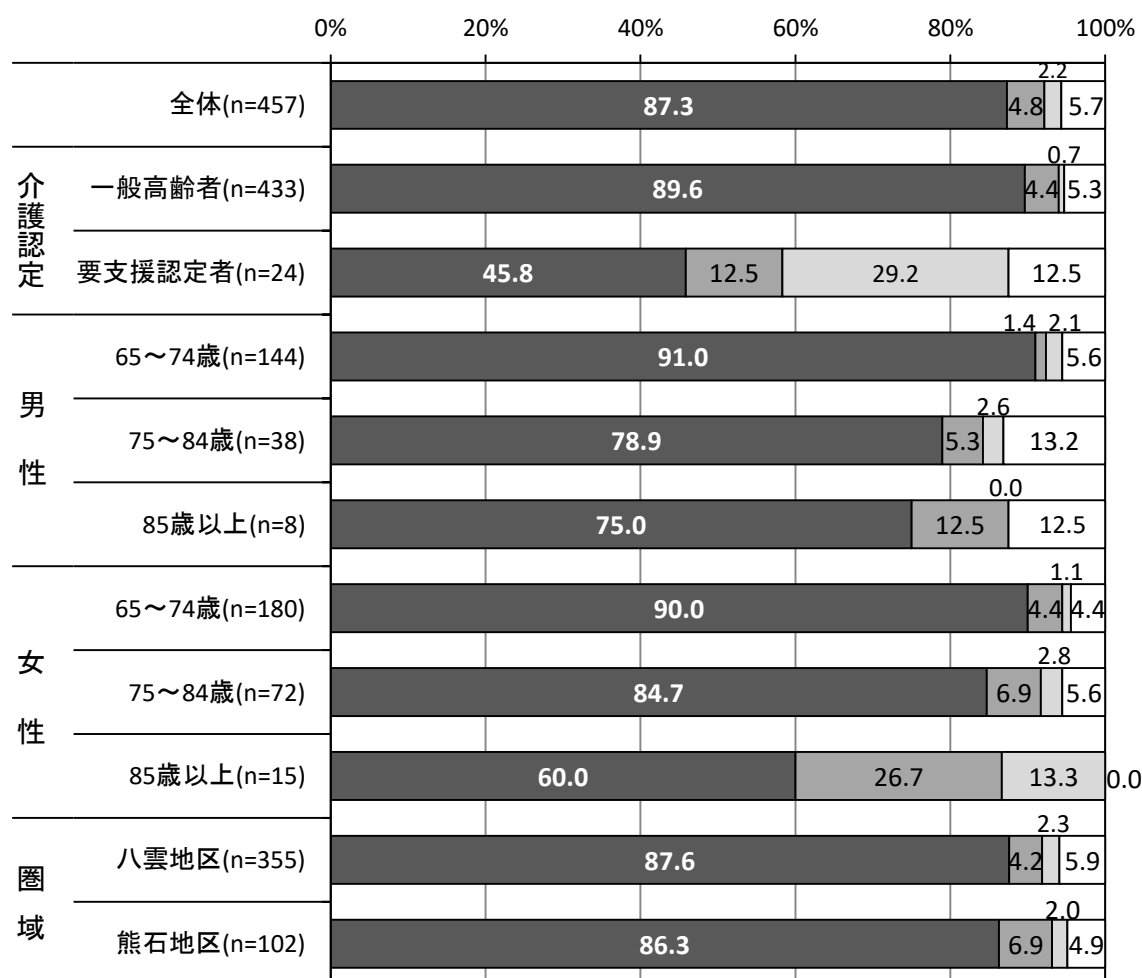
□ 無回答

(2) 介護・介助の必要性

全体では、「介護・介助は必要ない」が 87.3%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 45.8%と少なく、「現在、何らかの介護を受けている」が 29.2%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、女性は年齢が高くなるにつれて「現在、何らかの介護を受けている」が多くなり、85歳以上では 13.3%となっています。

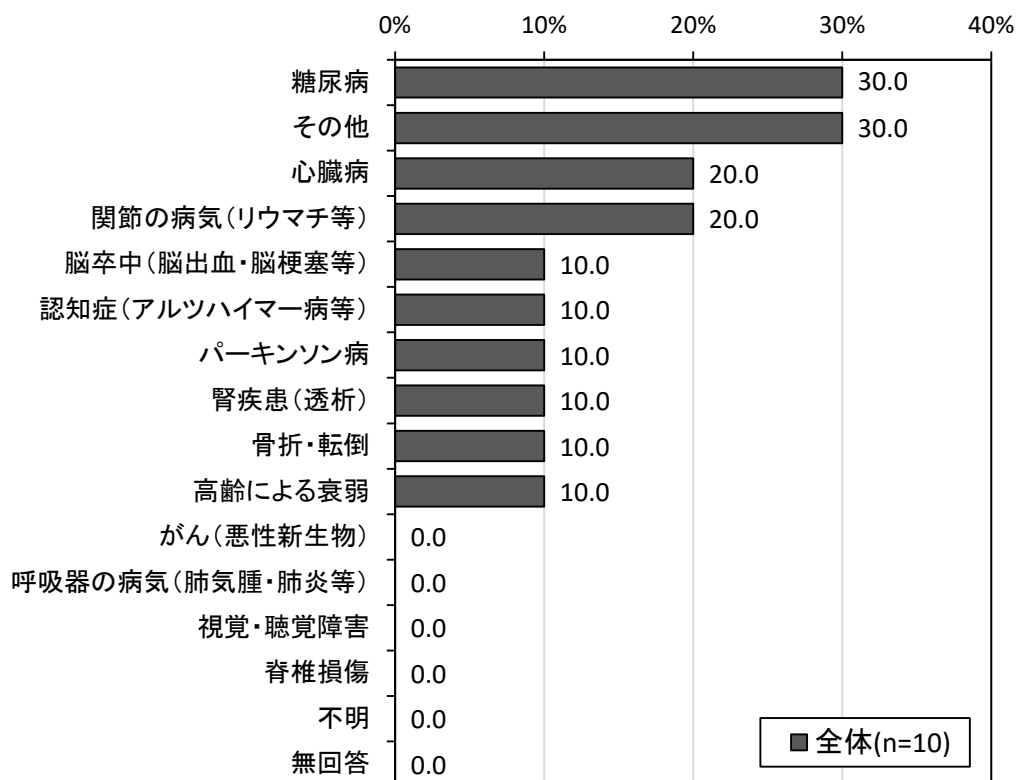
圏域別でみても、八雲地区と熊石地区の間に大きな差異はみられません。



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

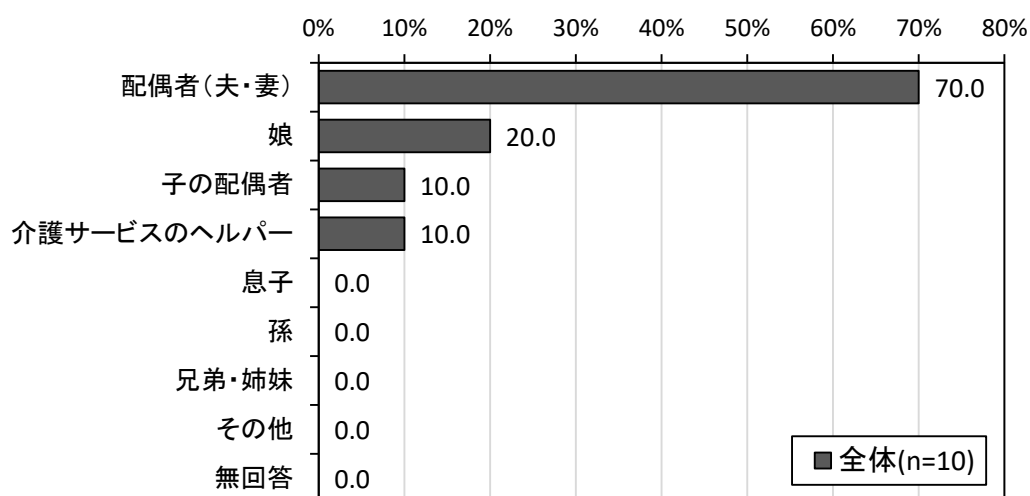
(3) 介護・介助が必要になった主な原因【複数回答】

「糖尿病」及び「その他」がともに 30.0%で最も多く、次いで「心臓病」、「関節の病気（リウマチ等）」が 20.0%で続いています。



(4) 主な介護・介助者【複数回答】

一般高齢者は「配偶者（夫・妻）」「娘」「子の配偶者」がともに 33.3%で最も多く、要支援認定者は「配偶者（夫・妻）」(85.7%)が最も多くなっています。



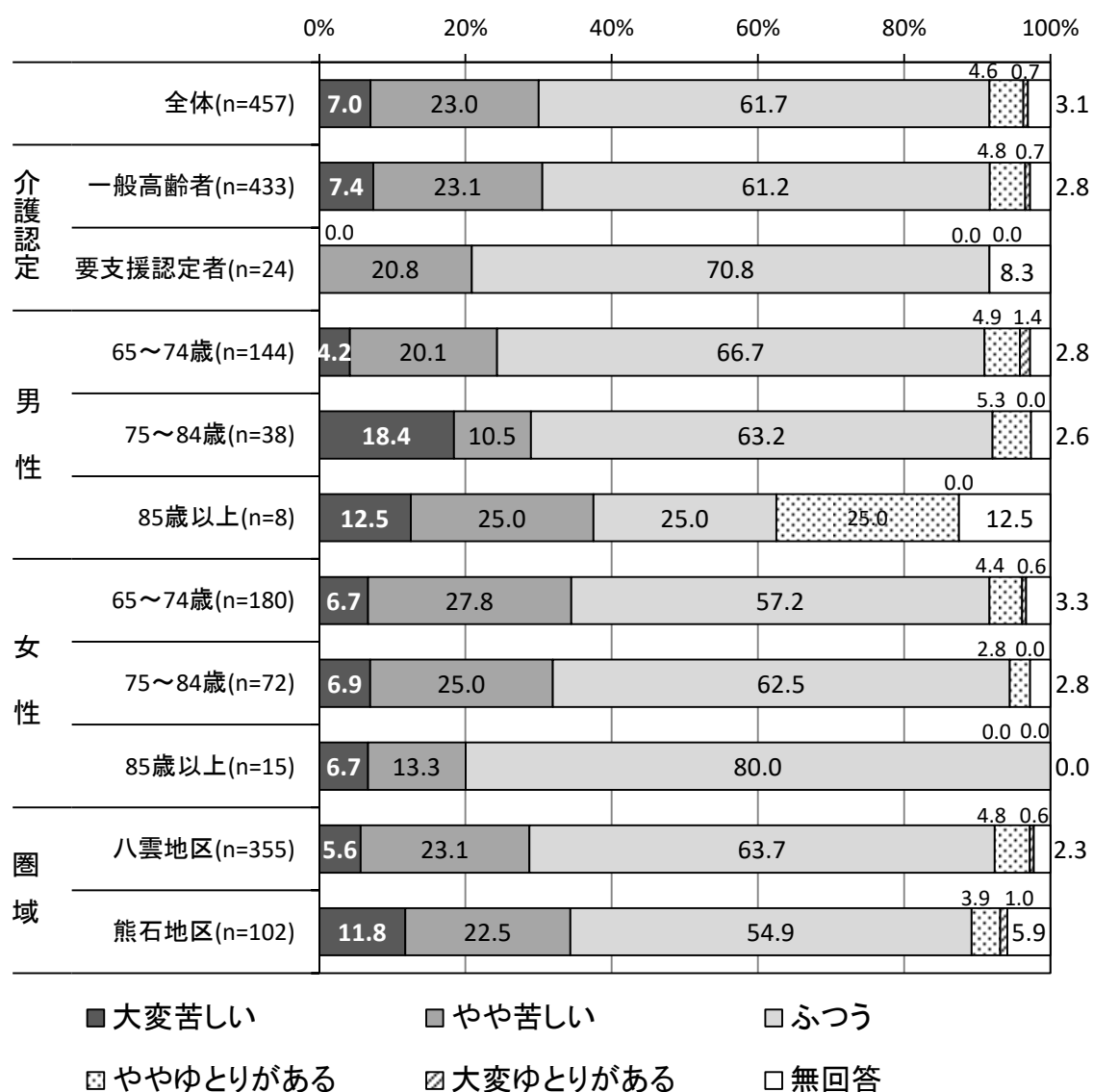
(5) 経済状況

全体では、「ふつう」が61.7%で最も多くなっていますが、「大変苦しい」(7.0%)、「やや苦しい」(23.0%)の合計30.0%は経済的に苦しい状況にあります。

介護認定別でみると、一般高齢者と比べて要介護認定者は経済的に苦しい人がやや少なくなっています。

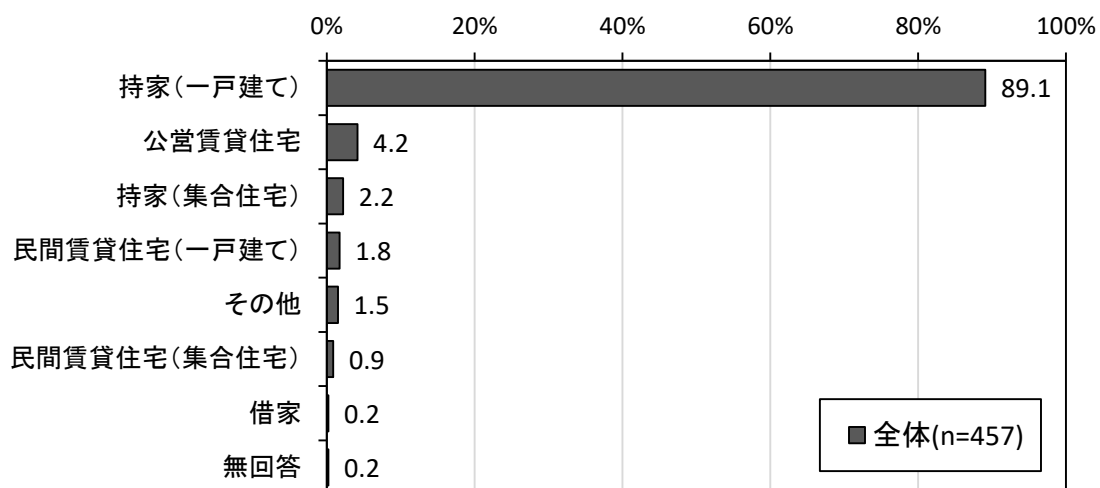
男女年齢階級別でみると、男性は年齢が高くなるにつれて「大変苦しい」、「やや苦しい」の合計が多くなる一方、女性は年齢が高くなるにつれてその割合は少なくなっています。

圏域別でみると、熊石地区は「大変苦しい」(11.8%)、「やや苦しい」(22.5%)の合計が34.3%で八雲地区よりも多くなっています。



(6) 住宅の形態

「持家（一戸建て）」が全体の 89.1%を占めており、次いで「公営賃貸住宅」が 4.2%で続いています。

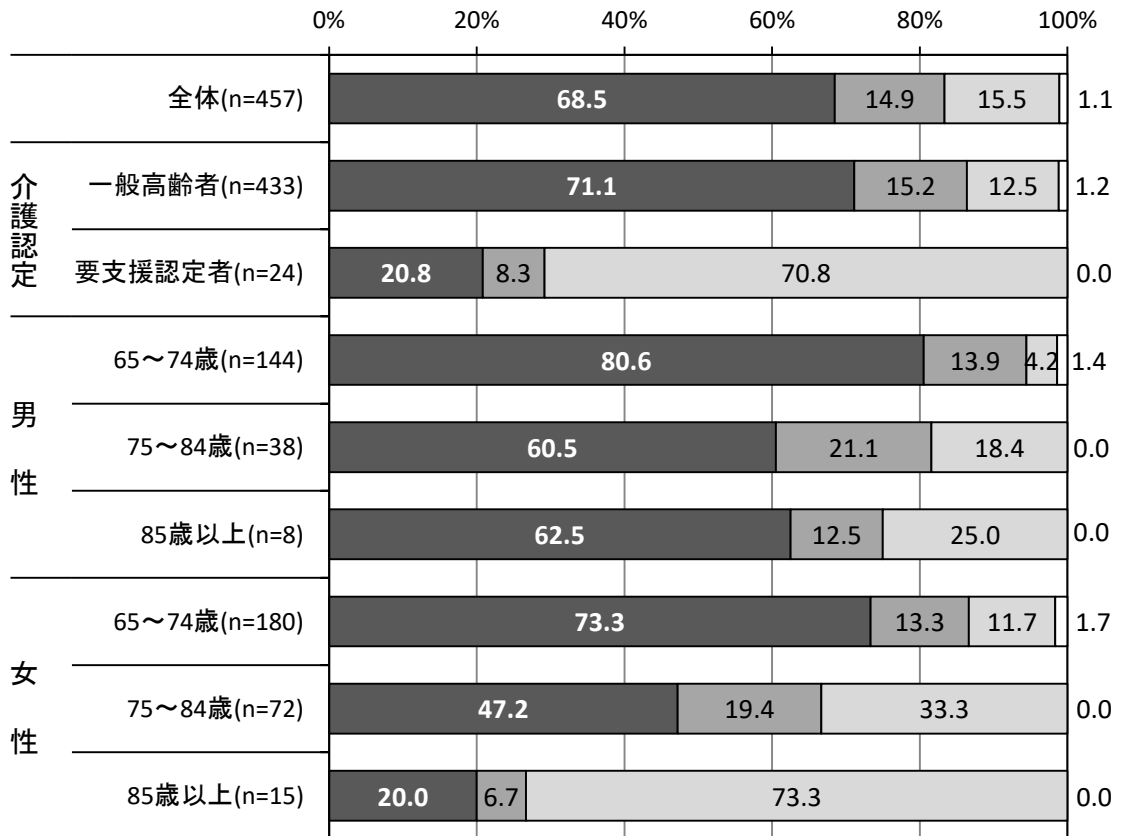


3. からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

全体でみると「できない」は15.5%ですが、要支援認定者は「できない」が70.8%と非常に多くなっています。

男女ともに、おおむね年齢が高くなるにつれて「できるし、している」が少なくなり、特に85歳以上の女性は20.0%と非常に少なくなっています。



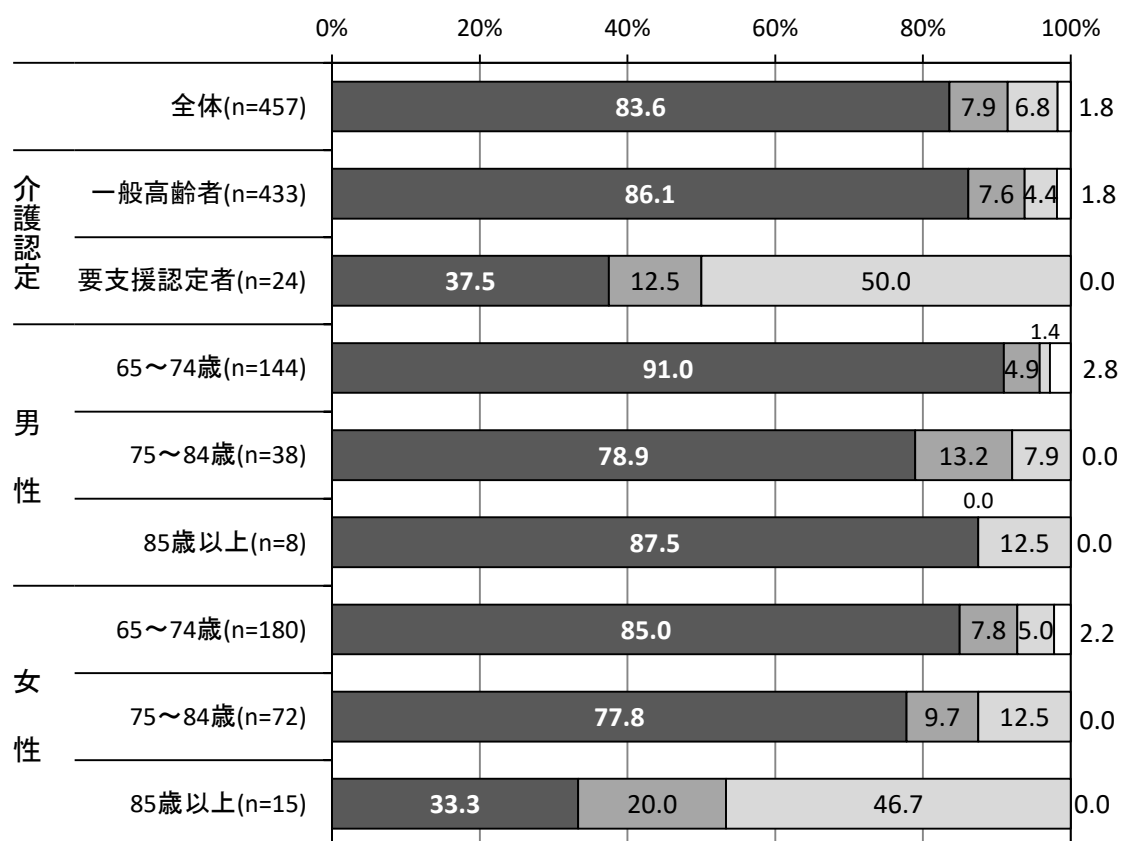
■ できるし、している ■ できるけどしていない □ できない □ 無回答

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

全体でみると、「できるし、している」は 83.6%で「できない」は 6.8%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「できない」が 50.0%を占めています。

男女年齢階級別でみると、85 歳以上の女性は「できない」の割合が非常に多くなっています。

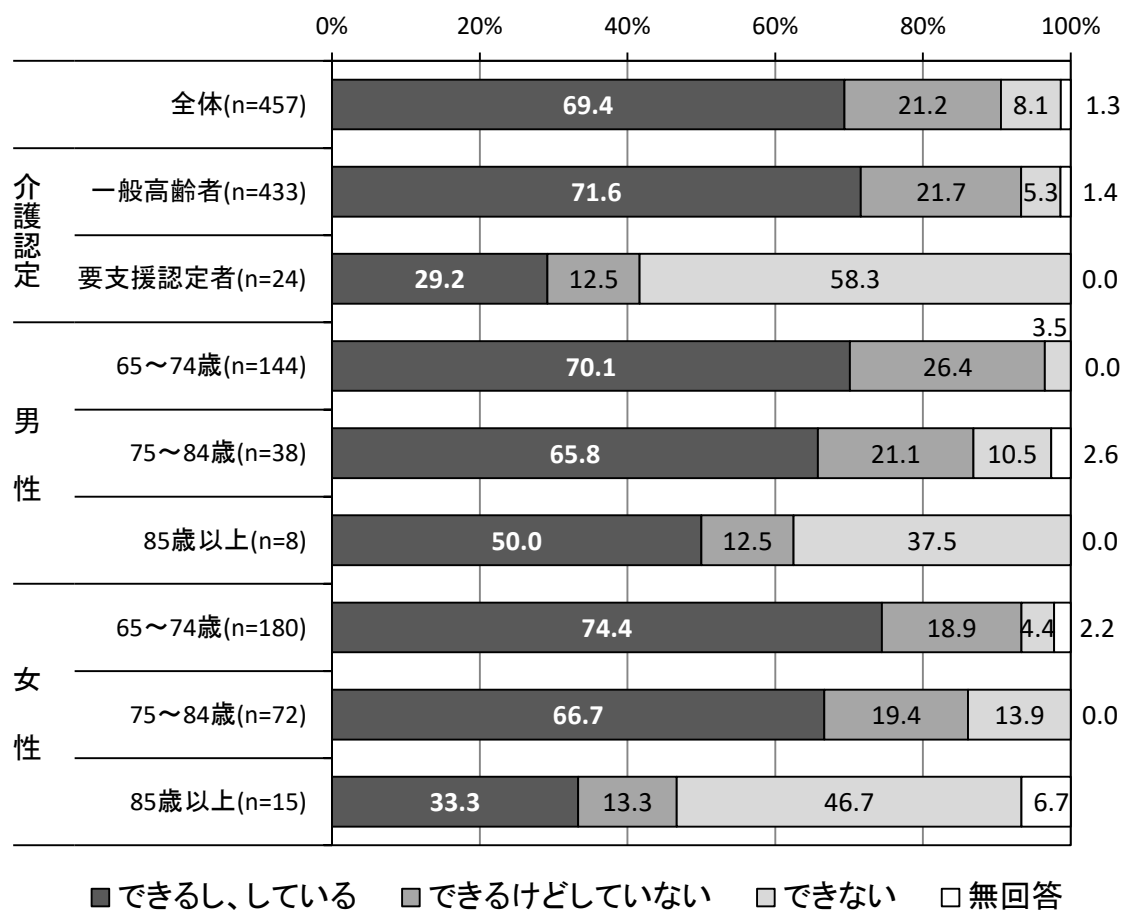


■ できるし、している ■ できるけどしていない □ できない □ 無回答

(3) 15 分位続けて歩いているか

全体でみると、「できるし、している」は 69.4%で、「できない」は 8.1%となっています。要支援認定者は「できない」の割合が 58.3%と半数以上になっています。

男女ともに年齢が高くなるにつれて「できない」が多くなっており、85 歳以上の女性は 46.7%が「できない」と回答しています。

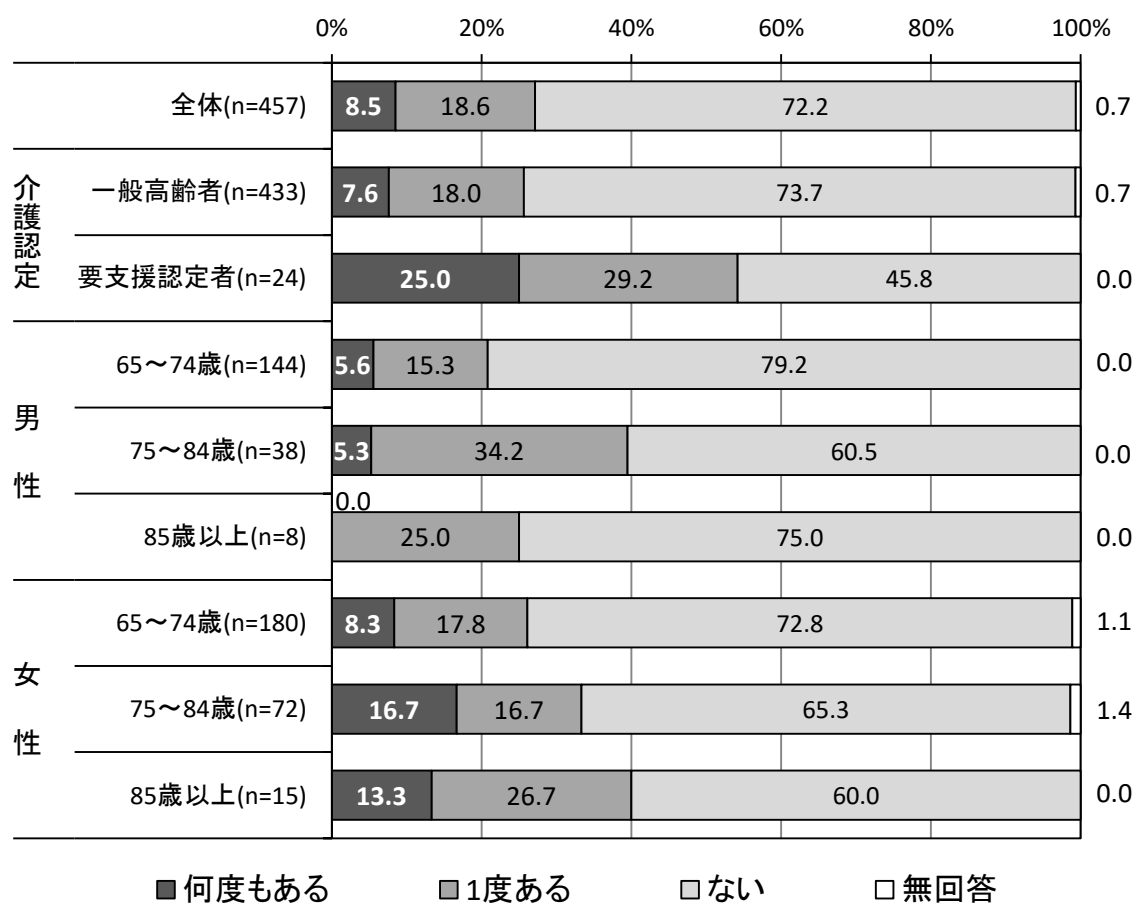


(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

全体でみると、「何度もある」(8.5%)と「1度ある」(18.6%)の合計は27.1%となっています。

一般高齢者と比べて、要支援認定者は「何度もある」及び「1度ある」が多くなっています。

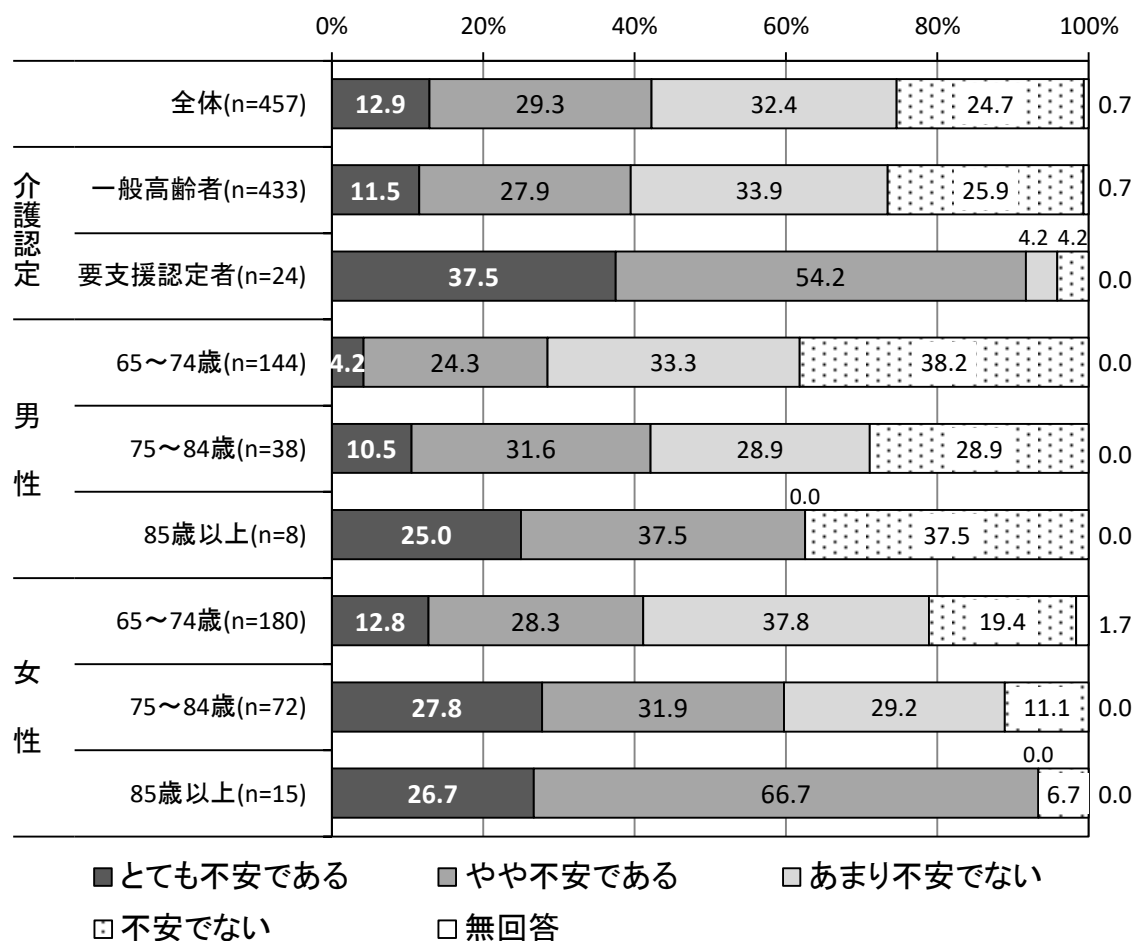
男女年齢階級別でみると、男性は75歳～84歳で「1度ある」が多くなっており、女性は年齢が高くなるにつれて「何度もある」、「1度ある」の合計が多くなっています。



(5) 転倒に対する不安は大きい

全体でみると、「とても不安である」(12.9%)と「やや不安である」(29.3%)の合計は42.2%となっていますが、要支援認定者はその割合が91.7%と非常に多くなっています。

男女年齢階級別でみると、85歳以上の女性は「とても不安である」、「やや不安である」の合計が93.4%と非常に多くなっています。

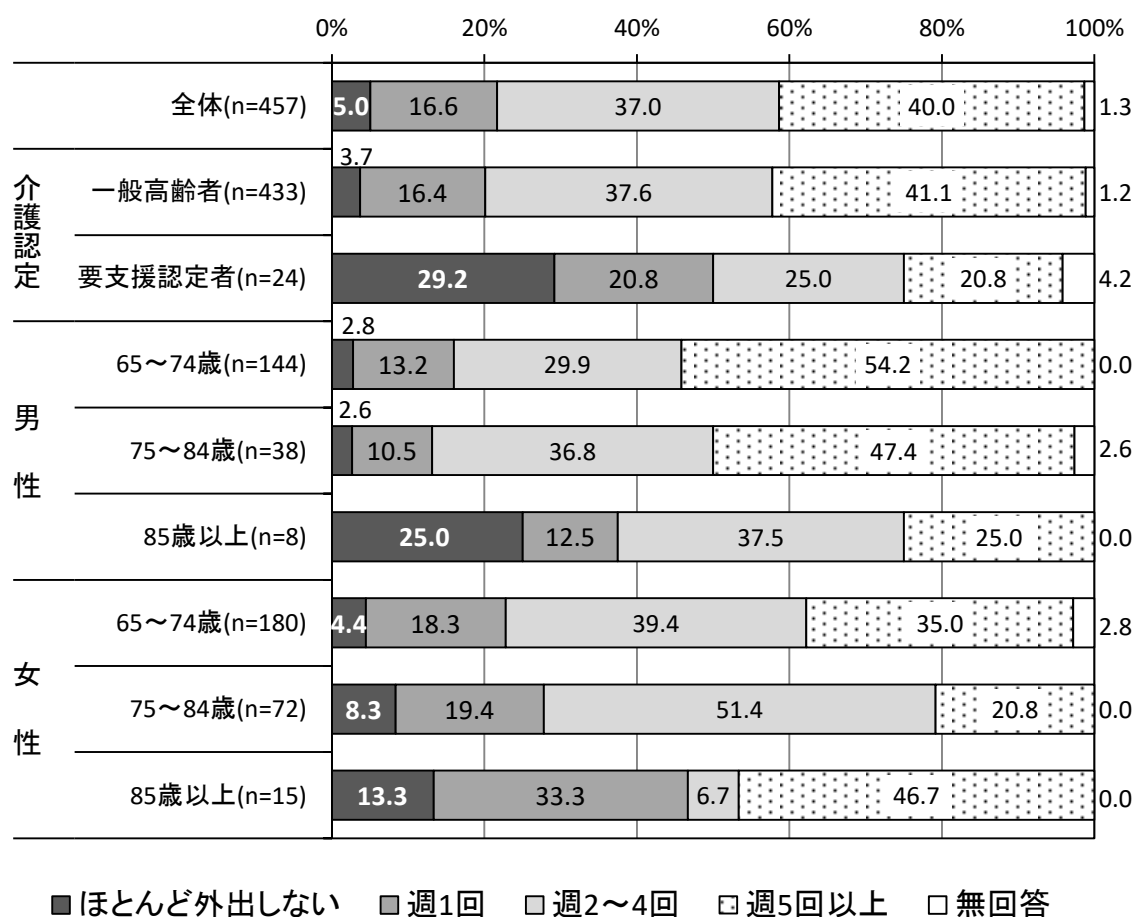


(6) 週に1回以上は外出しているか

全体でみると、「週5回以上」が40.0%で最も多く、「週2～4回」が37.0%が続いています。

一般高齢者と比べて、要支援認定者は外出の頻度が下がっており、「ほとんど外出しない」が29.2%となっています。

男女年齢階級別でみると、85歳以上は「ほとんど外出しない」が多くなっており、男性は25.0%、女性は13.3%となっています。

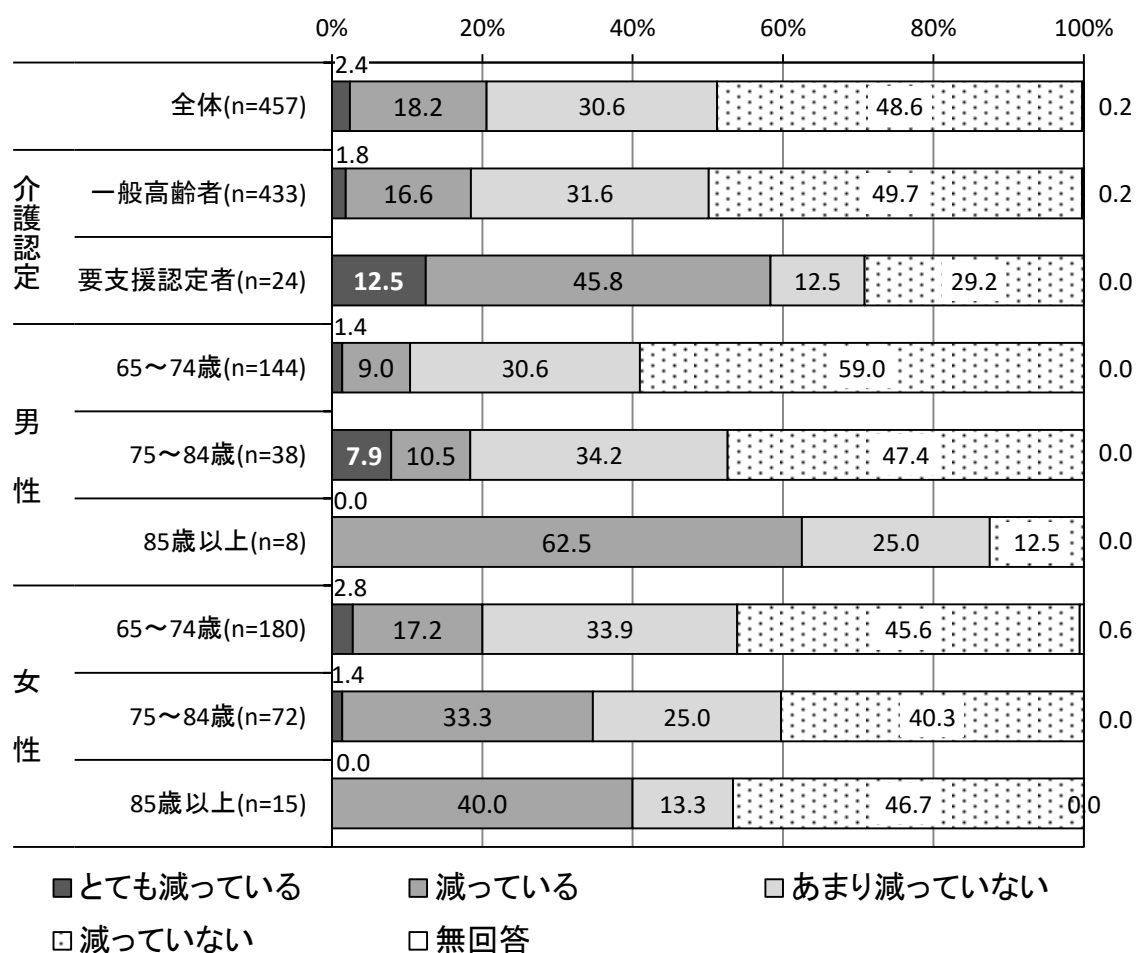


(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

全体でみると、「とても減っている」(2.4%)と「減っている」(18.2%)は合計で20.6%となっています。

要支援認定者は外出回数の減少が顕著になっており、「とても減っている」(12.5%)と「減っている」(45.8%)の合計は58.3%と半数を超えています。

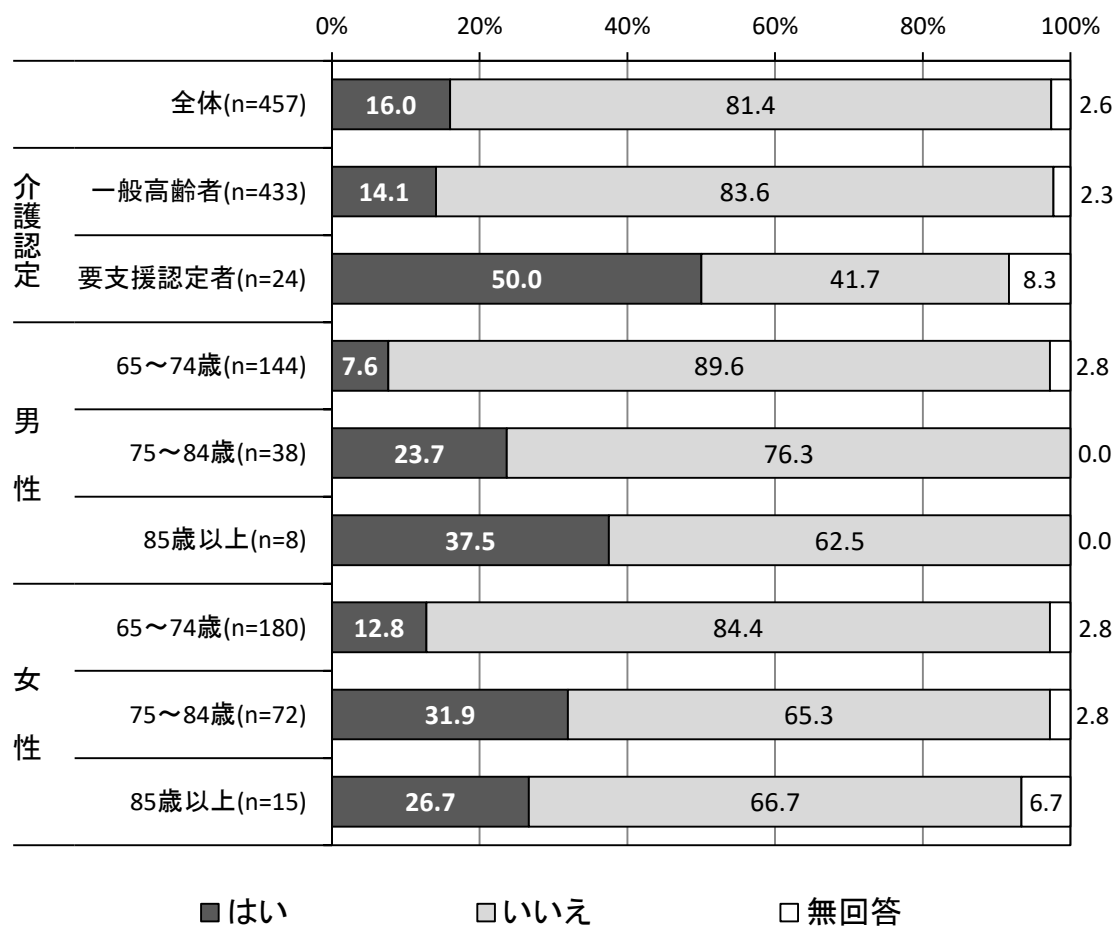
男女ともに、年齢が高くなるにつれて外出回数が減っており、85歳以上の男性は「減っている」が62.5%を占めています。



(8) 外出を控えているか

全体では、外出を控えていると回答した人は16.0%ですが、要支援認定者は50.0%と非常に多くなっています。

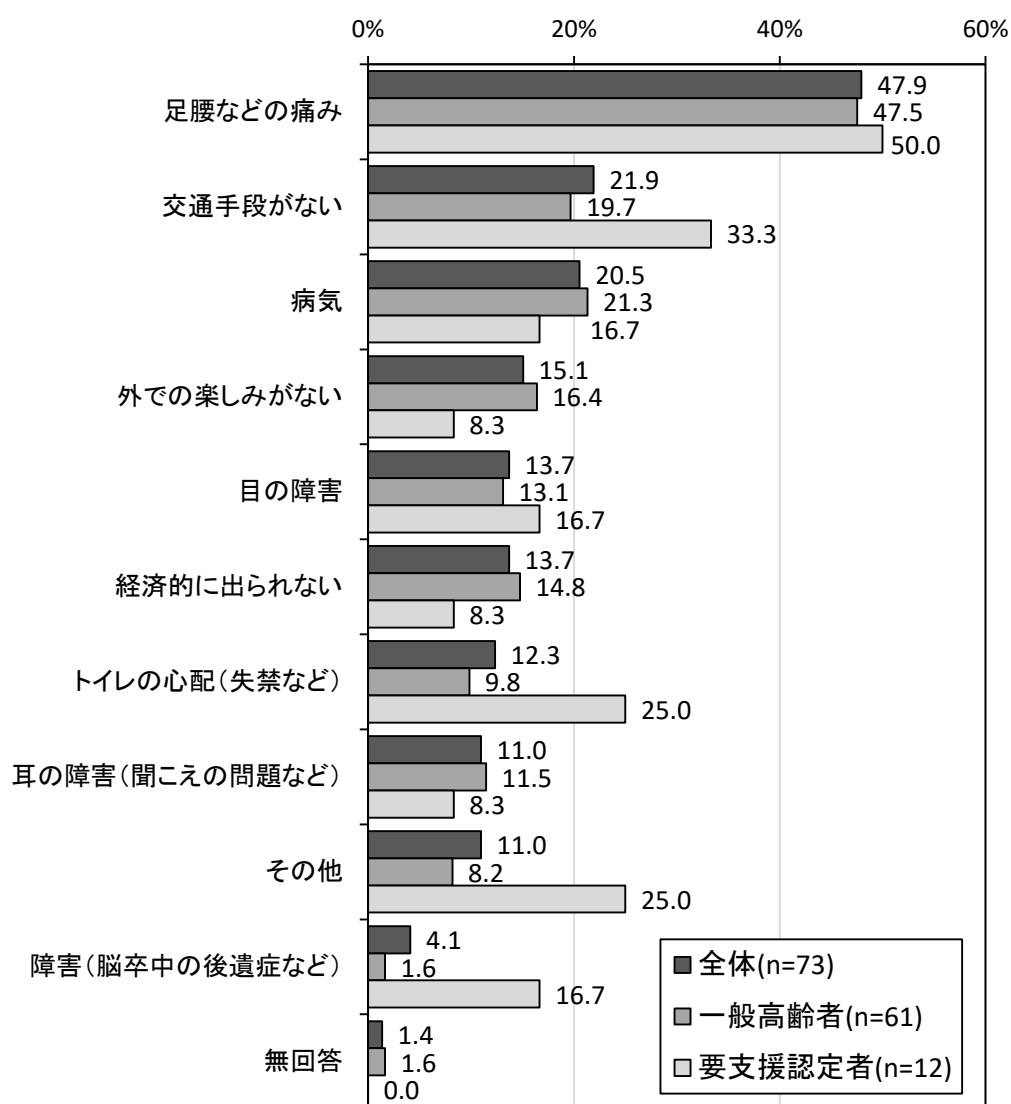
男女年齢階級別でみると、男性は年齢が高くなるにつれて外出を控える人が多くなっており、女性は75～84歳で外出を控える人が多くなっています。



(9) 外出を控えている理由【複数回答】

外出を控えている理由をみると、全体では「足腰などの痛み」が47.9%を占めており、次いで「交通手段がない」(21.9%)、「病気」(20.5%)と続いています。

介護認定別でも、「足腰などの痛み」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「交通手段がない」(33.3%)、「トイレの心配(失禁など)」(25.0%)は一般高齢者と比べて多くなっています。



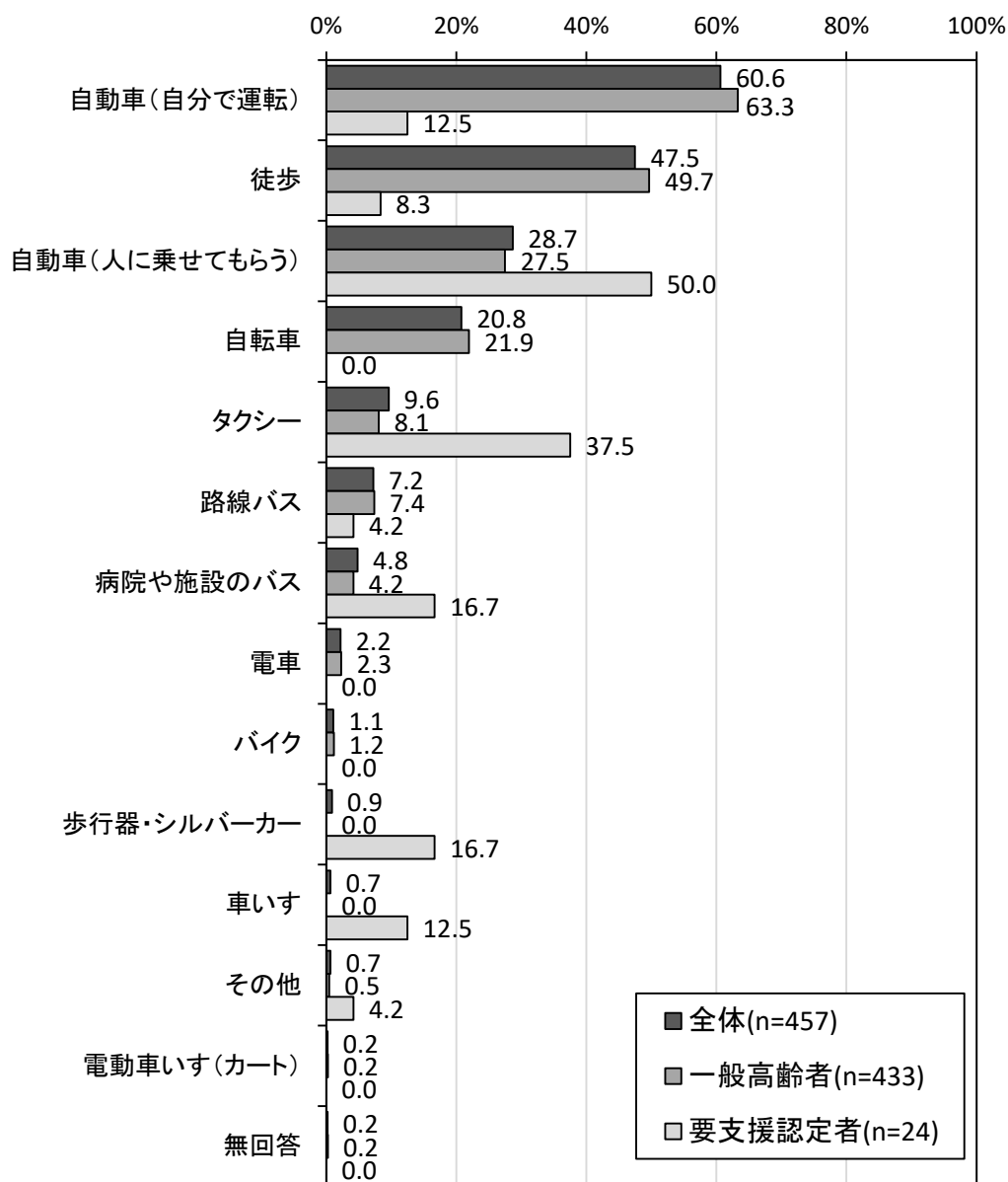
(10) 外出する際の移動手段【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体では、「自動車（自分で運転）」が 60.6%で最も多く、次いで「徒歩」（47.5%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（28.7%）が続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」が 50.0%で最も多く、「自動車（自分で運転）」は 12.5%と少なくなっています。

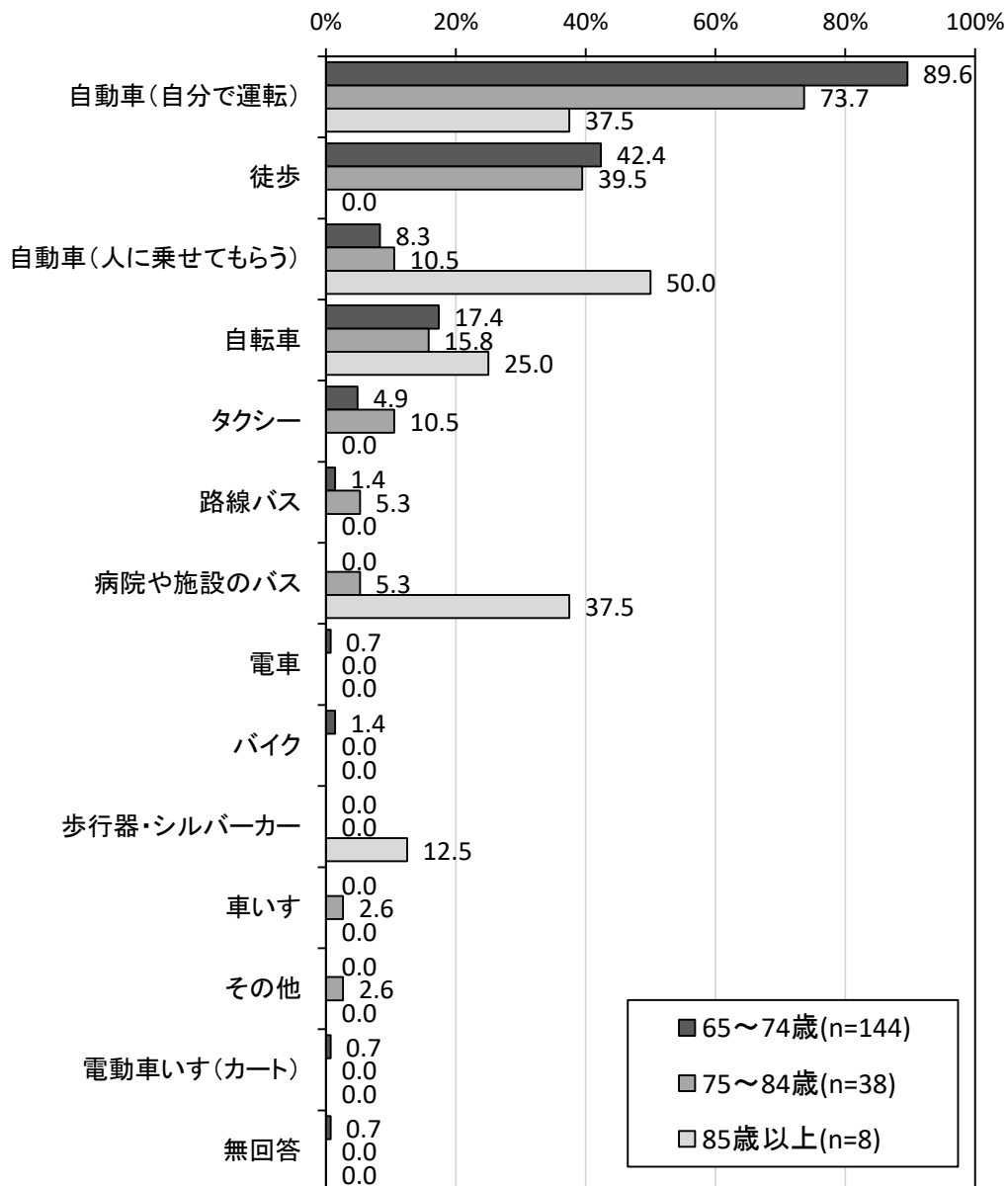
《外出する際の移動手段／全体及び介護認定別》



②男性年齢階級別

65～74歳の男性は「自動車（自分で運転）」が89.6%を占めていますが、年齢が高くなるにつれて少なくなり、85歳以上になると「自動車（人に乗せてもらう）」（50.0%）及び「病院や施設のバス」（37.5%）が多くなっています。

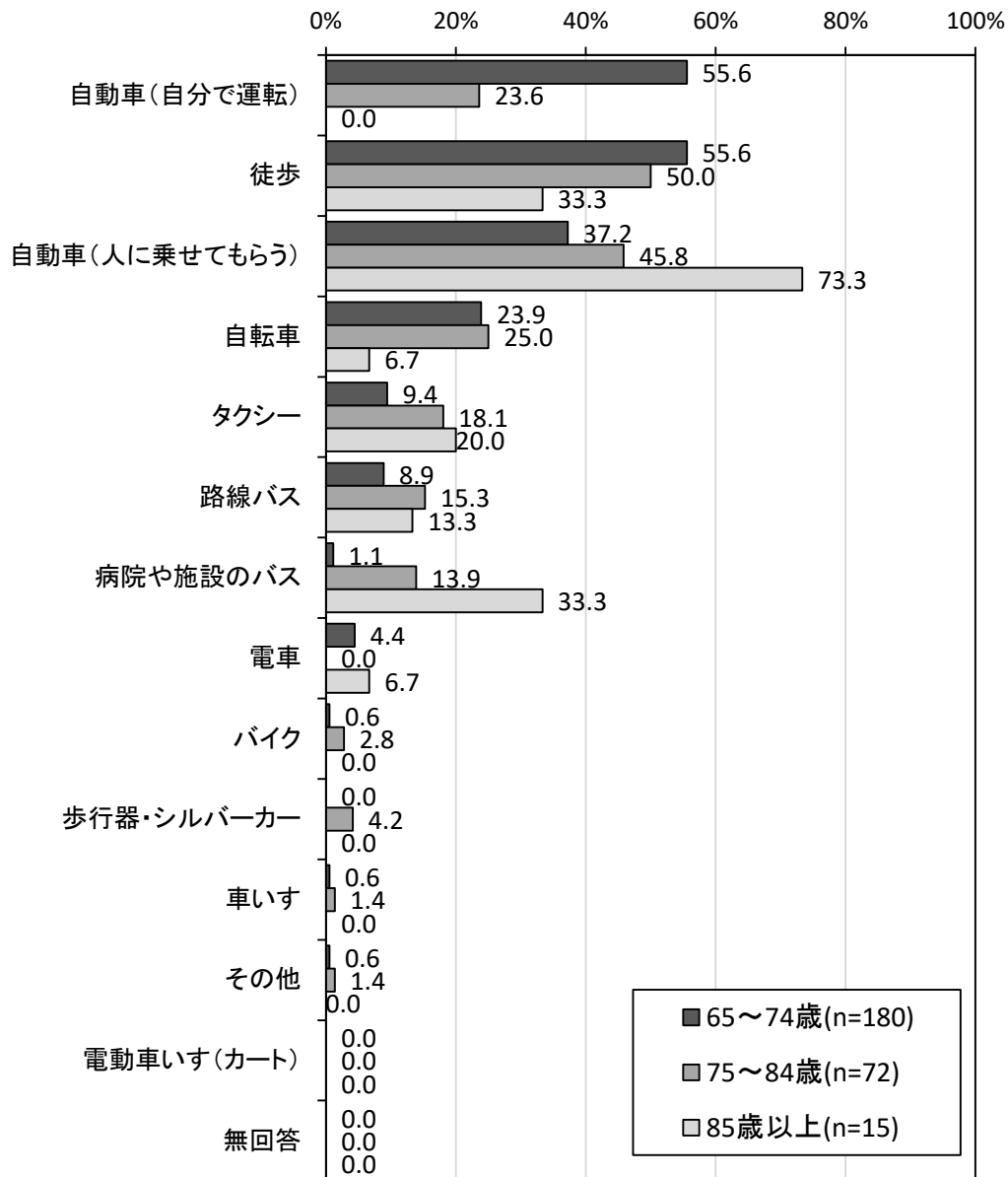
《外出する際の移動手段／男性／年齢階級別》



③女性年齢階級別

65～74歳の女性は「自動車（自分で運転）」「徒歩」がともに55.6%で最も多くなっていますが、年齢が高くなるにつれて「自動車（自分で運転）」が少なくなり、「自動車（人に乗せてもらう）」及び「病院や施設のバス」が多くなっています。

《外出する際の移動手段／女性／年齢階級別》

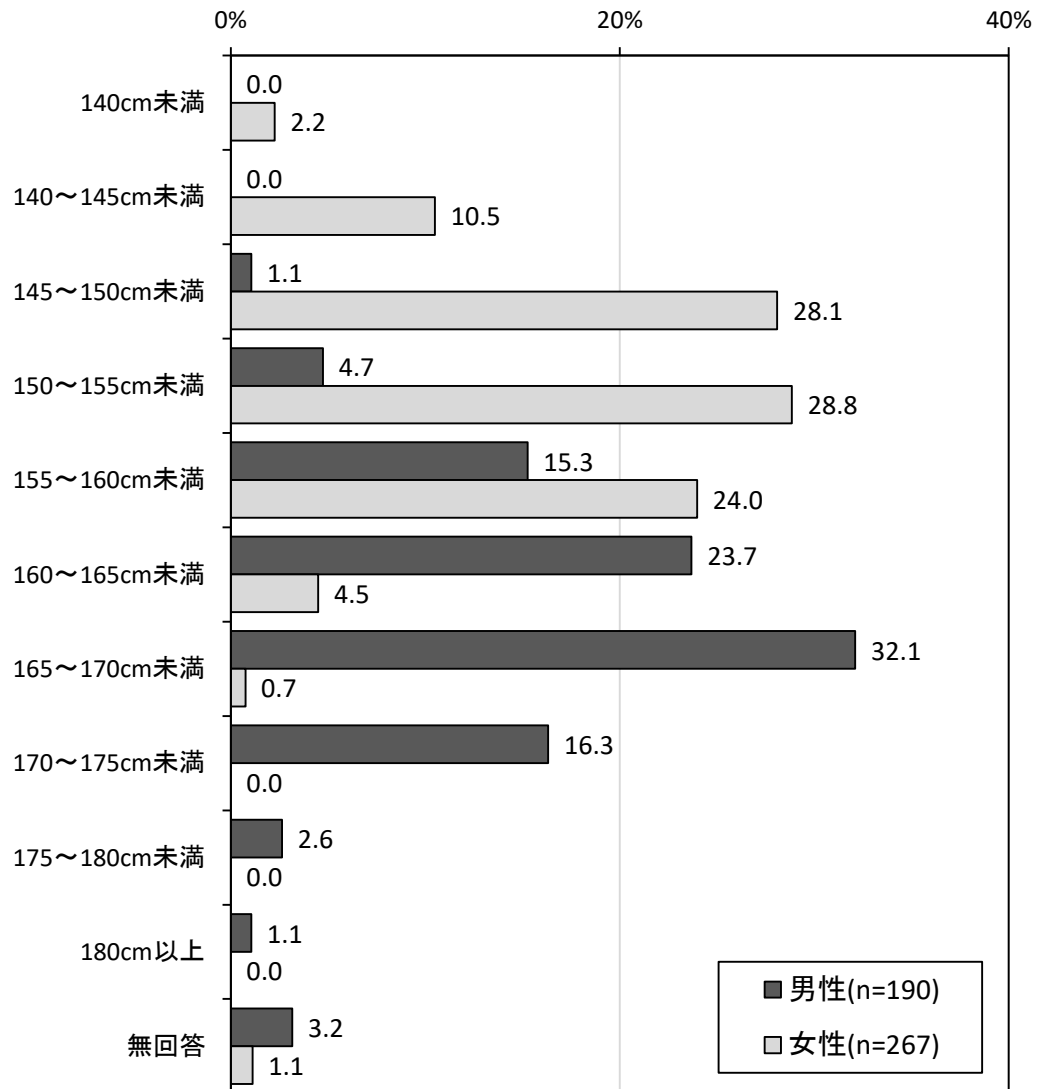


4. 食べることについて

(1) 身長と体重

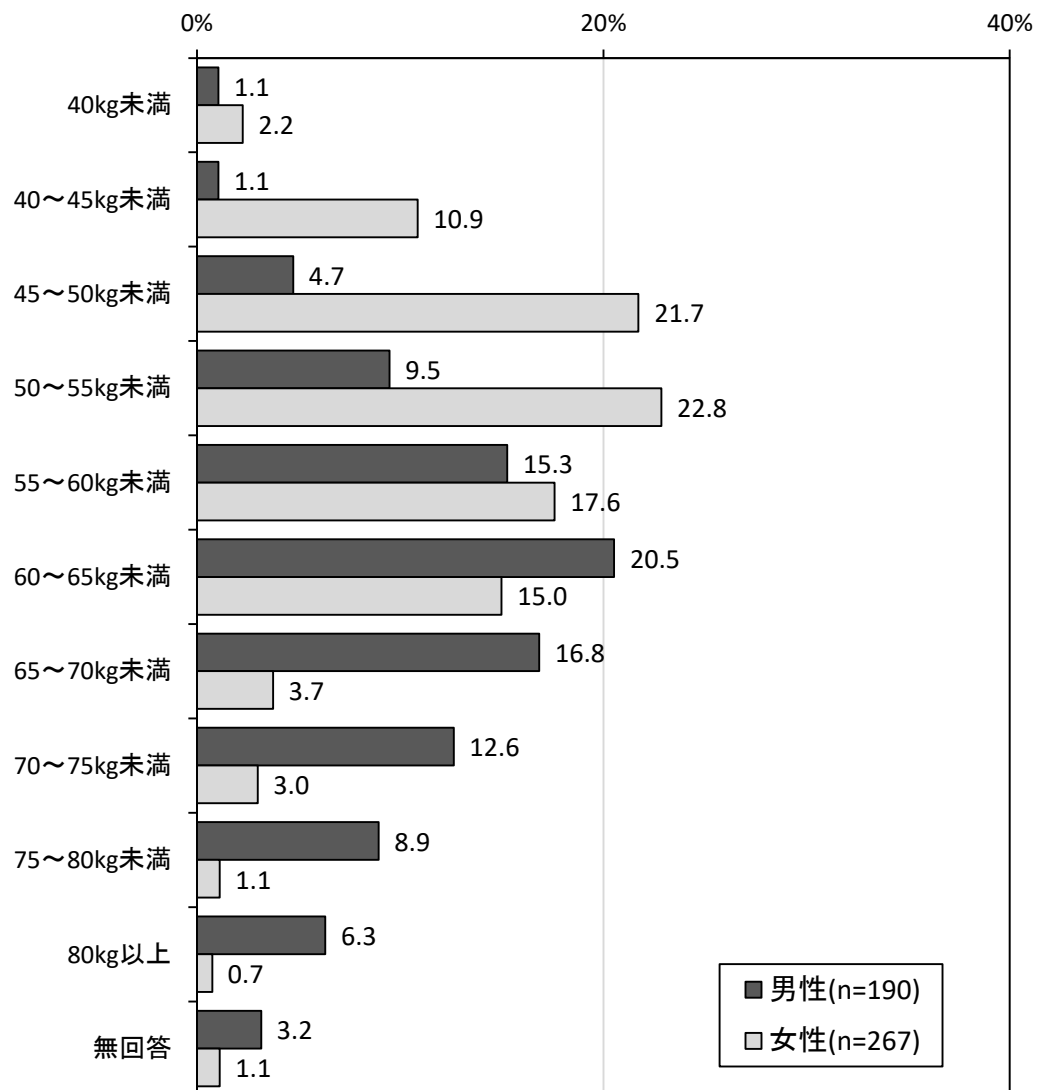
①身長

男性は「165～170cm 未満」(32.1%)、女性は「150～155cm 未満」(28.8%) がそれぞれ最も多くなっています。



②体重

男性は「60～65kg 未満」(20.5%)、女性は「50～55kg 未満」(22.8%) がそれぞれ最も多くなっています。

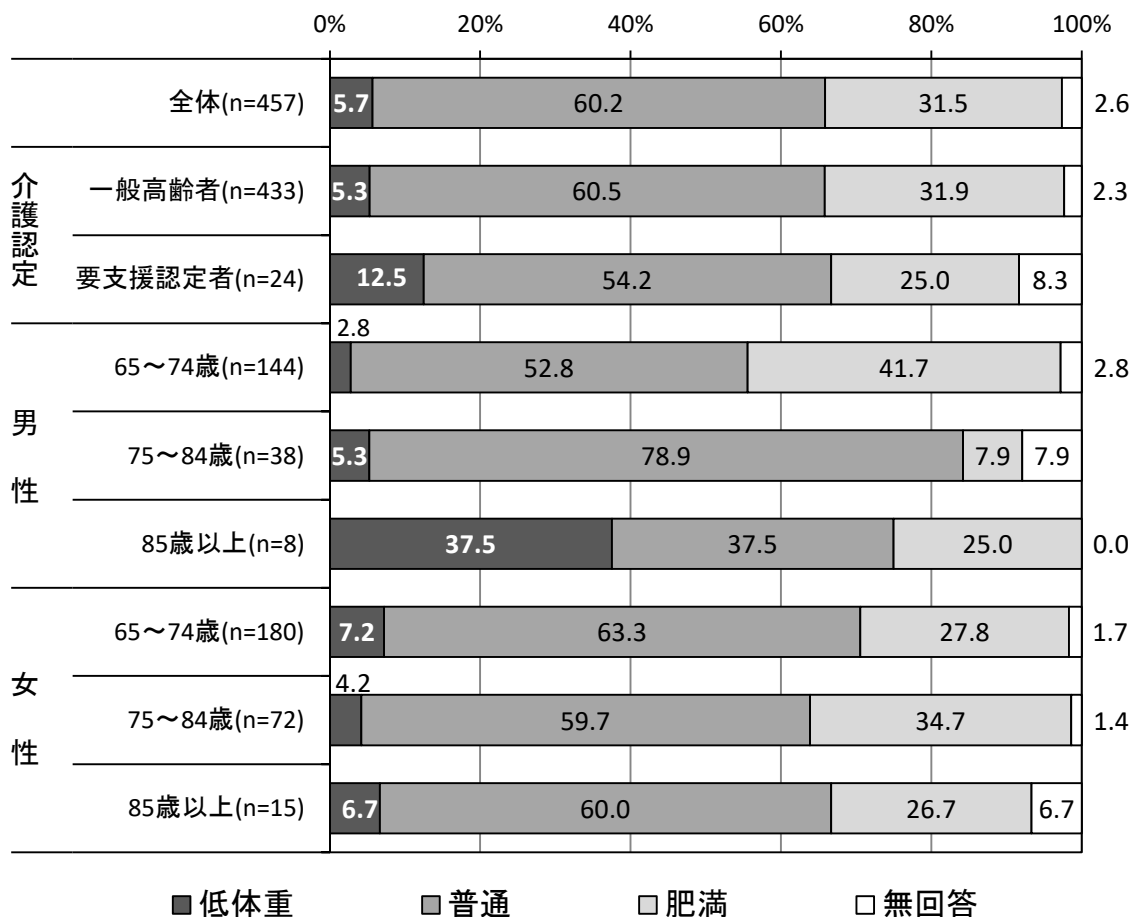


③BMI

身長と体重から、肥満度の指標の1つであるBMIを算出しました。BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「低体重」、25.0以上が「肥満」とされます。

「低体重」に該当する人をみると、男性は85歳以上で非常に多くなっていますが、女性はその年齢においても10%未満となっています。

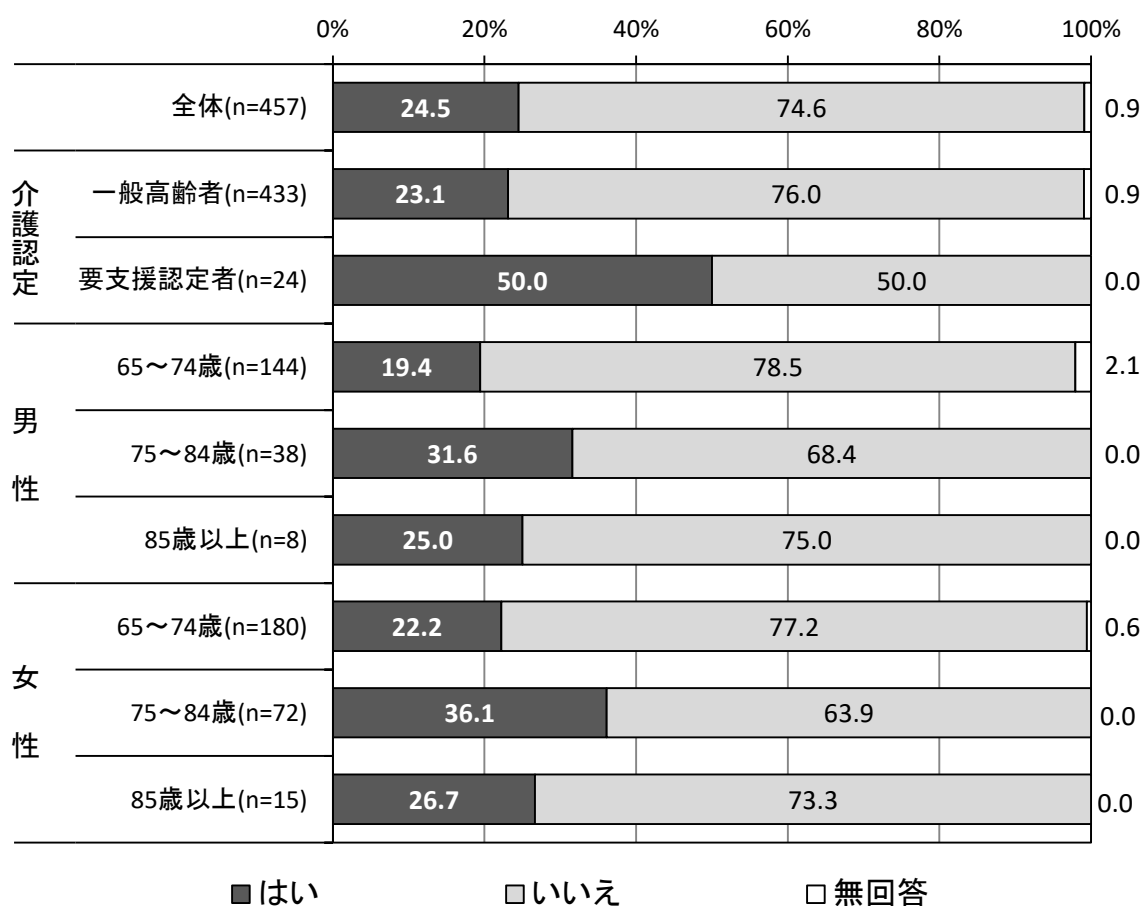
「肥満」に該当する人をみると、男性は65～74歳、女性は75～84歳でやや多くなっています。



(2) 半年前と比べ、固いものが食べにくくなったか

全体でみると、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた人は24.5%ですが、要支援認定者はその割合が50.0%で半数を占めています。

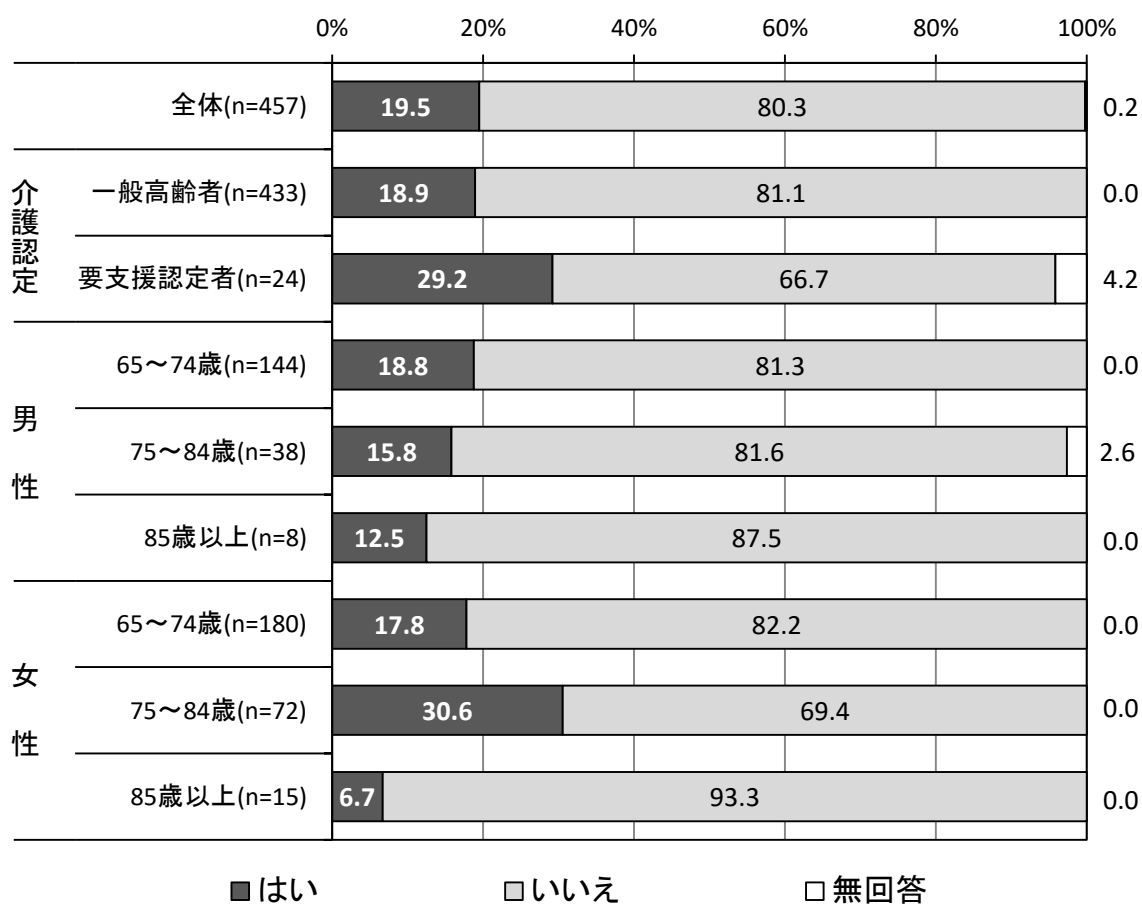
男女年齢階級別でみると、男女ともに75～84歳は半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた人が多くなっています。



(3) お茶や汁物等でむせるか

全体でみると、お茶や汁物等でむせる人は 19.5%ですが、要支援認定者はその割合が 29.2%となっています。

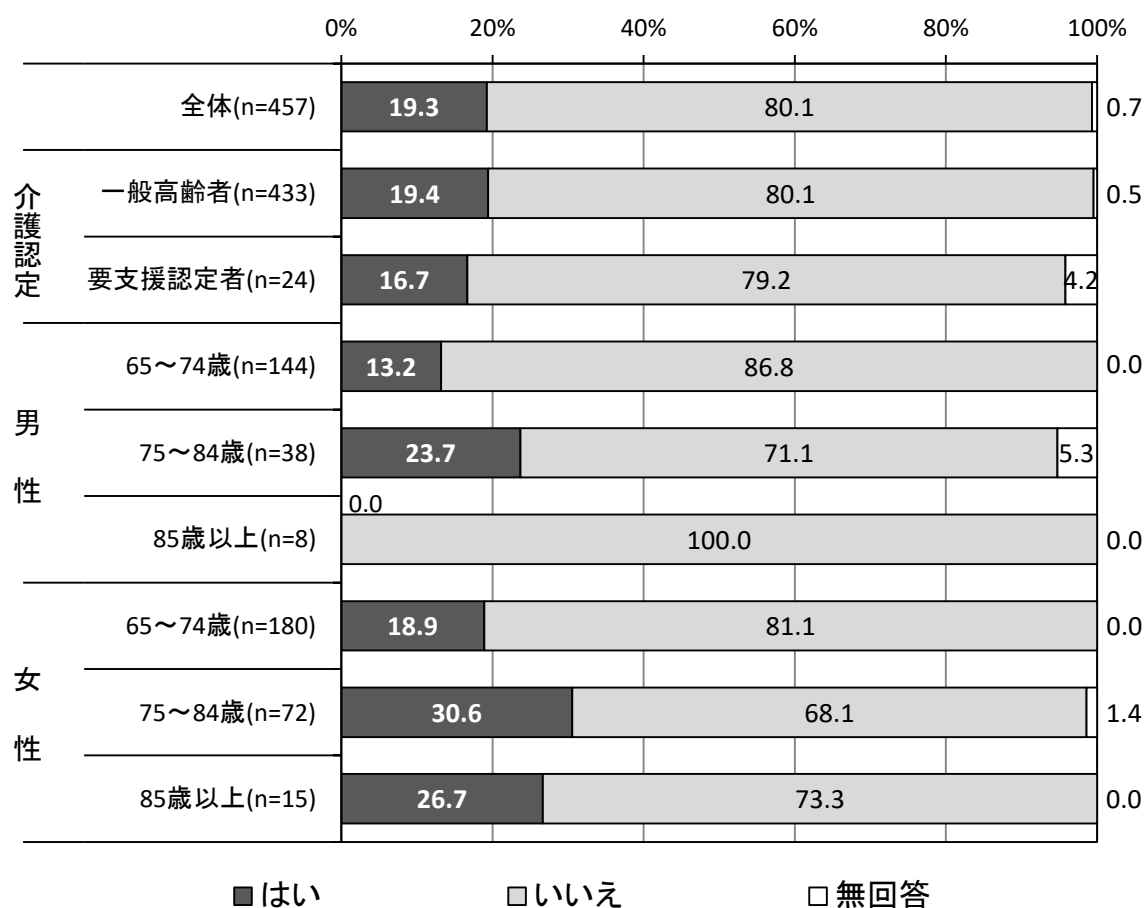
男女年齢階級別でみると、男性は年齢が高くなるにつれてお茶や汁物等でむせる人が少なくなりますが、女性は 75～84 歳でその割合が多くなっています。



(4) 口の渇きが気になるか

全体でみると、口の渇きが気になる人は 19.3%で、介護認定別でみても一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

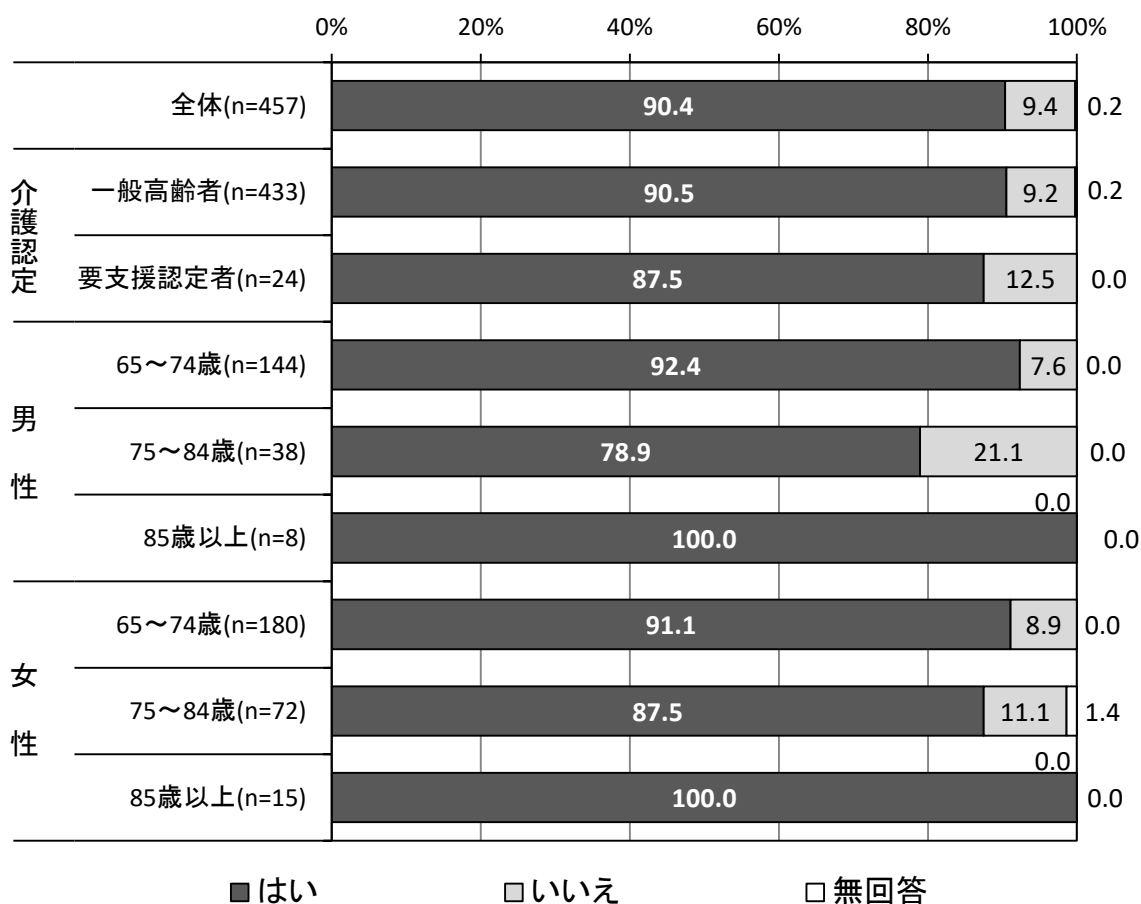
男女年齢階級別でみると、男女ともに口の渇きが気になる人は 75～84 歳で最も多くなっています。



(5) 歯磨きを毎日しているか

全体でみると、歯磨きを毎日している人は90.4%を占めており、介護認定別でも一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

男女年齢階級別でみると、男女ともに75～84歳で歯磨きを毎日している人がやや少なくなっています。

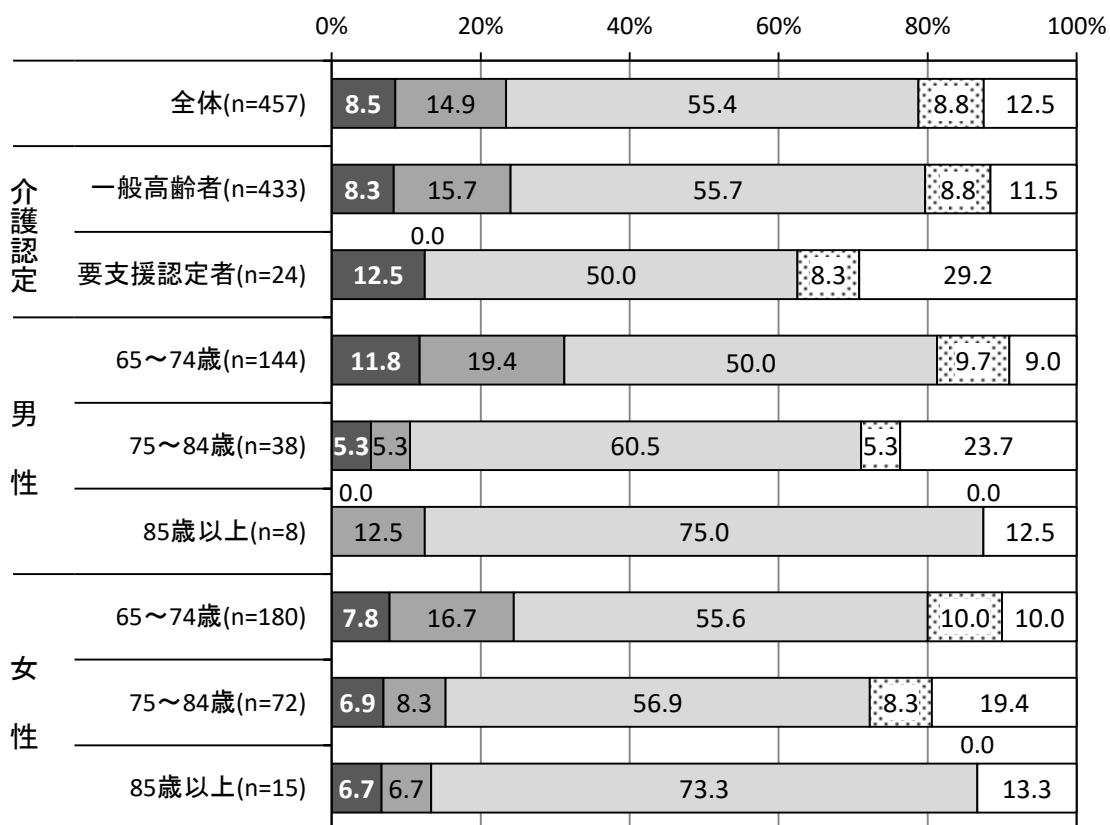


(6) 歯の本数と入れ歯の利用状況

全体でみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が55.4%で最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が14.9%が続いています。また、入れ歯を利用している人は63.9%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「自分の歯は20本以上」の人が少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに75歳以上は「自分の歯は20本以上」の割合が少なくなっており、「入れ歯を利用」している人は多くなっています。

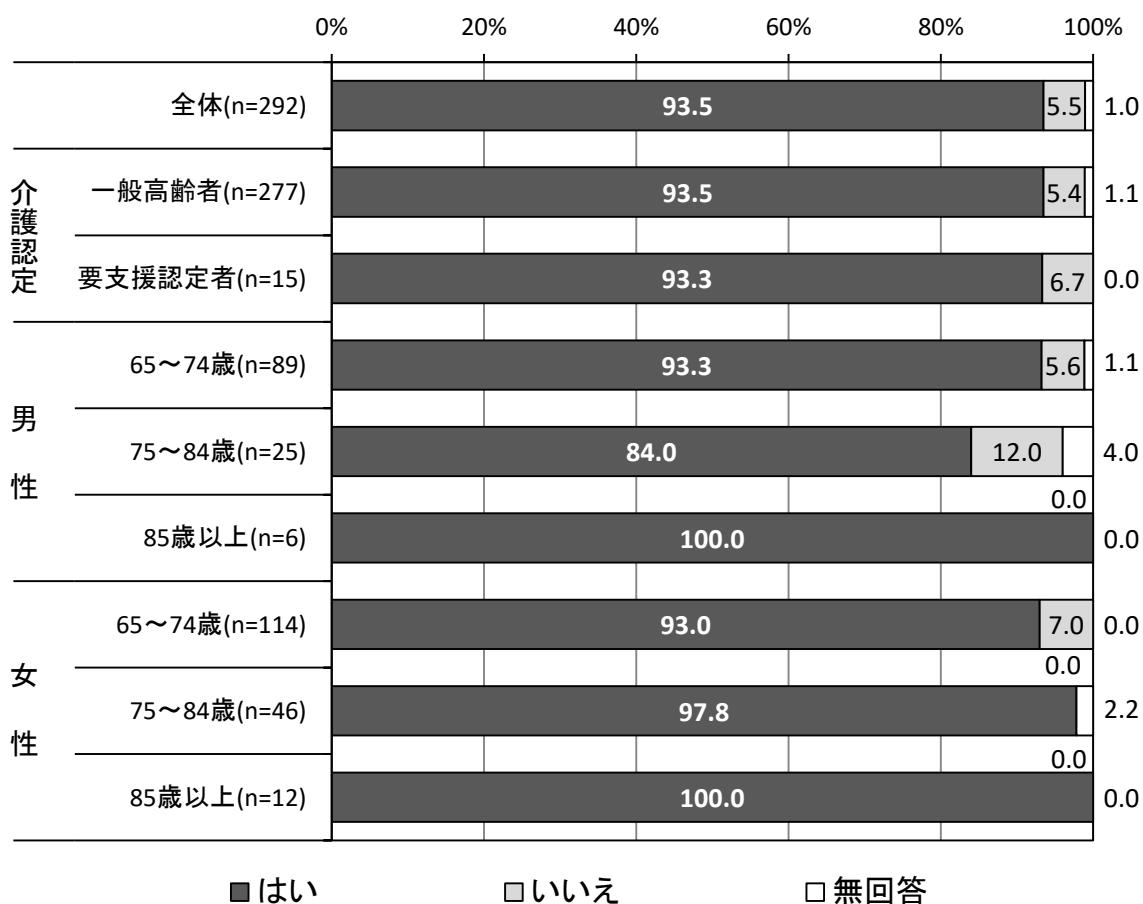


- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- ▣ 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

(7) 毎日入れ歯を手入れしているか

全体でみると、毎日入れ歯を手入れしている人は93.5%を占めており、介護認定別でも一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

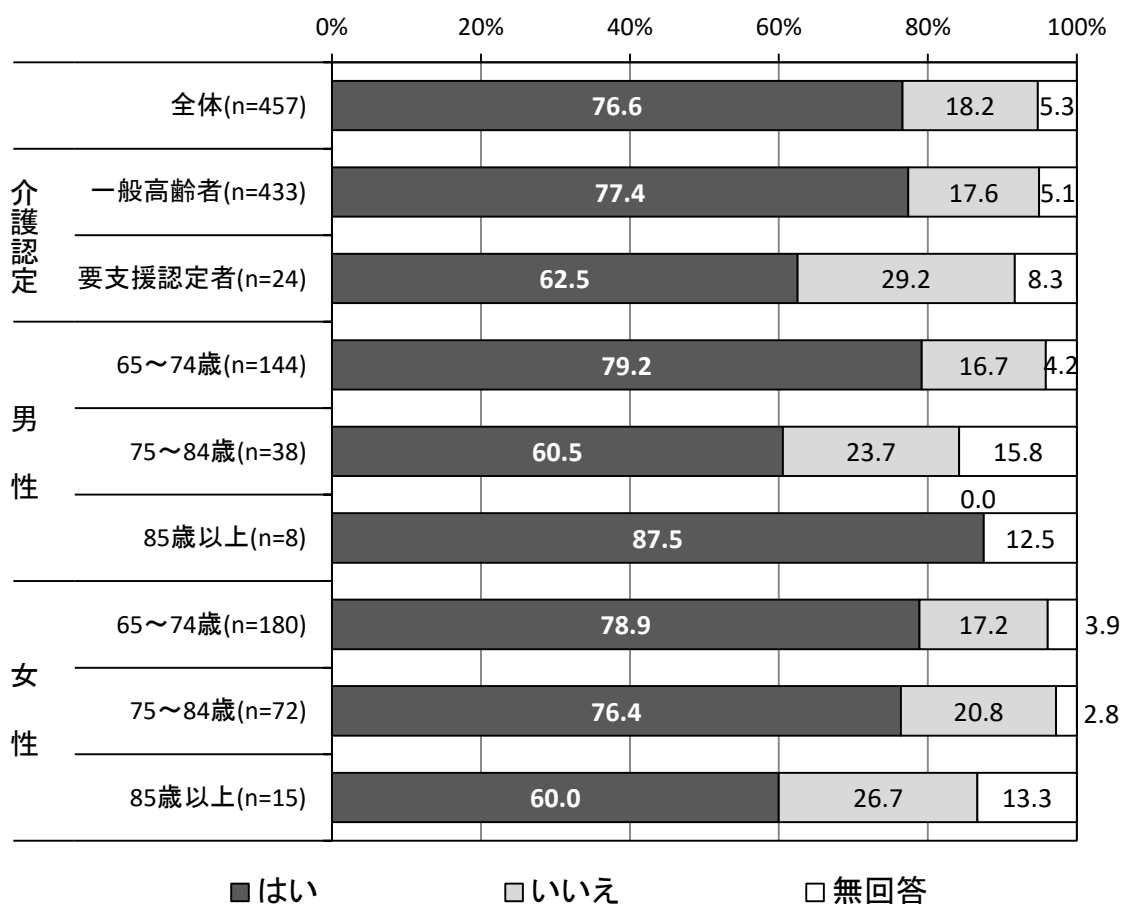
男女年齢階級別でみると、75～84歳の男性は毎日入れ歯を手入れしている人の割合が少なくなっています。



(8) 噛み合わせは良いか

全体でみると、歯の噛み合わせが良い人は 76.6%を占めていますが、要支援認定者は 62.5%とやや少なくなっています。

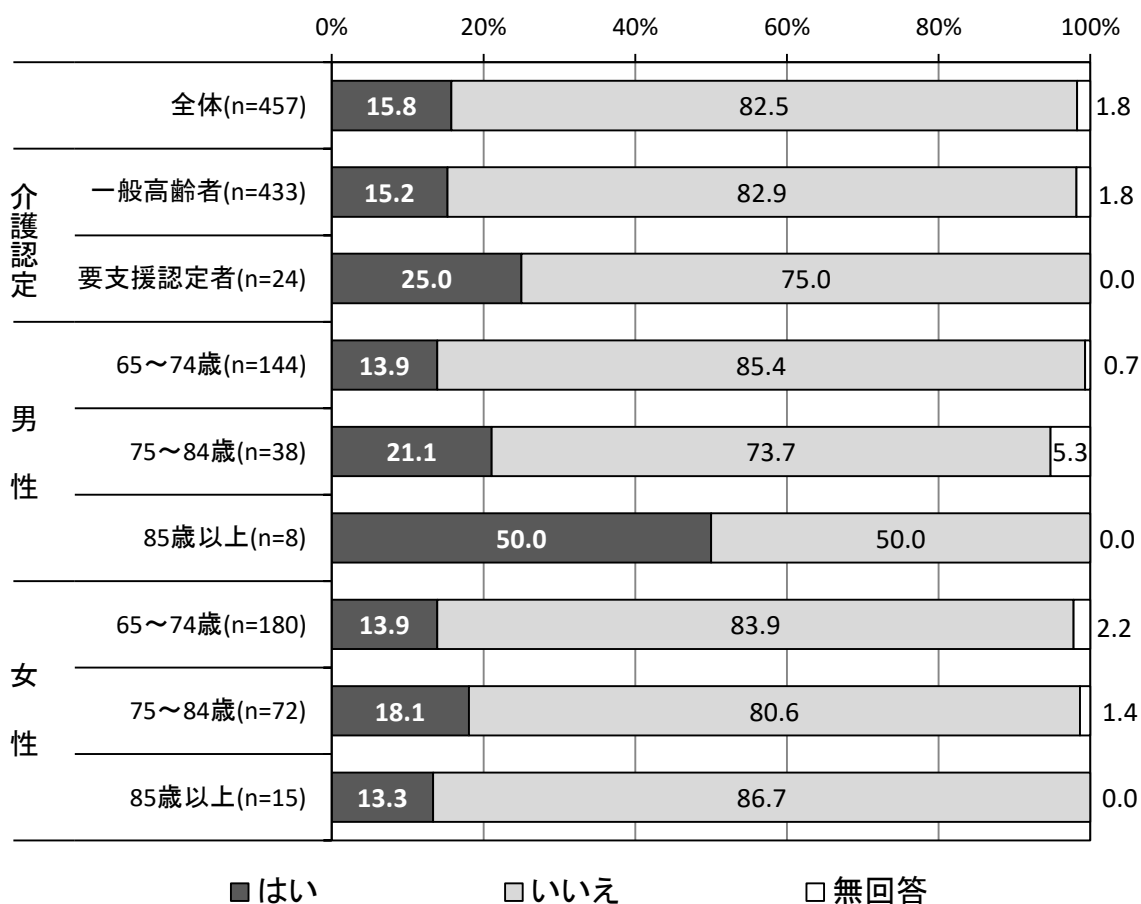
男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳、女性は 85 歳以上で歯の噛み合わせが良い人が少なくなっています。



(9) 6か月間で2～3kg以上体重減少したか

全体でみると、6か月間で2～3kg以上体重減少した人は15.8%ですが、要支援認定者は25.0%とやや多くなっています。

男女年齢階級別でみると、85歳以上の男性は6か月間で2～3kg以上体重減少した人が50.0%と多くなっています。

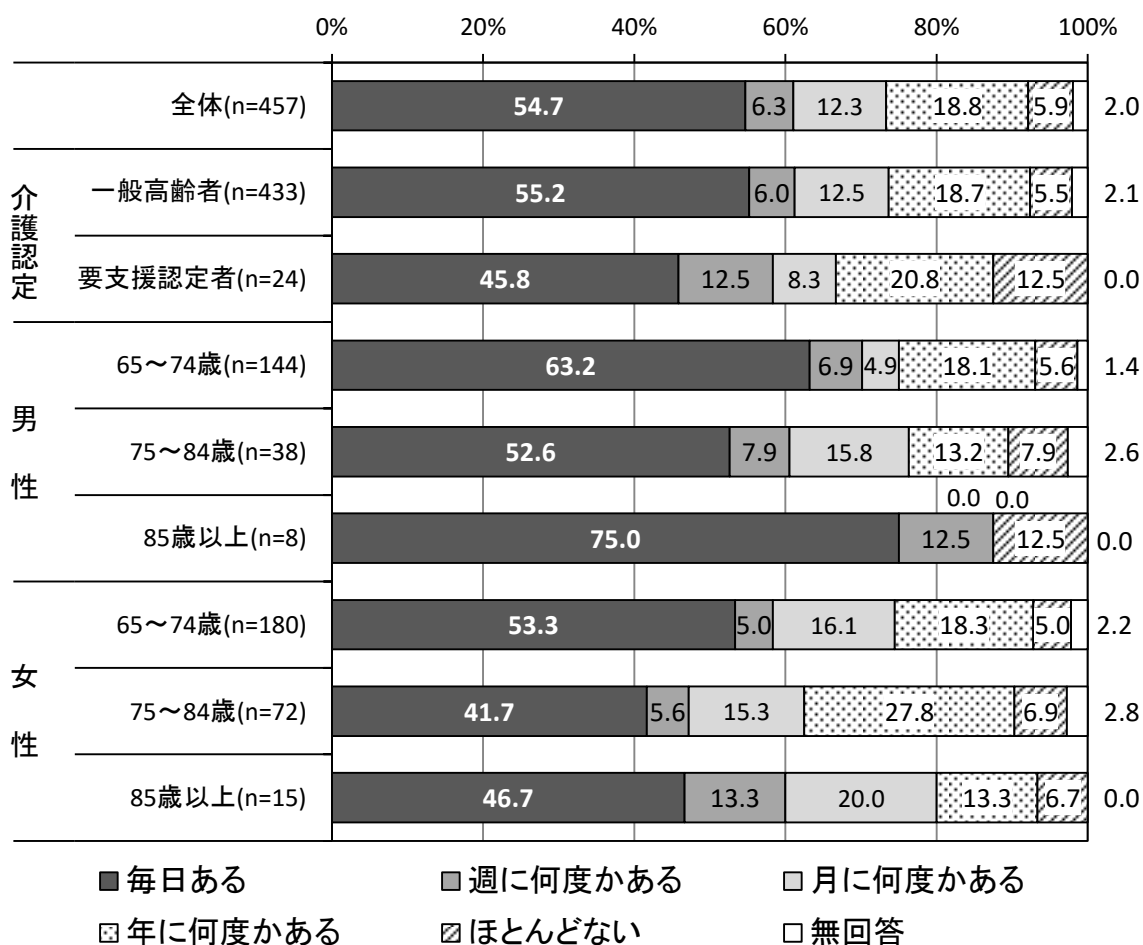


(10) 誰かと食事をする機会はあるか

全体でみると、誰かと食事をともにする機会が「毎日ある」は54.7%となっています。一方、「年に何度かある」(18.8%)、「ほとんどない」(5.9%)の合計24.7%は誰かと食事をする機会が非常に少ない状況にあります。

介護認定別でみると、要支援認定者は「毎日ある」が45.8%と少なく、「ほとんどない」が12.5%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに75～84歳は誰かと食事をともにする機会が「毎日ある」が少なくなっています。

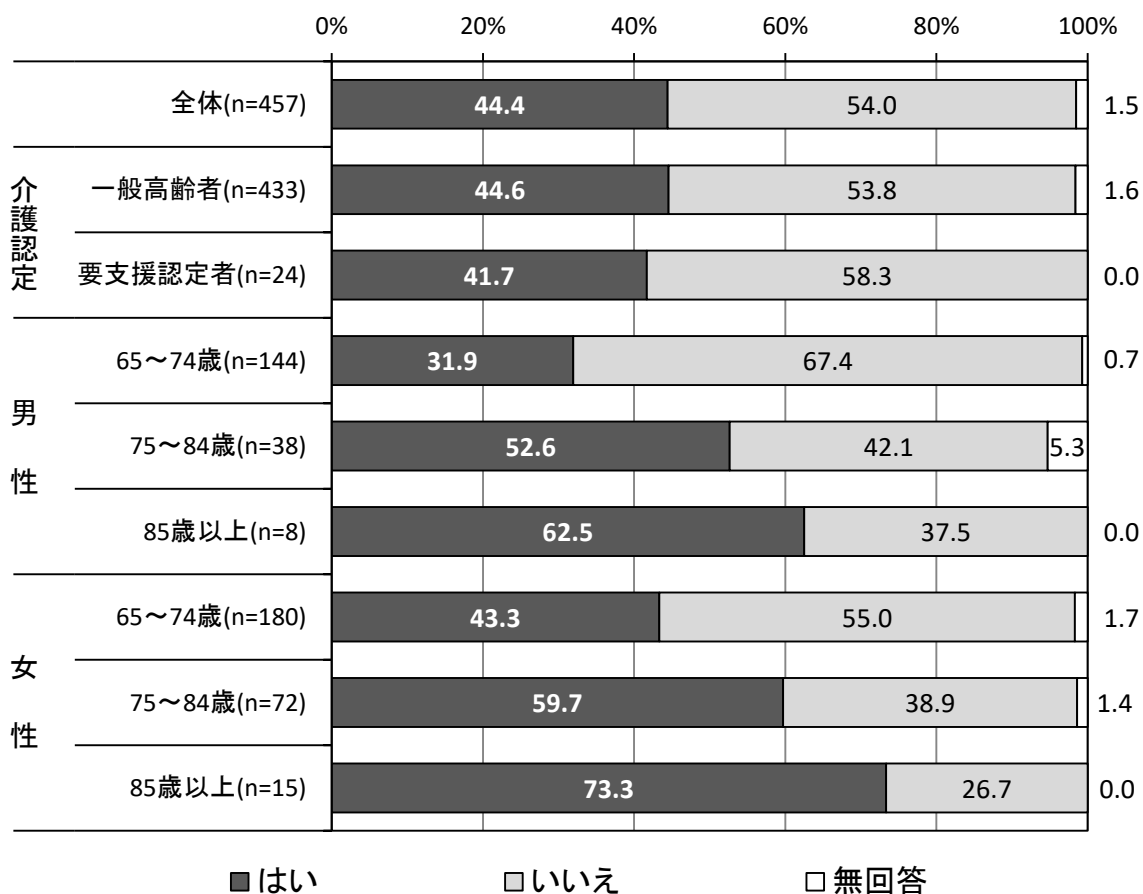


5. 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

全体でみると、物忘れが多いと感じている人は44.4%で、介護認定別でみても一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

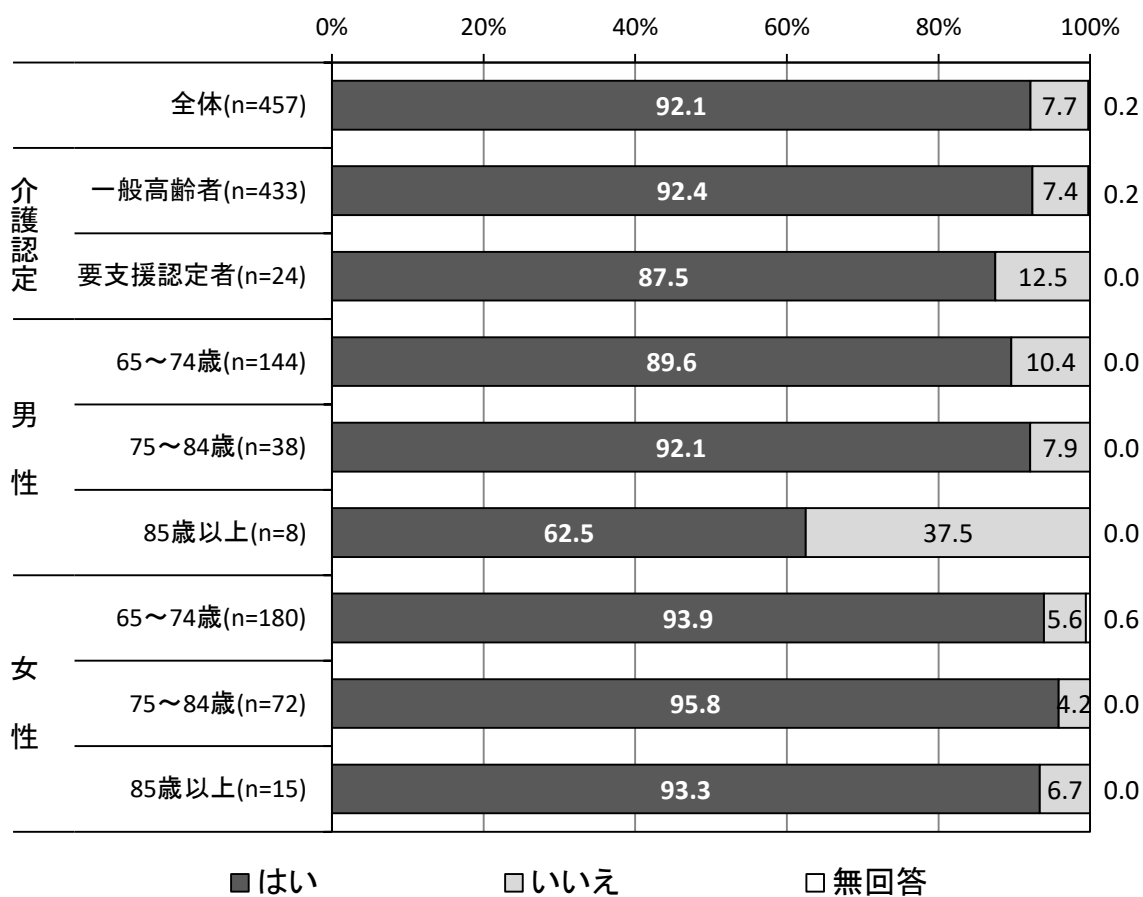
男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて物忘れが多いと感じている人が増えています。



(2) 自分で電話番号を調べて電話をかけているか

全体でみると、自分で電話番号を調べて電話をかけている人は 92.1%で、要支援認定者はその割合が 87.5%とやや少なくなっています。

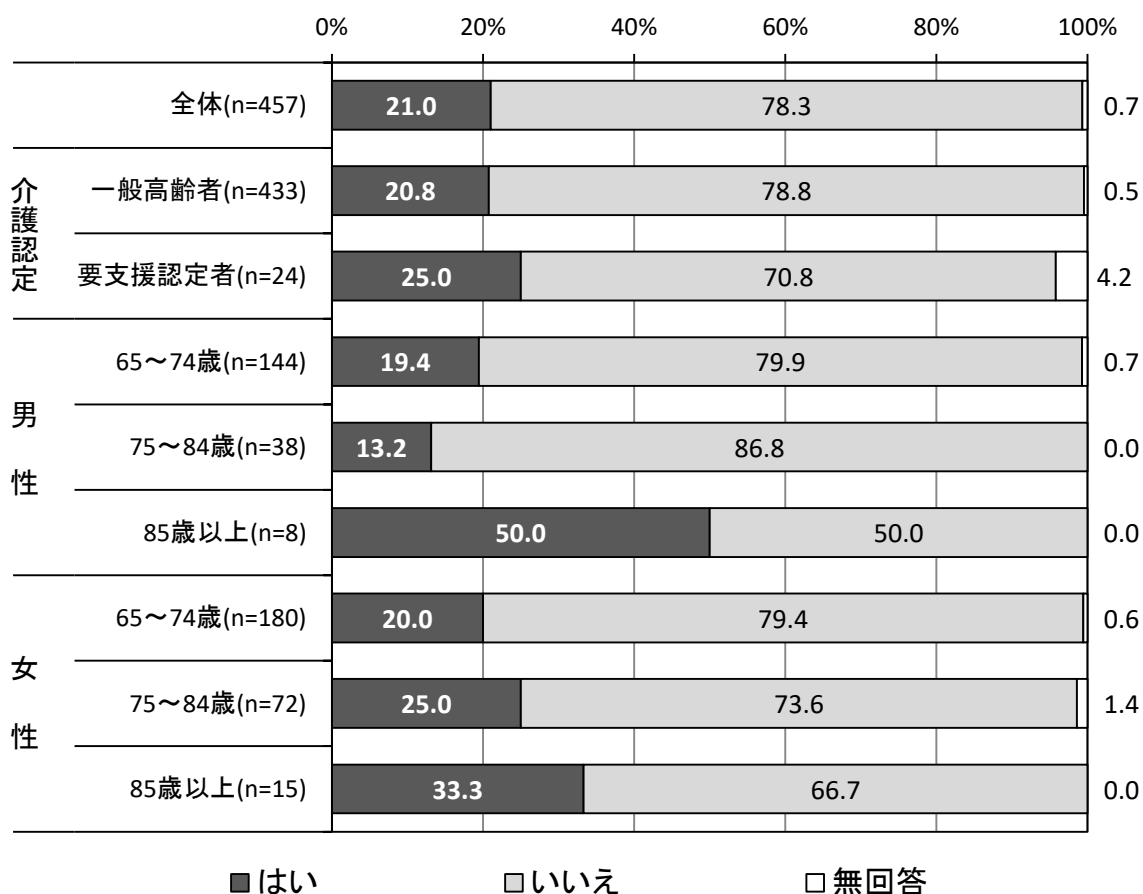
男女年齢階級別でみると、85 歳以上の男性は、自分で電話番号を調べて電話をかけている人が 62.5%と少なくなっています。



(3) 今日が何月何日かわからないときがあるか

全体でみると、今日が何月何日かわからないときがある人は 21.0%ですが、要支援認定者はその割合が 25.0%とやや多くなっています。

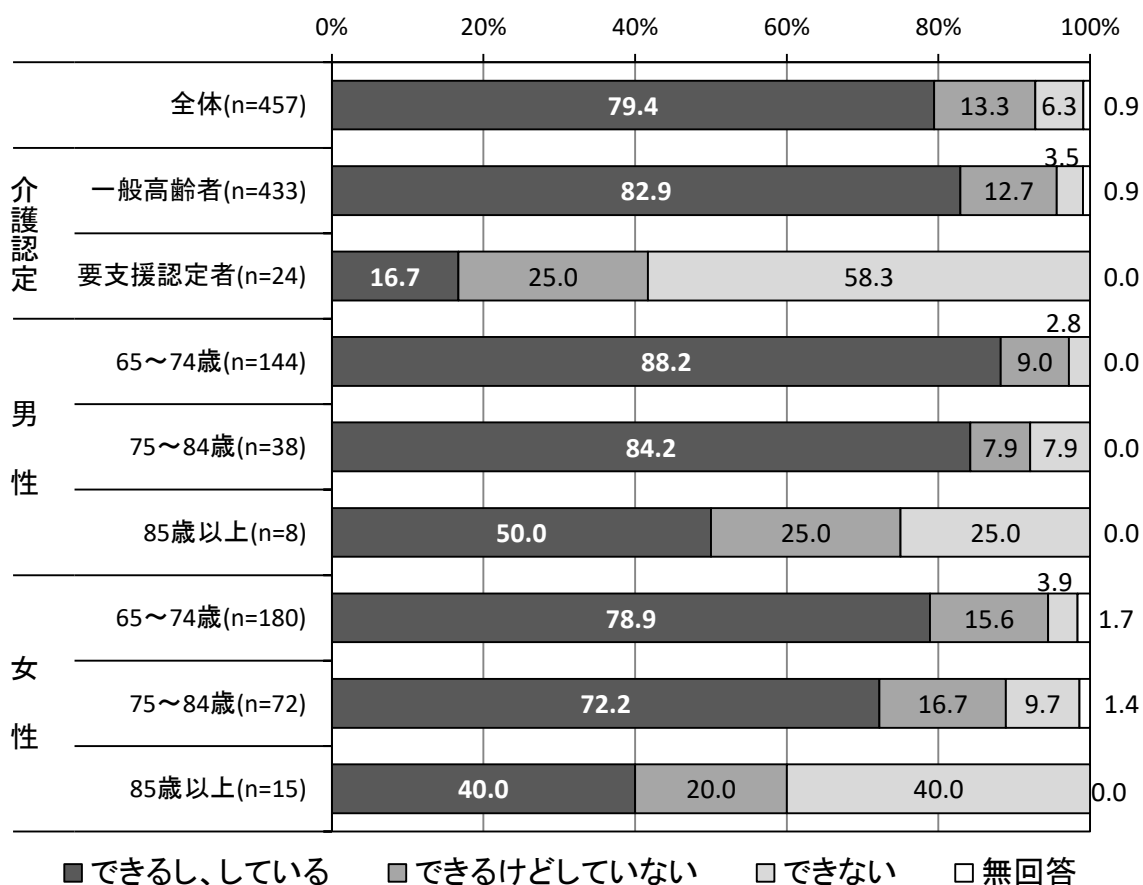
男女年齢階級別でみると、85 歳以上の男性は今日が何月何日かわからないときがある人が 50.0%と多くなっています。



(4) バスや電車を使って1人で外出しているか

全体でみると、「できるし、している」が 79.4%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 16.7%と少なくなっています。

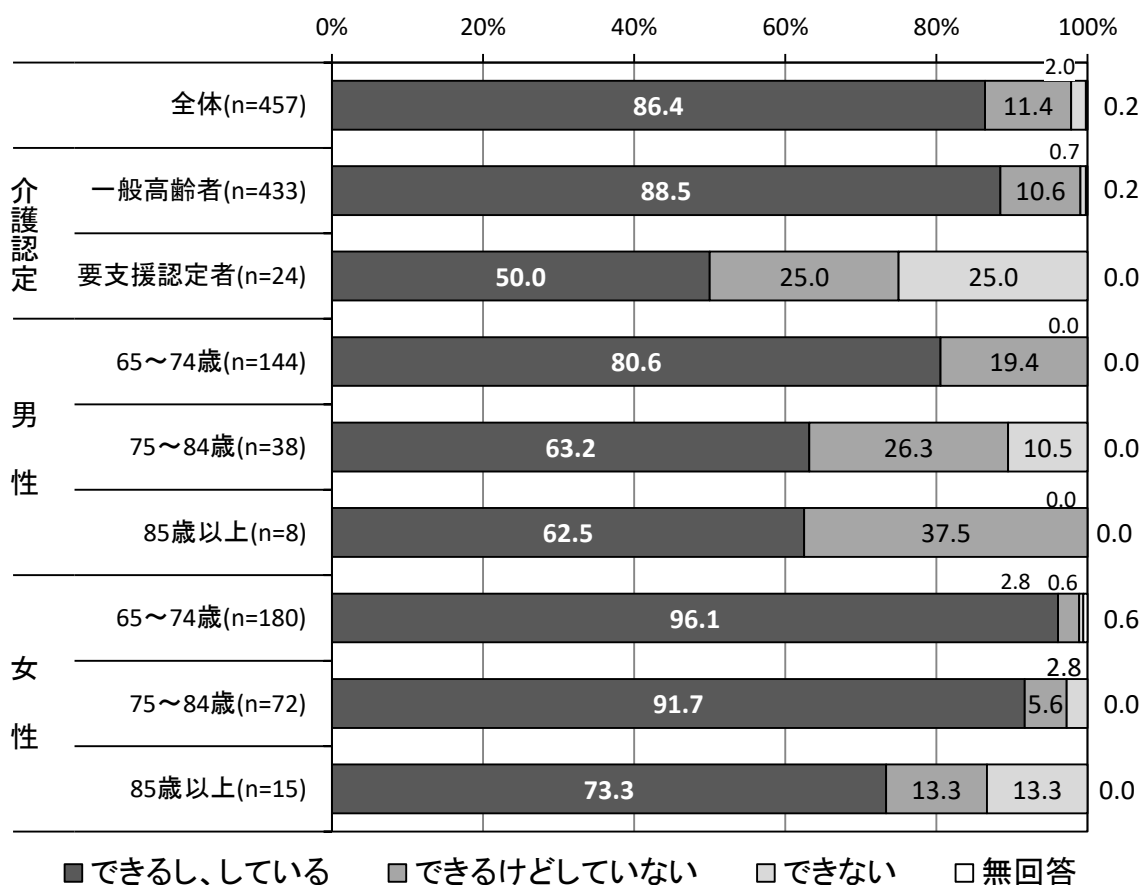
男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「できるし、している」が少なくなり、「できない」が多くなっています。



(5) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

全体でみると、「できるし、している」が 86.4%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 50.0%と少なくなっています。

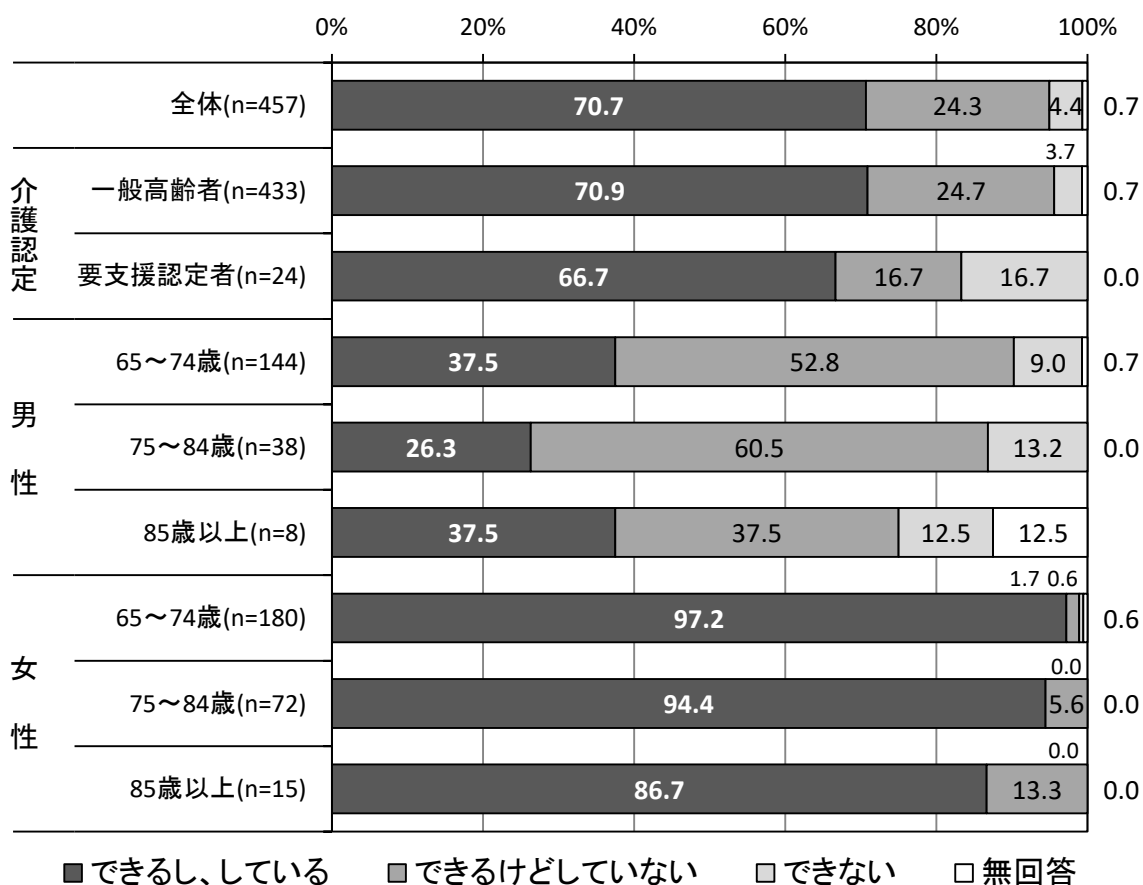
男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳で「できない」が最も多く、女性は年齢が高くなるにつれて「できない」が多くなっています。



(6) 自分で食事の用意をしているか

全体でみると、「できるし、している」が 70.7%を占めています。介護認定別でみると要支援認定者は「できない」が 16.7%と多くなっています。

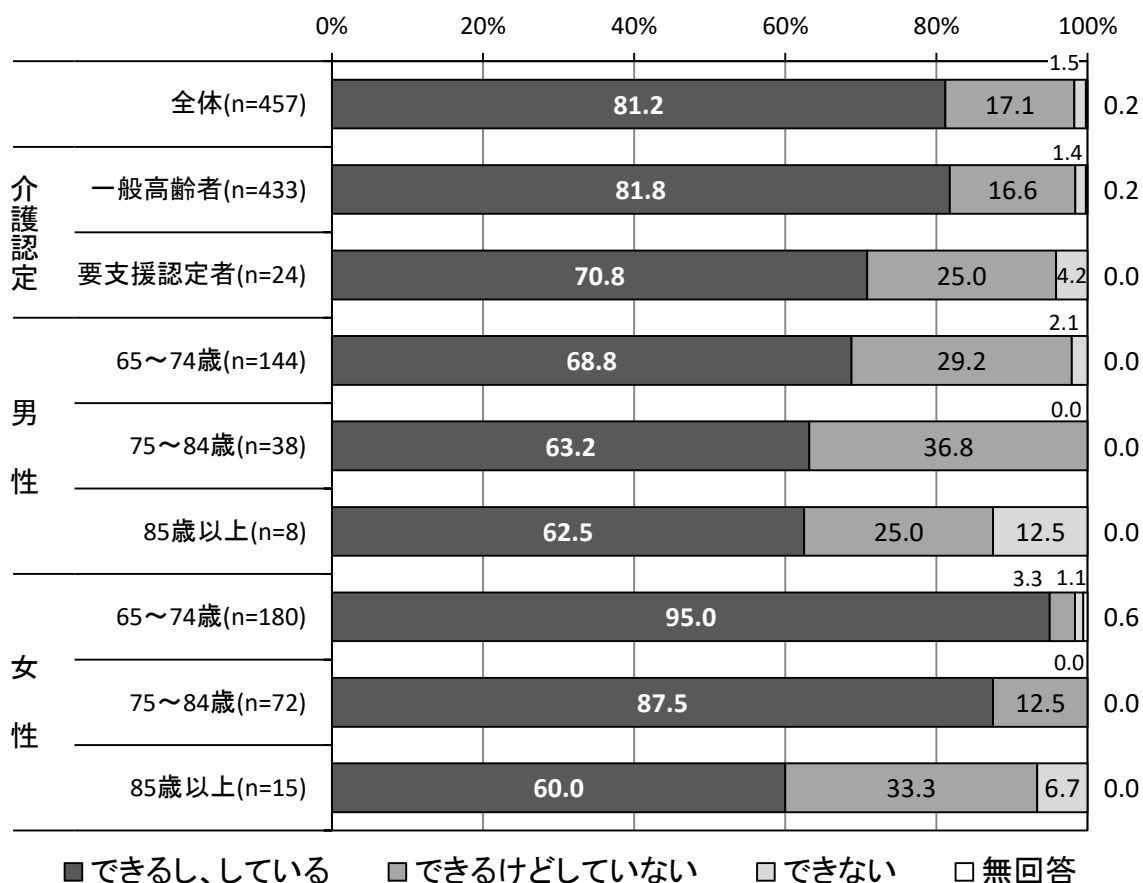
男女年齢階級別でみると、男性はどの年齢においても「できるし、している」が 40%未満ですが、女性は年齢が高くなるにつれて「できるけどしていない」が多くなっています。



(7) 自分で請求書の支払いをしているか

全体でみると、「できるし、している」が81.2%を占めていますが、要支援認定者は「その割合が70.8%と少なくなっています。

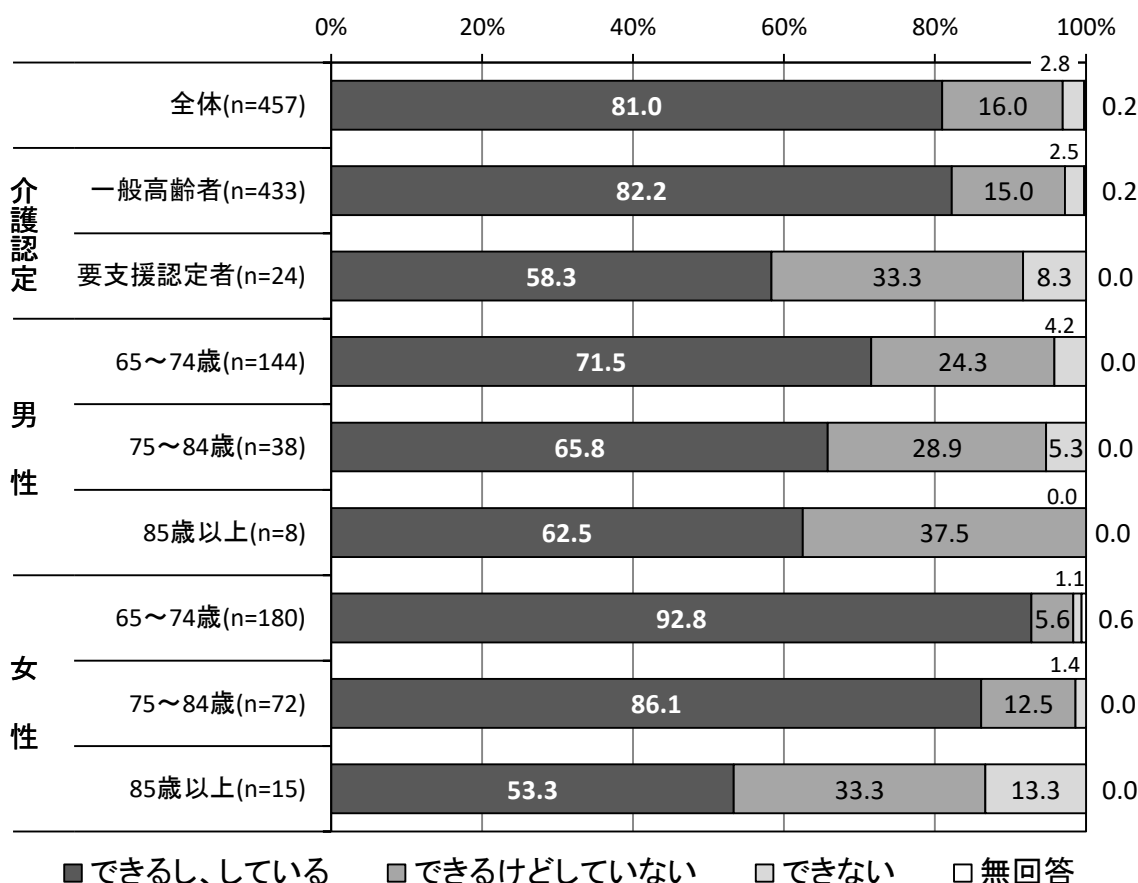
男女年齢階級別でみると、男女ともに85歳以上で「できない」が多くなっています。



(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

全体でみると、「できるし、している」が 81.0%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 58.3%と少なくなっています。

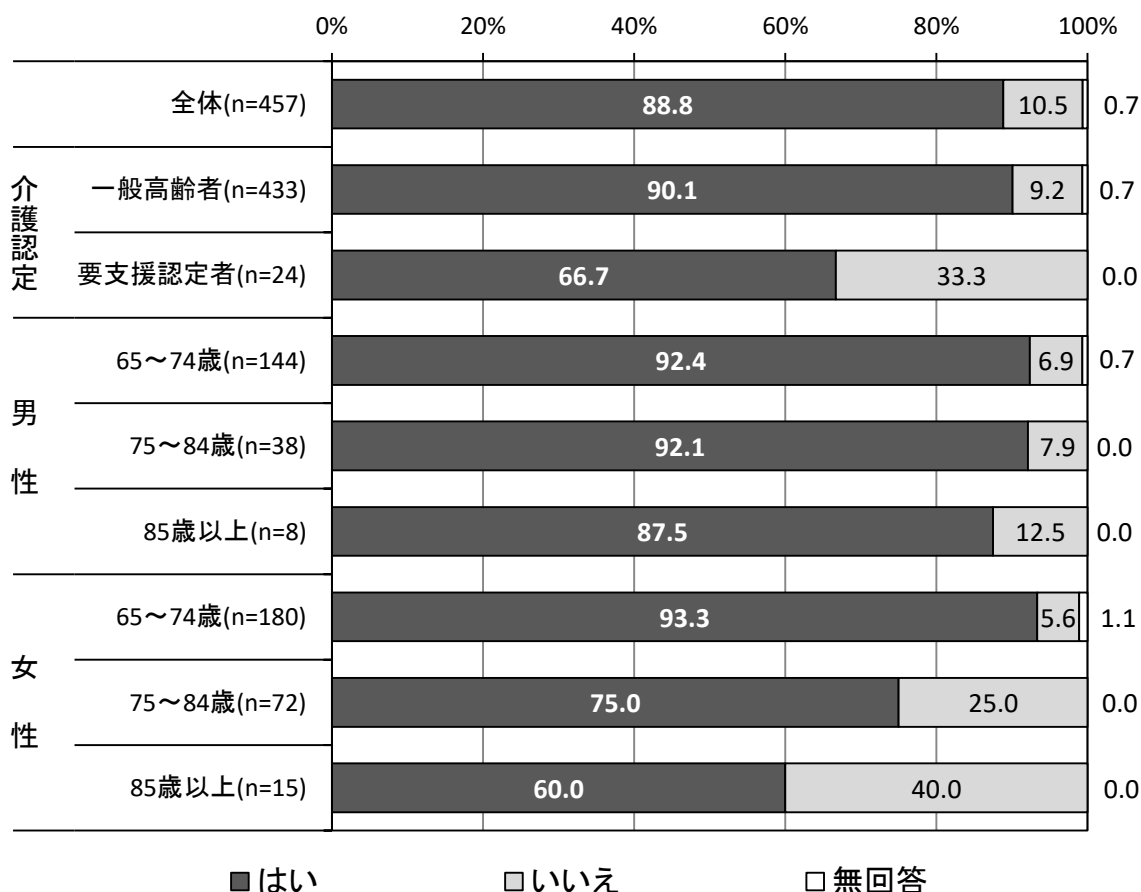
男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれ「できるし、している」が少なくなっており、特に 85 歳以上の女性は 53.3%と大幅に少なくなっています。



(9) 年金などの書類が書けるか

全体でみると、年金などの書類が書ける人が 88.8%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 66.7%と少なくなっています。

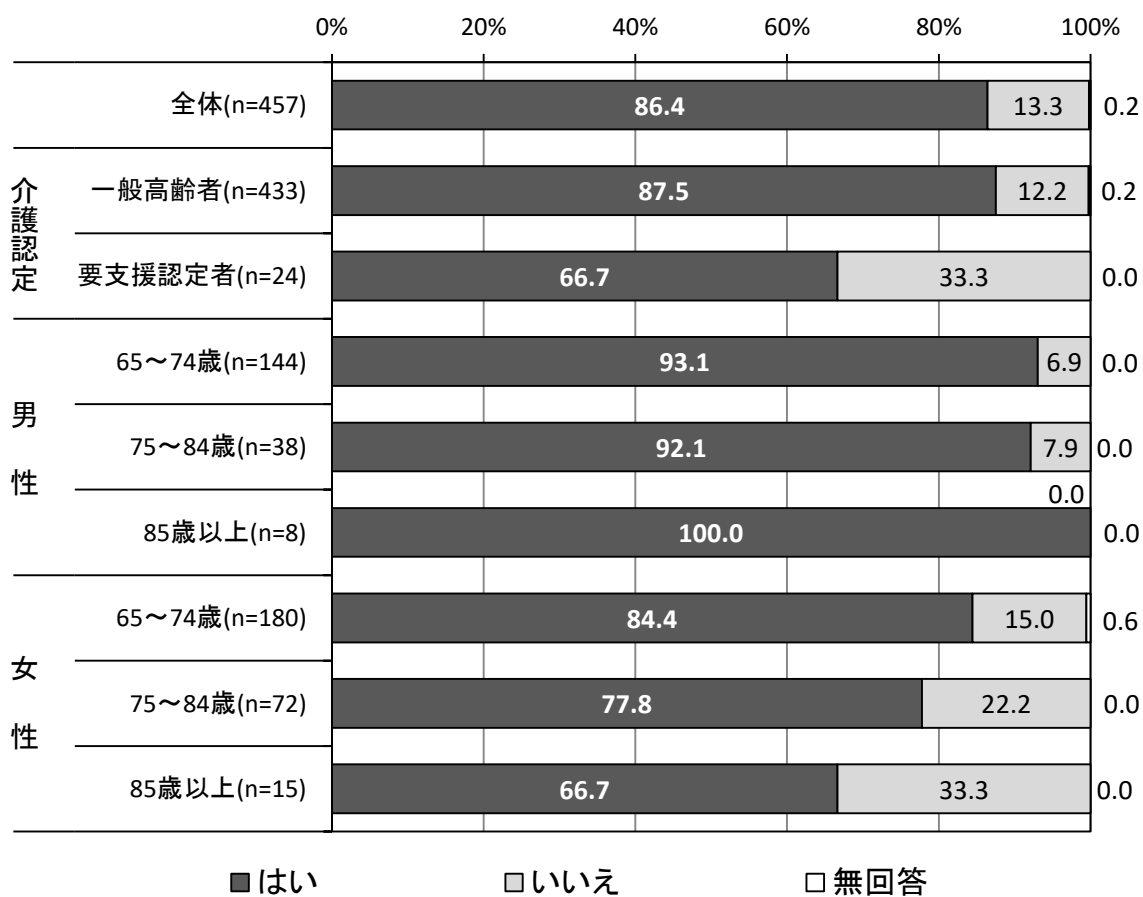
男女年齢階級別でみると、男性は年齢による大きな差異はみられませんが、女性は年齢が高くなるにつれて年金などの書類が書ける人が少なくなり、85 歳以上は 60.0%となっています。



(10) 新聞を読んでいるか

全体でみると、新聞を読んでいる人が 86.4%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 66.7%と少なくなっています。

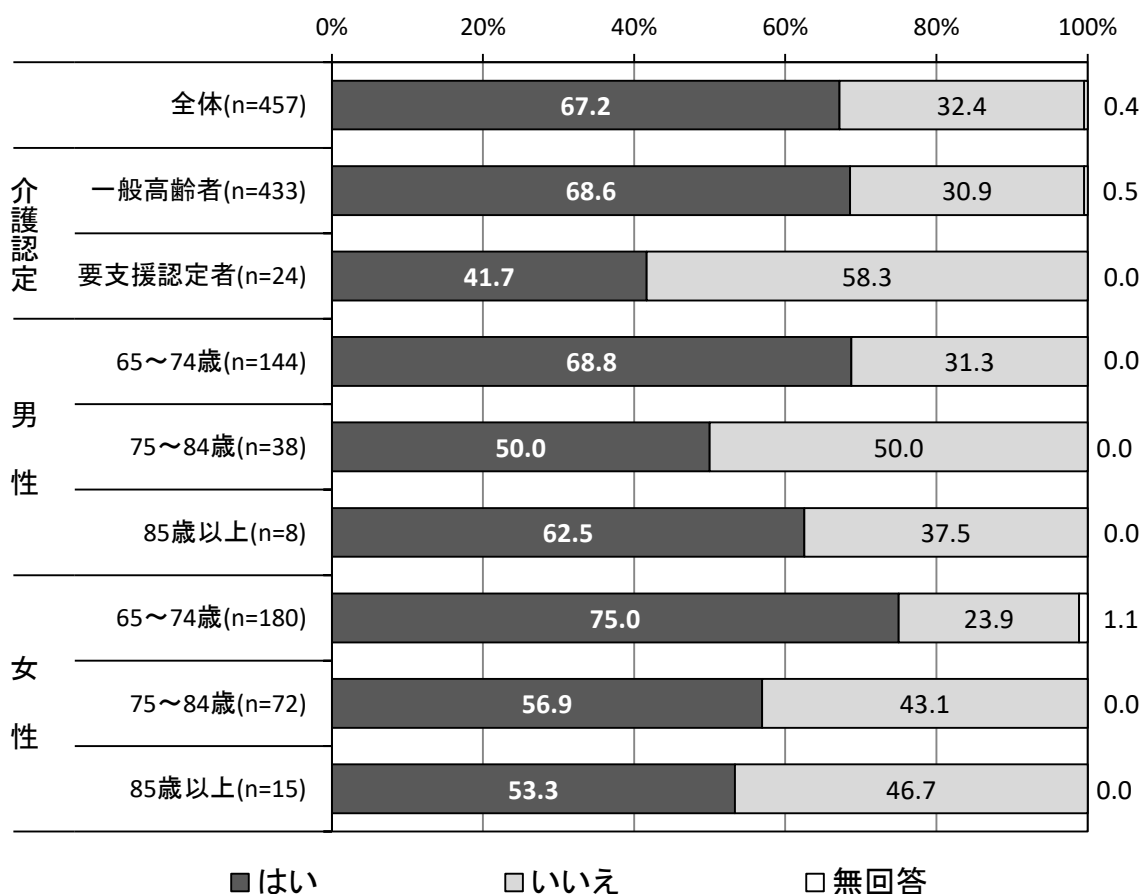
男女年齢階級別でみると、男性は年齢にかかわらず 90%以上が新聞を読んでいます、女性は年齢が高くなるにつれて新聞を読んでいる人が少なくなっています。



(11) 本や雑誌を読んでいるか

全体でみると、本や雑誌を読んでいる人が 67.2%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 41.7%と少なくなっています。

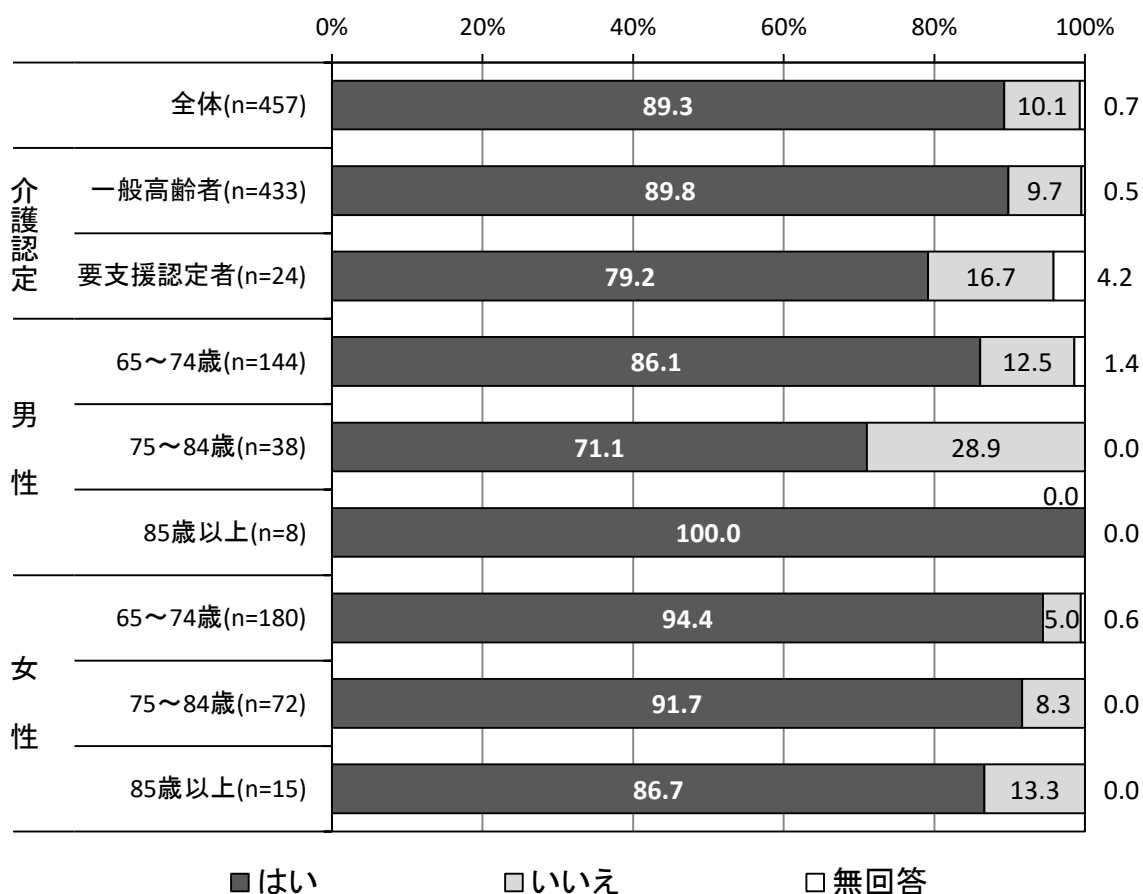
男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳で本や雑誌を読んでいる人が少なく、女性は年齢が高くなるにつれ本や雑誌を読んでいる人が少なくなっています。



(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

全体でみると、健康についての記事や番組に関心がある人が 89.3%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 79.2%とやや少なくなっています。

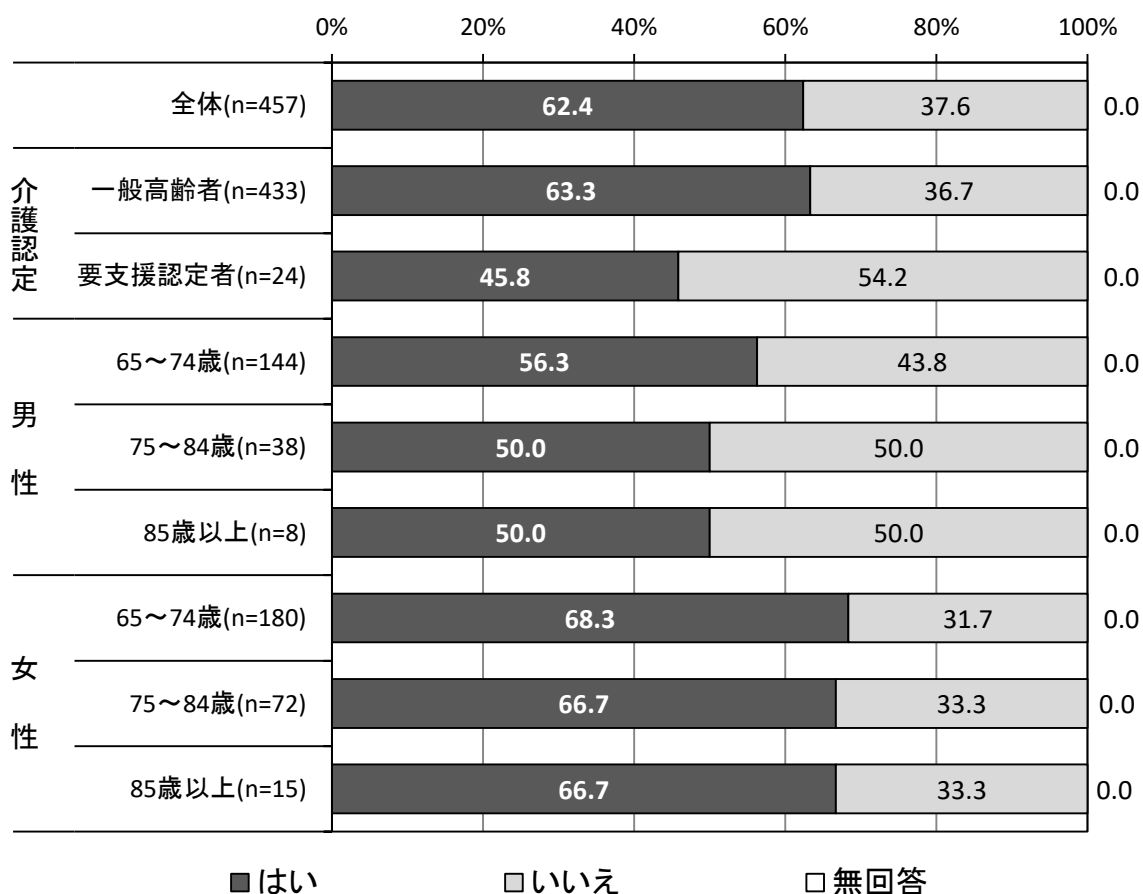
男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳は健康についての記事や番組に関心がある人が 71.1%と少なくなっています。



(13) 友人の家を訪ねているか

全体でみると、友人の家を訪ねている人が 62.4%となっていますが、要支援認定者はその割合が 45.8%と少なくなっています。

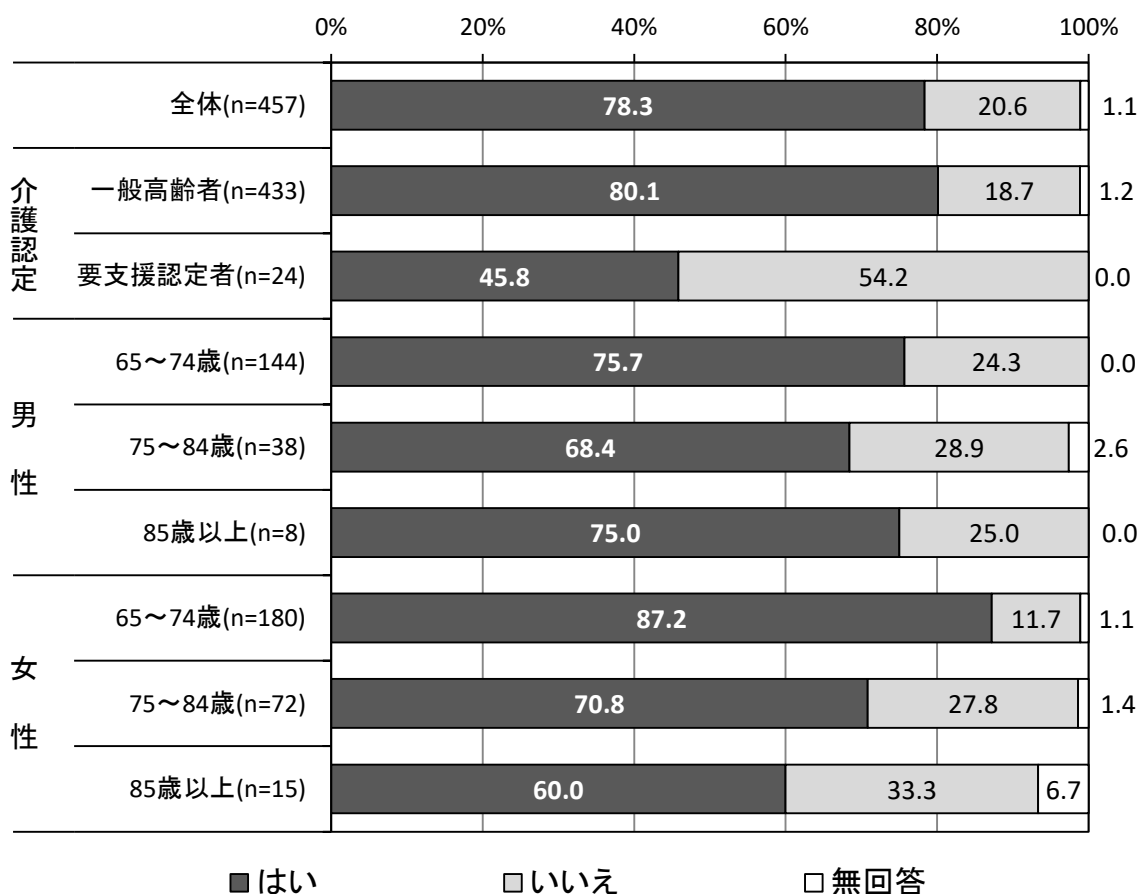
男女年齢階級別でみると、男性は友人の家を訪ねている人が 60%未満で女性よりも少なくなっています。



(14) 家族や友人の相談にのっているか

全体でみると、家族や友人の相談にのっている人が78.3%を占めていますが、要支援認定者はその割合が45.8%と少なくなっています。

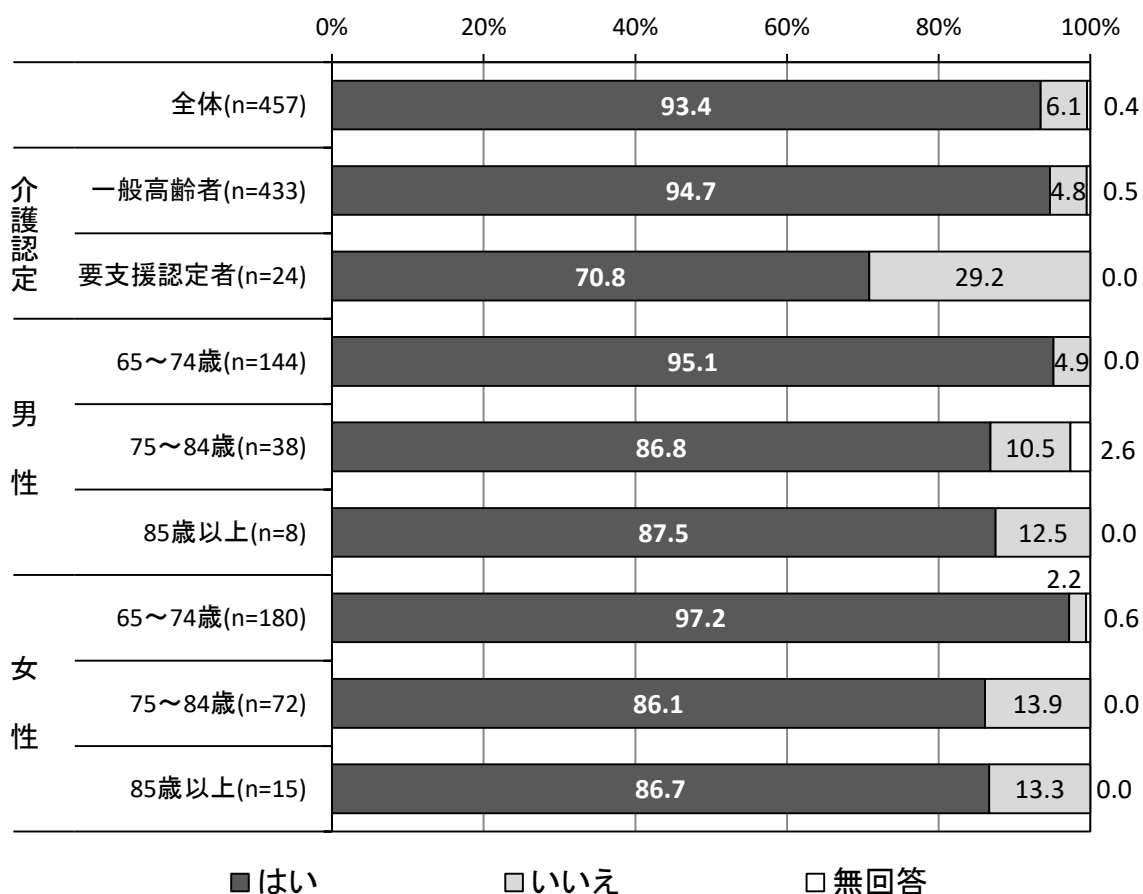
男女年齢階級別でみると、男性は75～84歳が家族や友人の相談にのっている人がやや少なく、女性は年齢が高くなるにつれてその割合が少なくなっています。



(15) 病人を見舞うことができるか

全体でみると、病人を見舞うことができる人が 93.4%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 70.8%と少なくなっています。

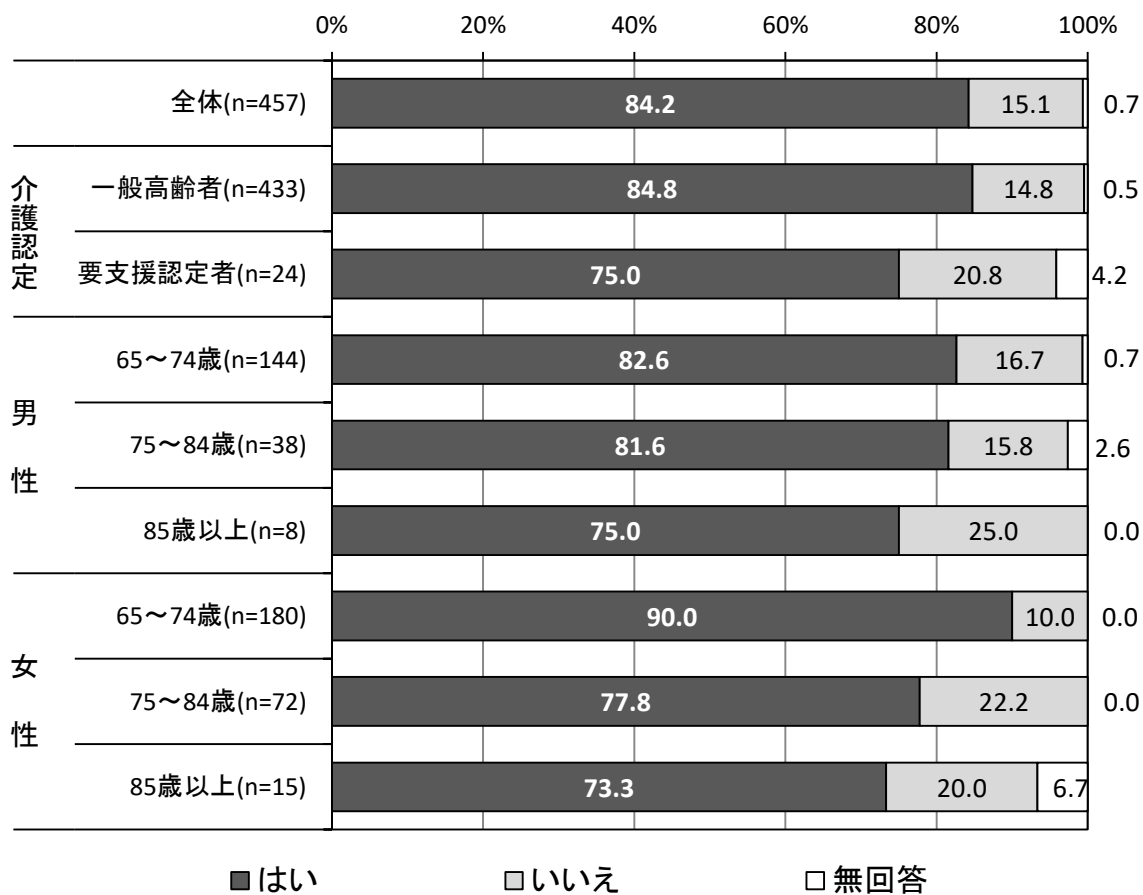
男女年齢階級別でみると、男女ともに病人を見舞うことができる人の割合が 75 歳以上でやや少なくなっています。



(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか

全体でみると、若い人に自分から話しかけることがある人が 84.2%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 75.0%とやや少なくなっています。

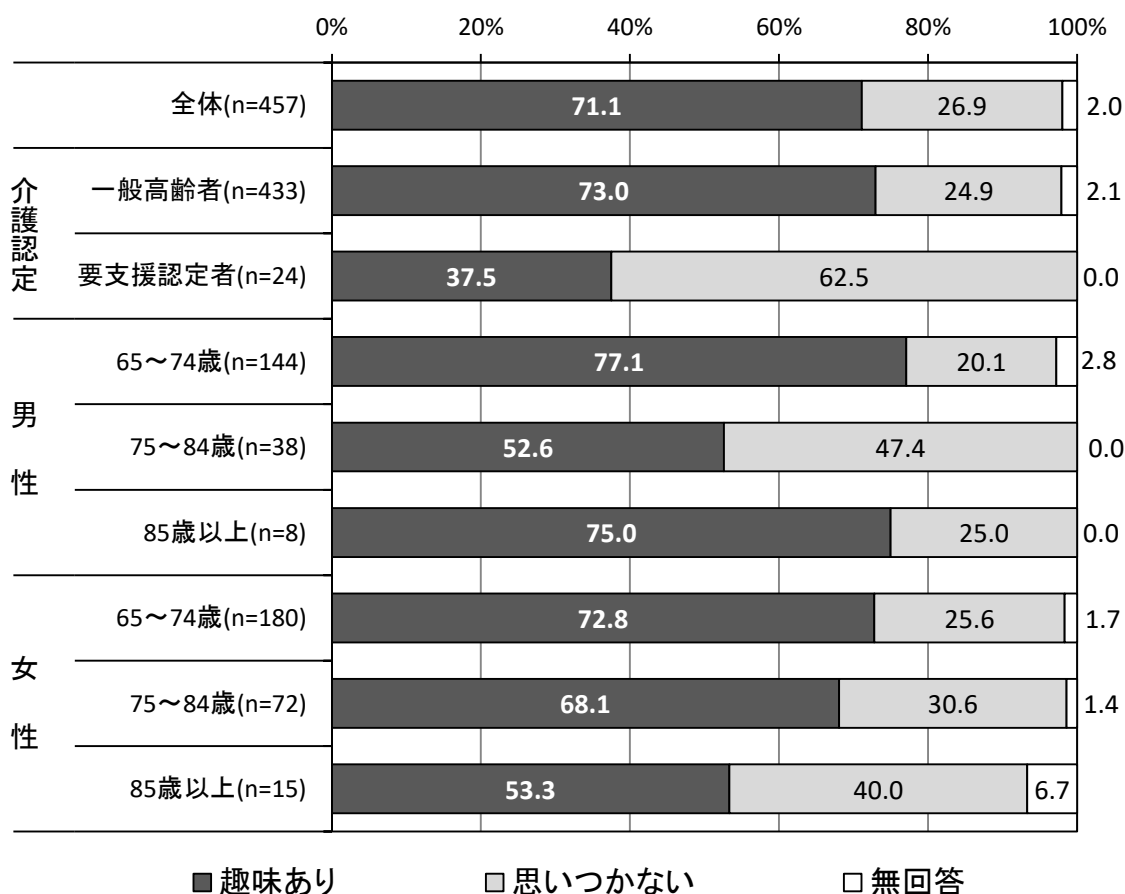
男女年齢階級別でみると、男性は 85 歳以上、女性は 75 歳以上で若い人に自分から話しかけることがある人が少なくなっています。



(17) 趣味はあるか

全体でみると、「趣味あり」が 71.1%となっており、要支援認定者はその割合が 37.5%と少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳で「趣味あり」が少なくなっていますが、女性は 85 歳以上で「趣味あり」が少なくなっています。



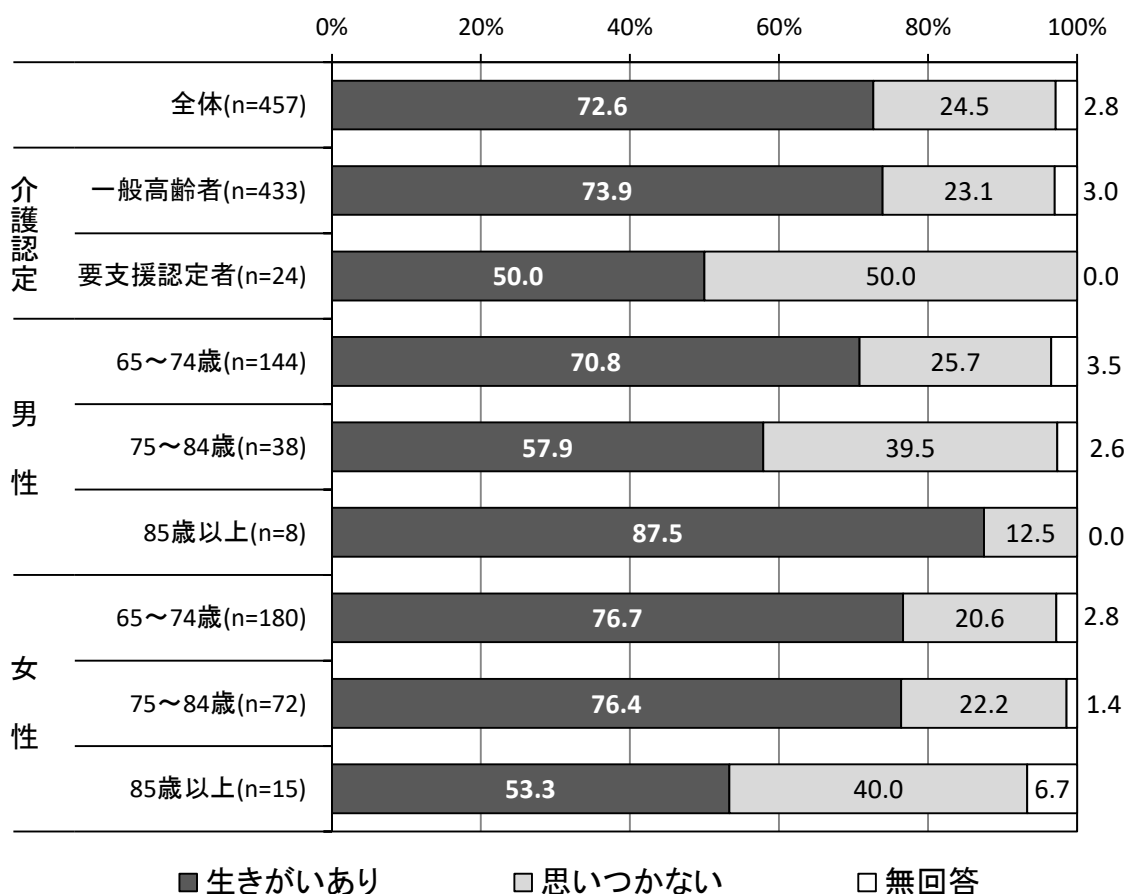
■ 趣味の内容

男 性	女 性
・ パークゴルフ、ゴルフ ・ 魚釣り ・ スポーツ、ウォーキング ・ 読書 ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ 囲碁、将棋 ・ 映画鑑賞、音楽鑑賞 ・ 麻雀 ・ カラオケ ・ 旅行 - など	・ 花づくり、花の手入れ ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ 手芸、編み物、パッチワーク ・ ダンス ・ 読書 ・ カラオケ ・ 料理 ・ パークゴルフ ・ 書道、茶道 ・ スポーツ、ウォーキング - など

(18) 生きがいはあるか

全体でみると、「生きがいあり」が 72.6%となっており、要支援認定者はその割合が 50.0%と少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳、女性は 85 歳以上で「生きがいあり」が少なくなっています。



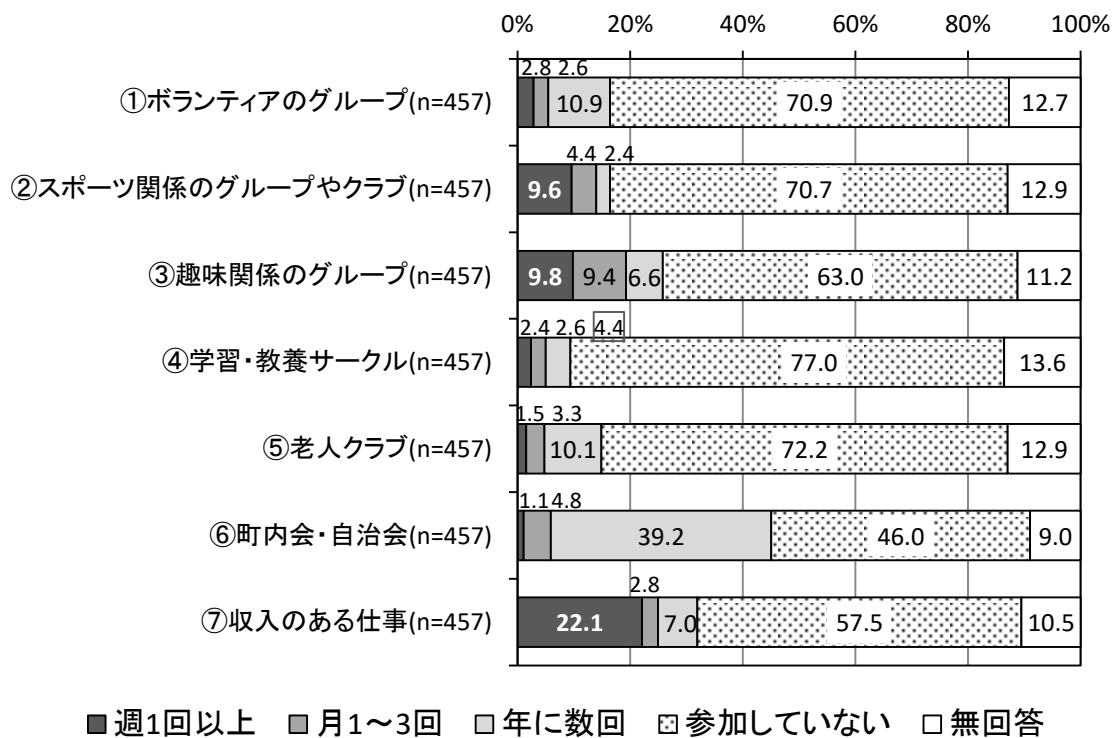
■ 生きがいの内容

男 性	女 性
・ 孫の成長、孫と遊ぶ ・ 仕事 ・ 趣味 ・ 動物の世話 ・ 家族や友人との交流 ・ 旅行 ・ 健康な生活 など	・ 子ども、孫の成長、孫と遊ぶ ・ 友人との交流 ・ 旅行 ・ 仕事 ・ 趣味 ・ 動物の世話 ・ 畑仕事、ガーデニング ・ 健康な生活 など

6. 地域での活動について

(1) 地域活動等への参加頻度

地域活動等への参加頻度をみると、⑦収入のある仕事、③趣味関係のグループ、②スポーツ関係のグループやクラブは「週1回以上」の割合が多くなっています。逆に「参加していない」が多いのは④学習・教養サークルとなっています。



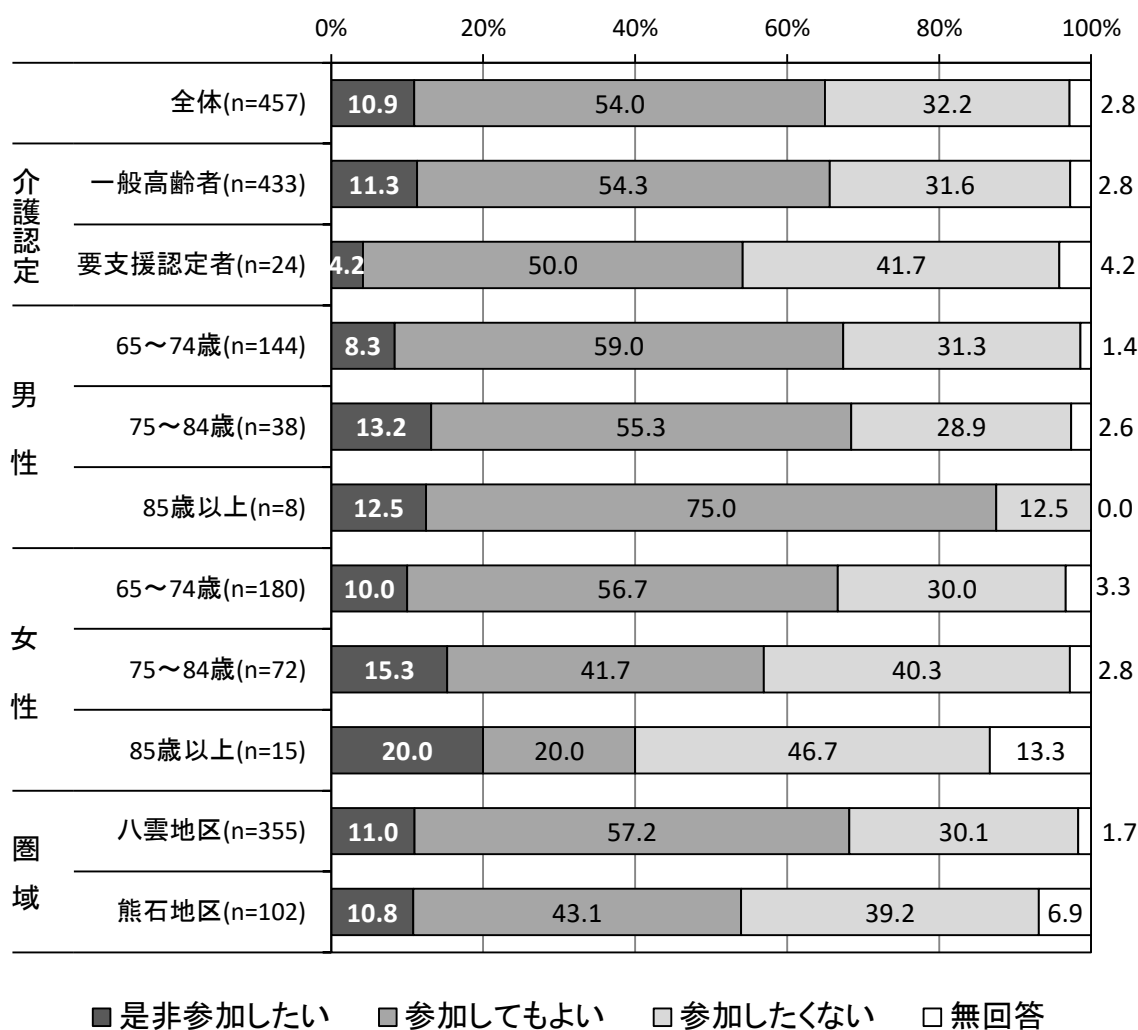
(2) 趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向

全体でみると、「是非参加したい」(10.9%)、「参加してもよい」(54.0%)の合計は64.9%で半数以上に参加意向がみられます。

介護認定別でみると、一般高齢者は「参加したくない」が31.6%ですが、要支援認定者は41.7%とやや多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男性は年齢が高くなるにつれて参加意向のある人は多く、女性は年齢が高くなるにつれてその割合は少なくなっています。特に85歳以上の女性は「参加したくない」が46.7%と多くなっています。

圏域別でみると、八雲地区は「是非参加したい」(11.0%)、「参加してもよい」(57.2%)の合計は68.2%で熊石地区よりも多くなっています。



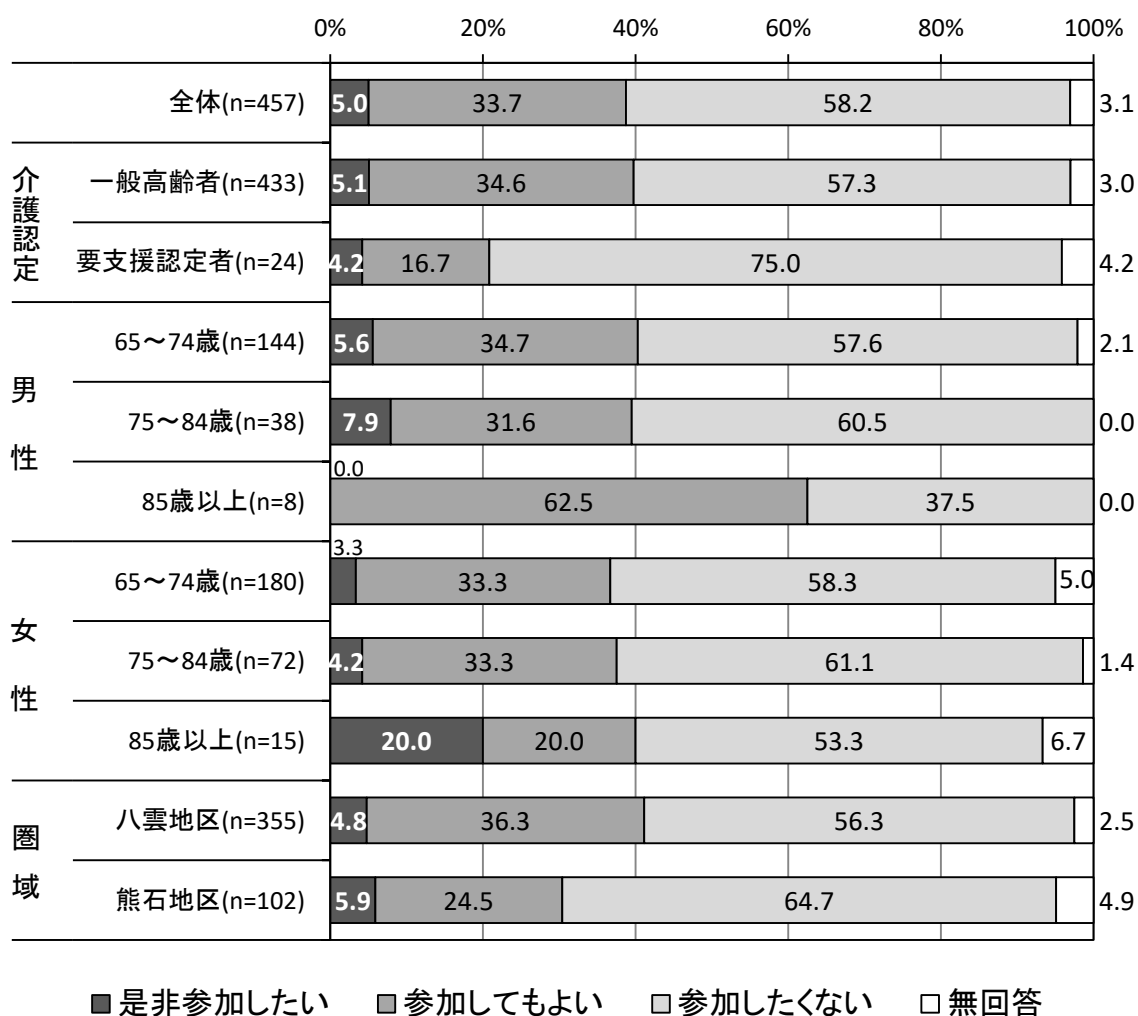
(3) 趣味等のグループ活動への企画・運営としての参加意向

全体でみると、「是非参加したい」(5.0%)、「参加してもよい」(33.7%)の合計は38.7%となっています。

介護認定別にみると、要支援認定者は「参加したくない」が75.0%を占め、参加意向のある人は20.9%にとどまっています。

男女年齢階級別でみると、85歳以上の男性は「是非参加したい」がいらないものの、「参加してもよい」が62.5%と多くなっています。また、85歳以上の女性は「是非参加したい」が20.0%と多くなっていますが、「参加してもよい」が20.0%と少なくなっています。

圏域別でみると、八雲地区は「是非参加したい」(4.8%)、「参加してもよい」(36.3%)の合計は41.1%で熊石地区よりも多くなっています。

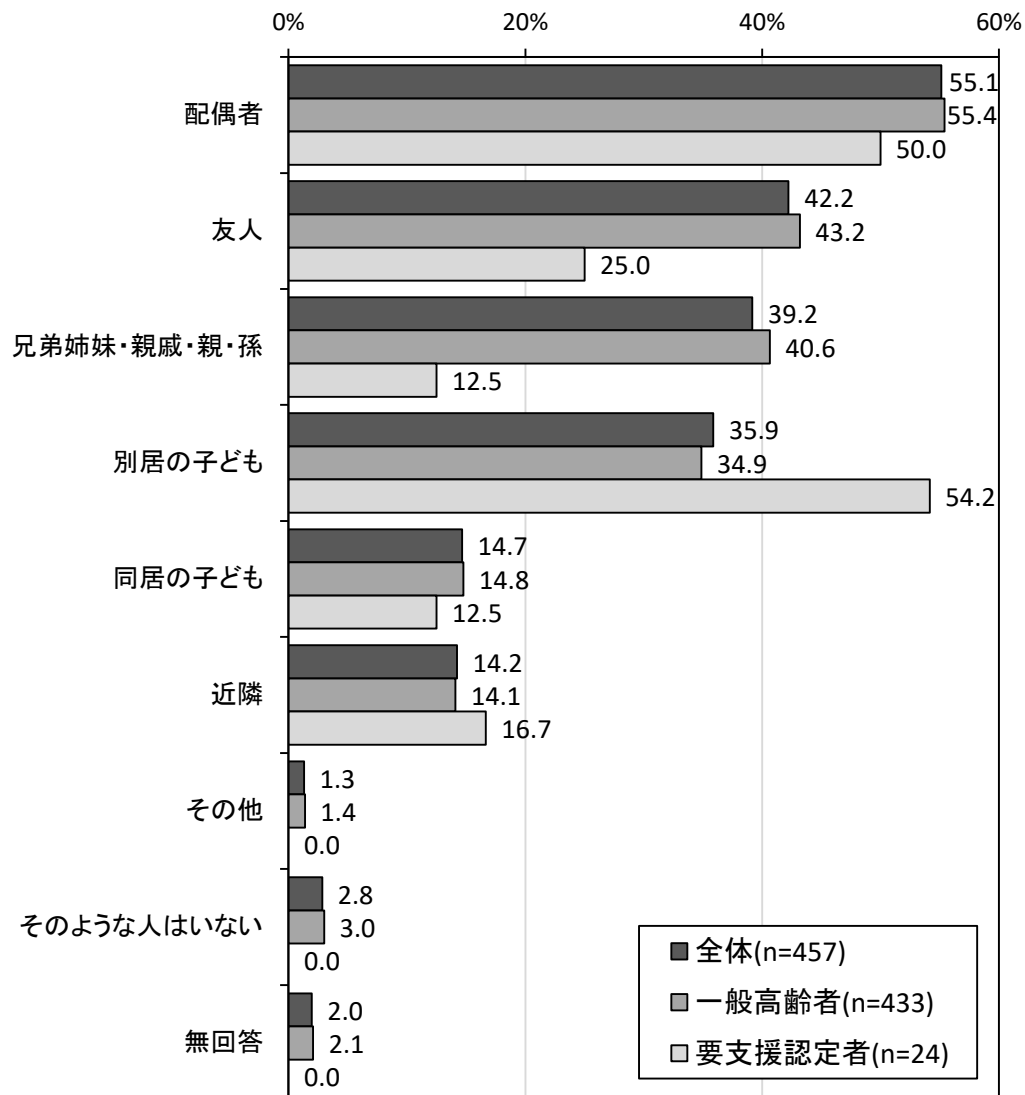


7. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人【複数回答】

全体でみると、「配偶者」が55.1%で最も多く、次いで「友人」(42.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.2%)と続いています。

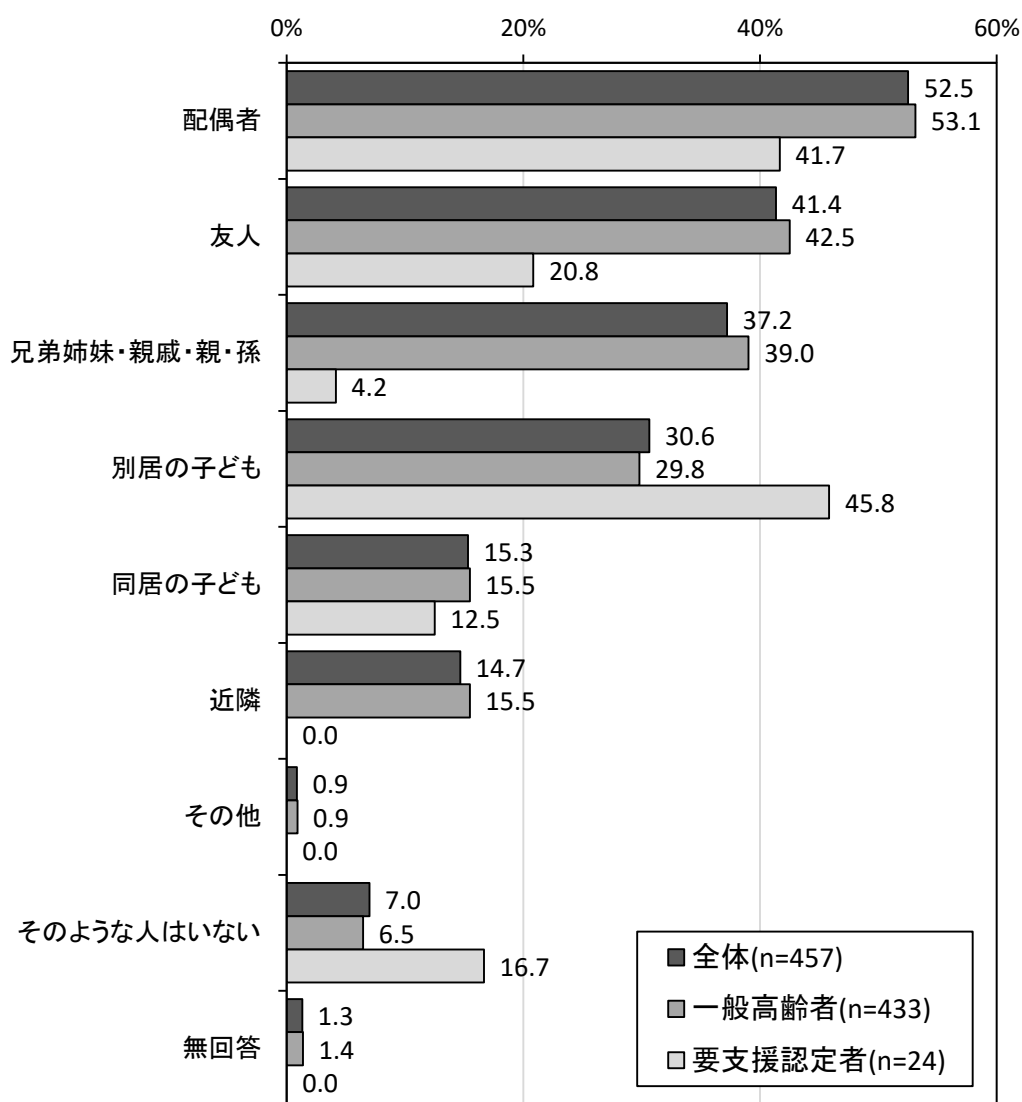
介護認定別でみると、要支援認定者は「別居の子ども」が54.2%で最も多く、次いで「配偶者」が50.0%で続いています。



(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人【複数回答】

全体でみると、「配偶者」が52.5%で最も多く、次いで「友人」(41.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(37.2%)と続いています。

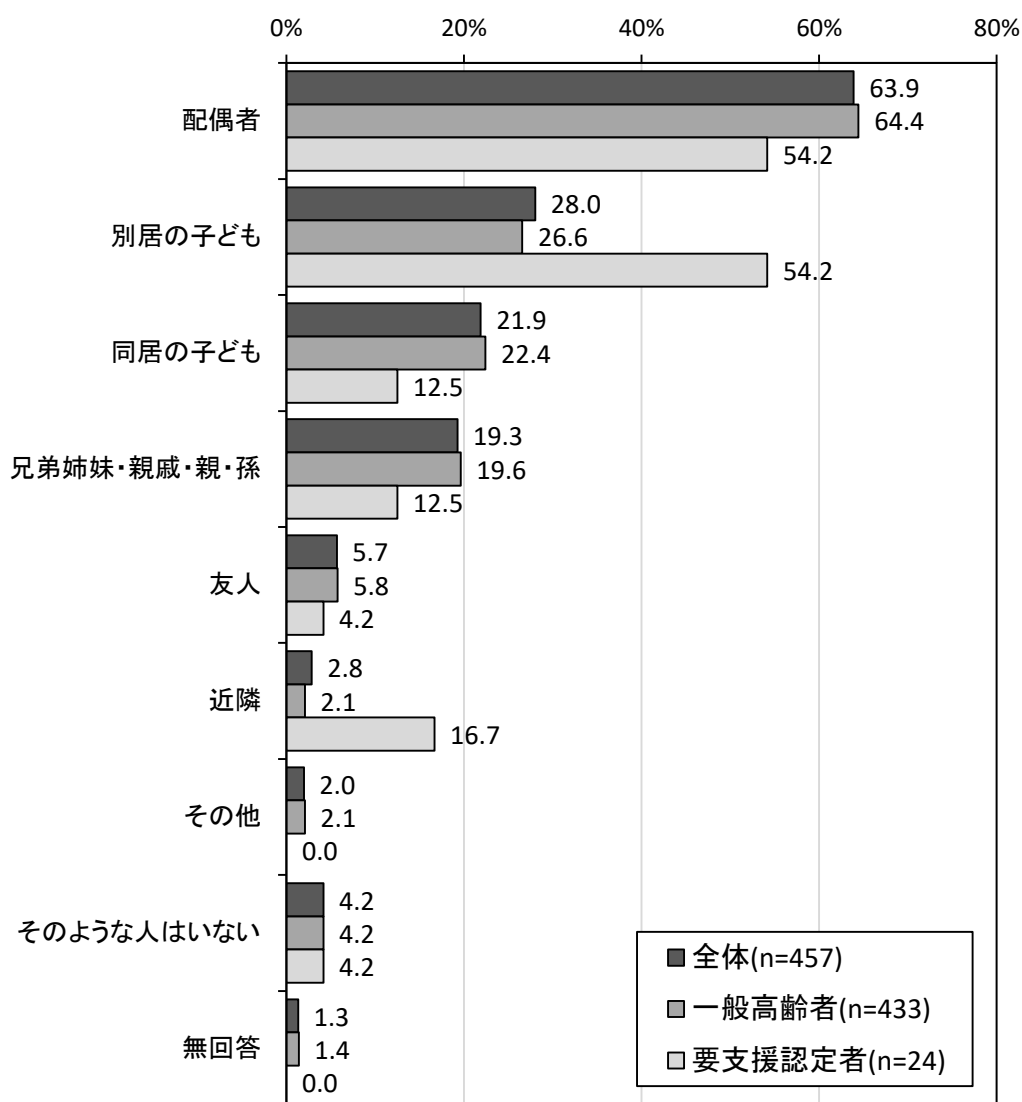
介護認定別でみると、要支援認定者は「別居の子ども」が45.8%で最も多く、次いで「配偶者」が41.7%で続いています。



(3) 病気のときに看病等をしてくれる人【複数回答】

全体でみると、「配偶者」が63.9%で最も多く、次いで「別居の子ども」(28.0%)、「同居の子ども」(21.9%)と続いています。

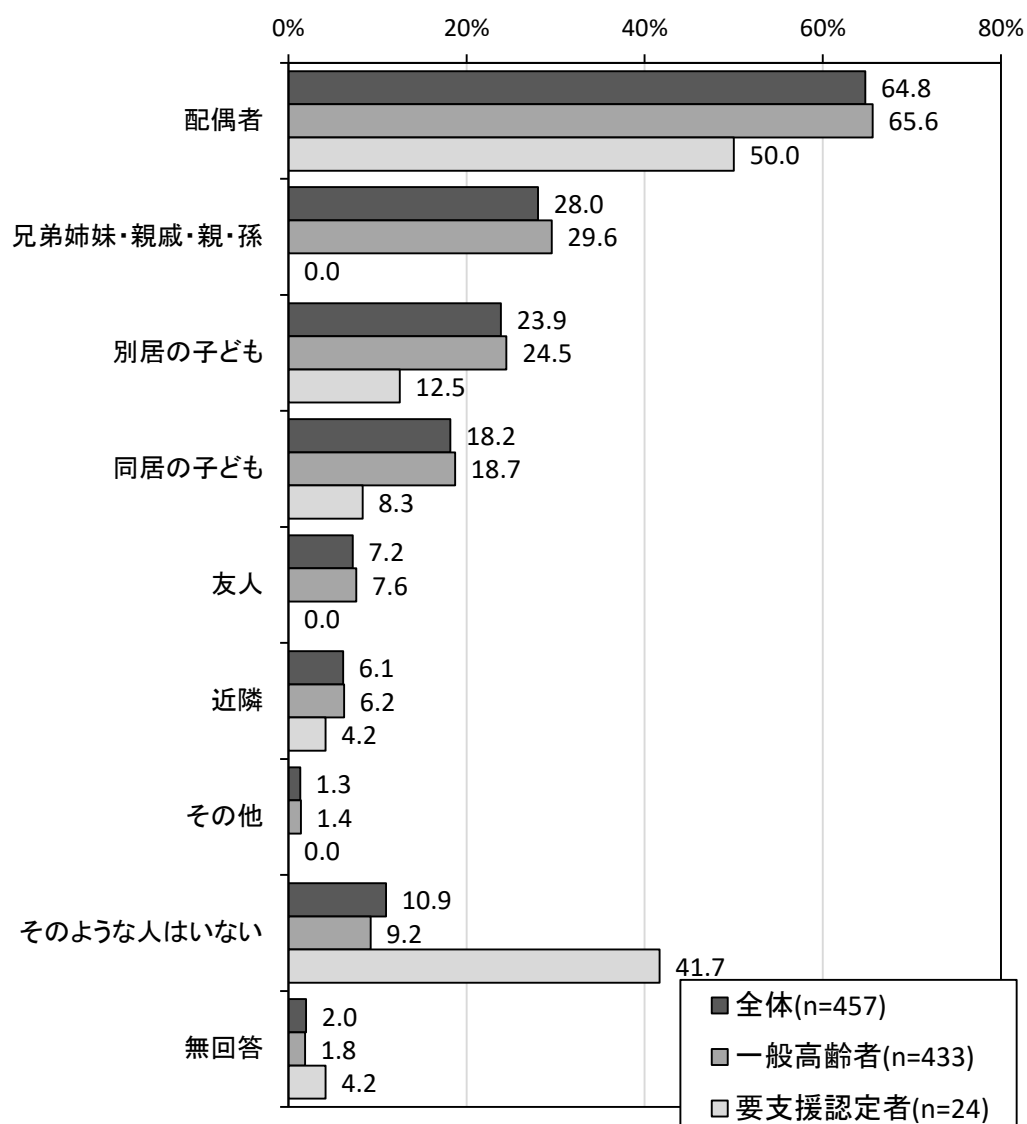
介護認定別でみると、要支援認定者は「配偶者」、「別居の子ども」がともに54.2%で最も多く、次いで「近隣」が16.7%が続いています。



(4) 病気のときに看病等をしてあげる人【複数回答】

全体でみると、「配偶者」が64.8%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(28.0%)、「別居の子ども」(23.9%)と続いています。

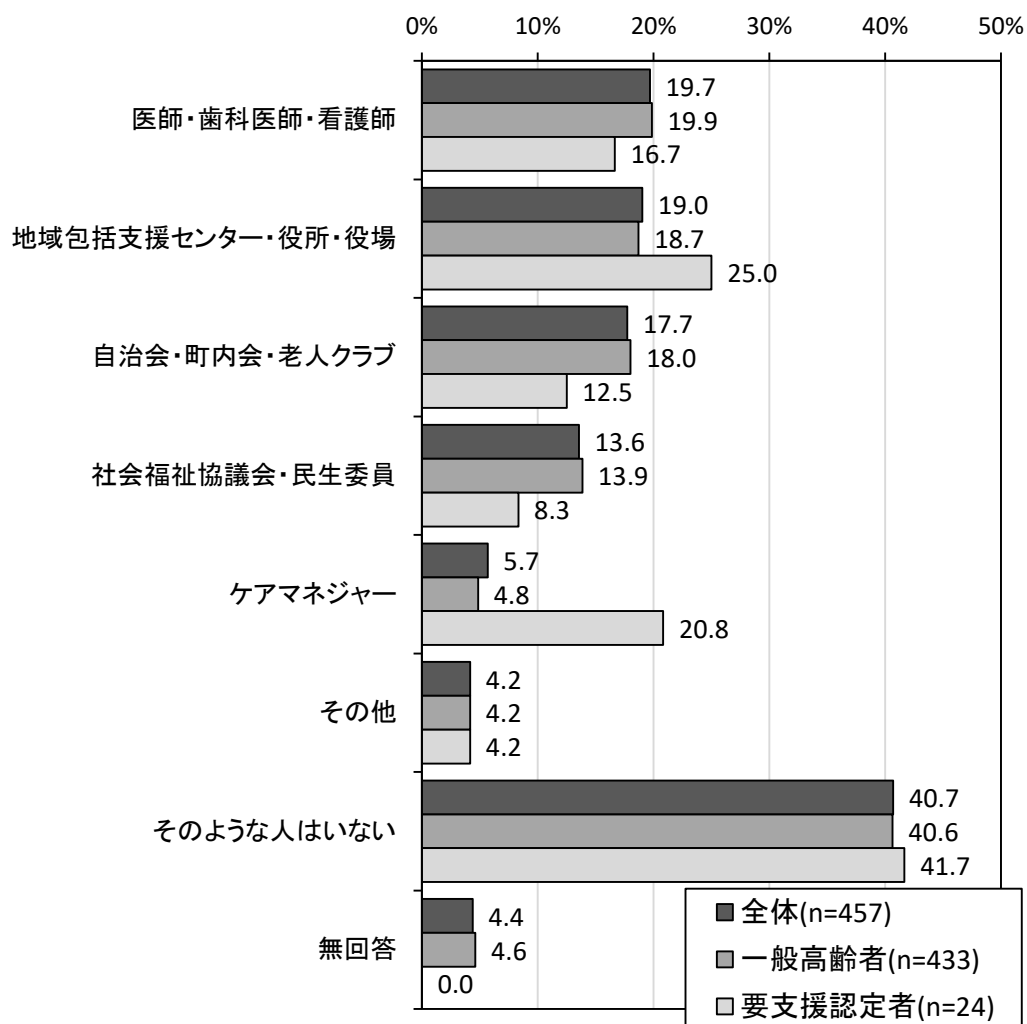
介護認定別でみると、要支援認定者は「そのような人はいない」が41.7%で最も多く、次いで「配偶者」が50.0%で続いています。



(5) 家族や友人・知人以外の相談相手【複数回答】

全体でみると、「そのような人はいない」が 40.7%で最も多いものの、相談相手としては「医師・歯科医師・看護師」が 19.7%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」が 19.0%で続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「地域包括支援センター・役所・役場」(25.0%)、「ケアマネジャー」(20.8%)が上位回答となっています。

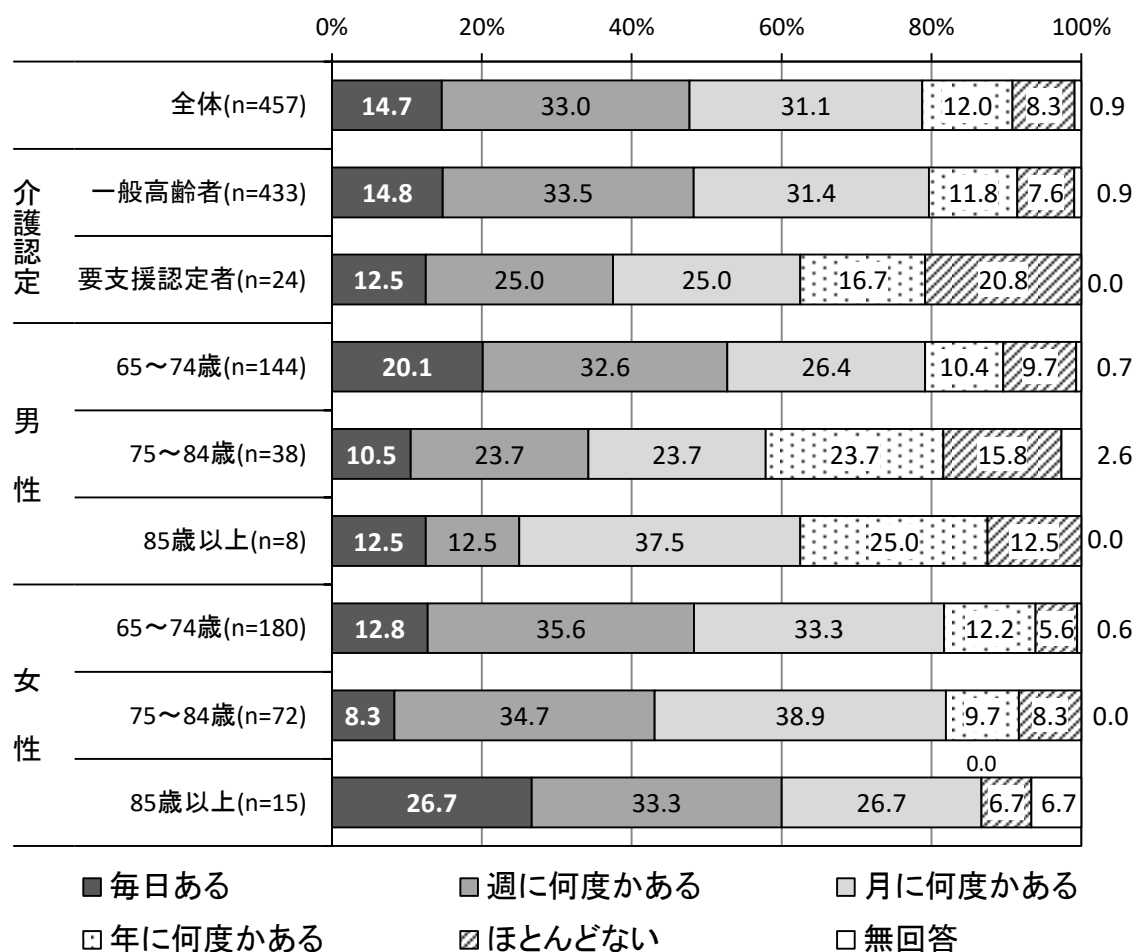


(6) 友人・知人と会う機会

全体でみると、「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人は 78.8% となっている一方、「ほとんどない」は 8.3% となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「ほとんどない」の割合が 20.8% と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男性は 75～84 歳で「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人の割合が少なくなっていますが、女性は年齢が高くなるにつれてその割合が多くなっています。

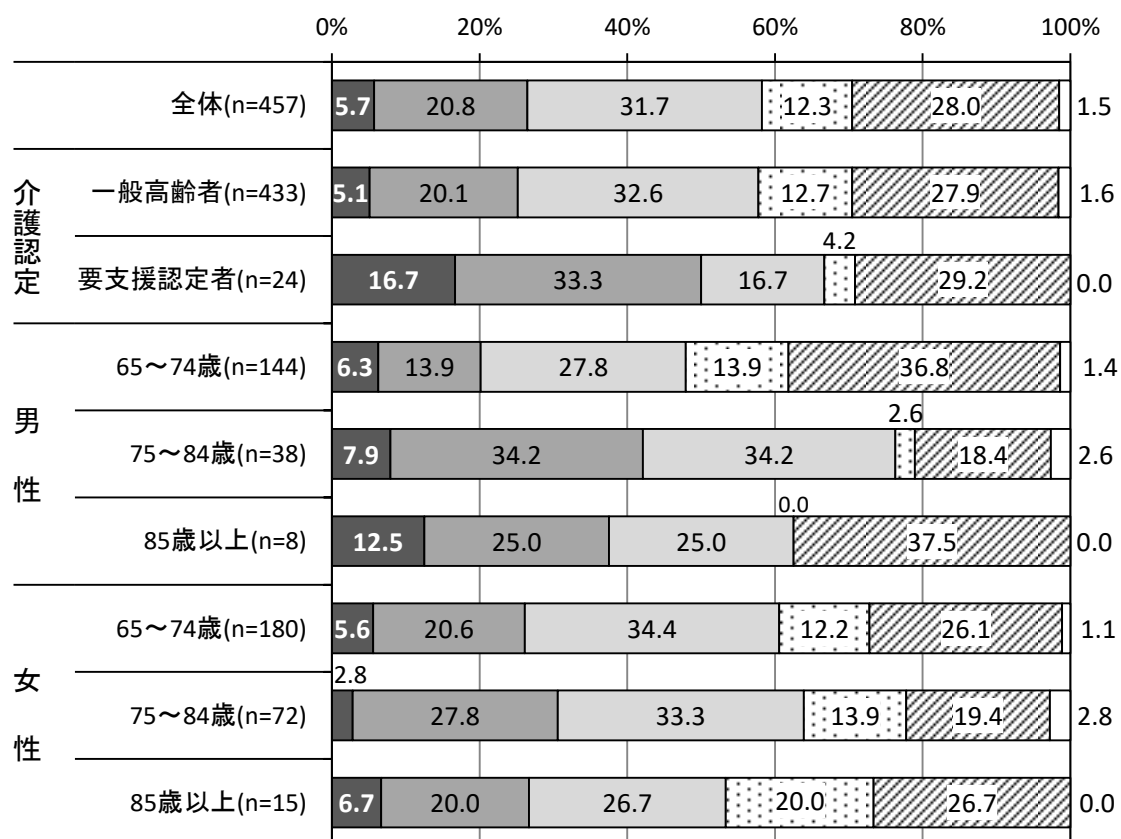


(7) この一か月で会った友人・知人の人数

全体でみると、「3～5人」が31.7%で最も多く、次いで「10人以上」(28.0%)、「1～2人」(20.8%)と続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「0人(いない)」、「1～2人」の割合が一般高齢者よりも多くなっており、この一か月で会った友人・知人の人数は一般高齢者よりも少ない状況です。

男女年齢階級別でみると、男性は年齢が高くなるにつれて「0人(いない)」が多くなっていますが、85歳以上の男性は「10人以上」も多くなっています。

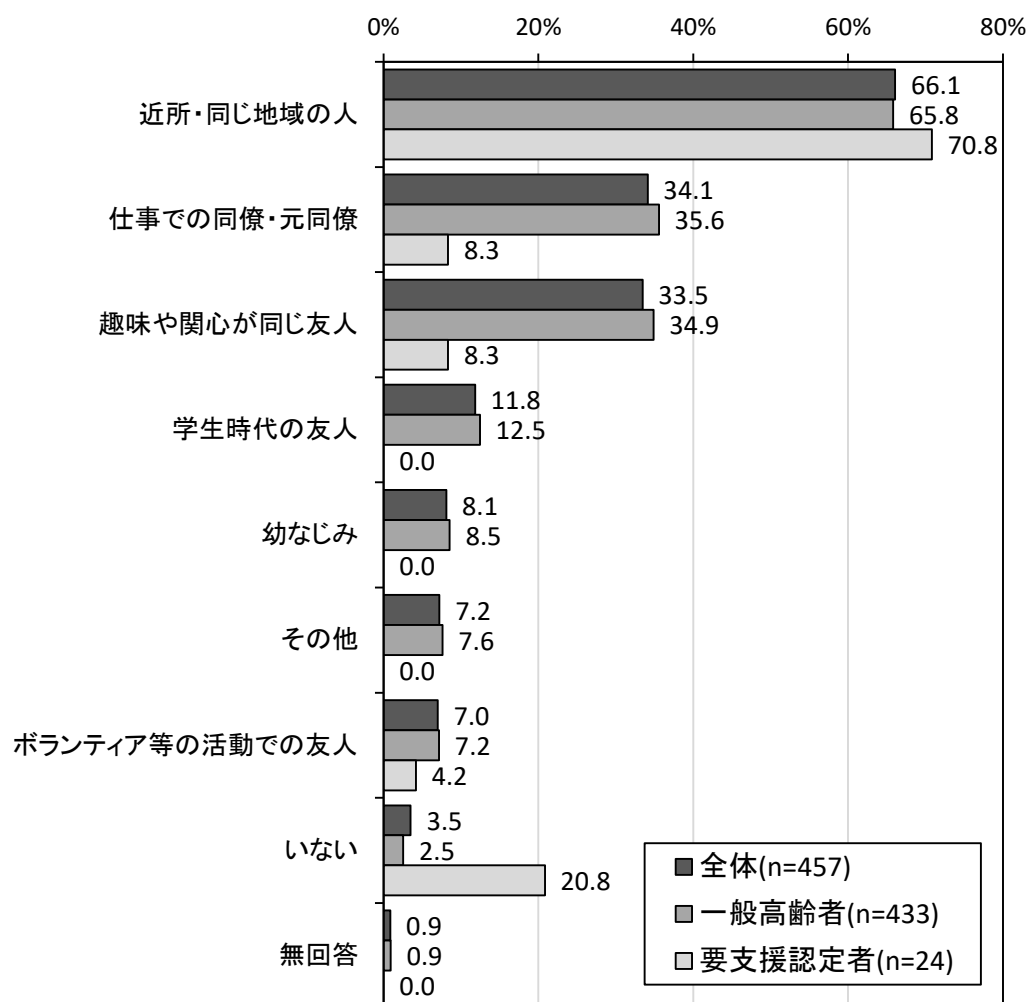


■ 0人(いない) ■ 1～2人 □ 3～5人 □ 6～9人 ▨ 10人以上 □ 無回答

(8) よく会う友人・知人との関係【複数回答】

全体で見ると、「近所・同じ地域の人」が 66.1%を占め、次いで「仕事での同僚・元同僚」(34.1%)、「趣味や関心が同じ友人」(33.5%)が続いています。

介護認定別でも全体と同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「仕事での同僚・元同僚」及び「趣味や関心が同じ友人」の割合が一般高齢者と比べて少なく、「いない」が多くなっています。



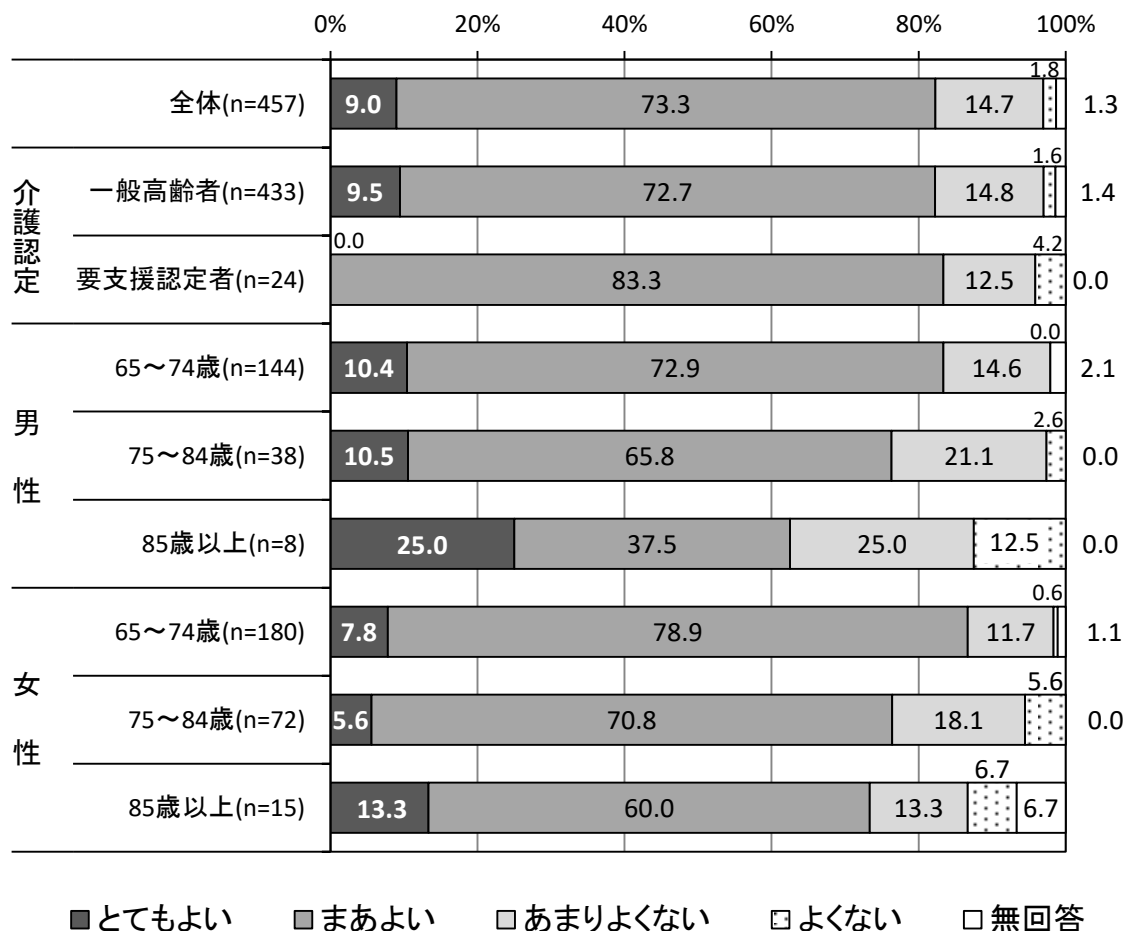
8. 健康について

(1) 現在の健康状態

全体でみると、「とてもよい」(9.0%)、「まあよい」(73.3%)の合計82.3%が健康状態がよいと回答しています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「まあよい」が83.3%と一般高齢者よりも多くなっていますが、「とてもよい」と回答した人はいない状況です。

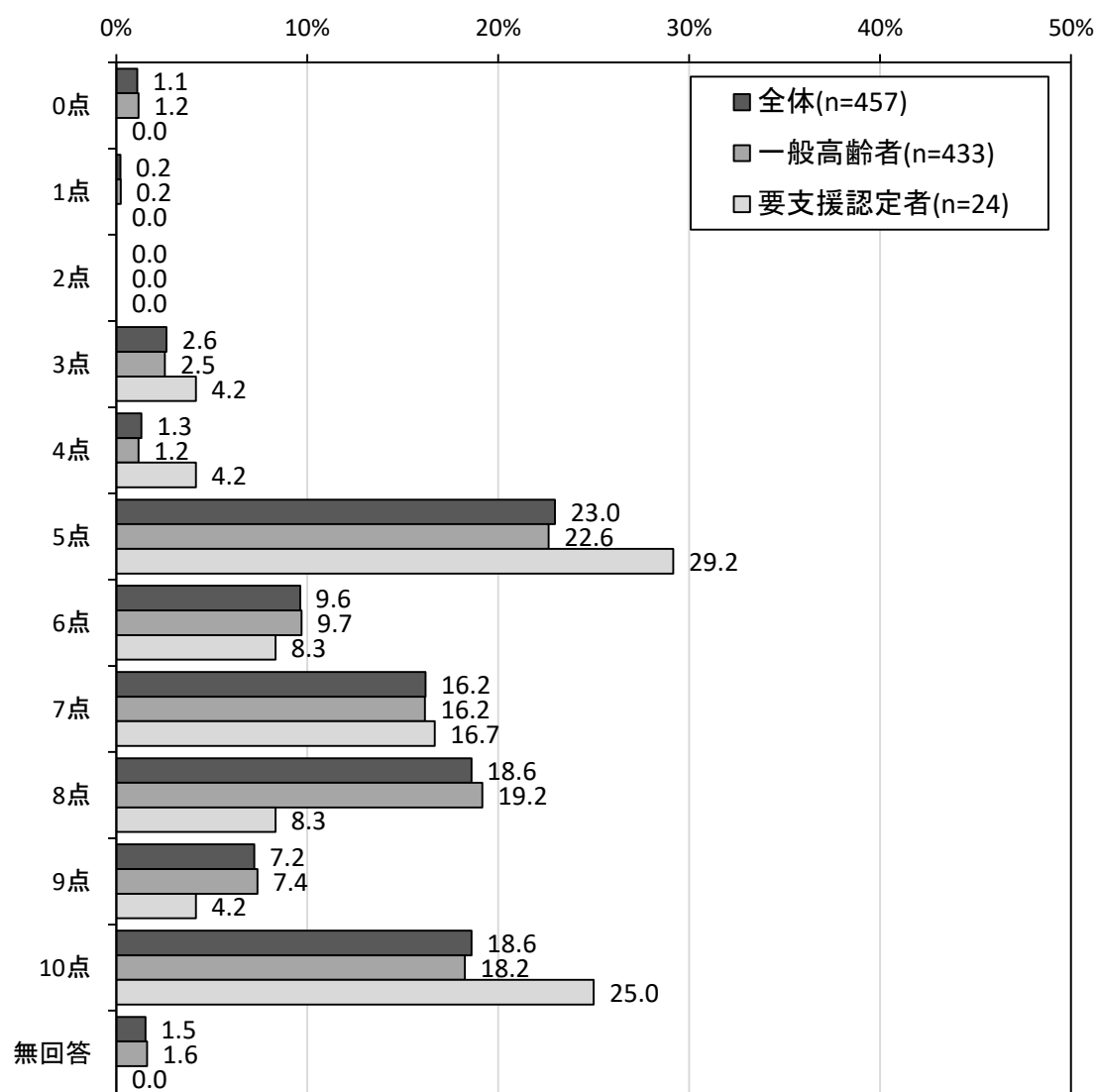
男女年齢階級別でみると、男女ともに「とてもよい」、「まあよい」の合計は年齢とともに少なくなっているものの、85歳以上は「とてもよい」の割合が多くなっています。



(2) 現在の幸福度

全体でみると、現在の幸福度は、「5点」が23.0%で最も多く、次いで「8点」、「10点」（ともに18.6%）が続いており、平均では7.1点となっています。

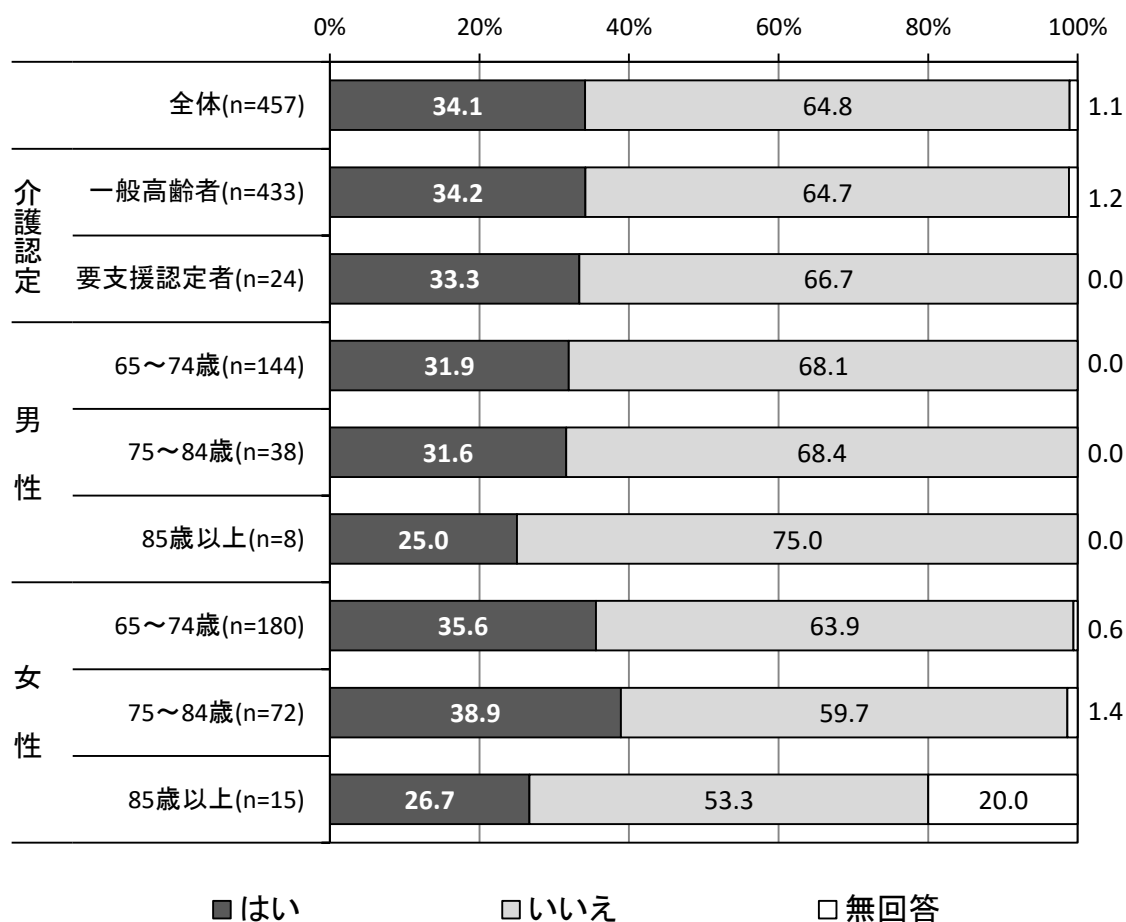
介護認定別でもおおむね同じ傾向となっていますが、平均点は一般高齢者の7.1点に対し、要支援認定者は7.0点とやや低くなっています。



(3) この一か月、気分が沈んだりゆううつな気持ちになったか

全体でみると、この一か月間で気分が沈んだりゆううつな気持ちになった人は34.1%で、介護認定別でみても、一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

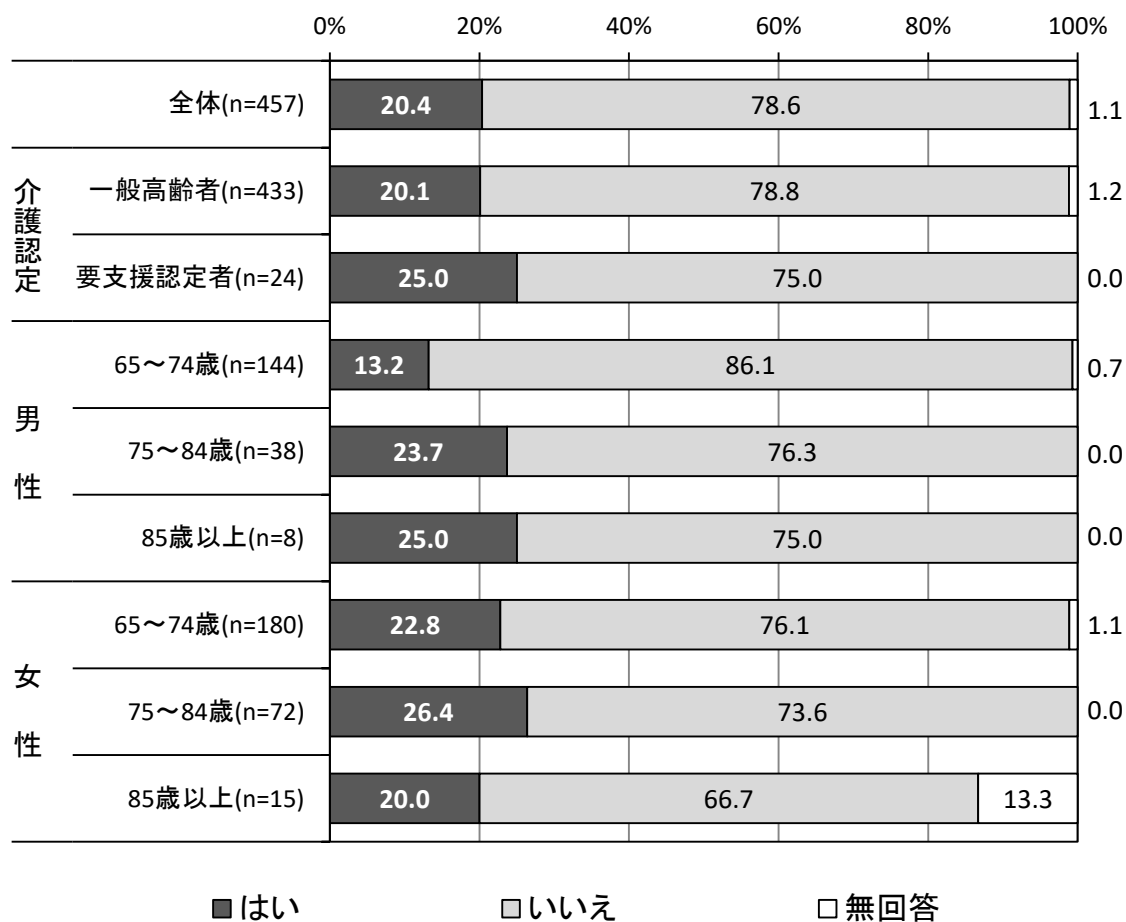
男女年齢階級別でみると、75～84歳の女性はこの一か月間で気分が沈んだりゆううつな気持ちになった人が38.9%と多くなっていますが、男女ともに85歳以上はその割合が少なくなっています。



(4) この一か月、物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがあるか

全体でみると、この一か月間で物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがある人は 20.4%で、要支援認定者はその割合が 25.0%とやや多くなっています。

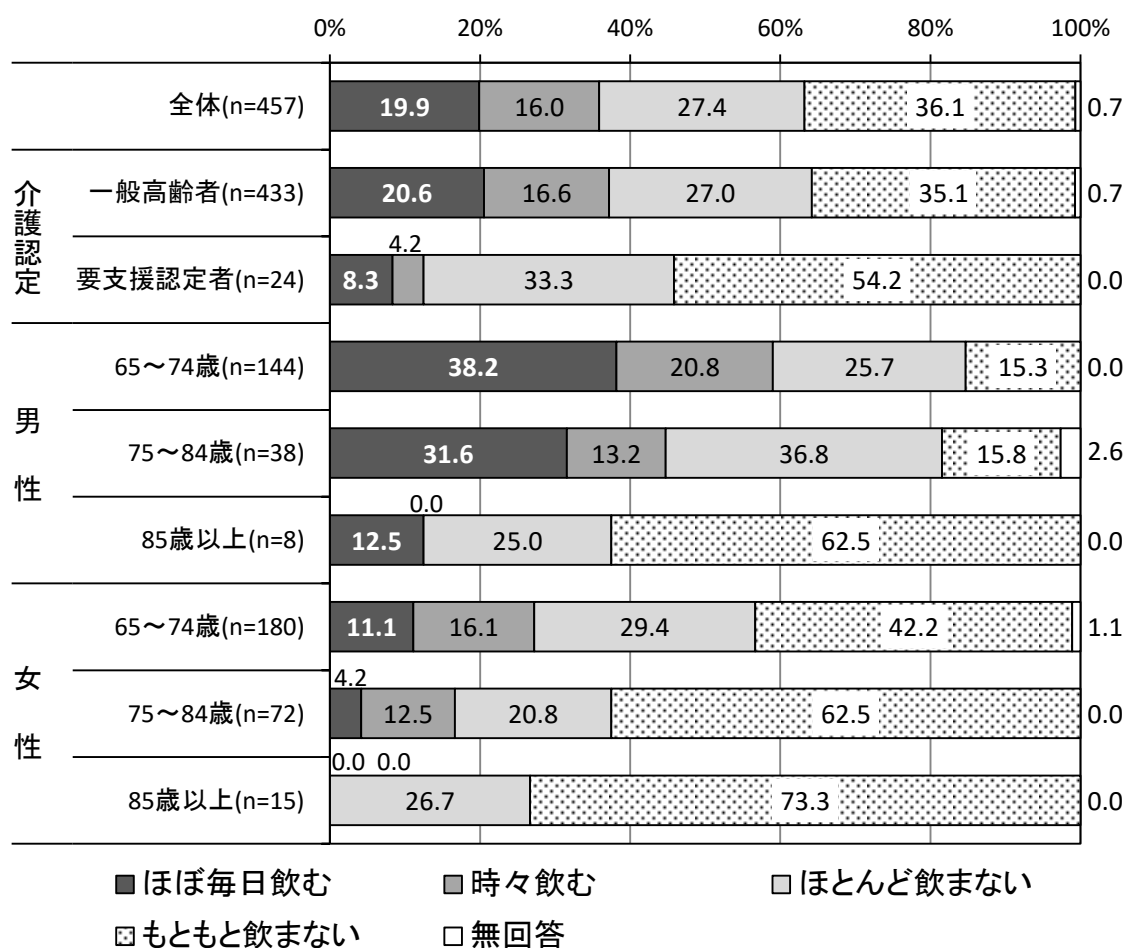
男女年齢階級別でみると、男性は 75 歳以上、女性は 75～84 歳でこの一か月間で物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがある人がやや多くなっています。



(5) 飲酒の頻度

全体でみると、「ほぼ毎日飲む」(19.9%)、「時々飲む」(16.0%)の合計は 35.9%となっており、要支援認定者はその割合が 12.5%と少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、男性は女性よりも「ほぼ毎日飲む」の割合が多くなっていますが、男女ともに年齢が高くなるにつれて「ほぼ毎日飲む」の割合は少なくなっています。

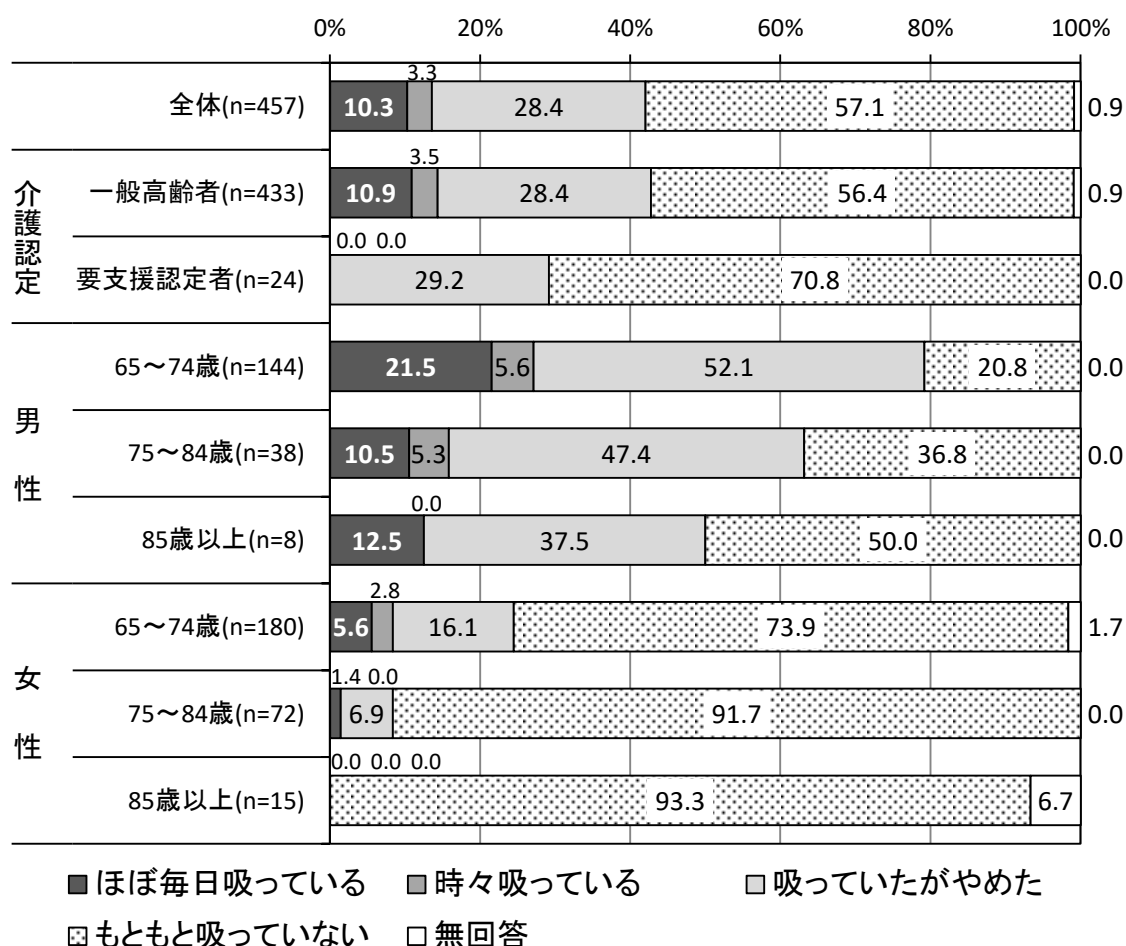


(6) 喫煙の頻度

全体でみると、「ほぼ毎日吸っている」(10.3%)、「時々吸っている」(3.3%)の合計は13.6%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「吸っていたがやめた」が29.2%ですが、喫煙している人はいない状況です。

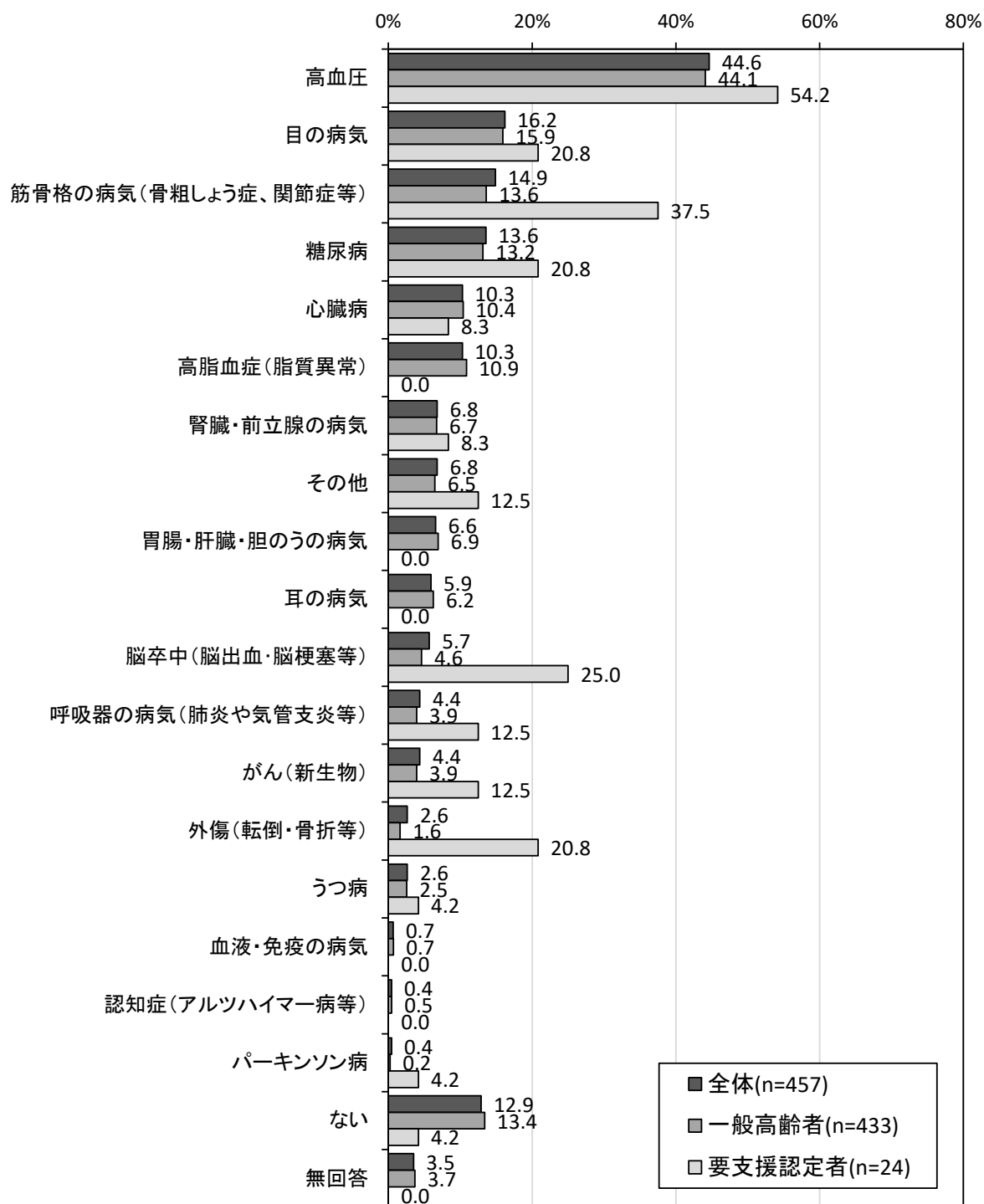
男女年齢階級別でみると、男性は女性よりも喫煙率が高く、男女ともに年齢が高くなるにつれて「ほぼ毎日吸っている」及び「時々吸っている」の合計が少なくなっています。



(7) 治療中・後遺症のある病気【複数回答】

全体でみると、「高血圧」が 44.6%で他を引き離して最も多くなっており、次いで「目の病気」(16.2%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.9%)と続いています。

介護認定別でも「高血圧」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(37.5%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(25.0%)の割合も多くなっています。



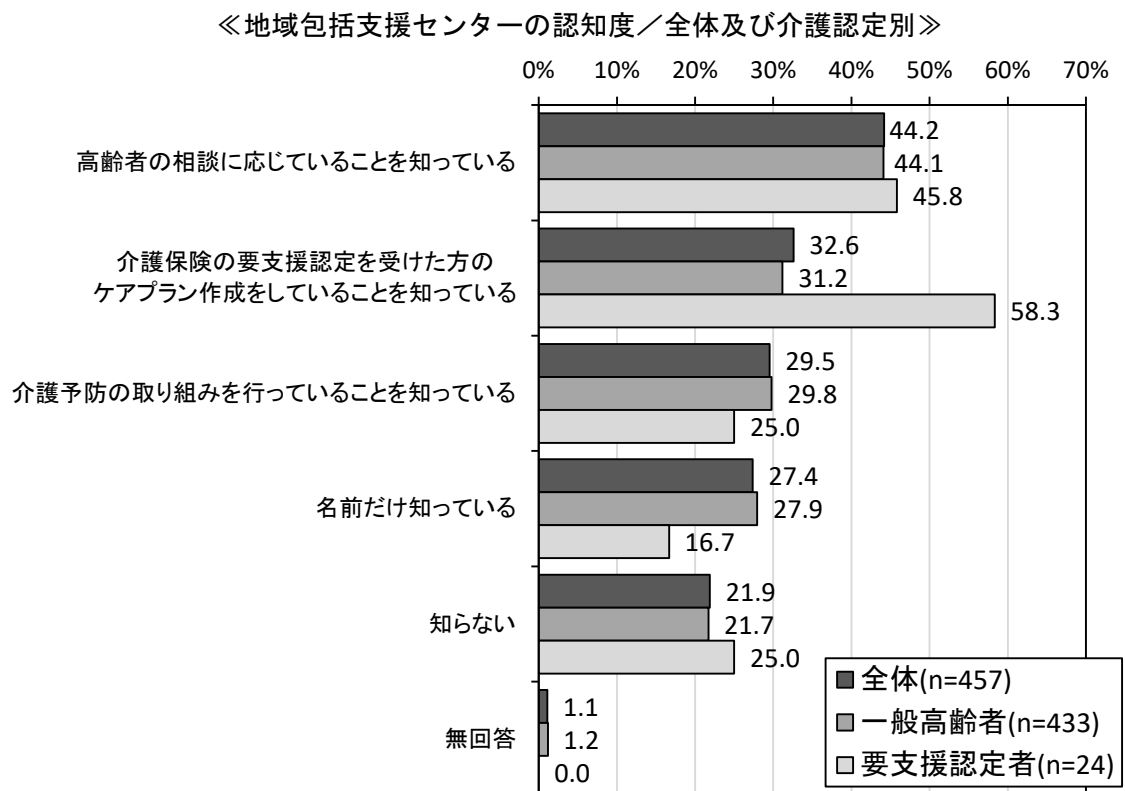
9. 介護予防について

(1) 地域包括支援センターの認知度【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「高齢者の相談に応じていることを知っている」が 44.2%で最も多く、次いで「介護保険の要支援認定を受けた方のケアプラン作成をしていることを知っている」が 32.6%で続いています。

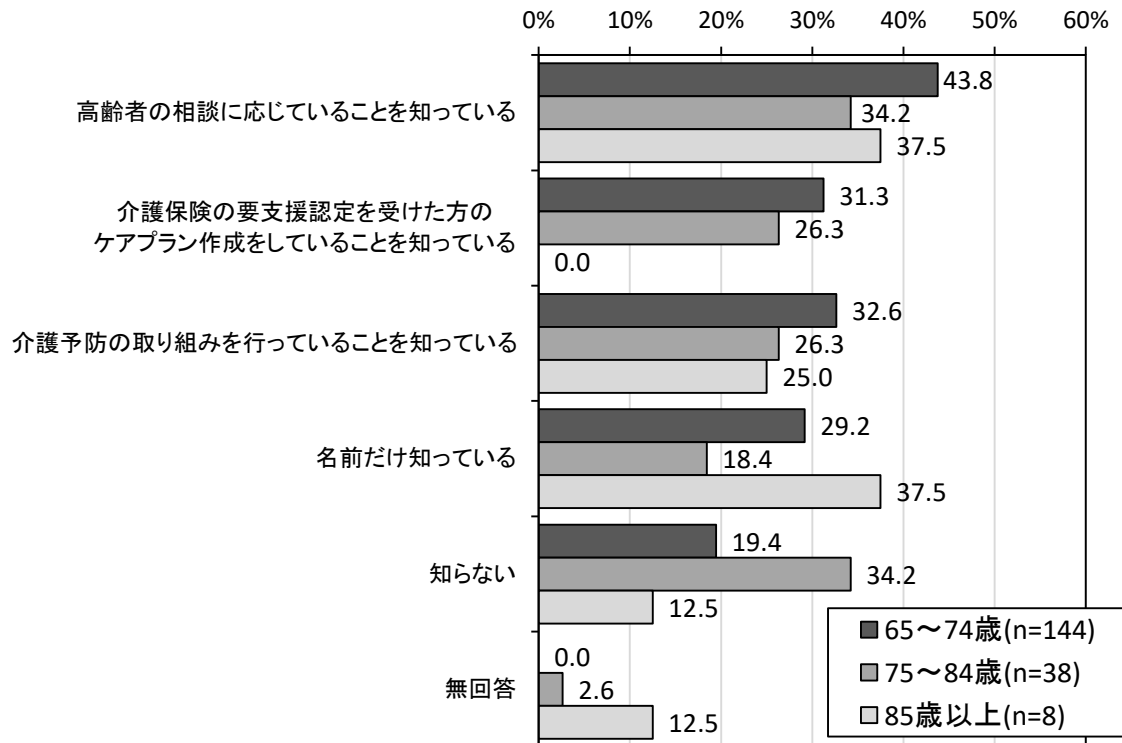
介護認定別でみると、要支援認定者は「介護保険の要支援認定を受けた方のケアプラン作成をしていることを知っている」が 58.3%で半数を超えています。



②男性年齢階級別

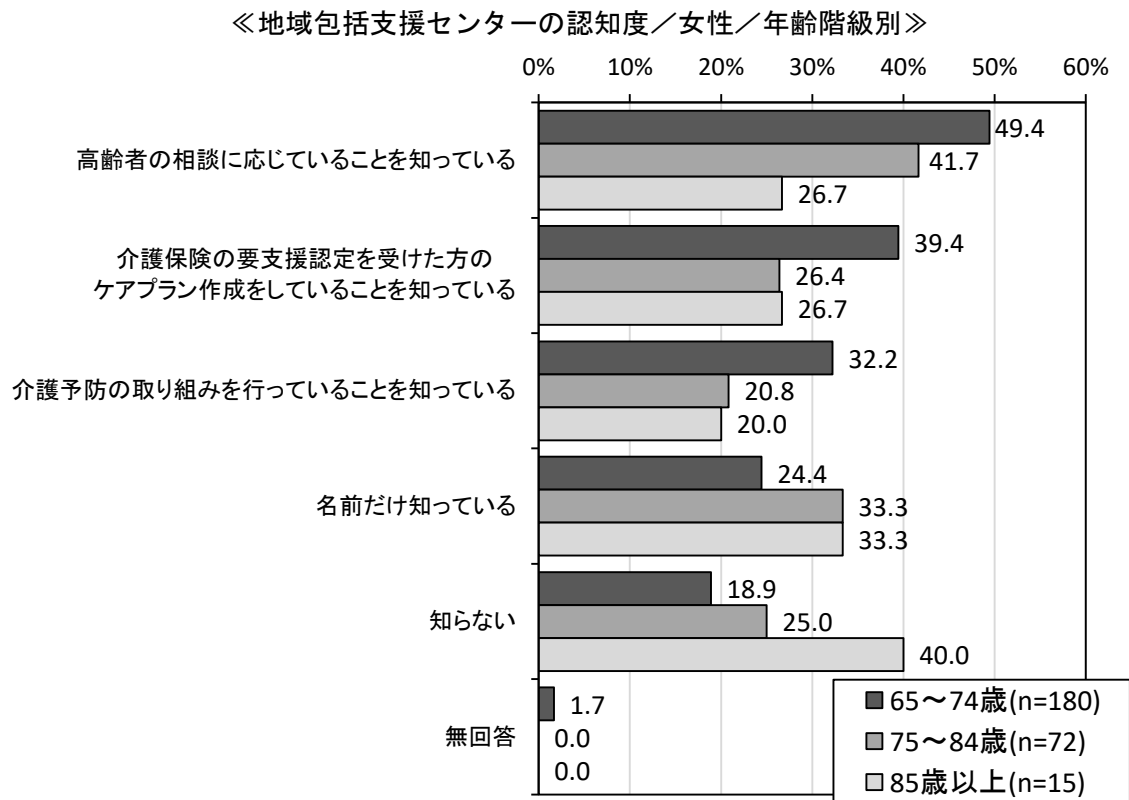
男性の年齢階級別でみると、75～84 歳は「知らない」、85 歳以上は「名前だけ知っている」が他の年齢階級と比べて多くなっています。

《地域包括支援センターの認知度／男性／年齢階級別》



③女性年齢階級別

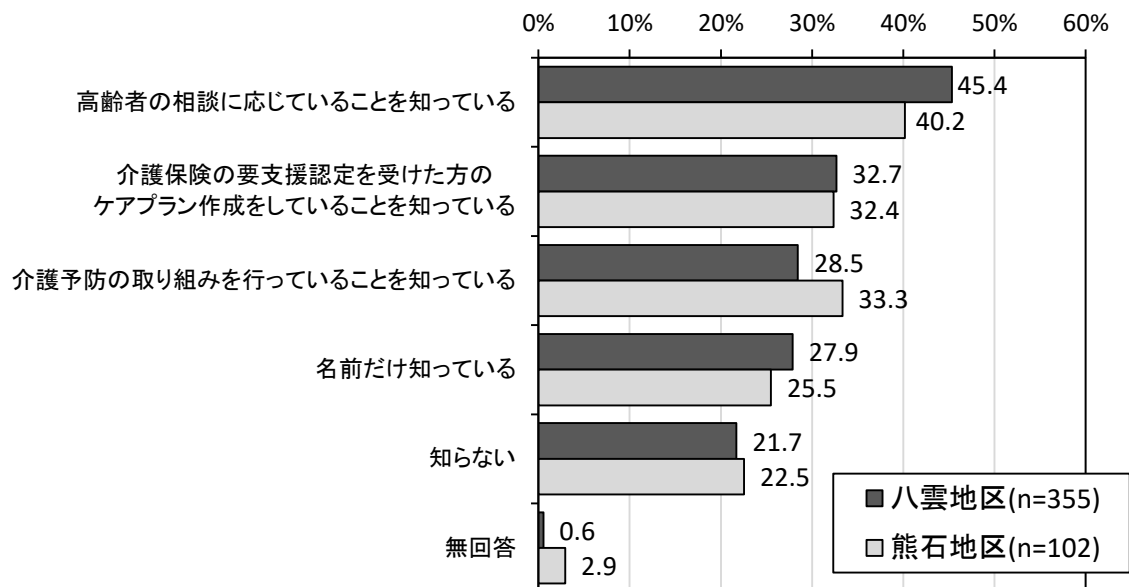
女性の年齢階級別でみると、75 歳以上は「名前だけ知っている」、さらに 85 歳以上は「知らない」が他の年齢階級と比べて多くなっています。



④圏域別

圏域別でみると、八雲地区は「高齢者の相談に応じていることを知っている」が45.4%で熊石地区と比べて多く、熊石地区は「介護予防の取り組みを行っていることを知っている」が33.3%で八雲地区よりも多くなっています。

《地域包括支援センターの認知度／圏域別》



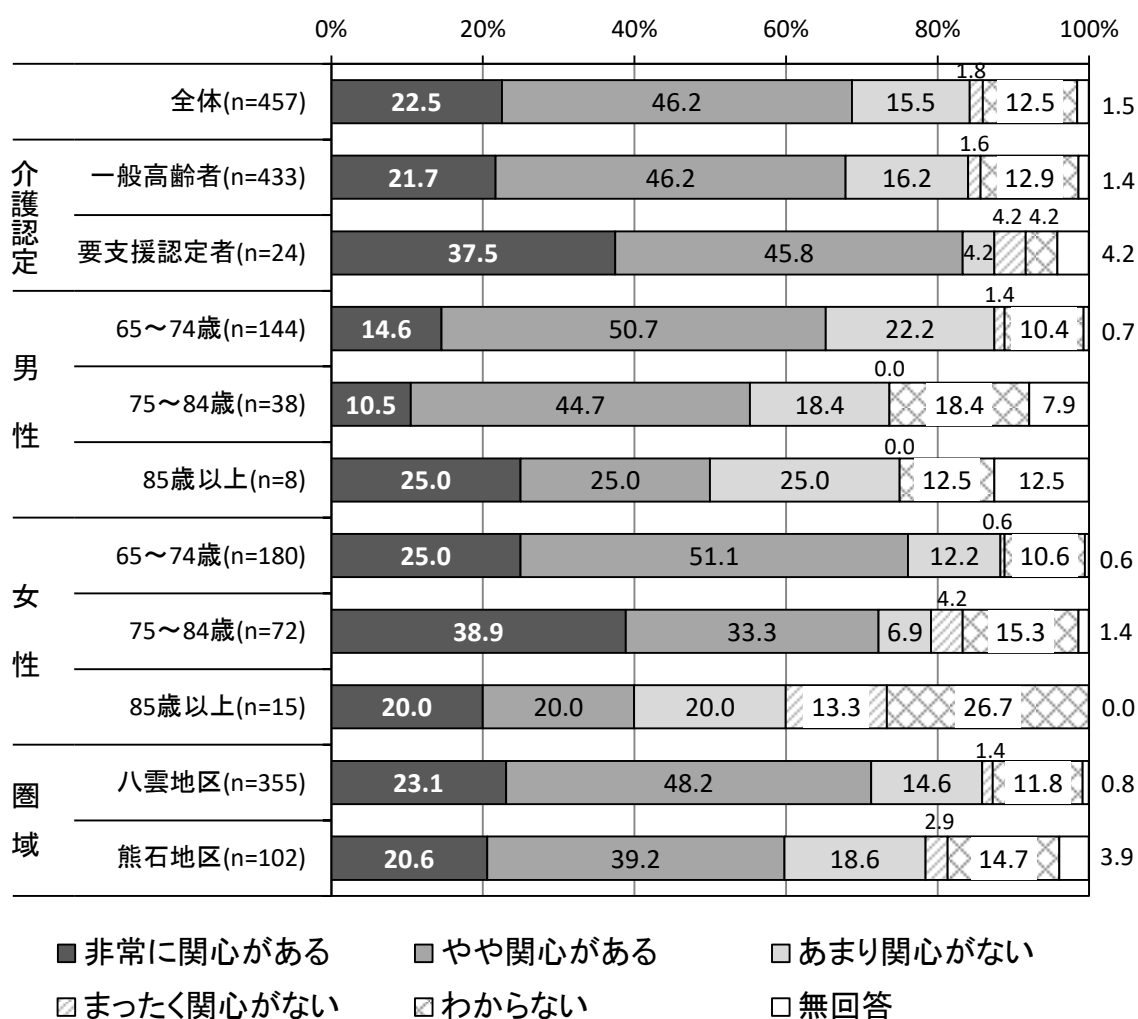
(2) 介護予防への関心度

全体でみると、「非常に関心がある」(22.5%)及び「やや関心がある」(46.2%)の合計68.7%が介護予防に関心がある状況です。

介護認定別でみると、要支援認定者は「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計が83.3%と一般高齢者よりも多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計は少なくなっていますが、75～84歳の女性は「非常に関心がある」の割合が38.9%と多くなっています。

圏域別でみると、八雲地区は「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計が71.3%と熊石地区よりも多くなっています。



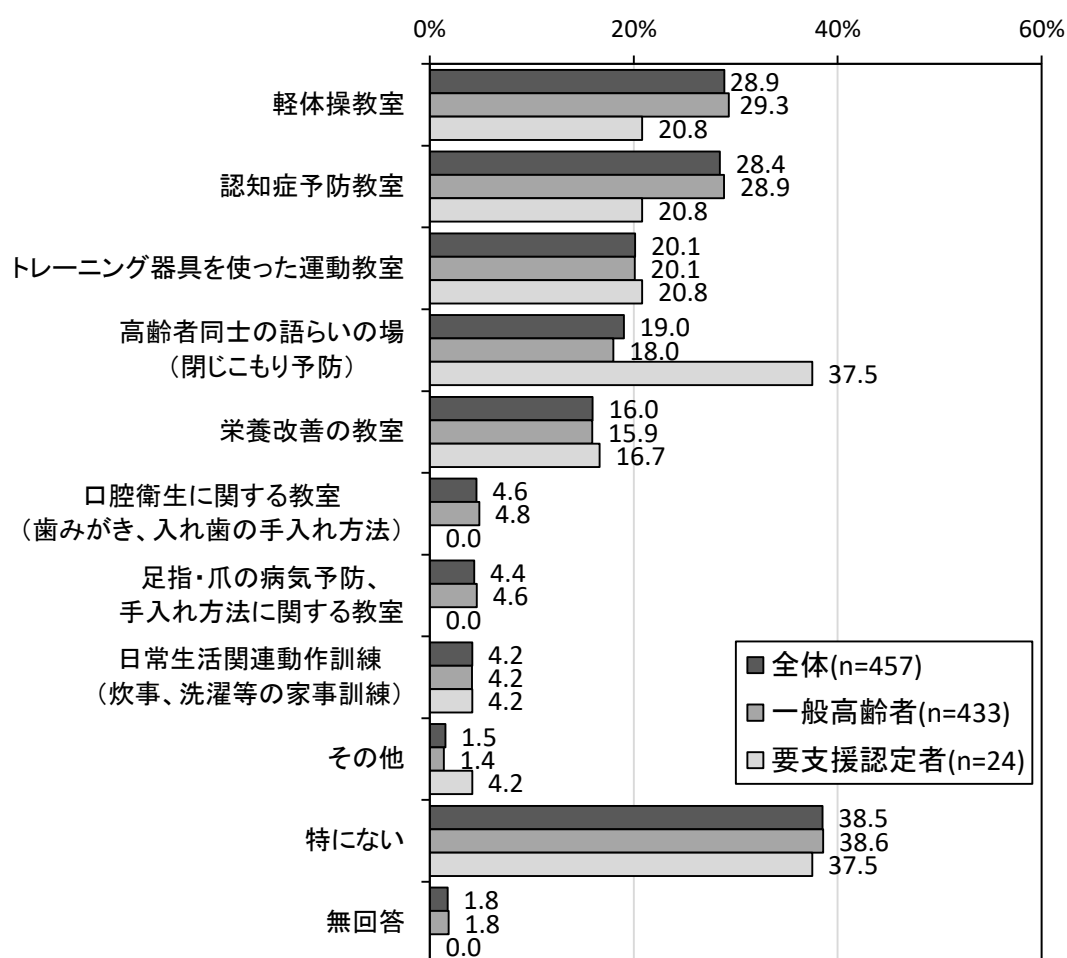
(3) 介護予防で参加したい講座【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「特にない」が38.5%で最も多いものの、参加したい講座の中では、「軽体操教室」(28.9%)、「認知症予防教室」(28.4%)、「トレーニング器具を使った運動教室」(20.1%)が上位回答となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「高齢者同士の語らいの場（閉じこもり予防）」が37.5%で一般高齢者よりも多くなっています。

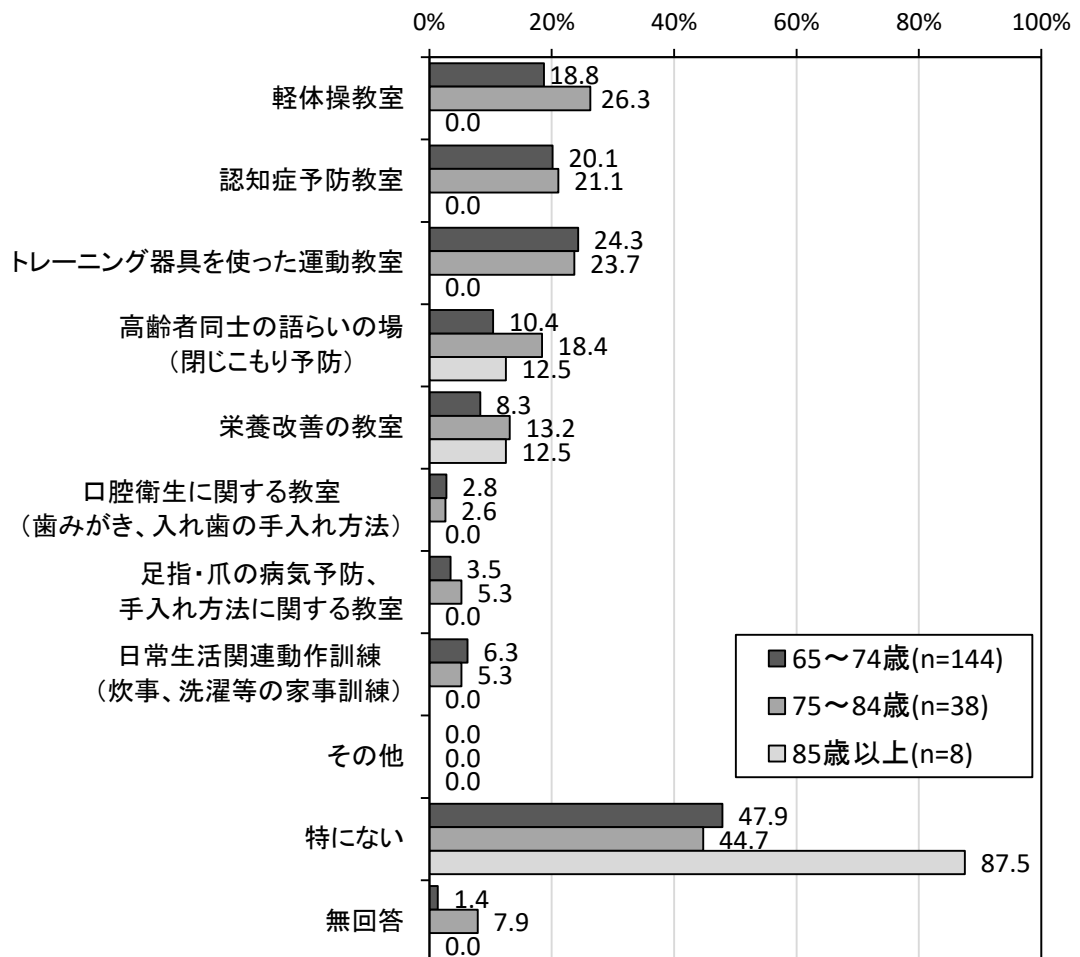
《介護予防で参加したい講座／全体及び介護認定別》



②男性年齢階級別

男性の年齢階級別でも「特にない」が最も多くなっていますが、参加したい講座の中では、65～74歳は「トレーニング器具を使った運動教室」(24.3%)、75歳～84歳は「軽体操教室」(26.3%)、85歳以上は「高齢者同士の語らいの場（閉じこもり予防）」、「栄養改善の教室」（ともに12.5%）がそれぞれ最も多くなっています。

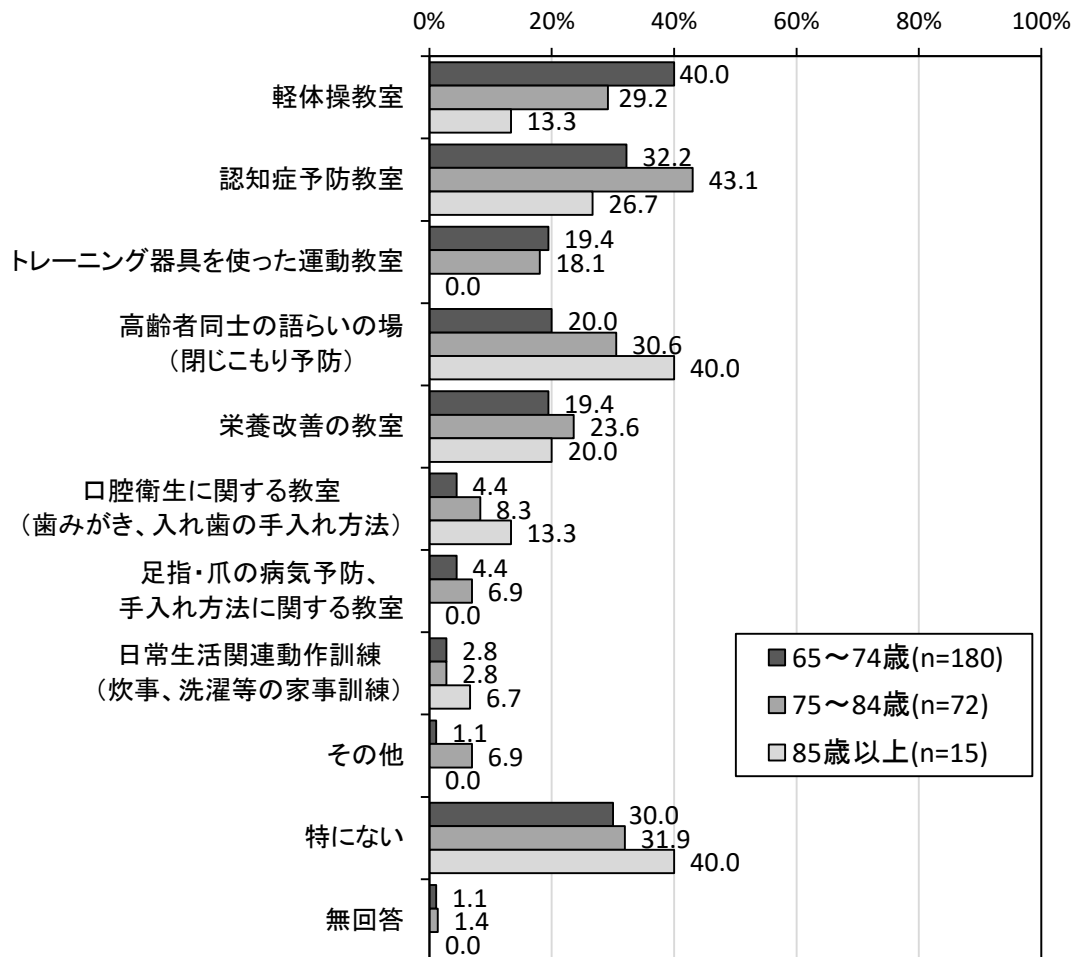
《介護予防で参加したい講座／男性／年齢階級別》



③女性年齢階級別

女性の年齢階級別でみると、65～74 歳は「軽体操教室」(40.0%)、75 歳～84 歳は「認知症予防教室」(43.1%)、85 歳以上は「高齢者同士の語らいの場(閉じこもり予防)」(40.0%) がそれぞれ最も多くなっています。

《介護予防で参加したい講座／女性／年齢階級別》

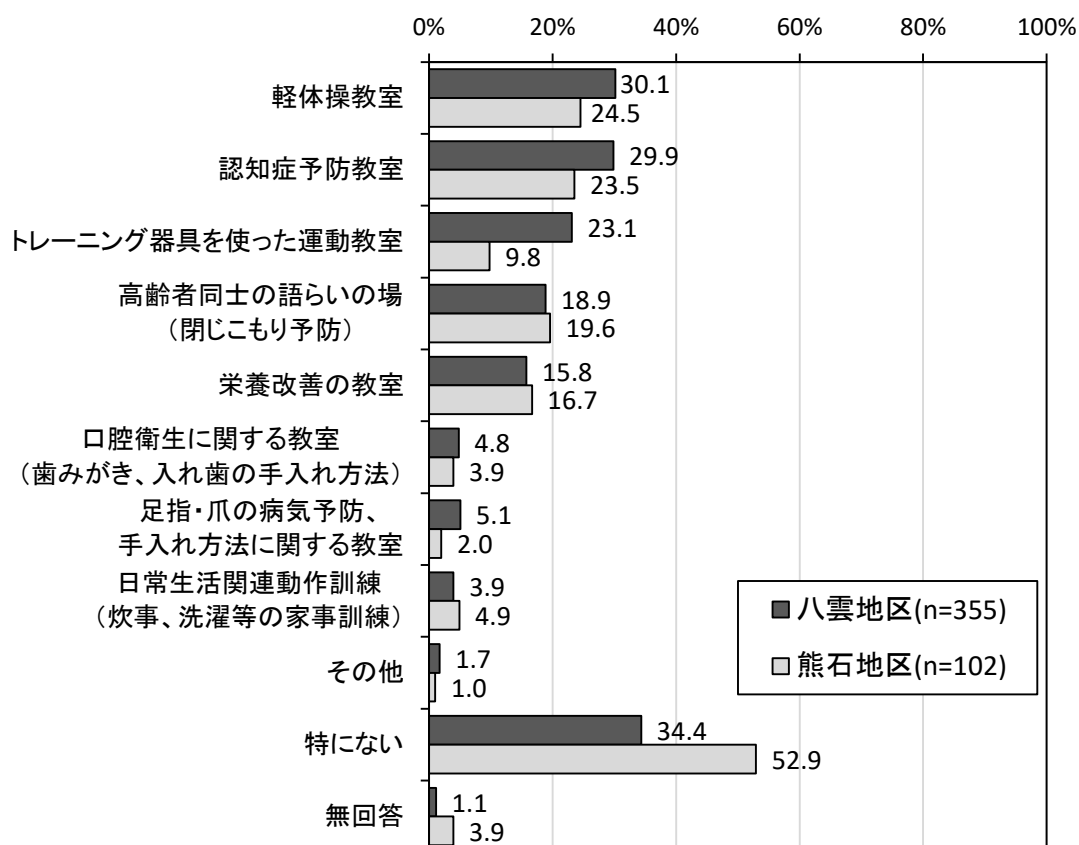


④圏域別

圏域でみても「特にない」が最も多くなっていますが、参加したい講座の中では、いずれの地区も「軽体操教室」、「認知症予防」が上位回答となっています。

また、熊石地区は「トレーニング器具を使った運動教室」（9.8%）が八雲地区と比べて少なくなっています。

《介護予防で参加したい講座／圏域別》



10. 介護保険制度及び保健福祉施策について

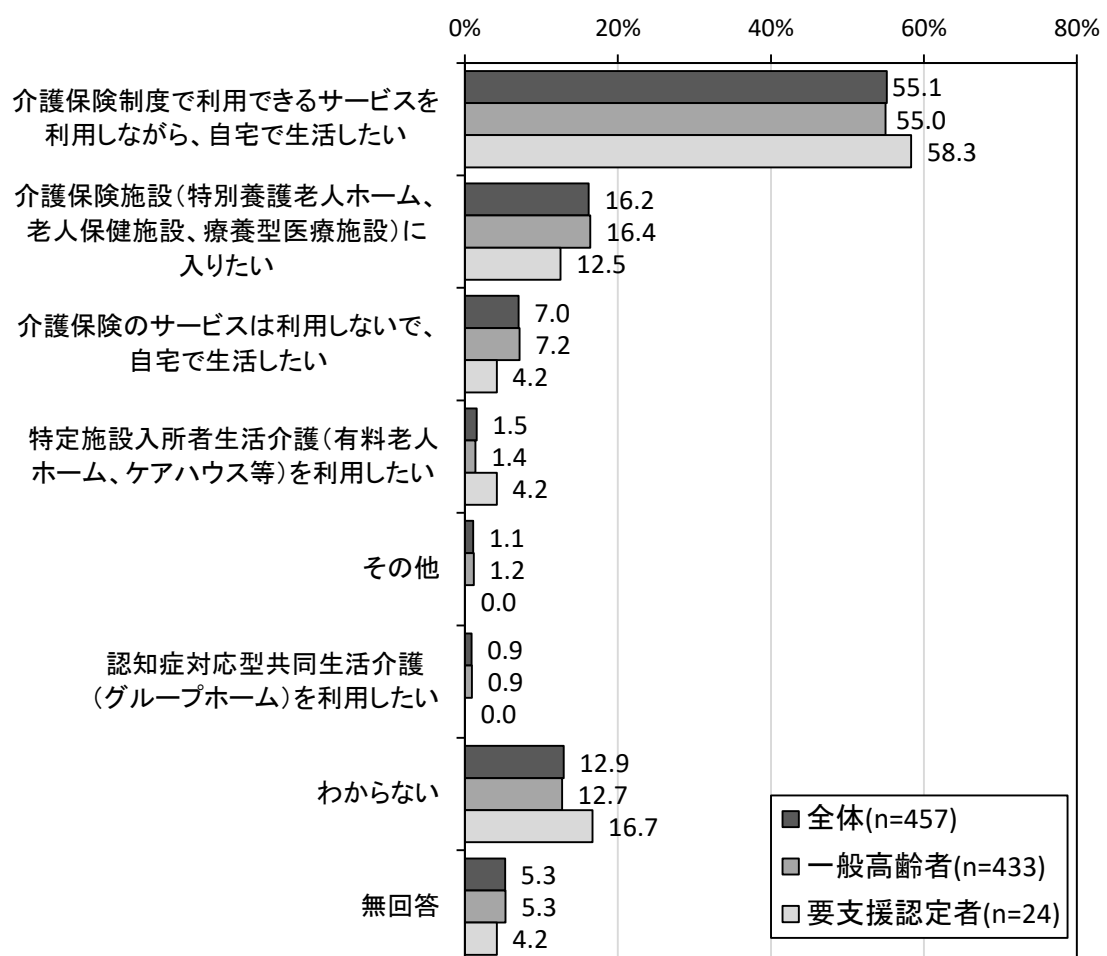
(1) 介護が必要な状態になった場合に望む介護

①全体及び介護認定別

全体でみると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が55.1%で最も多く、次に「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」が16.2%が続いています。

介護認定別でみても、全体と同様の傾向となっており、一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

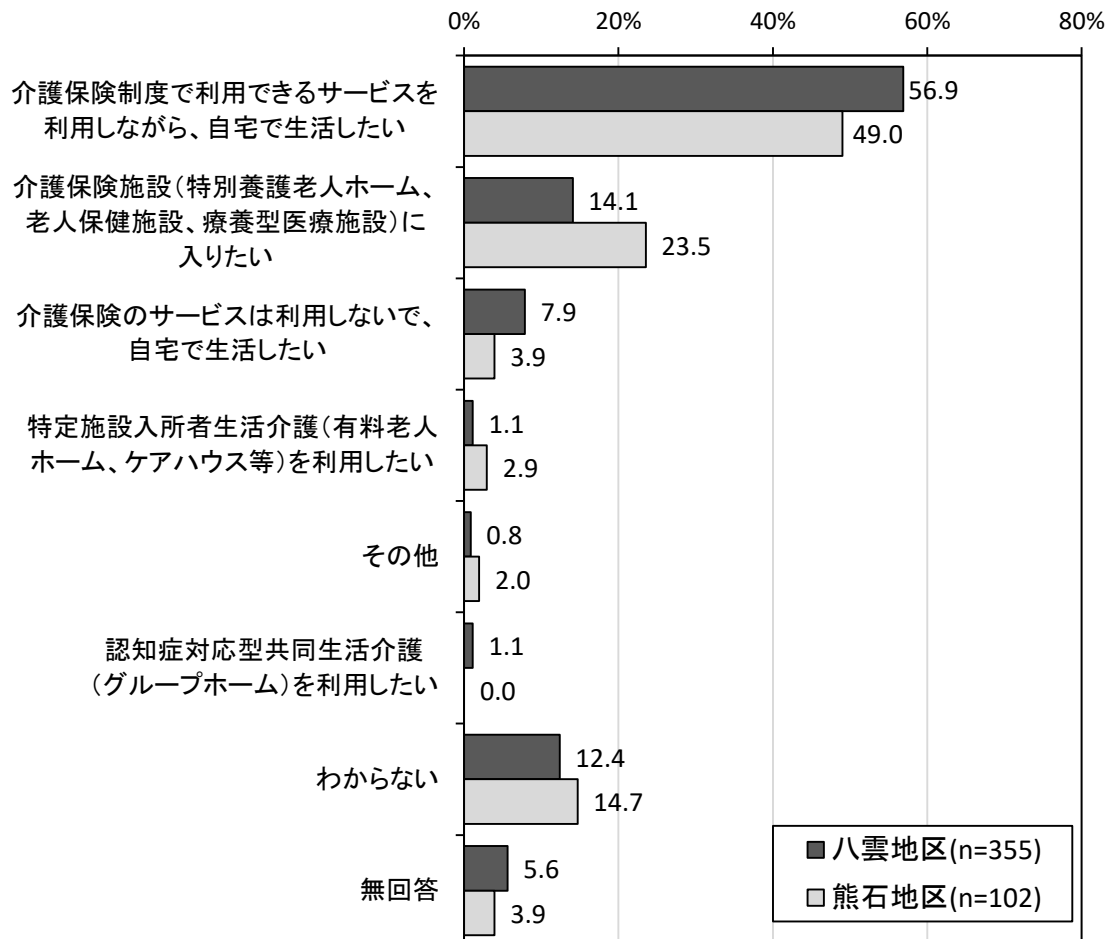
《介護が必要な状態になった場合に望む介護／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でも、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多くなっていますが、熊石地区は「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」（23.5%）が八雲地区と比べて多くなっています。

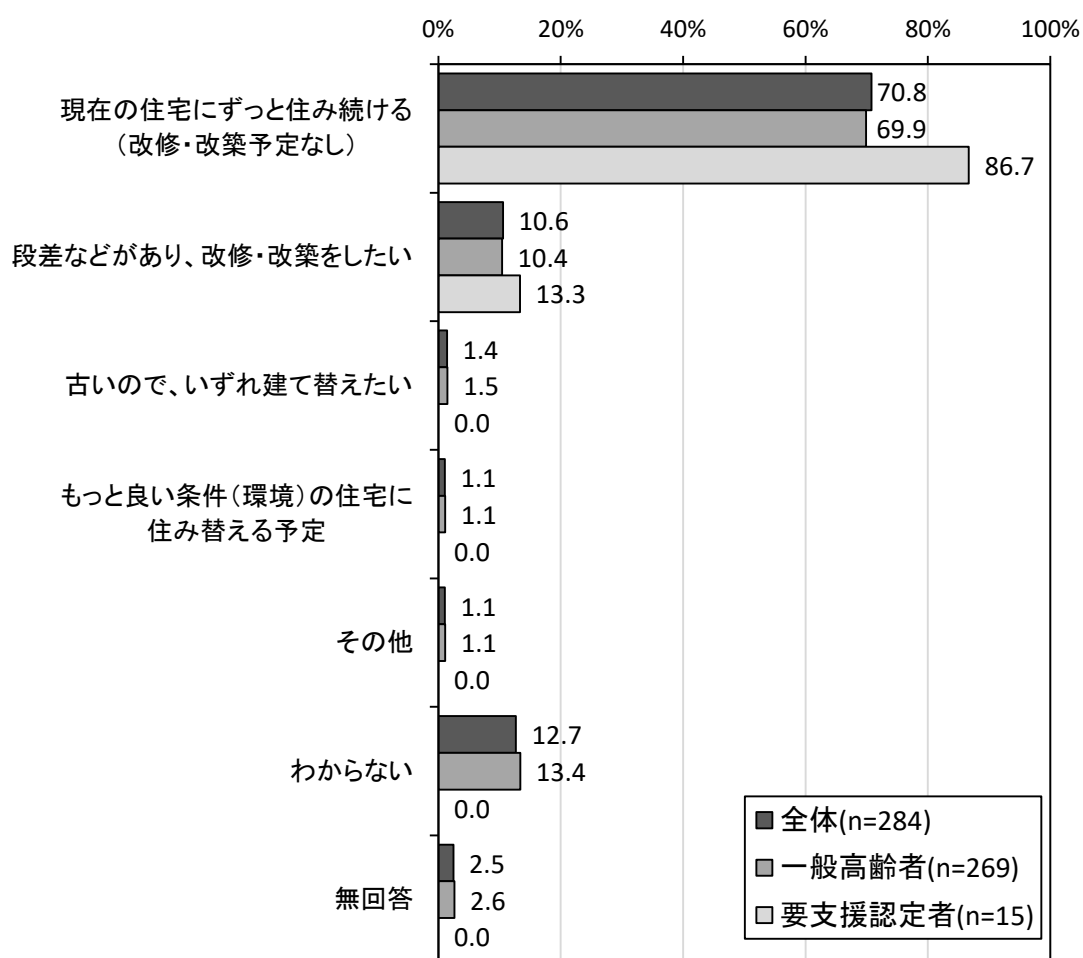
《介護が必要な状態になった場合に望む介護／圏域別》



(2) 在宅介護を希望する人の住まいの予定

介護が必要になったときに自宅での生活を希望している人の住まいの予定は、「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が70.8%を占めています。

介護認定別でも全体と同様の傾向となっていますが、要支援認定者は一般高齢者と比べて「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が86.7%と多くなっています。



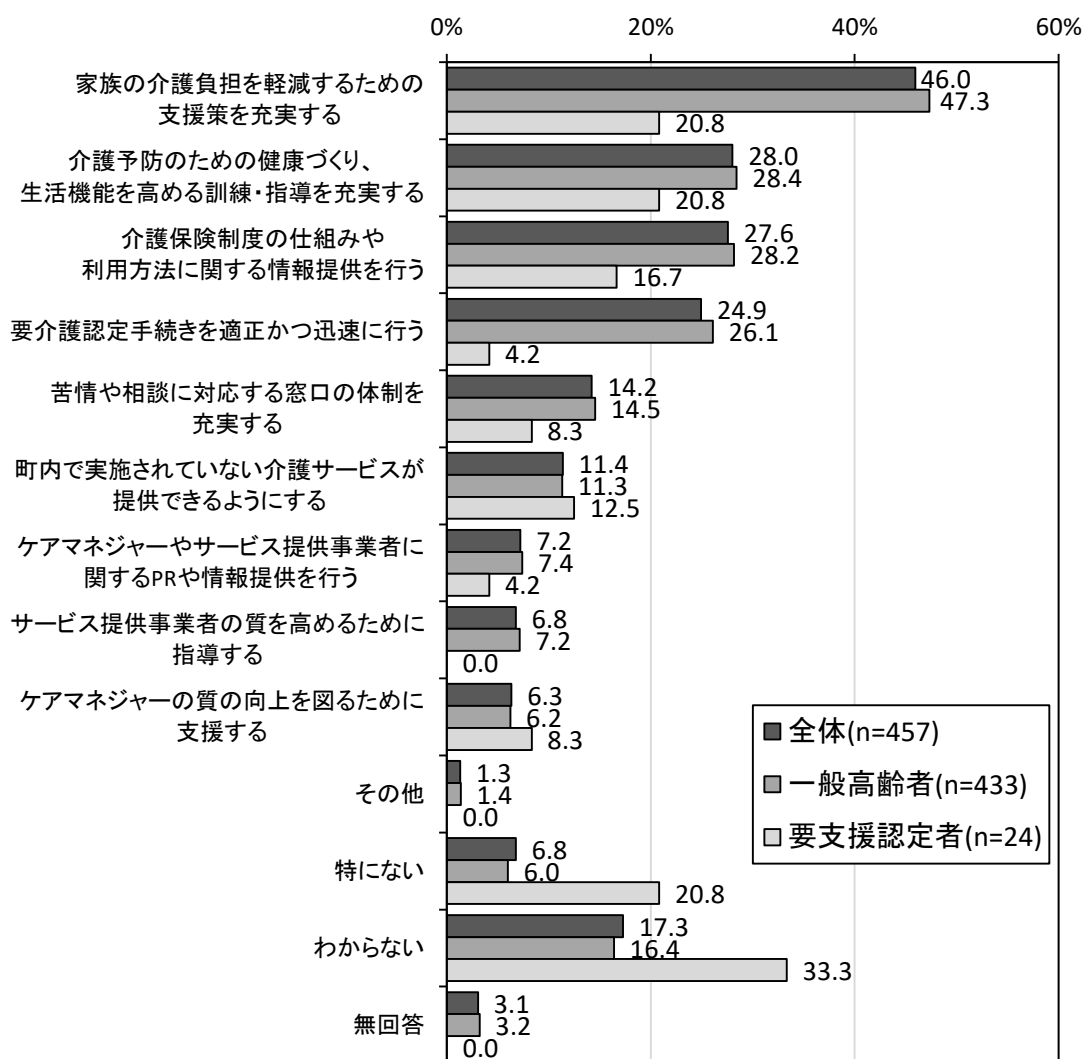
(3) 介護保険制度として特に力を入れるべきこと【複数回答】

①全体及び介護認定別

介護保険制度として特に力を入れるべきことは、「家族の介護負担を軽減するための支援策を充実する」が46.0%で最も多く、次いで「介護予防のための健康づくり、生活機能を高める訓練・指導を充実する」(28.0%)、「介護保険制度の仕組みや利用方法に関する情報提供を行う」(27.6%)で続いています。

介護認定別でも全体と同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「特にない」、「わからない」が多く、それら以外の選択肢の割合が全体的に少なくなっています。

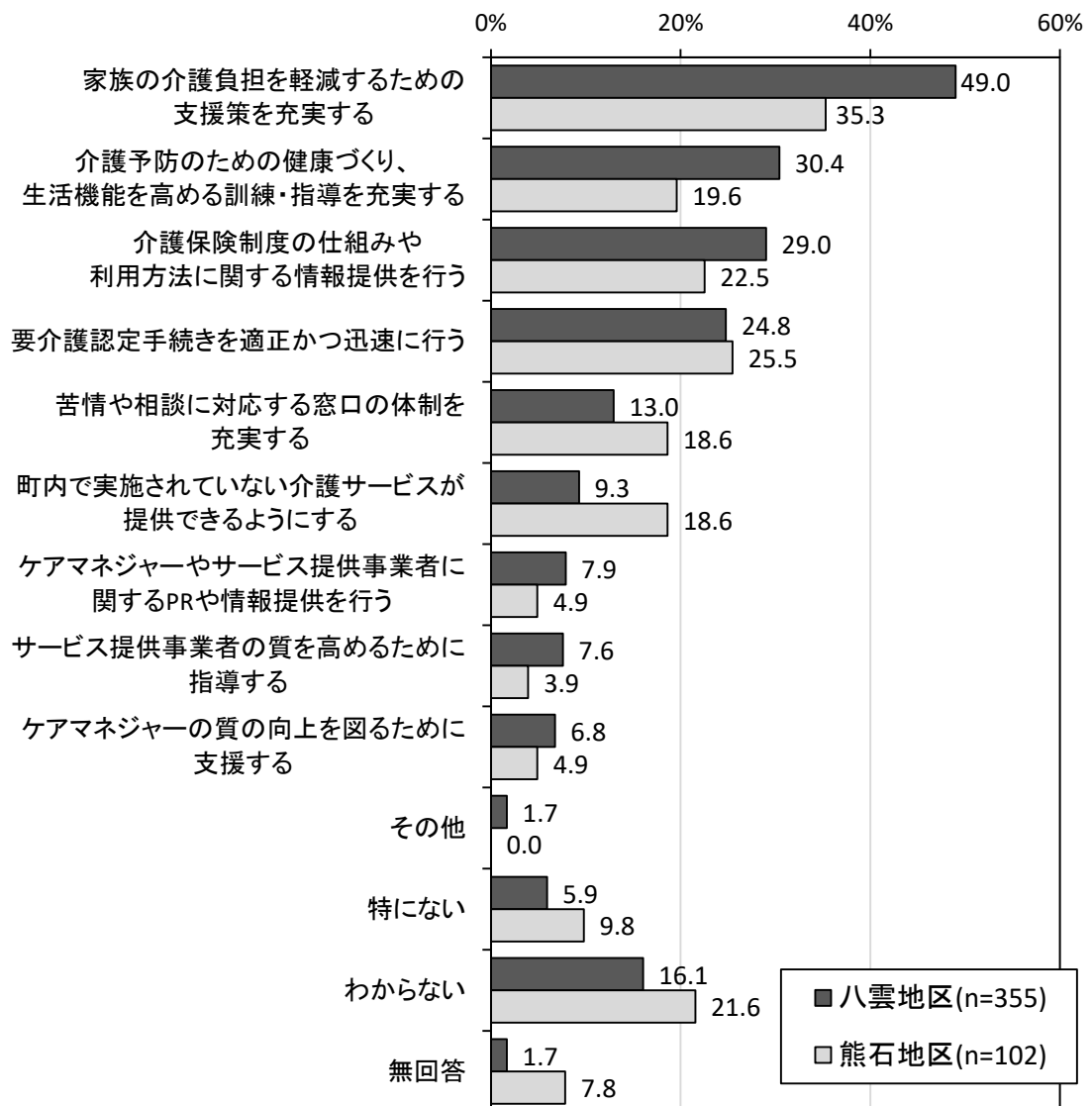
《介護保険制度として特に力を入れるべきこと／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でも、「家族の介護負担を軽減するための支援策を充実する」が最も多くなっており、次いで、八雲地区は「介護予防のための健康づくり、生活機能を高める訓練・指導を充実する」(30.4%)、熊石地区は「要介護認定手続きを適正かつ迅速に行う」(25.5%)が続いています。

《介護保険制度として特に力を入れるべきこと／圏域別》



(4) 今後の介護保険料についての考え

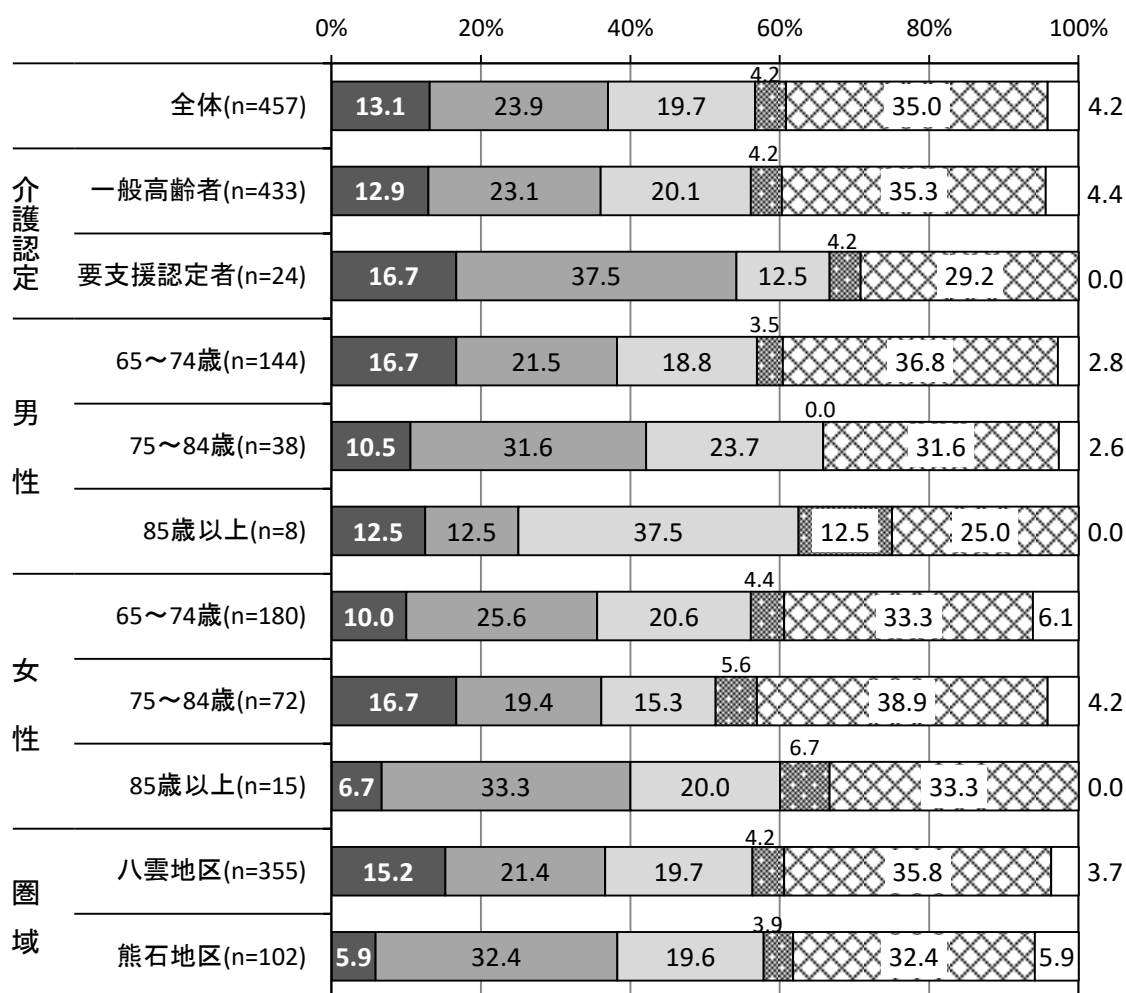
全体でみると、「わからない」が35.0%で最も多く、次いで「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が23.9%が続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が37.5%で一般高齢者よりも多くなっています。

男女年齢階級別でみると、85歳以上の男性は「介護サービスの量は少なくなってもいいから、保険料が安い方がよい」が37.5%と他の年齢階級と比べて多くなっています。

また85歳以上の女性は「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が33.3%で他の年齢階級よりも多くなっています。

圏域別でみると、熊石地区は「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が32.4%で八雲地区よりも多くなっています。



- 保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい
- 介護サービスの質と量は、現状の程度でよい
- 介護サービスの量は少なくなってもいいから、保険料が安い方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

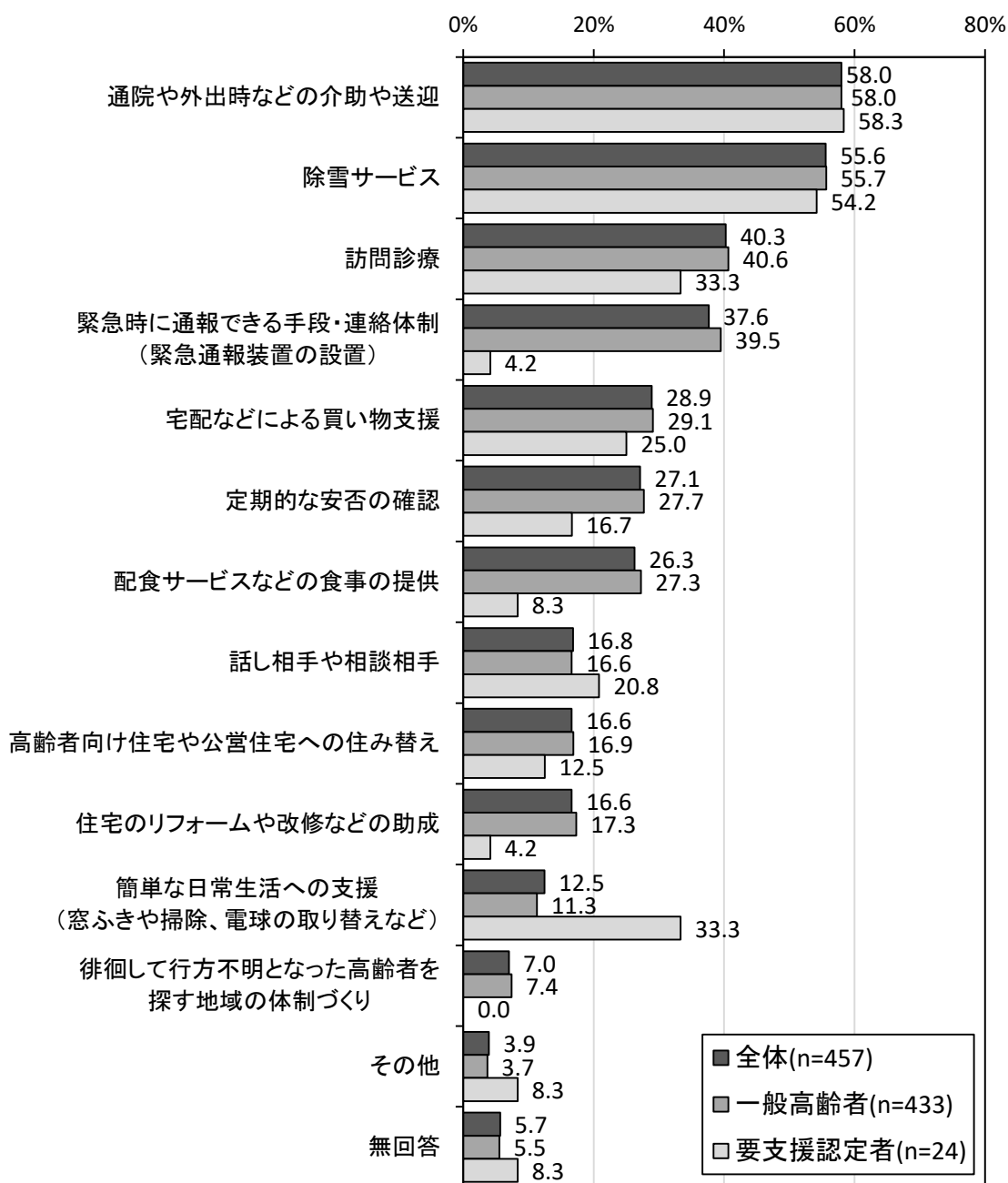
(5) 地域や自宅での生活を続けていくために必要な支援・サービス【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 58.0%で最も多く、次いで「除雪サービス」(55.6%)、「訪問診療」(40.3%)と続いています。

介護認定別でも全体と同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「簡単な日常生活への支援（窓ふきや掃除、電球の取り替えなど）」が 33.3%で、一般高齢者に比べて非常に多くなっています。

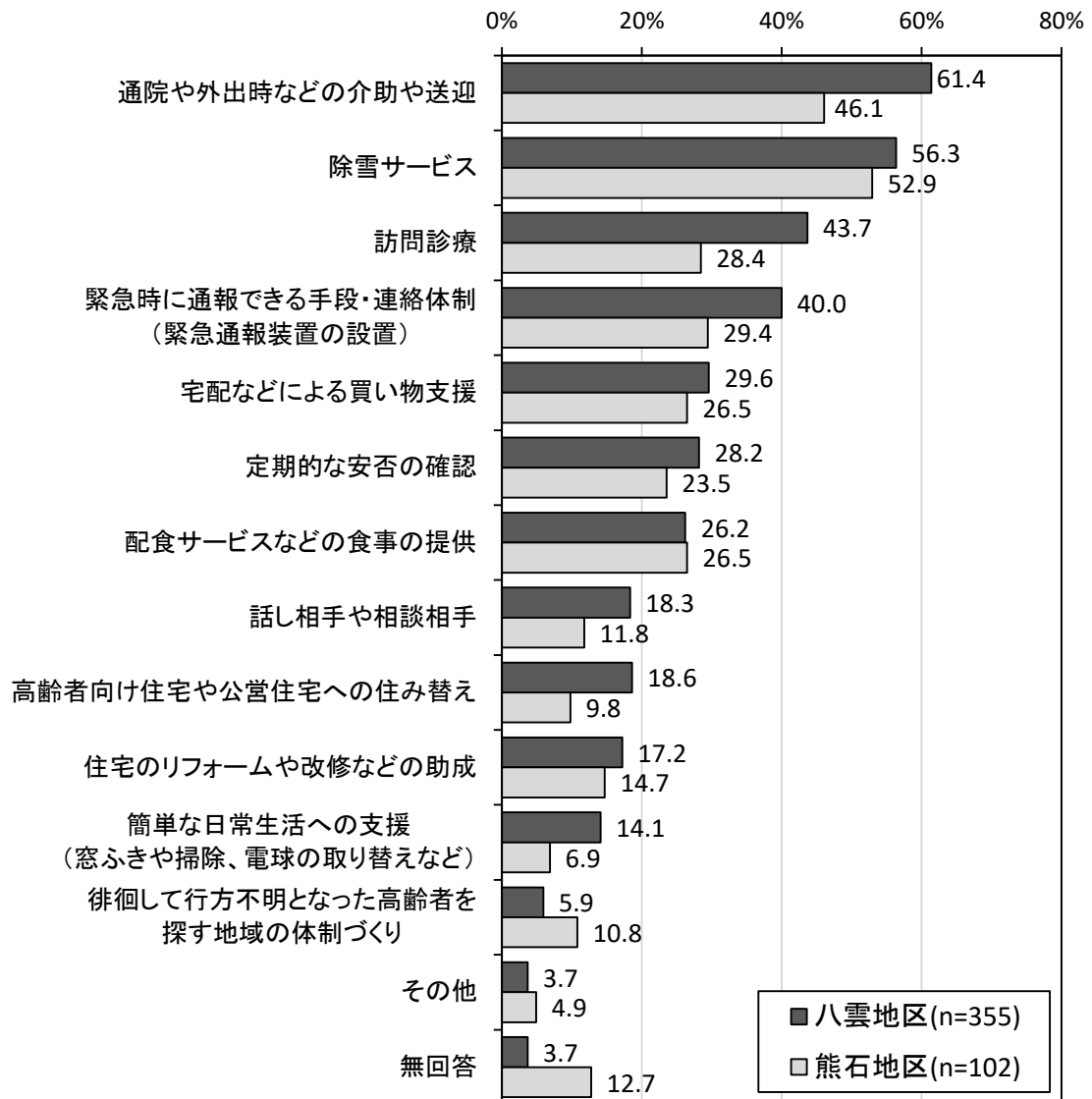
《地域での生活を続けていくために必要な支援／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でみると、八雲地区は「通院や外出時などの介助や送迎」(61.4%)、熊石地区は「除雪サービス」(52.9%)がそれぞれ最も多くなっています。

《地域での生活を続けていくために必要な支援／圏域別》



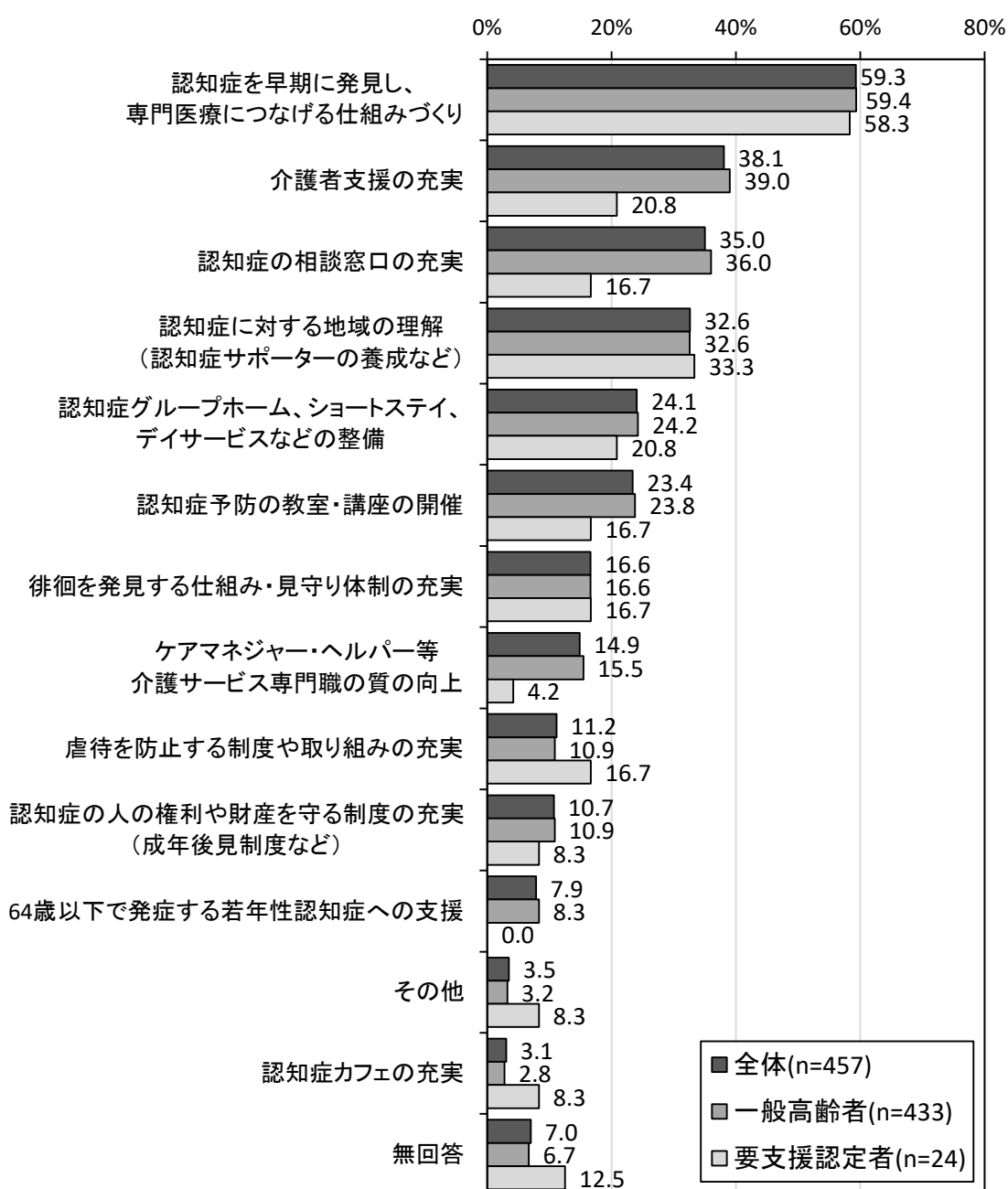
(6) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」が 59.3% で最も多く、次いで「介護者支援の充実」(38.1%)、「認知症の相談窓口の充実」(35.0%) と続いています。

介護認定別でも、「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「認知症に対する地域の理解（認知症サポーターの養成など）」(33.3%)、「介護者支援の充実」、「認知症グループホーム、ショートステイ、デイサービスなどの整備」（ともに 20.8%）が上位回答となっています

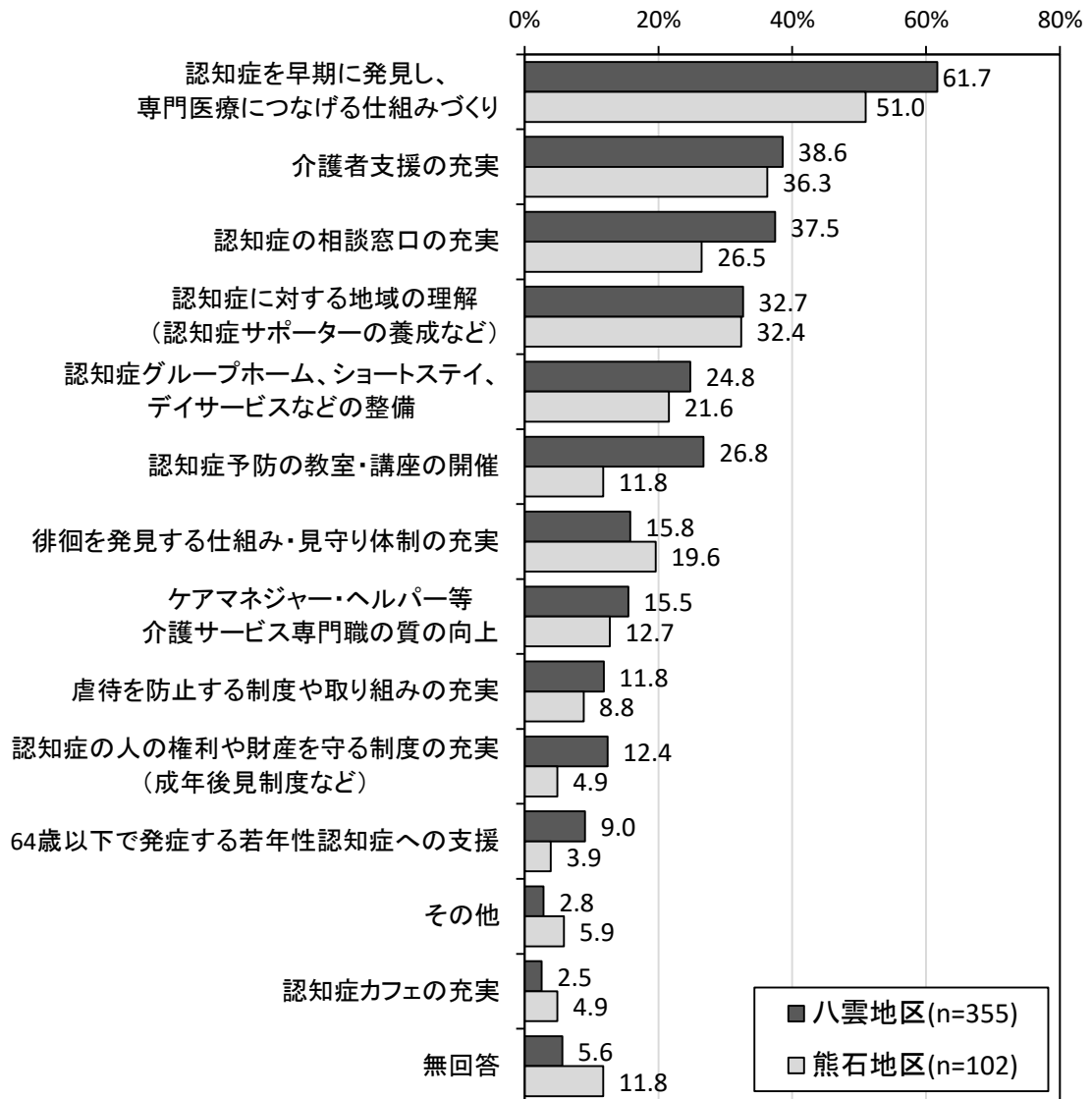
《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でみても全体と同様の傾向となっていますが、八雲地区は「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」(61.7%)、「認知症の相談窓口の充実」(37.5%)、「認知症予防の教室・講座の開催」(26.8%)が熊石地区と比べて多くなっています。

《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／圏域別》



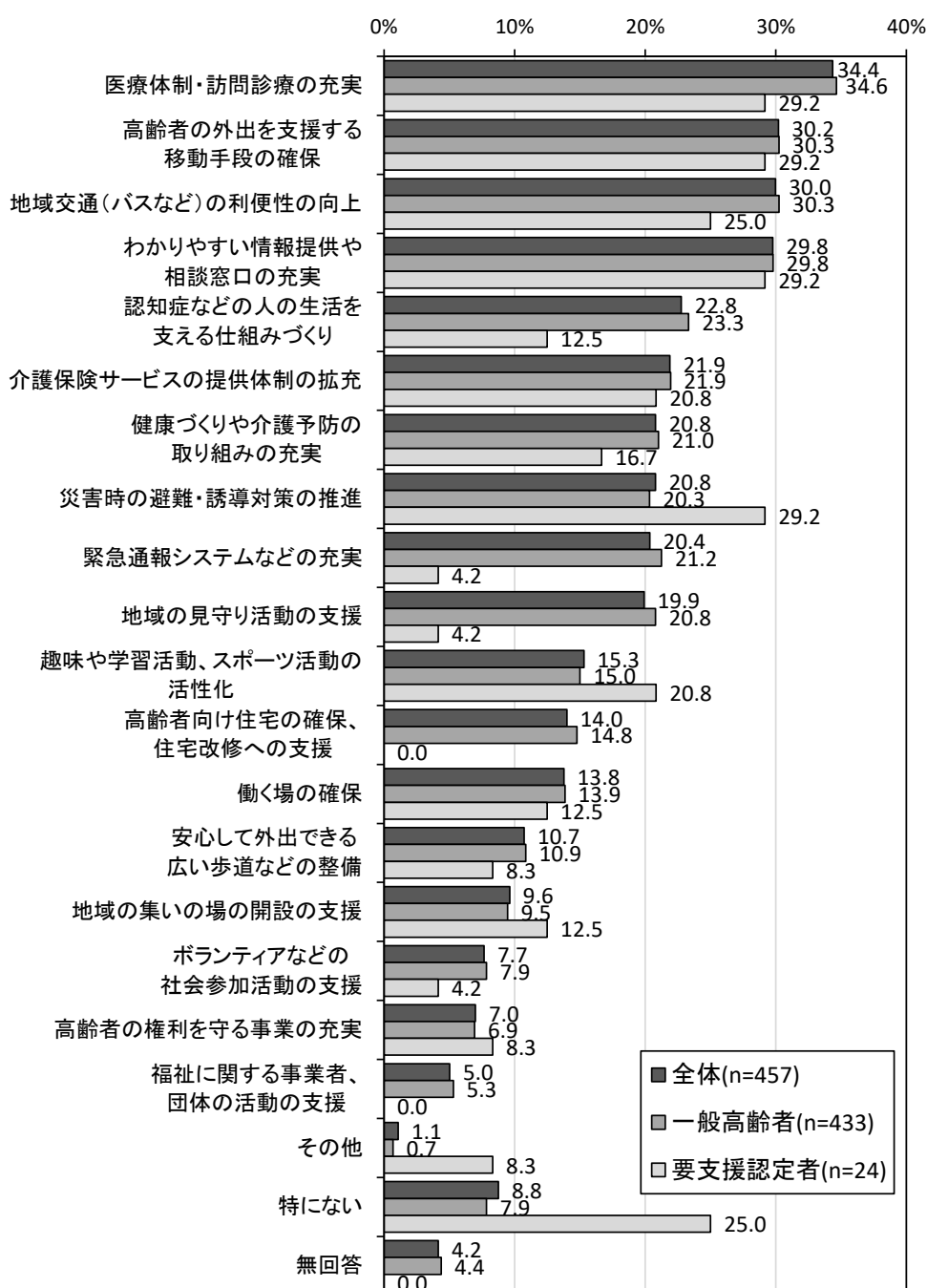
(7) 高齢者施策として力を入れてほしい施策【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「医療体制・訪問診療の充実」が 34.4%で最も多く、次いで「高齢者の外出を支援する移動手段の確保」(30.2%)、「地域交通(バスなど)の利便性の向上」(30.0%)が続いており、地域医療の充実及び外出支援が高齢者施策として求められていると考えられます

また、介護認定別でも上位回答の傾向はほぼ同じですが、要支援認定者は「災害時の避難・誘導対策の推進」が 29.2%で一般高齢者と比べて多くなっています。

《高齢者施策として力を入れてほしい施策／全体及び介護認定別》

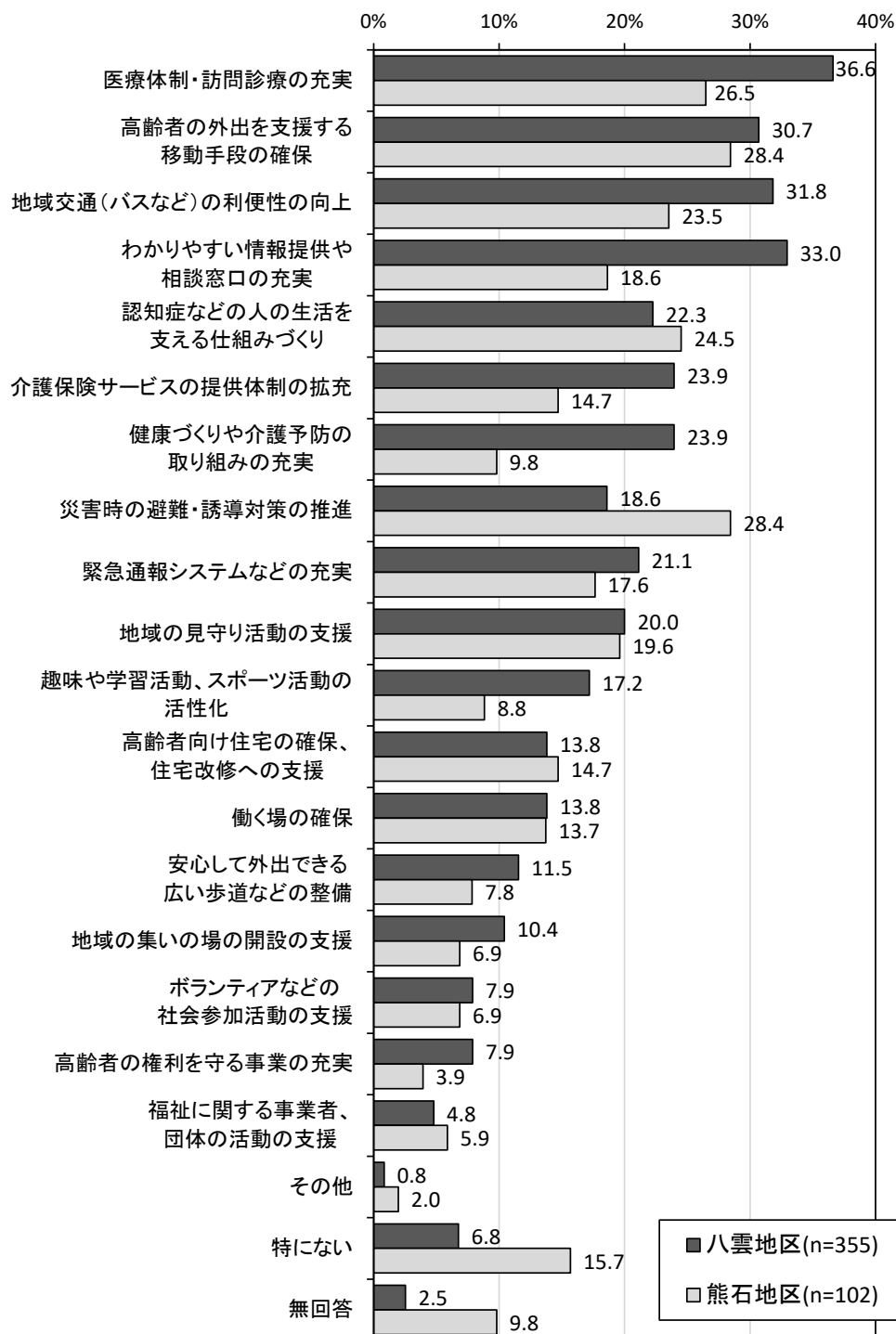


②圏域別

圏域別でみると、八雲地区は「医療体制・訪問診療の充実」が36.6%で最も多く、次いで「わかりやすい情報提供や相談窓口の充実」(33.0%)、「地域交通(バスなど)の利便性の向上」(31.8%)が続いています。

熊石地区は、「高齢者の外出を支援する移動手段の確保」、「災害時の避難・誘導対策の推進」(ともに28.4%)が最も多く、次いで「医療体制・訪問診療の充実」(26.5%)が続いています。

《高齢者施策として力を入れてほしい施策／圏域別》

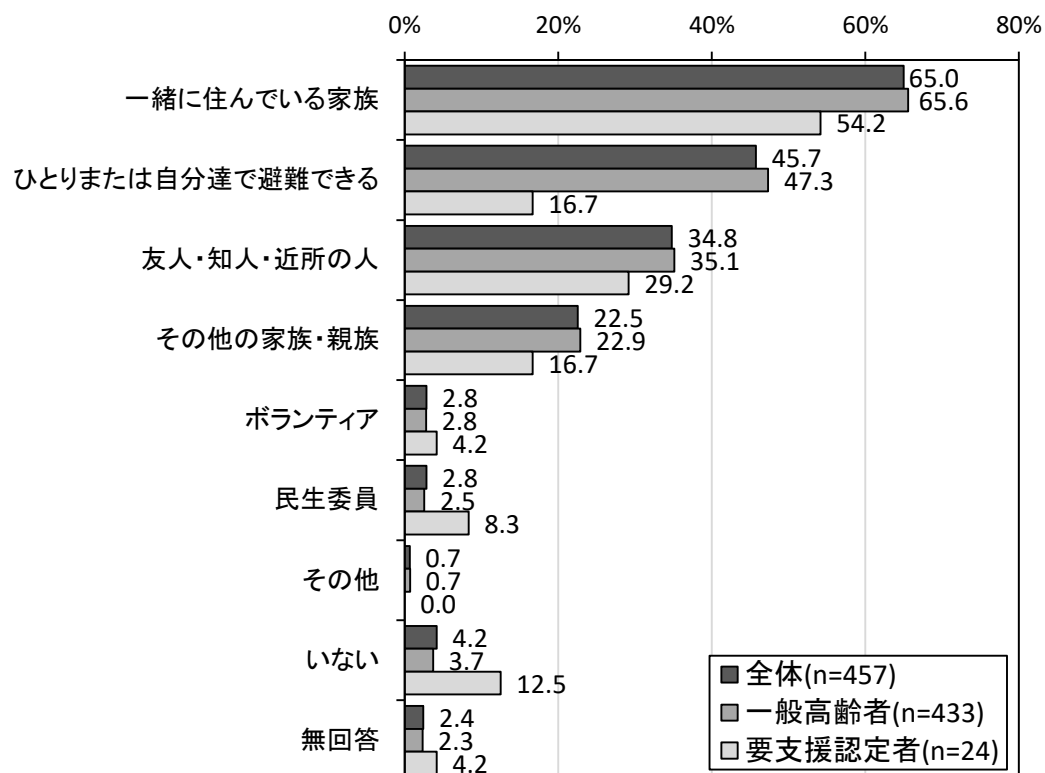


(8) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

①全体及び介護認定別

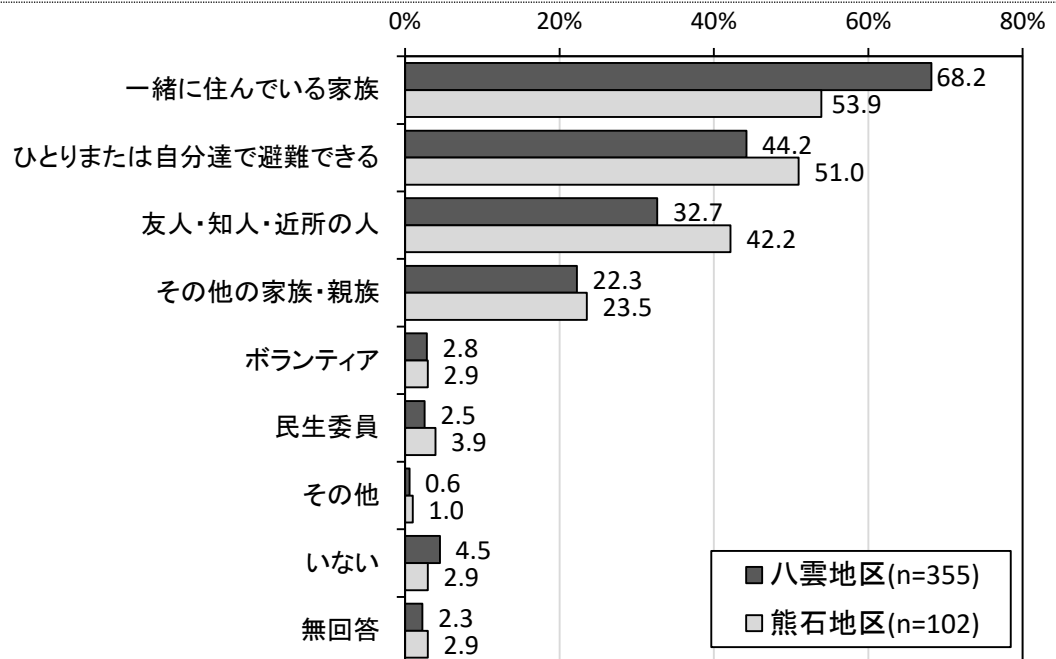
全体でみると、「一緒に住んでいる家族」が 65.0%で最も多く、次いで「ひとりまたは自分達で避難できる」(45.7%)、「友人・知人・近所の人」(34.8%)と続いています。

介護認定別でも全体と同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「いない」が 12.5%と多くなっています。



②圏域別

圏域別でも全体と同様の傾向となっていますが、八雲地区は「一緒に住んでいる家族」(68.2%)が熊石地区よりも多く、熊石地区は「ひとりまたは自分達で避難できる」(51.0%)、「友人・知人・近所の人」(42.2%)が八雲地区よりも多くなっています。

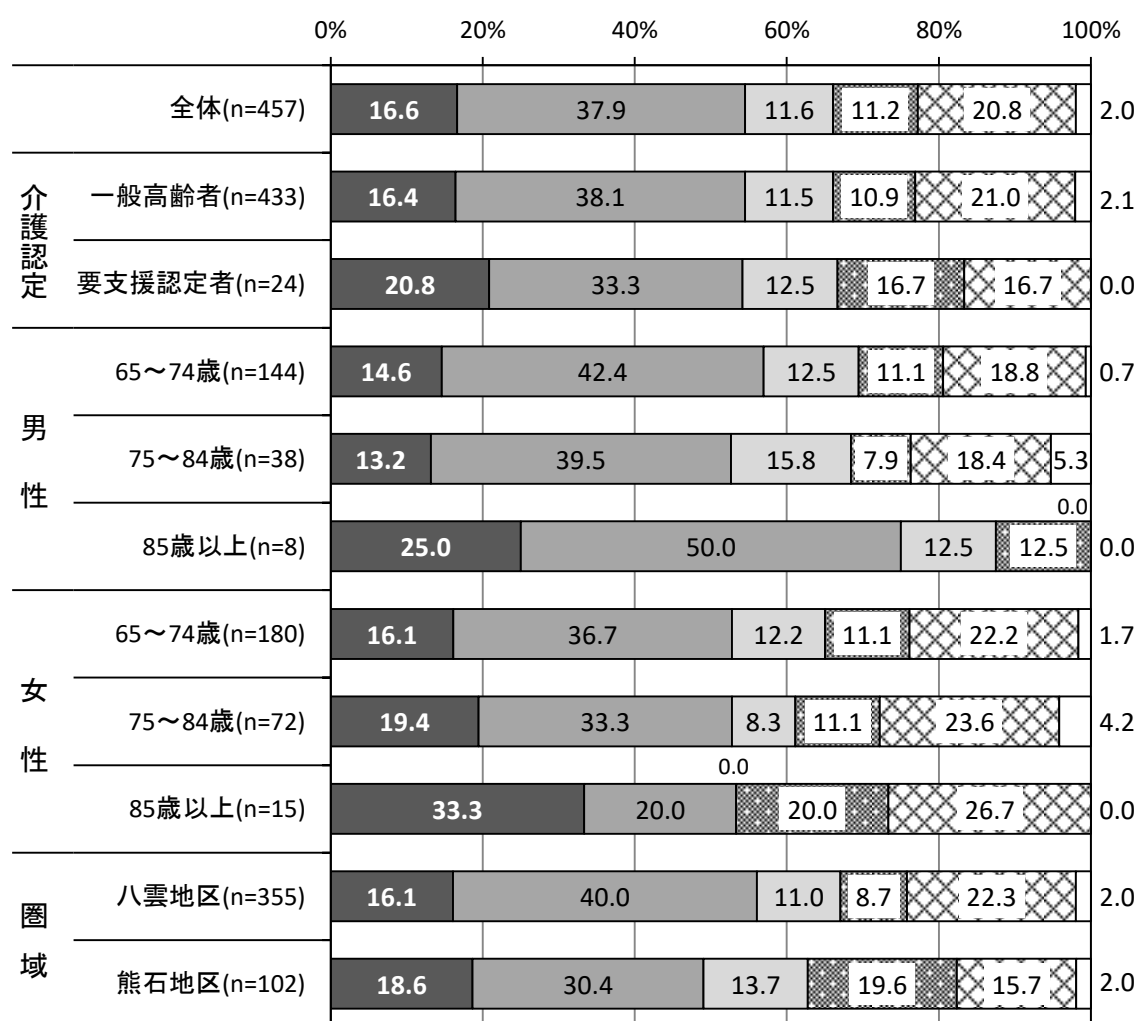


(9) 高齢者にとっての町の暮らしやすさ

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(16.6%)、「どちらかといえばそう思う」(37.9%)は合計 54.5%となっている一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.6%)、「暮らしやすいとは思わない」(11.2%)は合計 22.8%で、暮らしやすいと回答している人が多い状況です。

男女年齢階級別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、85 歳以上の男性は 75.0%と多くなっています。女性はどの年齢階級においても 50%前後となっていますが、85 歳以上は「暮らしやすいと思う」が 33.3%と多くなっています。

圏域別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、八雲地区は 56.1%で熊石地区の 49.0%より多くなっています。



■ 暮らしやすいと思う

■ どちらかといえばそう思う

□ どちらかといえばそう思わない

■ 暮らしやすいとは思わない

□ わからない

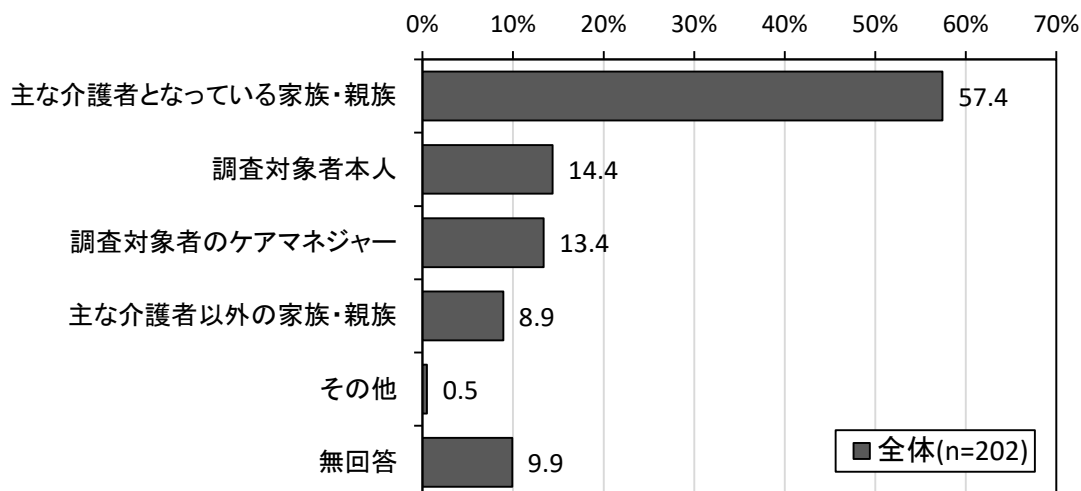
□ 無回答

Ⅲ. 在宅介護実態調査結果

1. 回答者について

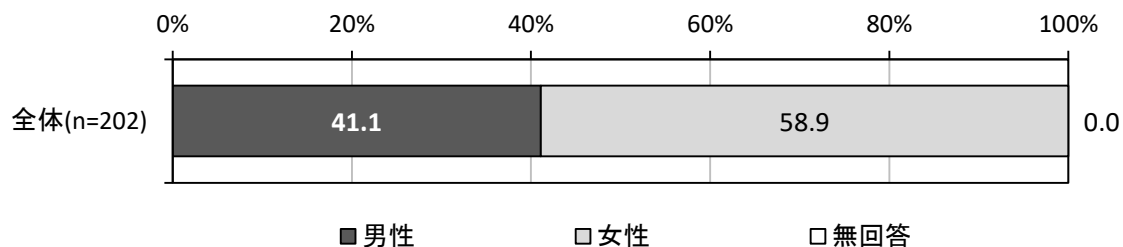
(1) 記入者【複数回答】

アンケートの記入者は「主な介護者となっている家族・親族」が57.4%で最も多く、「調査対象者本人」は14.4%にとどまっています。



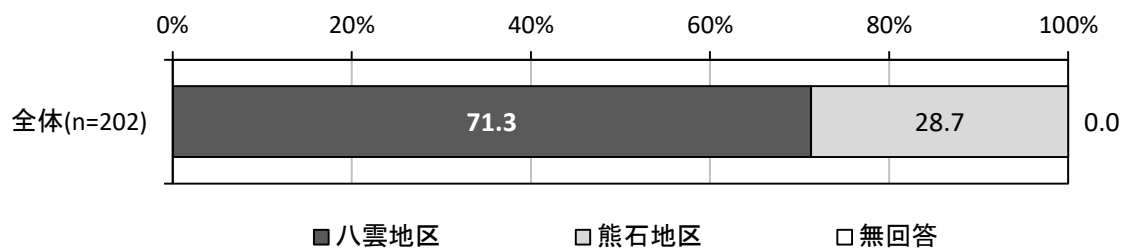
(2) 性別

調査対象者の性別は、男性が41.1%、女性が58.9%です。



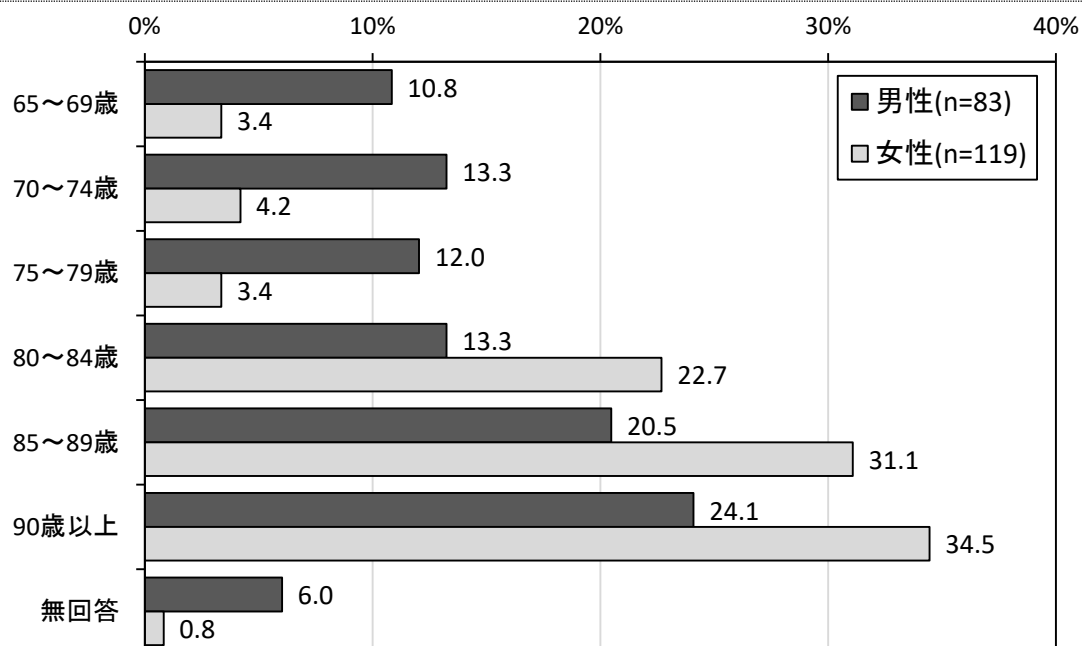
(3) 日常生活圏域

調査対象者の日常生活圏域は、八雲地区が71.3%、熊石地区が28.7%です。



(4) 年齢

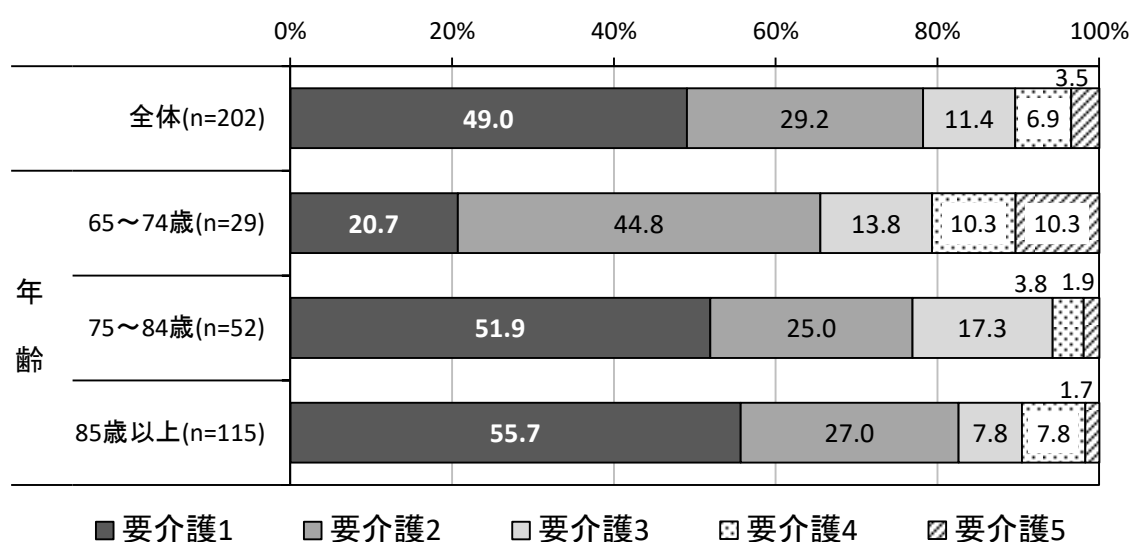
男性は「90 歳以上」24.1%、女性も「90 歳以上」が 34.5%でそれぞれ最も多くなっています



(5) 要介護度

全体でみると、「要介護 1」が 49.0%で最も多く、次いで「要介護 2」(29.2%)、「要介護 3」(11.4%)と続いています。

年齢階級別でみると、年齢が高くなるにつれて「要介護 1」の割合が多くなっています。

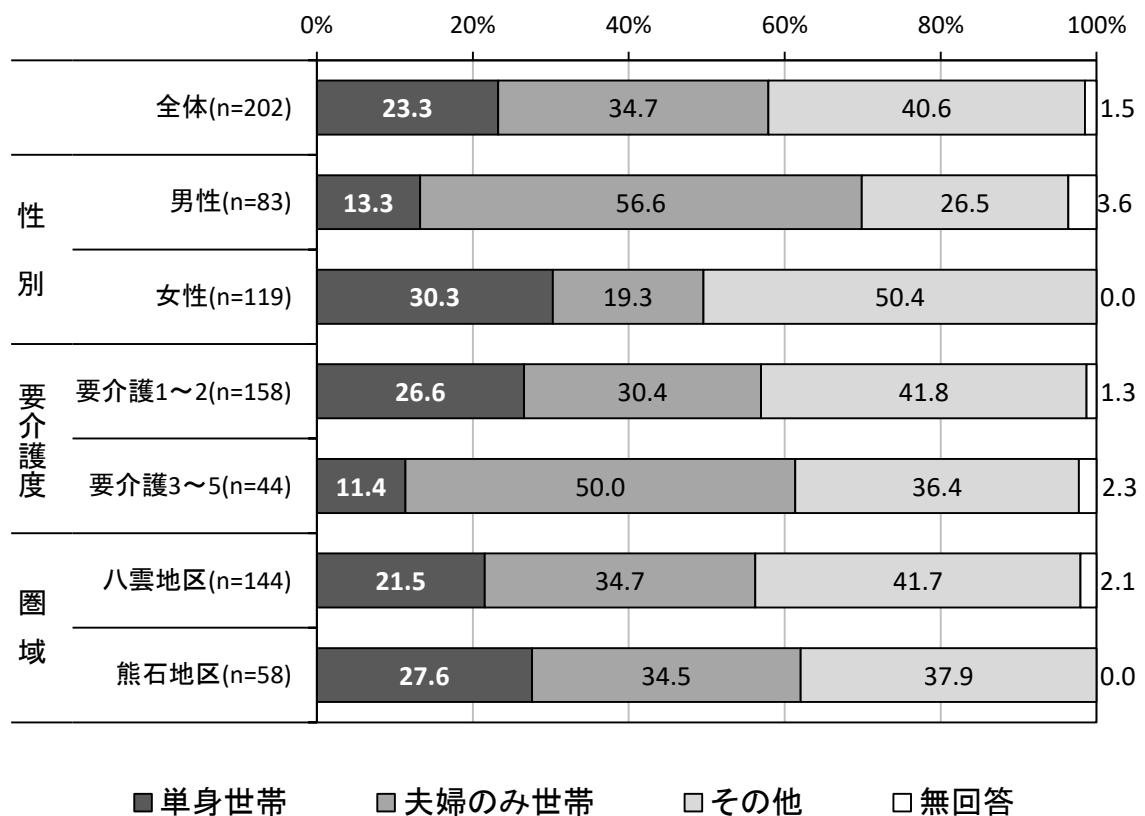


2. 在宅で介護されている方の状況について

(1) 世帯類型

全体でみると、「その他」が 40.6%で最も多くなっており、家族が同居で介護を行っている 2 世代世帯が多いと考えられます。次いで、「夫婦のみ世帯」(34.7%)、「単身世帯」(23.3%) となっています。

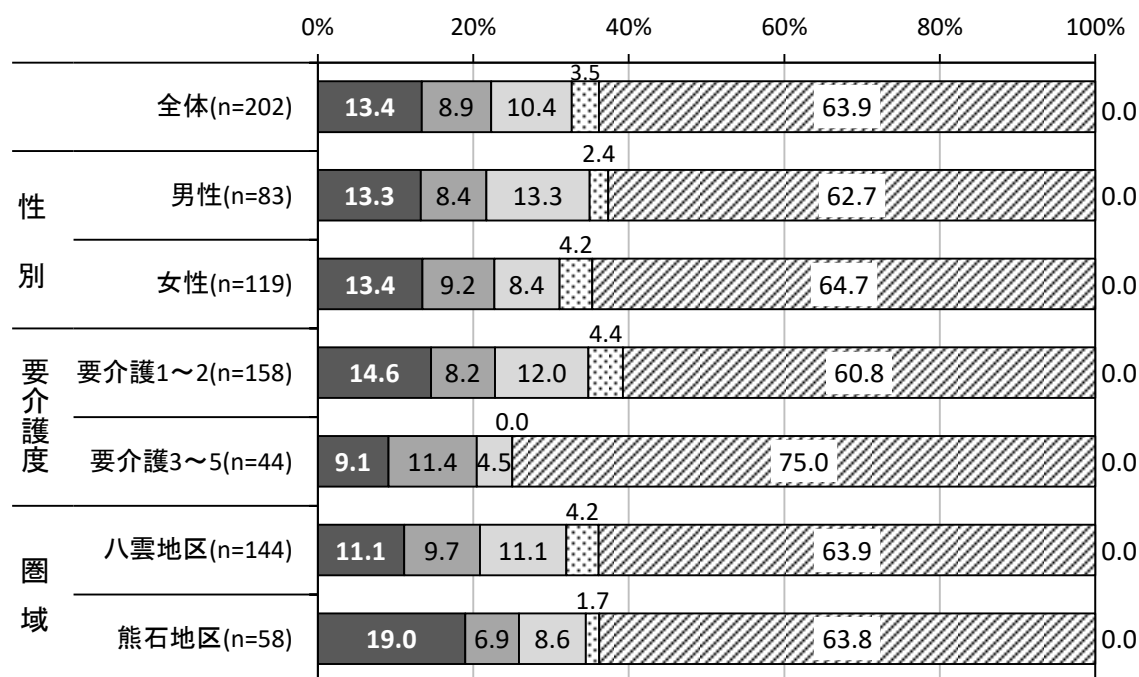
男女別でみると、女性は男性よりも「単身世帯」及び「その他」の割合が多く、要介護度別でみると、要介護 3～5 は要介護 1～2 よりも「夫婦のみ世帯」が多くなっています。



(2) 家族等による介護の頻度

全体でみると、「ほぼ毎日ある」が63.9%で最も多く、次いで「ない」(13.4%)、「週に1～2日ある」(10.4%)と続いています。

男女別でみると、男女間に大きな差異はみられませんが、要介護度別でみると、要介護1～2よりも要介護3～5は「ほぼ毎日ある」が多くなっています。

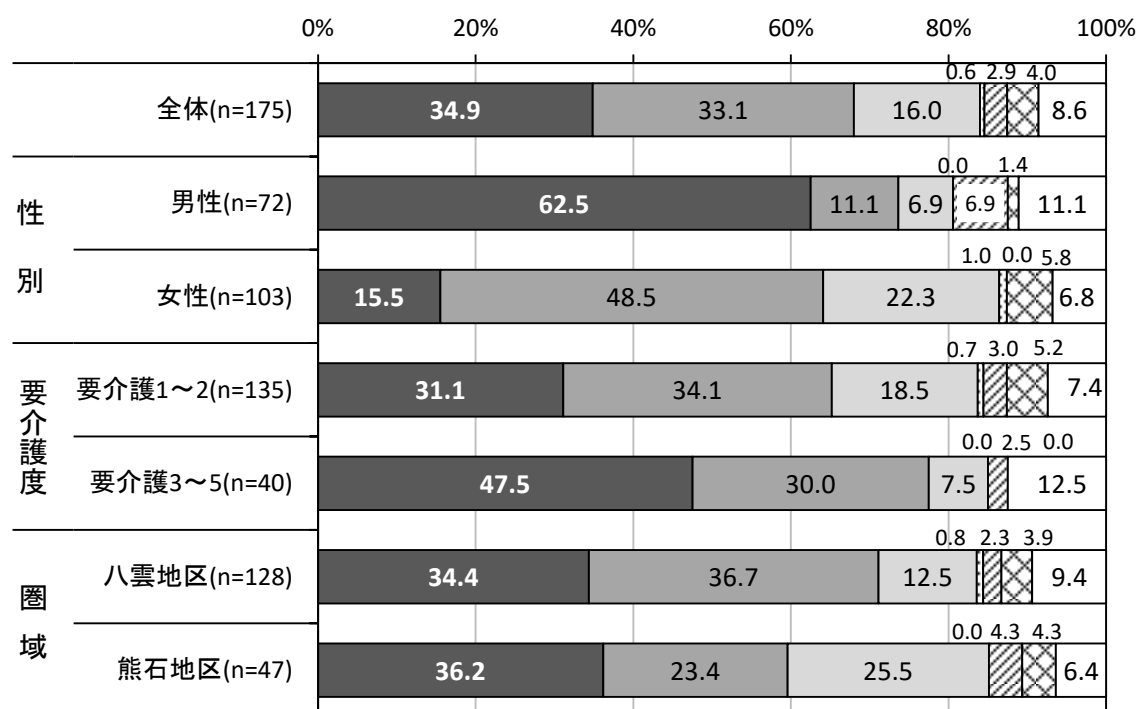


- ない
- 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- 週に1～2日ある
- ▣ 週に3～4日ある
- ▤ ほぼ毎日ある
- 無回答

(3) 主な介護者の本人との関係

全体でみると、「配偶者」が34.9%で最も多く、次いで「子」が33.1%が続いています。
男女別でみると、男性は「配偶者」(62.5%)、女性は「子」(48.5%)がそれぞれ最も多くなっています。

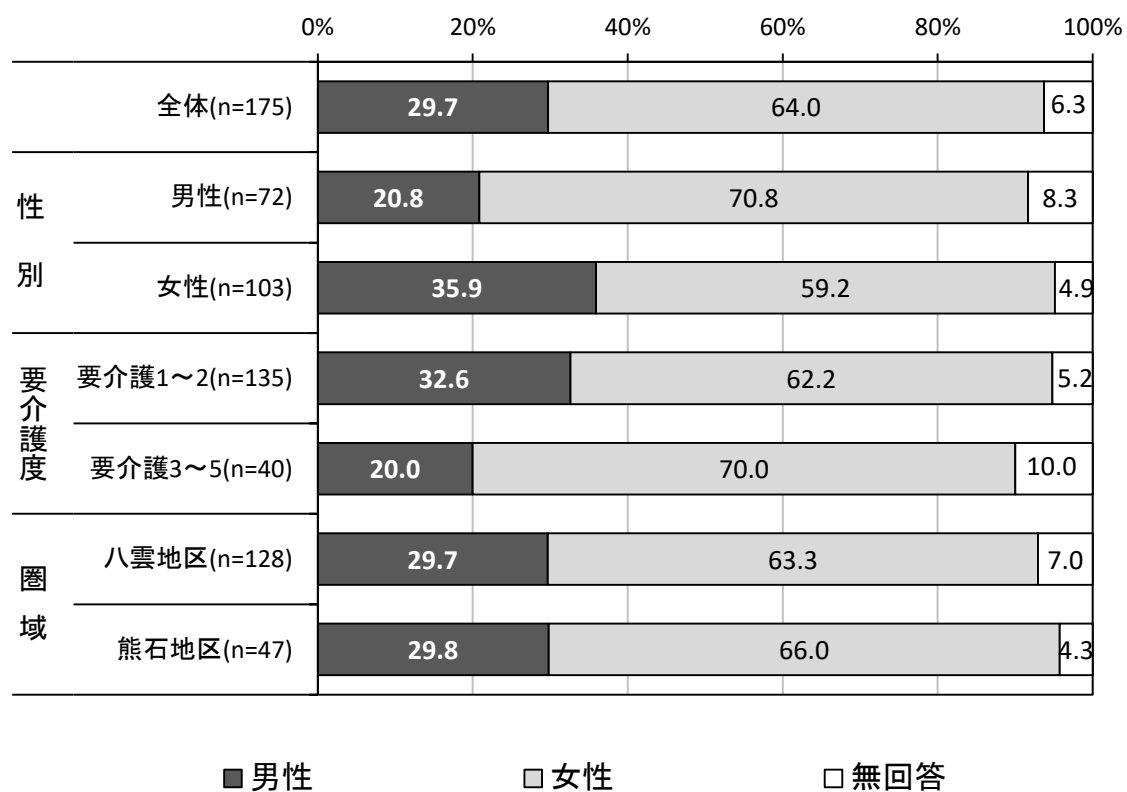
要介護度別でみると、要介護3～5は要介護1～2と比べて「配偶者」の割合が多くなっています。



■ 配偶者 ■ 子 □ 子の配偶者 ▨ 孫 ▩ 兄弟・姉妹 ▤ その他 □ 無回答

(4) 主な介護者の性別

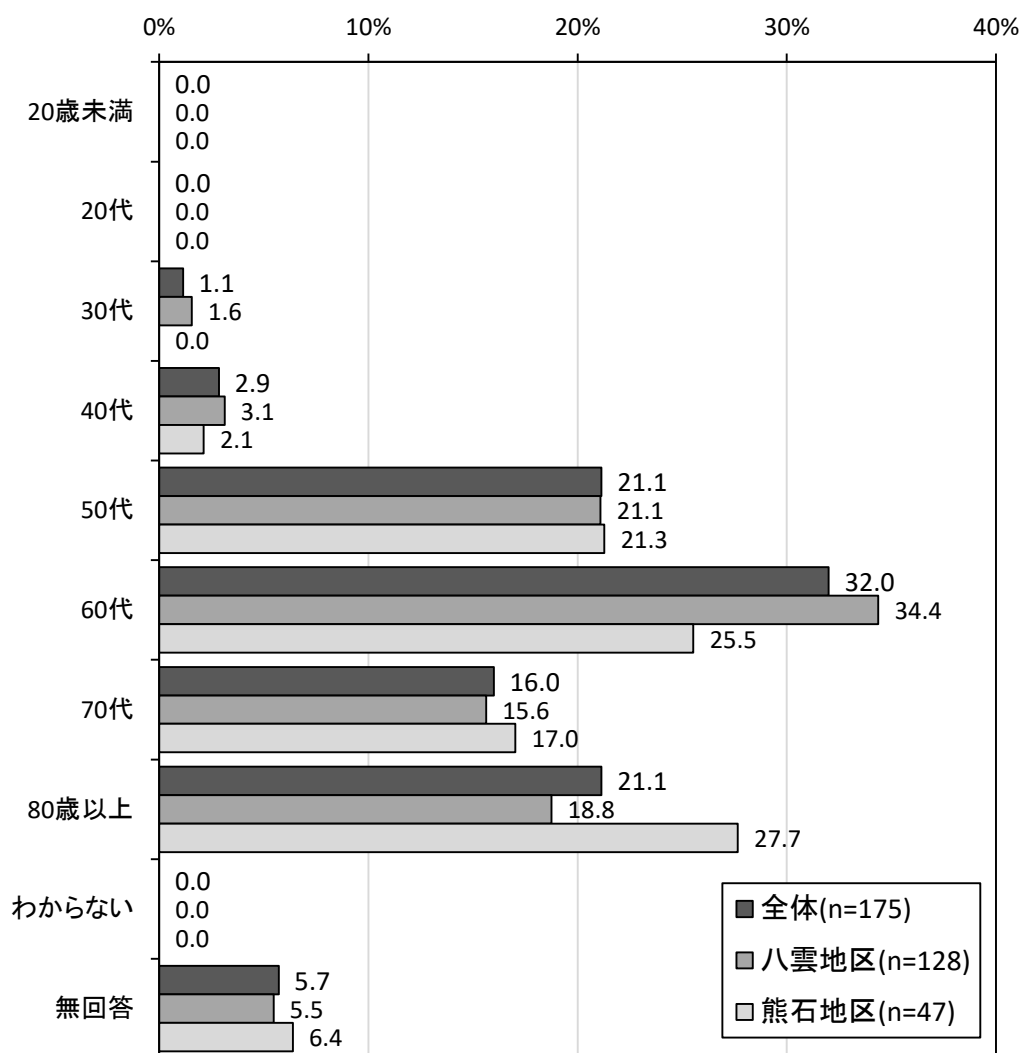
全体でみると、「男性」の29.7%に対し「女性」が64.0%で多くなっています。
男女別及び要介護度別でも、主な介護者は女性の方が多くなっています。



(5) 主な介護者の年齢

全体では、「60代」が32.0%で最も多くなっていますが、「70代」(16.0%)、「80歳以上」(21.1%)の合計37.1%は60代未満よりも多くなっています。

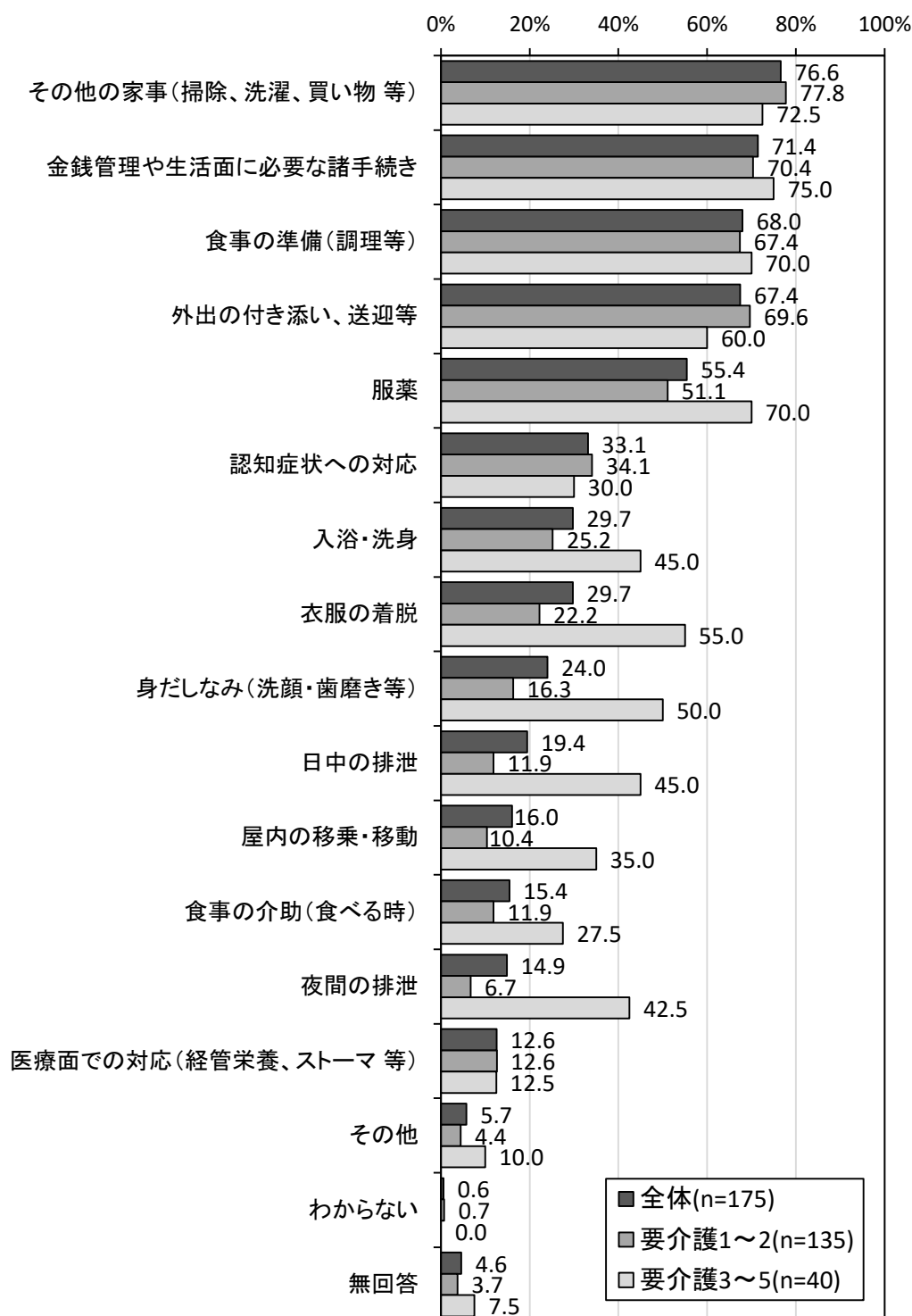
圏域別でみると、熊石地区は「80歳以上」が27.7%で最も多く、八雲地区よりも介護者の高齢化が進んでいると考えられます。



(6) 主な介護者が行っている介護【複数回答】

全体でみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が76.6%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（71.4%）、「食事の準備（調理等）」（68.0%）が続いています。

要介護度別でも上位回答の傾向は全体と大きく変わりませんが、要介護3～5は「服薬」（70.0%）、「衣服の着脱」（55.0%）など全体的に回答割合が多くなっています。



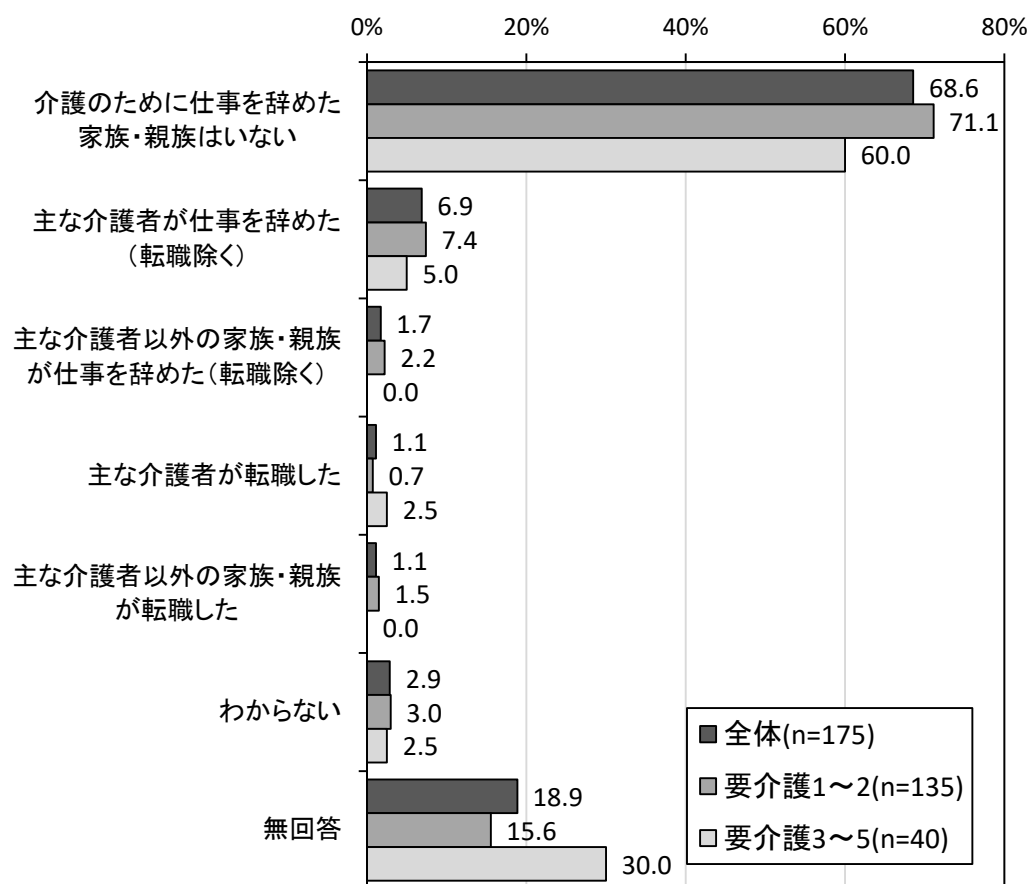
(7) 介護のための離職の有無【複数回答】

①全体及び要介護度別

全体でみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が68.6%で最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（6.9%）及び「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.7%）の合計は8.6%となっています。

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、家族・親族が仕事を辞めた人の割合は、要介護3～5よりも要介護1～2の方がわずかに多くなっています。

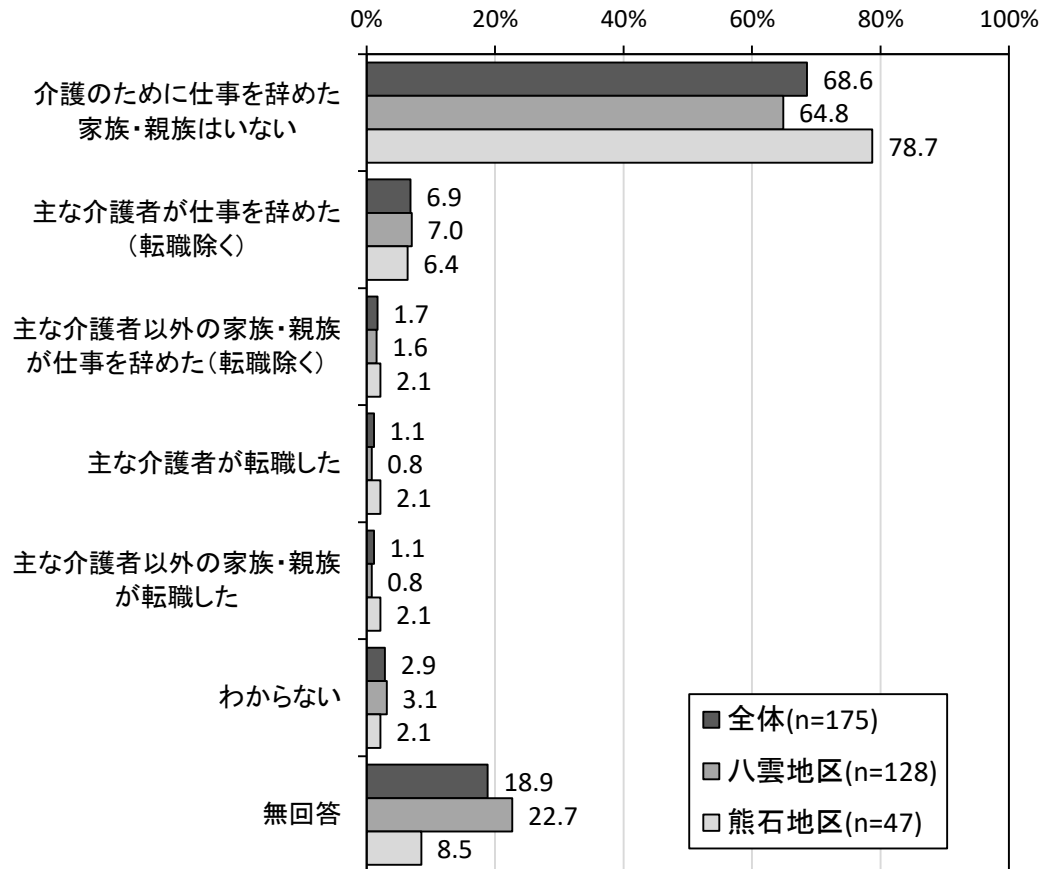
《介護のための離職の有無／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でみても全体と傾向は大きく変わりませんが、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は、八雲地区よりも熊石地区の方が多くなっています。

《介護のための離職の有無／圏域別》



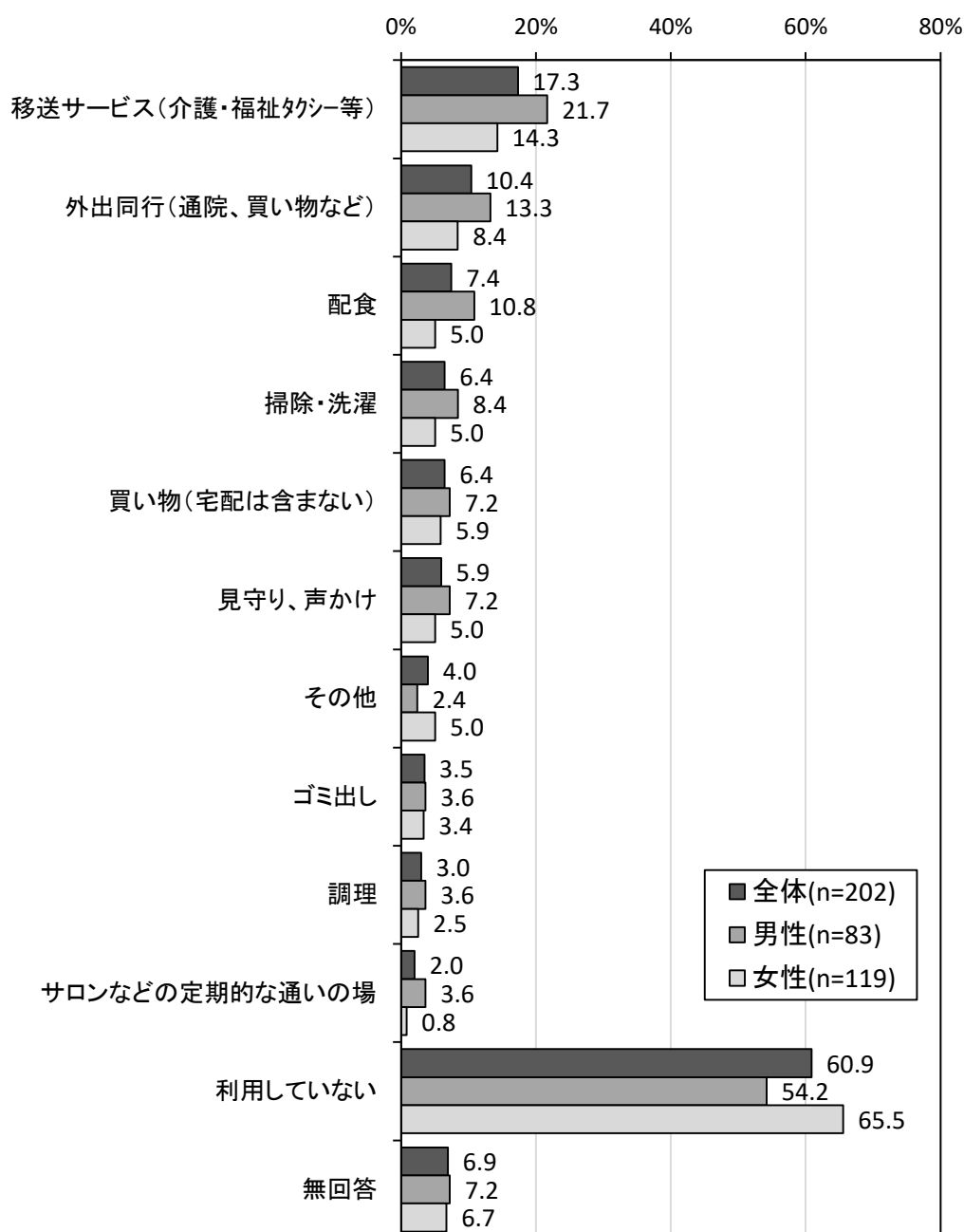
(8) 介護保険外の支援・サービスの利用状況【複数回答】

①全体及び男女別

全体でみると、「利用していない」が 60.9%で最も多くなっていますが、利用しているサービスの中では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（17.3%）、「外出同行（通院、買い物など）」（10.4%）、「配食」（7.4%）が上位回答となっています。

男女別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、女性よりも男性の方がサービスを利用している割合が多くなっています。

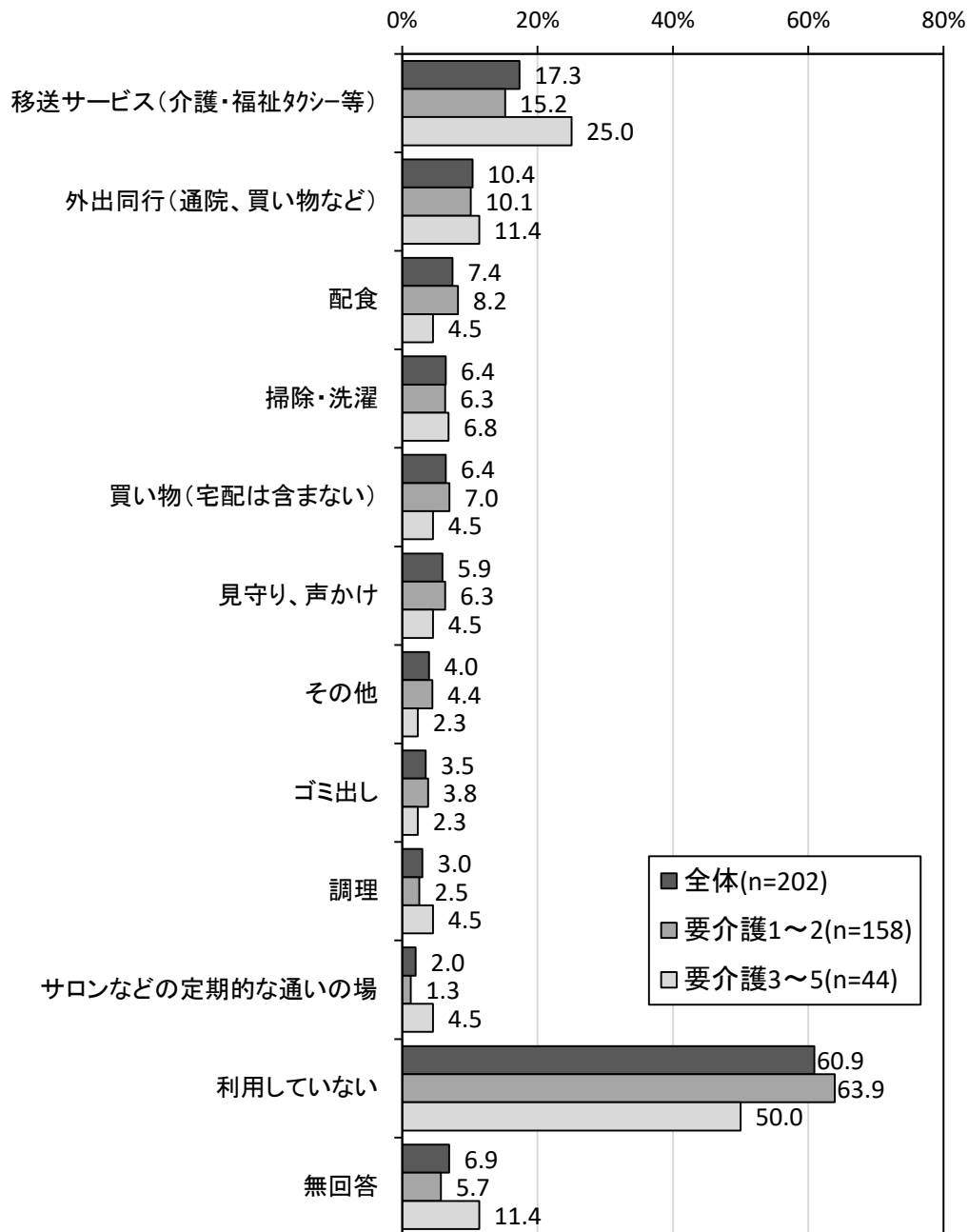
《介護保険外の支援・サービスの利用状況／全体及び男女別》



②要介護度別

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が、要介護1～2と比べて多く利用されています。

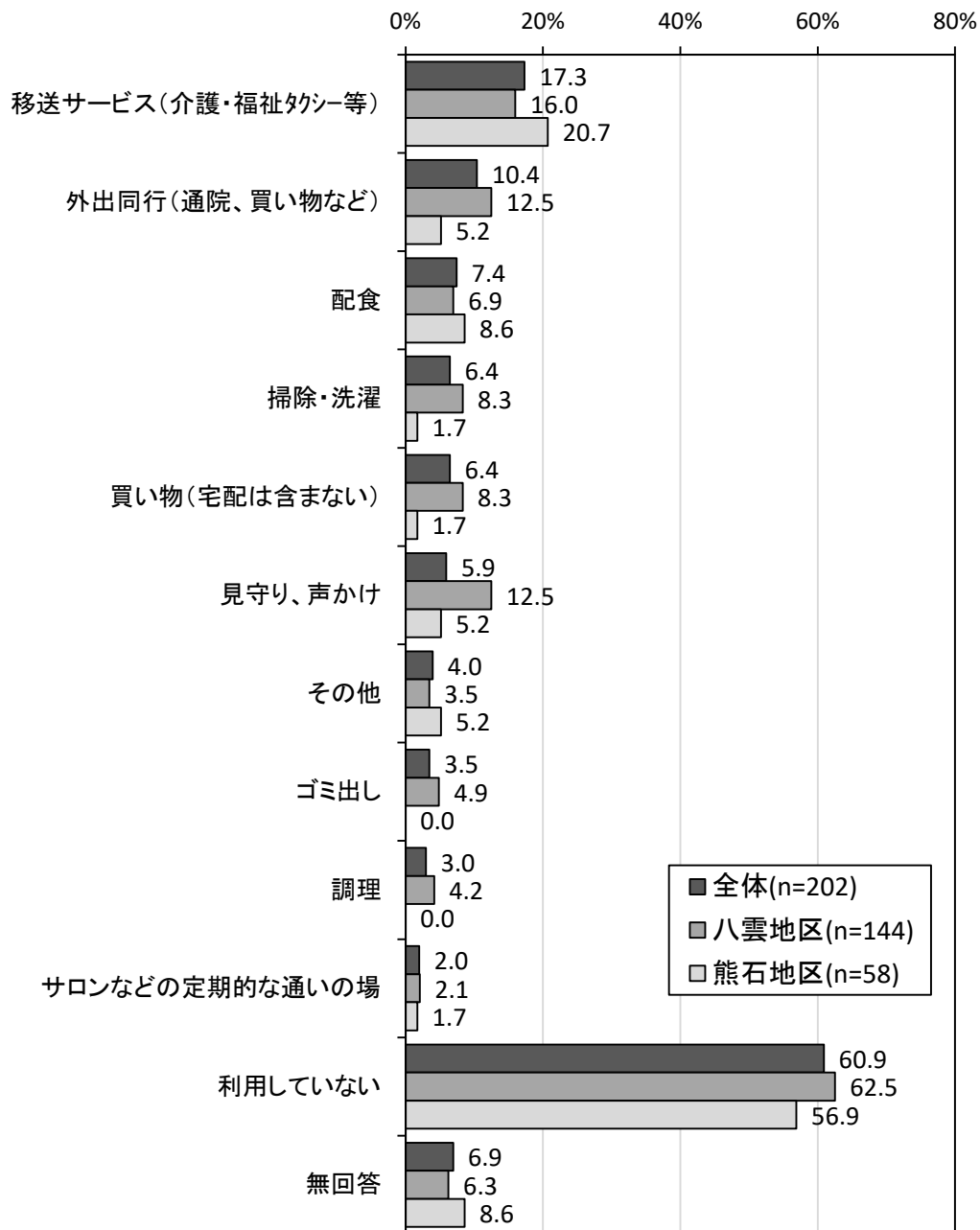
《介護保険外の支援・サービスの利用状況／要介護度別》



③圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、八雲地区は「見守り、声かけ」、熊石地区は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がやや多く利用されています。

《介護保険外の支援・サービスの利用状況／圏域別》



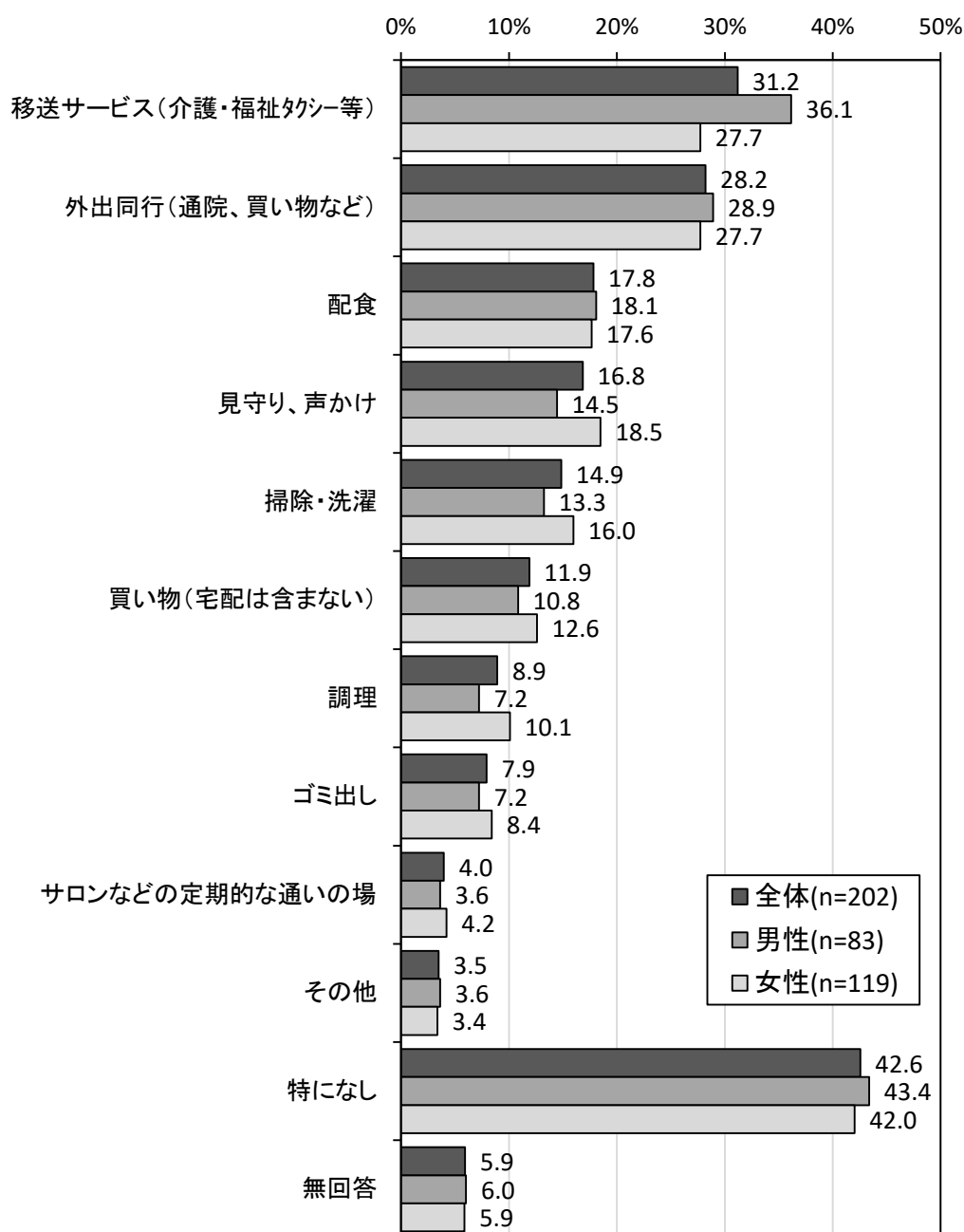
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【複数回答】

①全体及び男女別

全体でみると、「特になし」が 42.6%で最も多くなっていますが、必要な支援・サービスの中では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（31.2%）、「外出同行（通院、買い物など）」（28.2%）、が上位回答となっています。

男女別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、女性よりも男性の方が「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多くなっています。

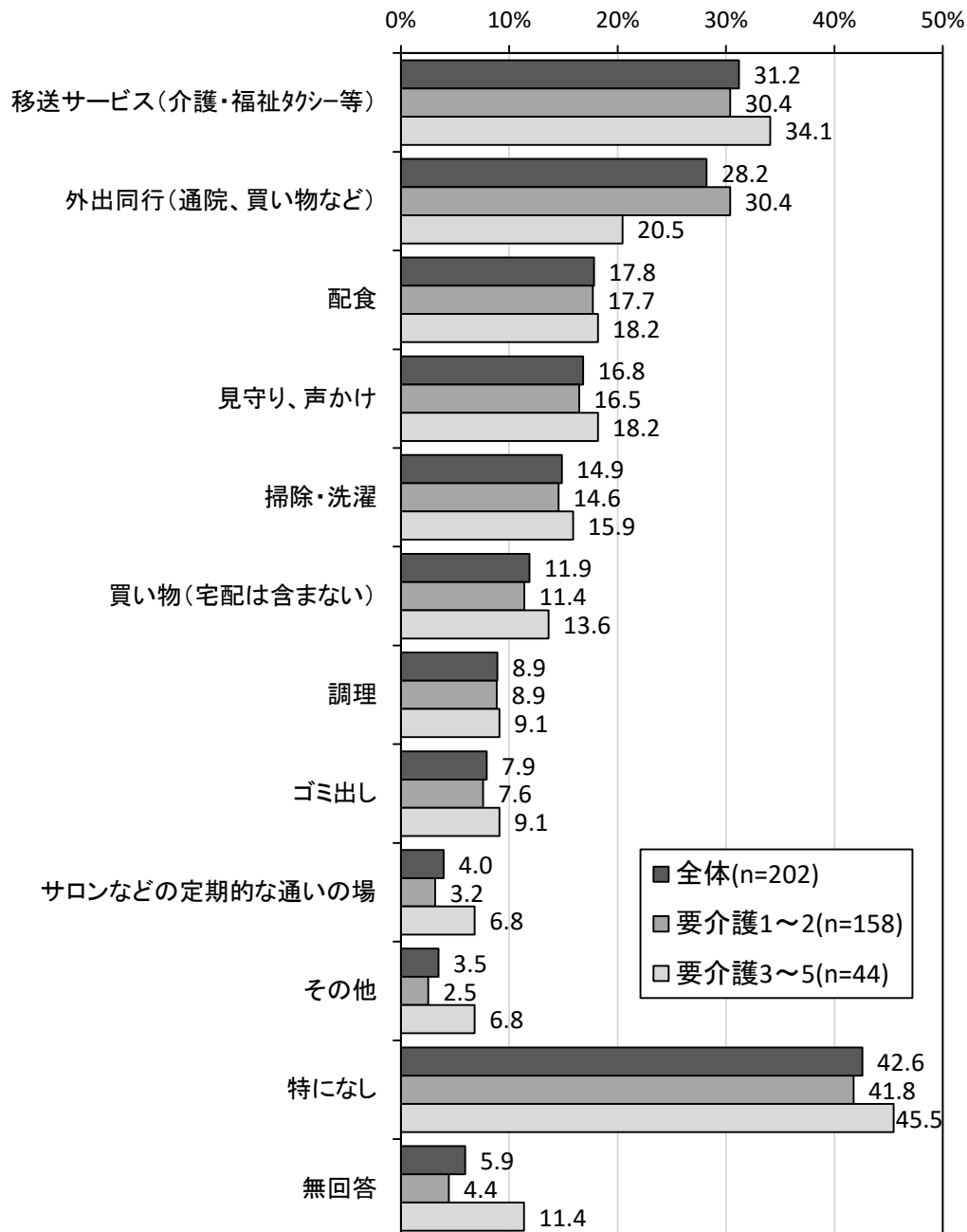
《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／全体及び男女別》



②要介護度別

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要支援 1～2 と比べて要介護 3～5 は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 34.1%とわずかに多く、「外出同行（通院、買い物など）」が少なくなっています。

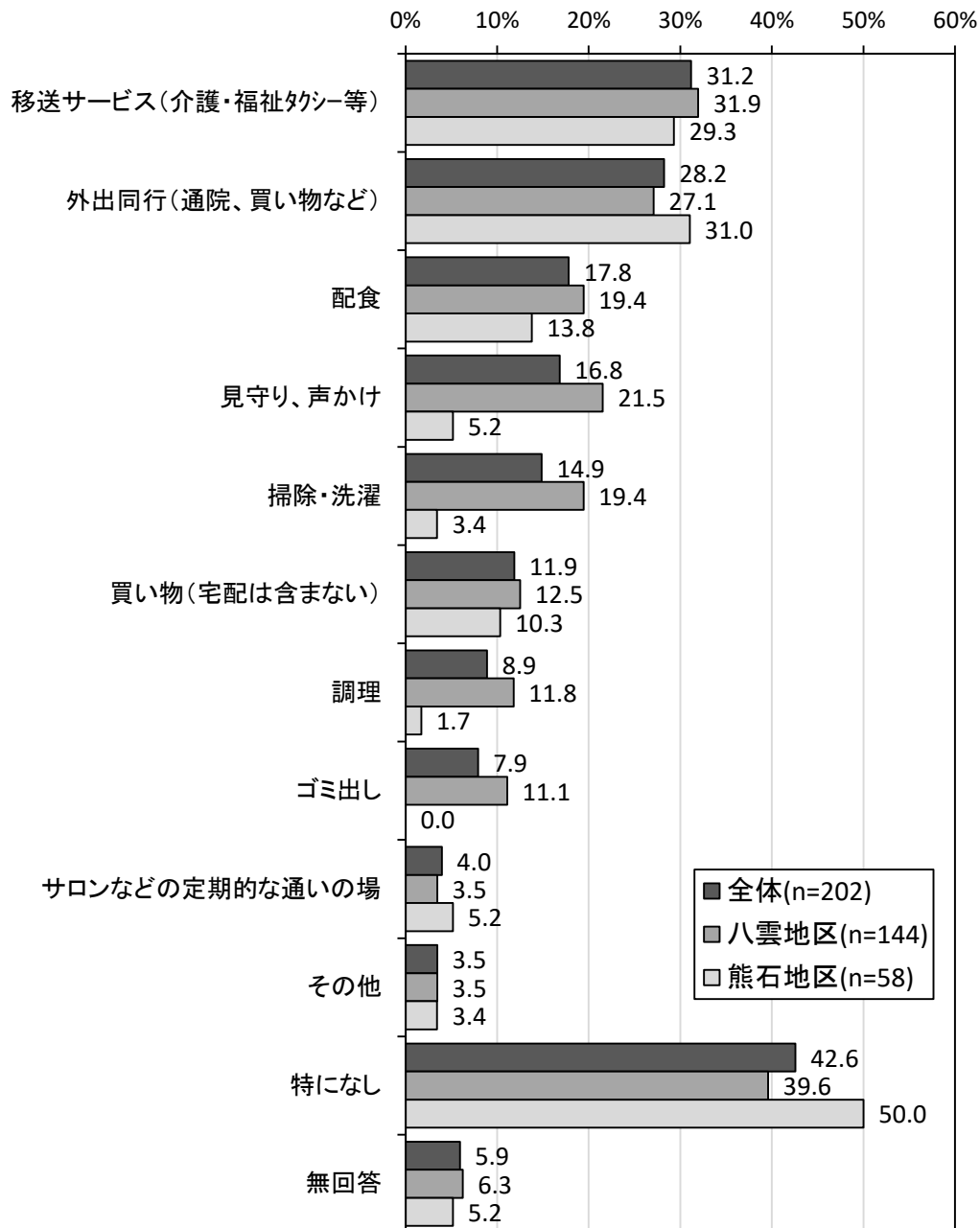
《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／要介護度別》



③圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、八雲地区と比べて熊石地区は「外出同行（通院、買い物など）」が31.0%で八雲地区よりもわずかに多く、「配食」、「見守り、声掛け」が少なくなっています。

《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／圏域別》



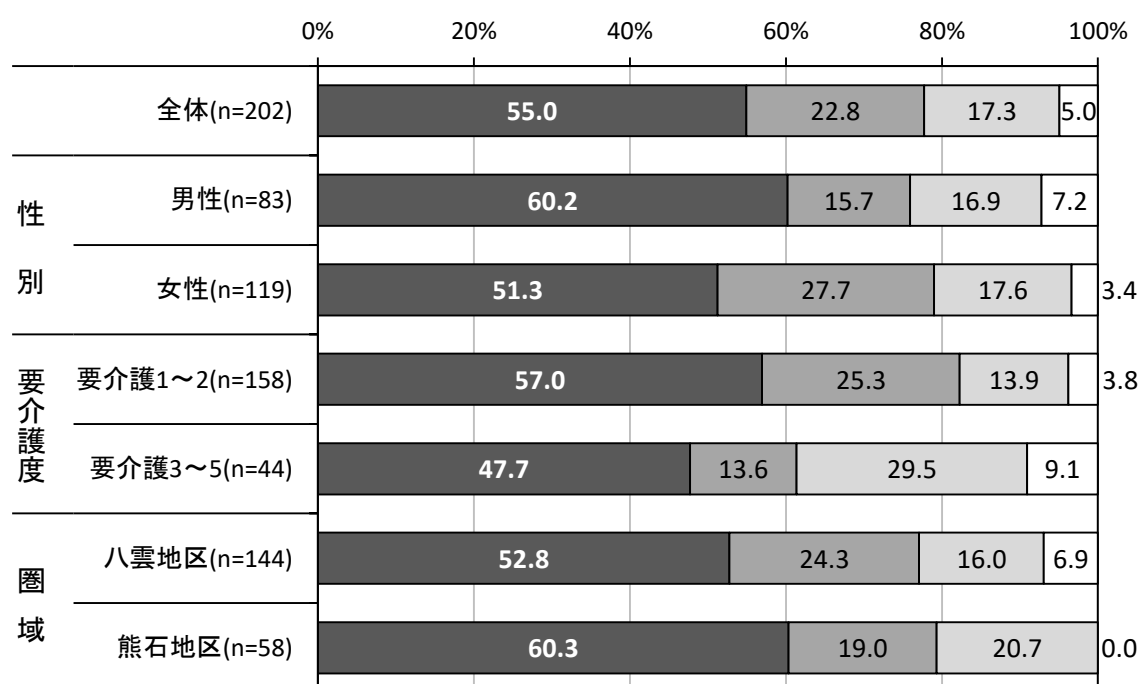
(10) 施設等への入所・入居の検討状況

全体でみると、「入所・入居は検討していない」が55.0%で最も多く、「入所・入居を検討している」は22.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は17.3%となっています。

男女別でみると、男性より女性の方が「入所・入居を検討している」が多くなっています。

要介護度別でみると、要介護1～2よりも要介護3～5の方が「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

圏域別でみると、八雲地区よりも熊石地区の方が「入所・入居は検討していない」が多くなっています。



■ 入所・入居は検討していない

■ 入所・入居を検討している

□ すでに入所・入居申し込みをしている

□ 無回答

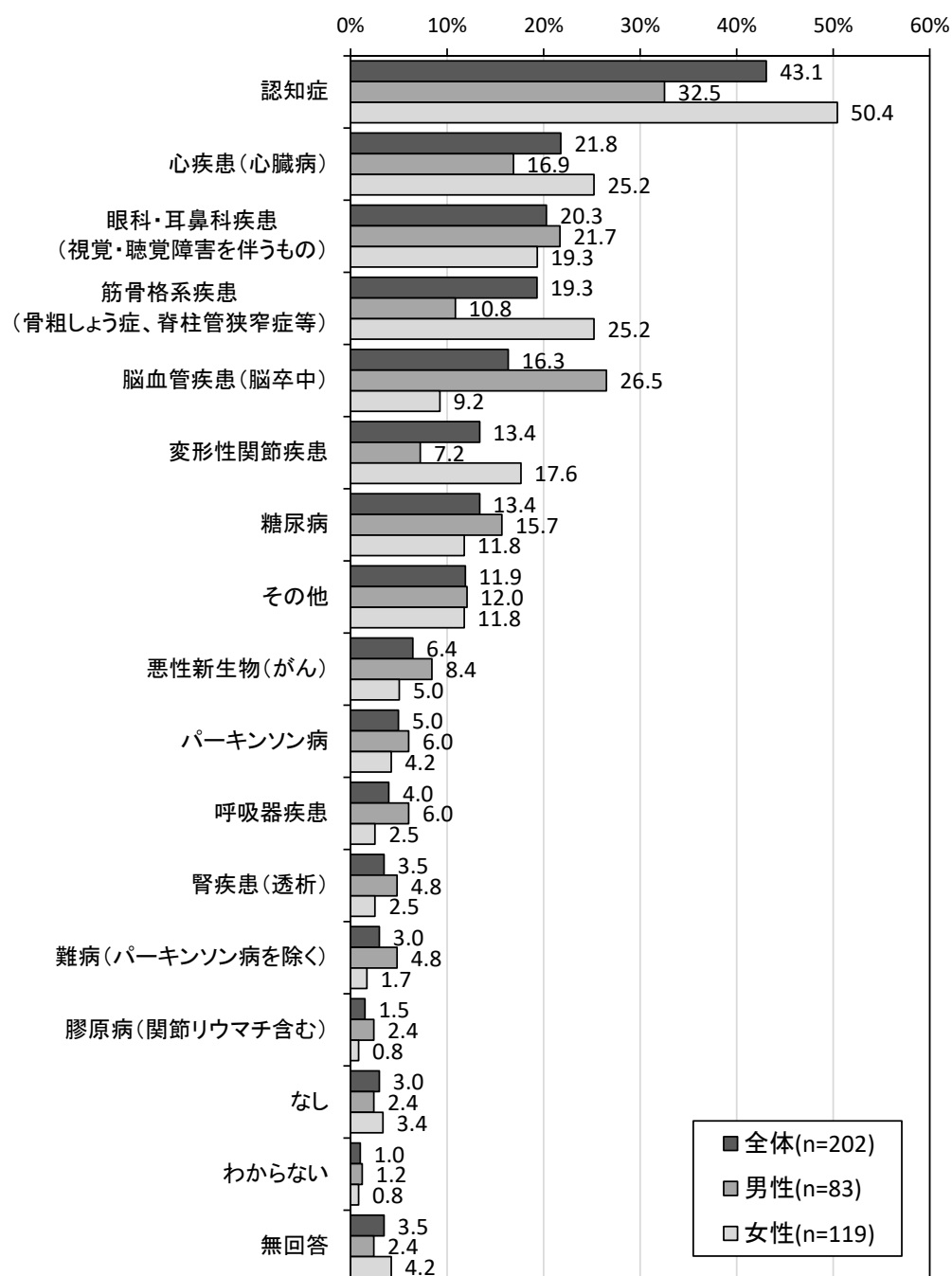
(11) 本人が抱えている傷病【複数回答】

①全体及び男女別

全体でみると、「認知症」が 43.1%で最も多く、次いで「心疾患（心臓病）」（21.8%）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（20.3%）が続いています。

男女別でも「認知症」が最も多く、特に女性は 50.4%と多くなっています。また、認知症に次いで、男性は「脳血管疾患（脳卒中）」（26.5%）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（21.7%）、女性は「心疾患（心臓病）」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（ともに 25.2%）がそれぞれ続いています。

《本人が抱えている傷病／全体及び男女別》

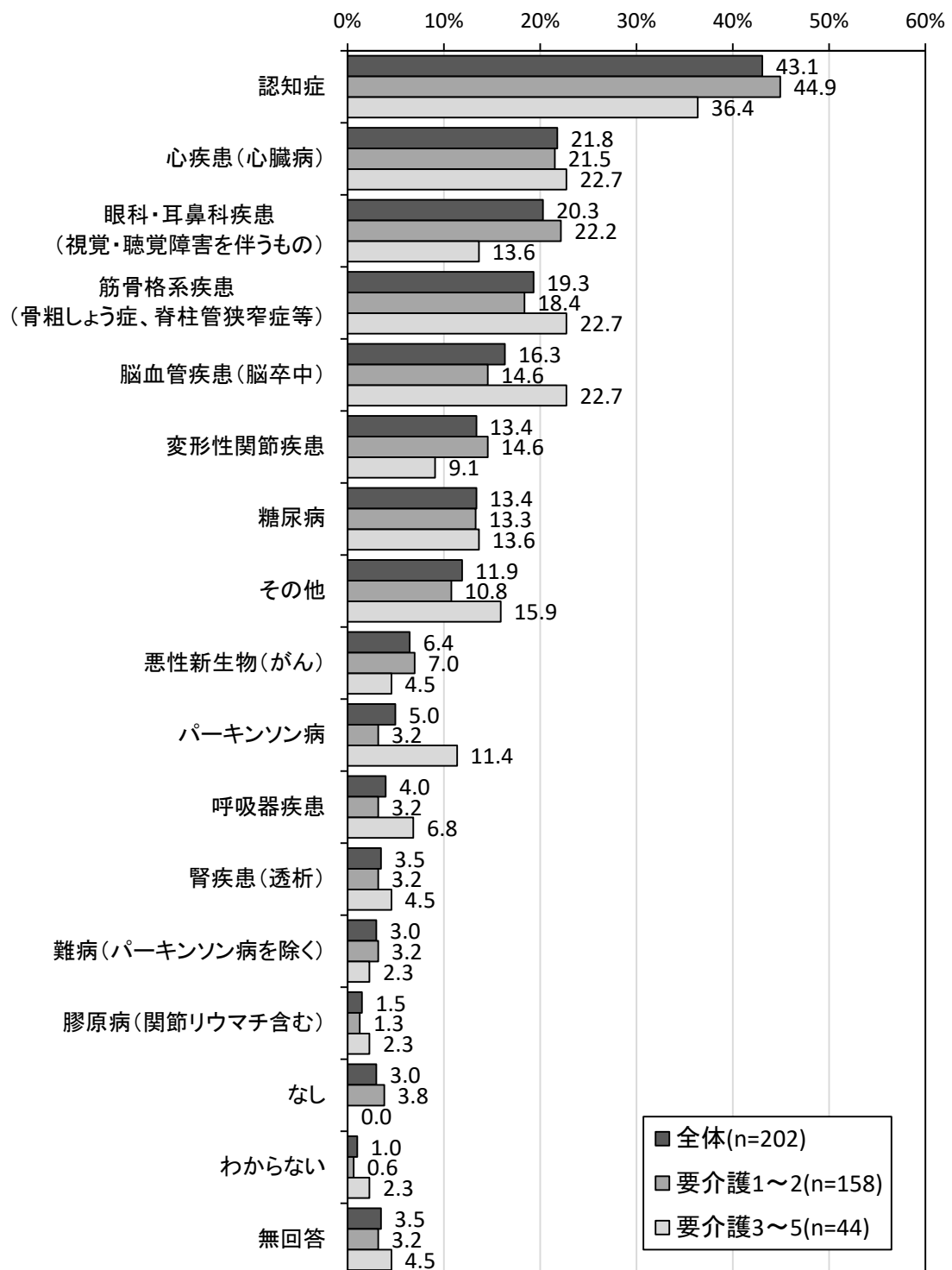


②要介護度別

介護度別でも「認知症」が最も多く、要介護 3～5 と比べて要介護 1～2 はその割合が多くなっています。

要支援 1～2 と比べて要介護 3～5 は、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「脳血管疾患（脳卒中）」が多くなっています。

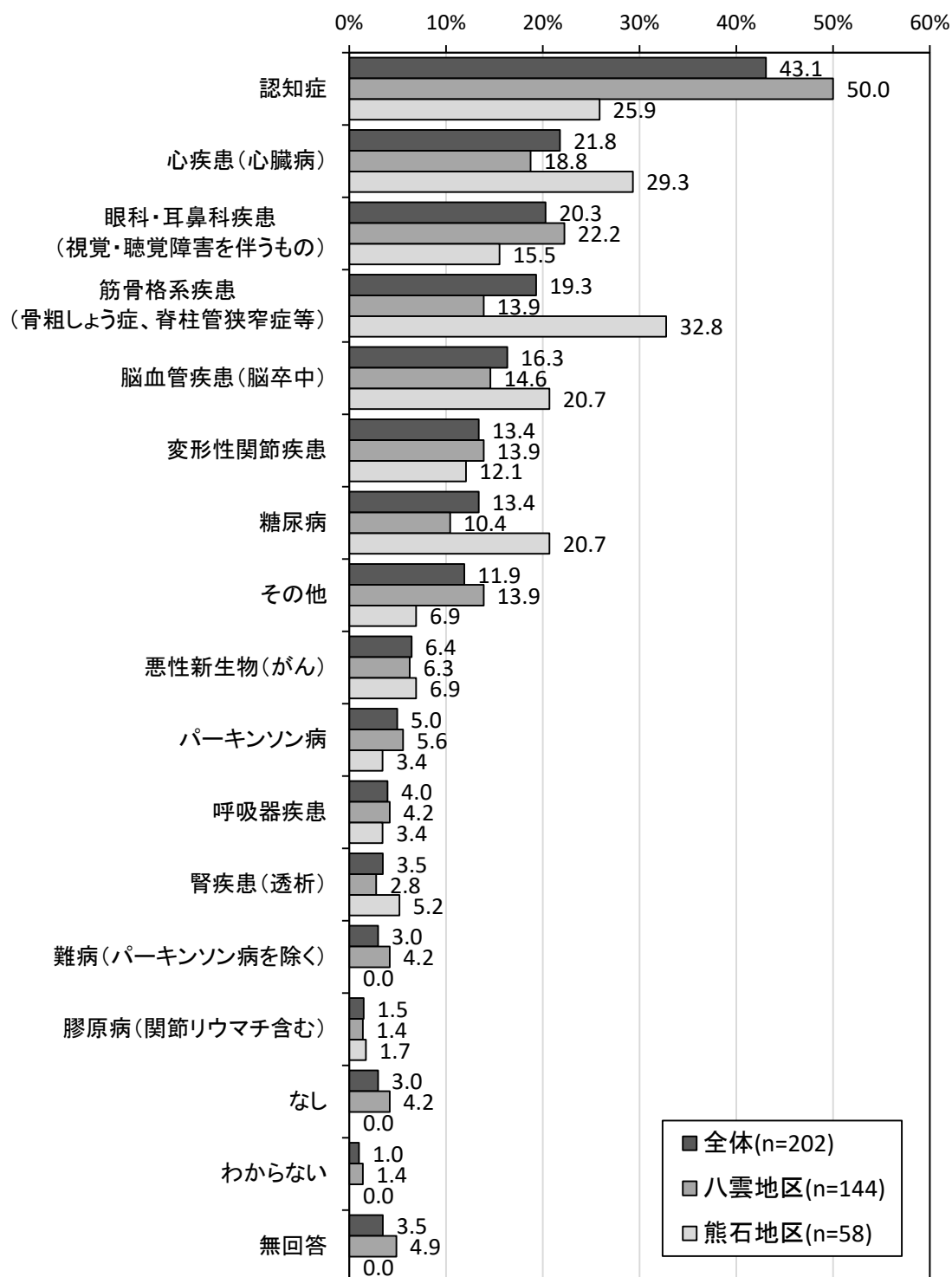
《本人が抱えている傷病／要介護度別》



③圏域別

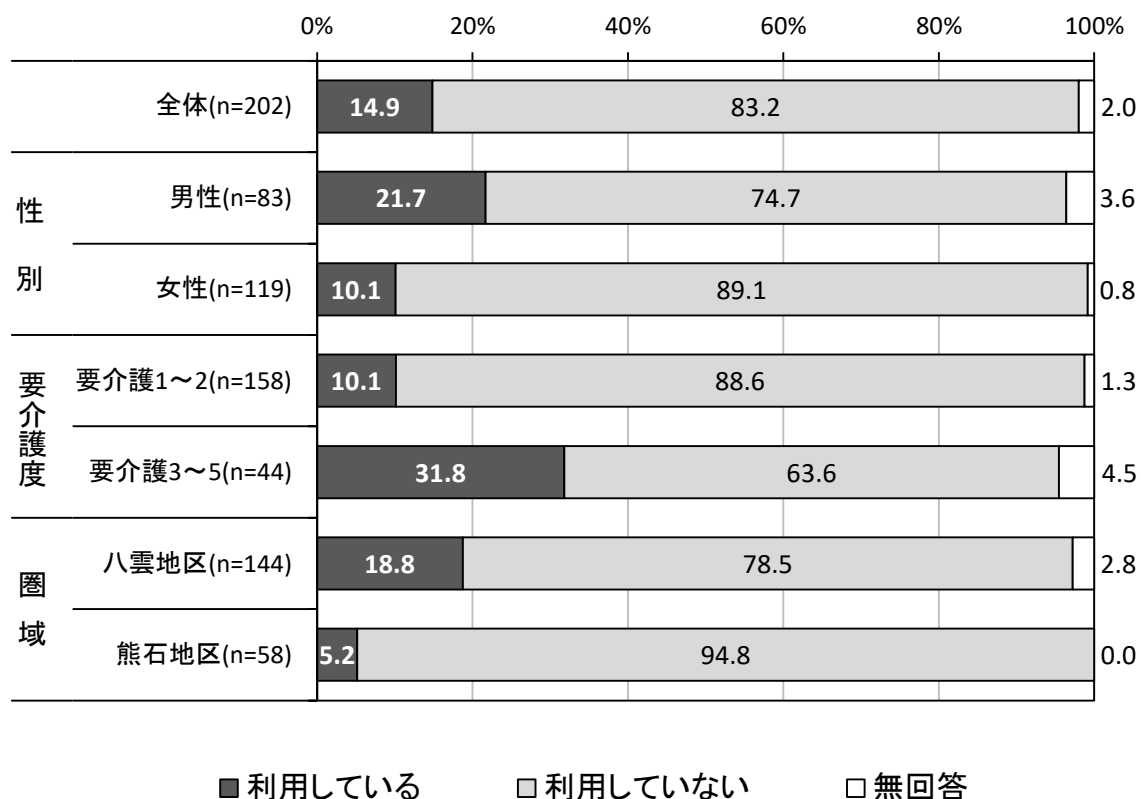
圏域別でみると、八雲地区は「認知症」が50.0%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（22.2%）、「心疾患（心臓病）」（18.8%）が続いています。熊石地区は、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（32.8%）が最も多く、次いで、「心疾患（心臓病）」（29.3%）、「認知症」（25.9%）が続いています。

《本人が抱えている傷病／圏域別》



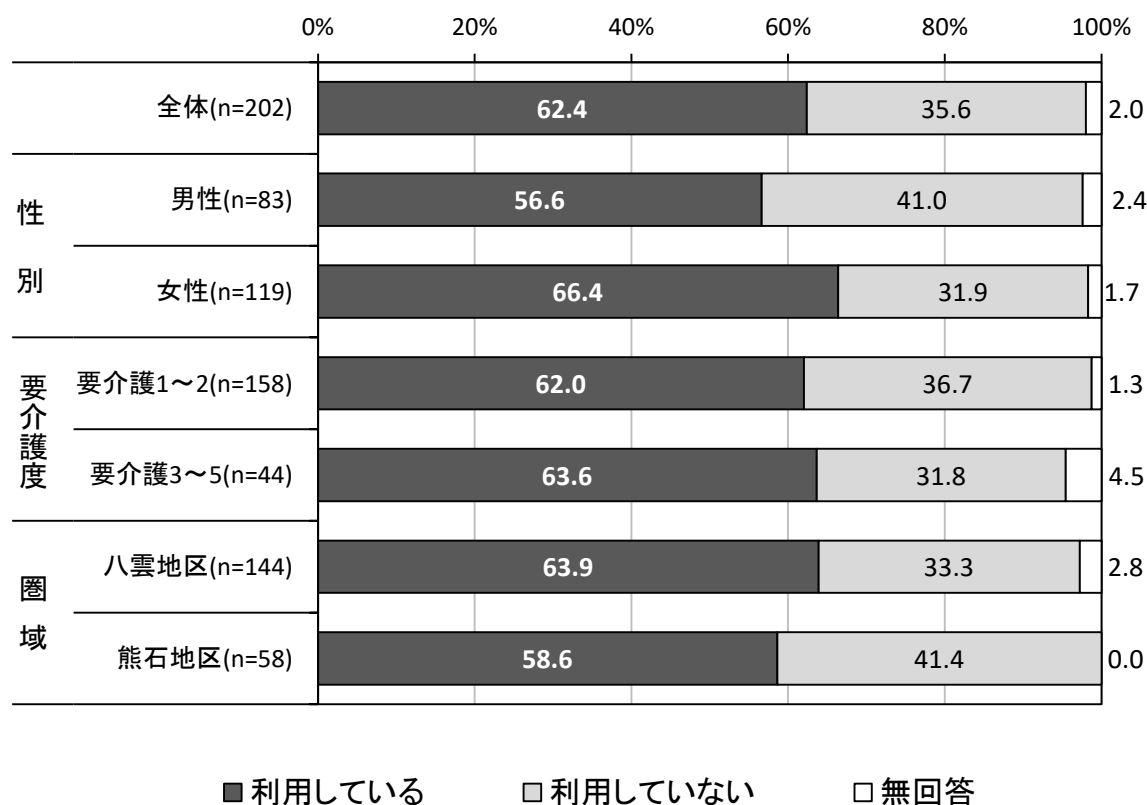
(12) 訪問診療の利用有無

全体では、「利用している」は14.9%、「利用していない」は83.2%となっています。
男女別でみると、男性は「利用している」が21.7%と女性よりも多くなっています。
要介護度別でみると、要介護3～5は「利用している」が31.8%で要介護1～2の10.1%よりも多くなっています。
圏域別でみると、熊石地区は「利用している」が5.2%で八雲地区の18.8%よりも少なくなっています。



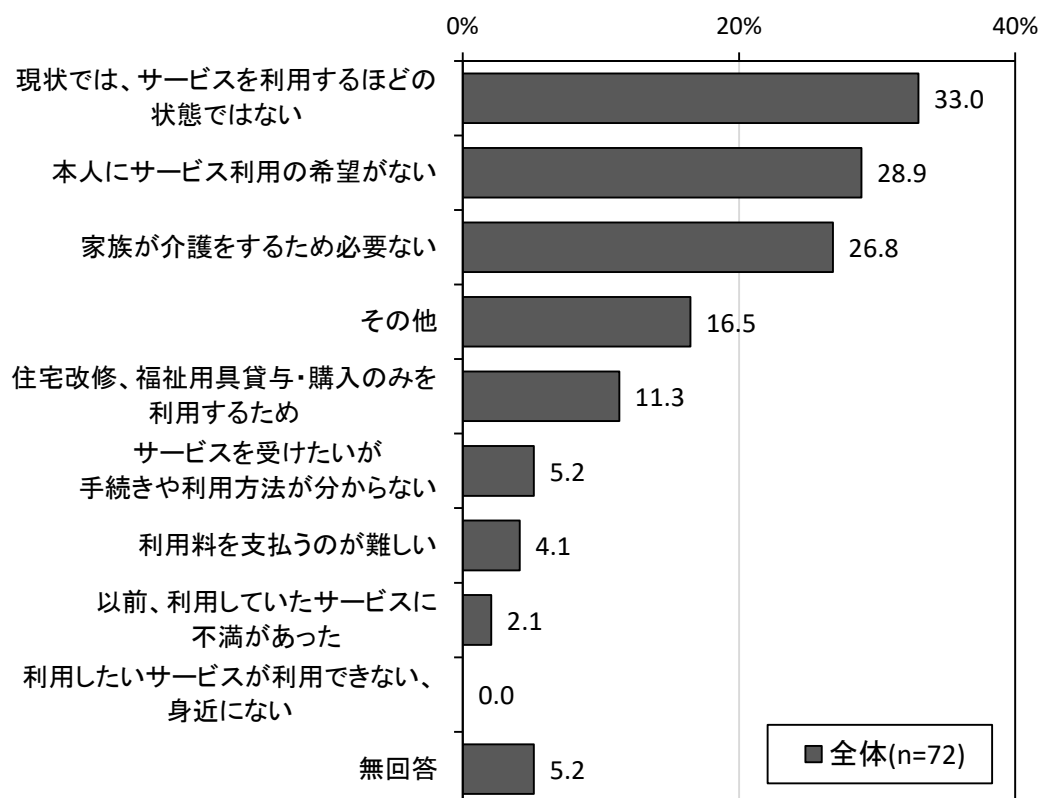
(13) 介護保険サービスの利用有無

全体では、「利用している」は62.4%、「利用していない」は35.6%となっています。
男女別でみると、女性は「利用している」が66.4%で男性よりもやや多くなっています。
要介護度別でみても、要介護度の違いによる大きな差異はみられません。
圏域別でみると、熊石地区は「利用している」が58.6%で八雲地区の63.9%よりもわずかに少なくなっています。



(14) 介護保険サービス未利用の理由【複数回答】

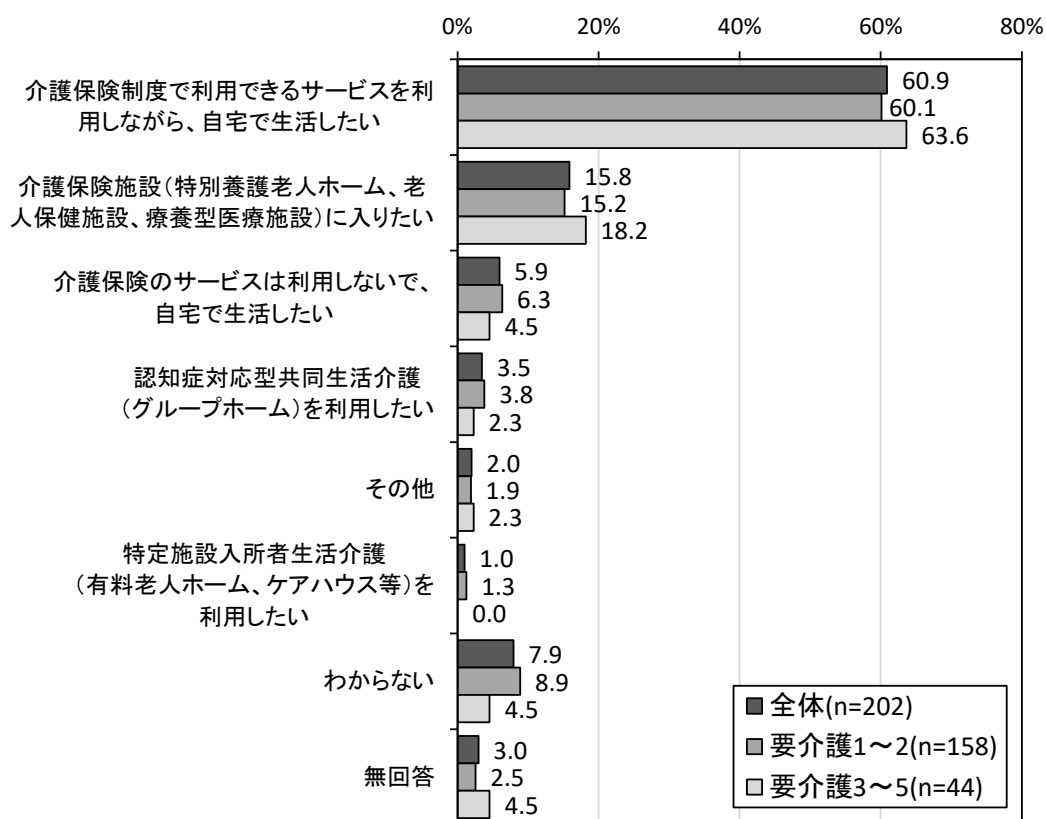
「本人にサービス利用の希望がない」が47.2%で最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(34.7%)、「家族が介護をするため必要ない」(22.2%)が続いています。



(15) 今後どのような介護を希望するか

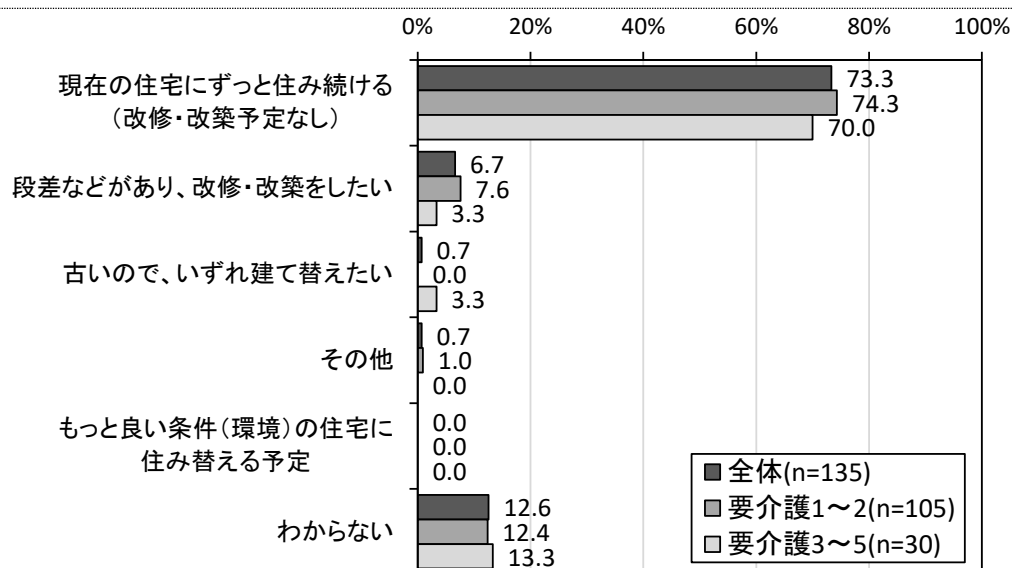
全体でみると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が60.9%を占めており、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」が15.8%で続いています。

要介護度別でも、要介護1～2と要介護3～5の間に大きな差異はみられません。



(16) 在宅介護を希望する人の住まいの予定

全体及び要介護度別でも「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が70%以上を占めています。



3. 主な介護者の状況について

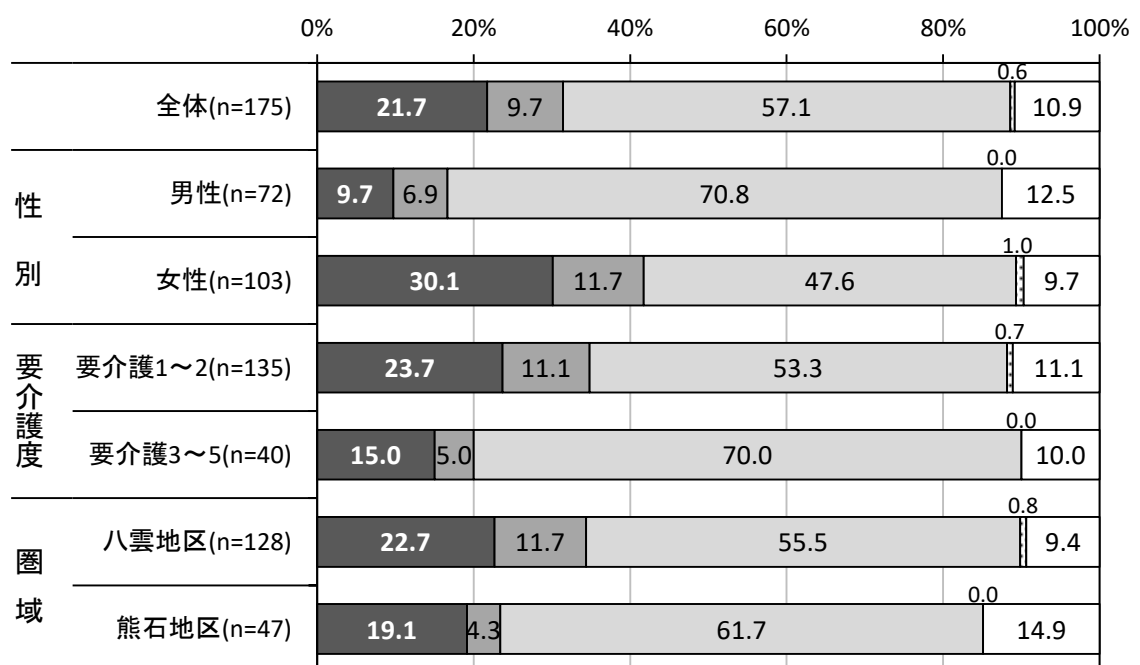
(1) 主な介護者の勤務形態

全体でみると、「働いていない」が 57.1%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」(21.7%)、「パートタイムで働いている」(9.7%)が続いています。

男女別でみると、男性の介護者よりも女性の介護者の方が就労している人の割合が多くなっています。

要介護度別に就労している人の割合をみると、要介護 1～2 の 34.8%に対し、要介護 3～5 は 20.0%と少なくなっています。

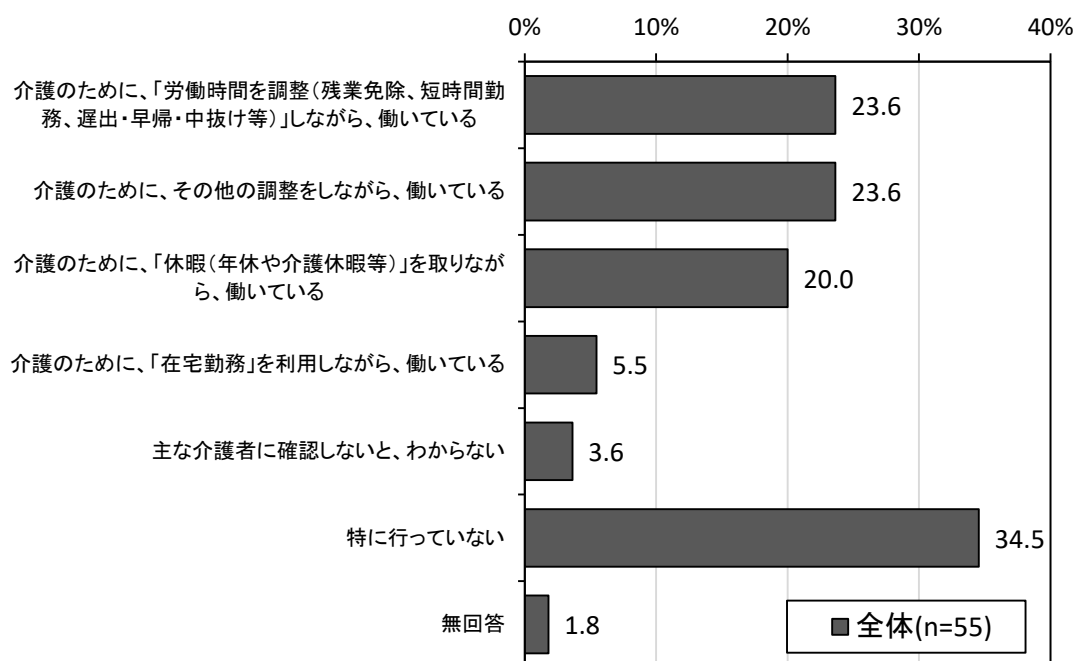
圏域別に就労している人の割合をみると、八雲地区の 34.7%に対し、熊石地区は 23.4%と少なくなっています。



- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- ▣ 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

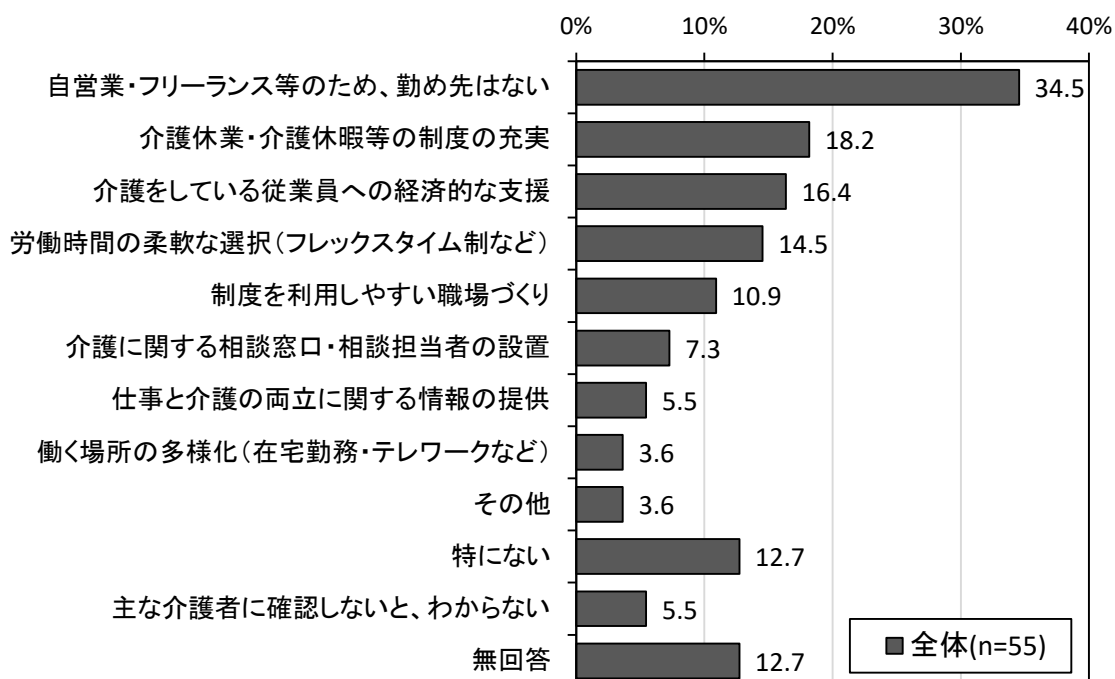
(2) 主な介護者の働き方の調整状況【複数回答】

「特に行っていない」が34.5%で最も多くなっていますが、働き方を調整している中では、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、その他の調整をしながら、働いている」がともに23.6%で多くなっています。



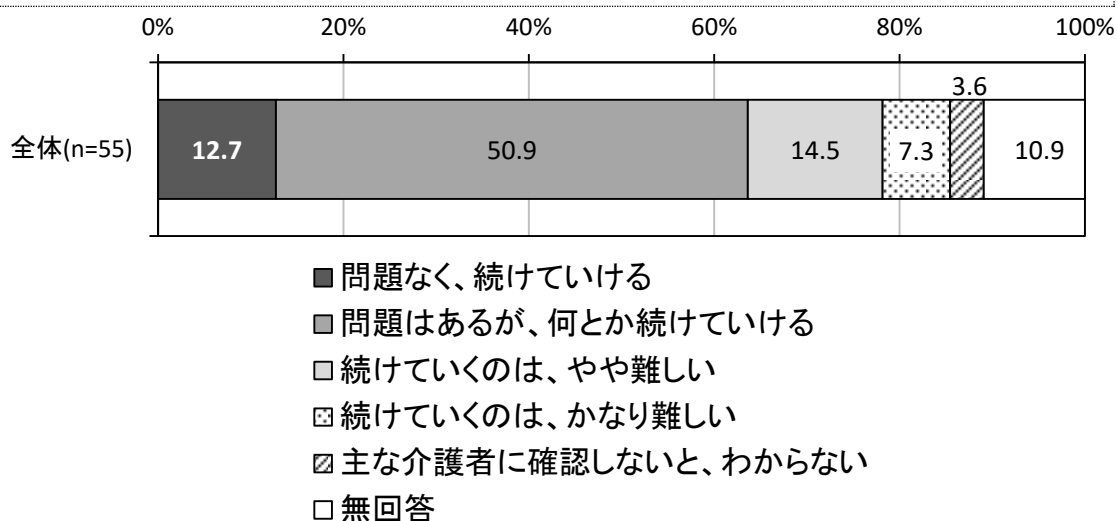
(3) 仕事と介護の両立に効果のある支援【複数回答】

「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が34.5%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(18.2%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(16.4%)が続いています。



(4) 主な介護者の就労継続可否

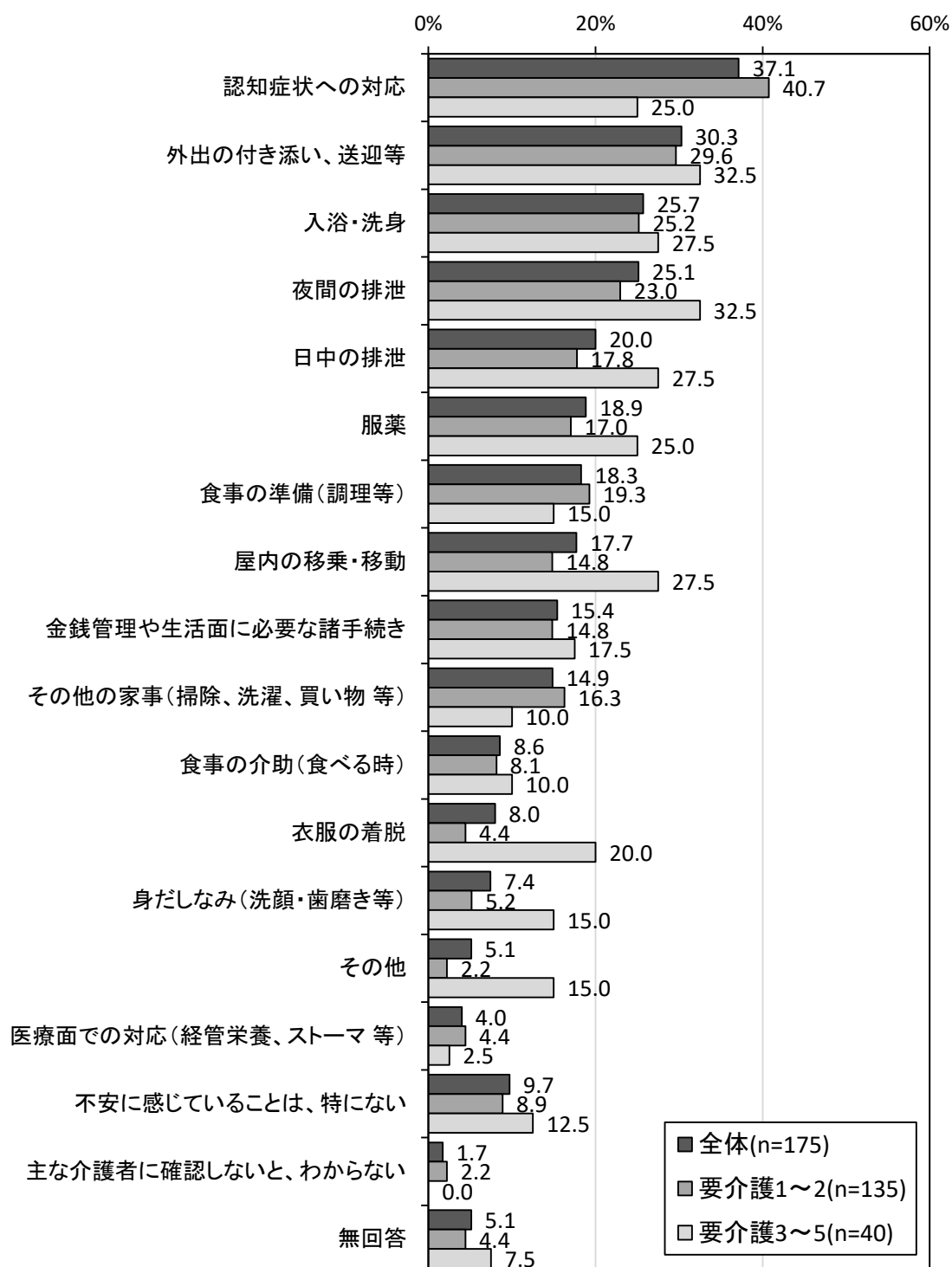
「問題なく、続けていける」(12.7%)及び「問題はあるが、何とか続けていける」(50.9%)の合計 63.6%は今後も就労を続けていけると回答している一方、「続けていくのは、やや難しい」(14.5%)及び「続けていくのは、かなり難しい」(7.3%)の合計 21.8%は就労の継続に難しさを感じています。



(5) 主な介護者が不安に感じる介護の内容【複数回答】

全体でみると、「認知症状への対応」が 37.1%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(30.3%)、「入浴・洗身」(25.7%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護3～5は「外出の付き添い、送迎等」、「夜間の排泄」がともに32.5%で最も多く、次いで「入浴・洗身」「日中の排泄」「屋内の移乗・移動」のそれぞれ27.5%が上位回答となっています。



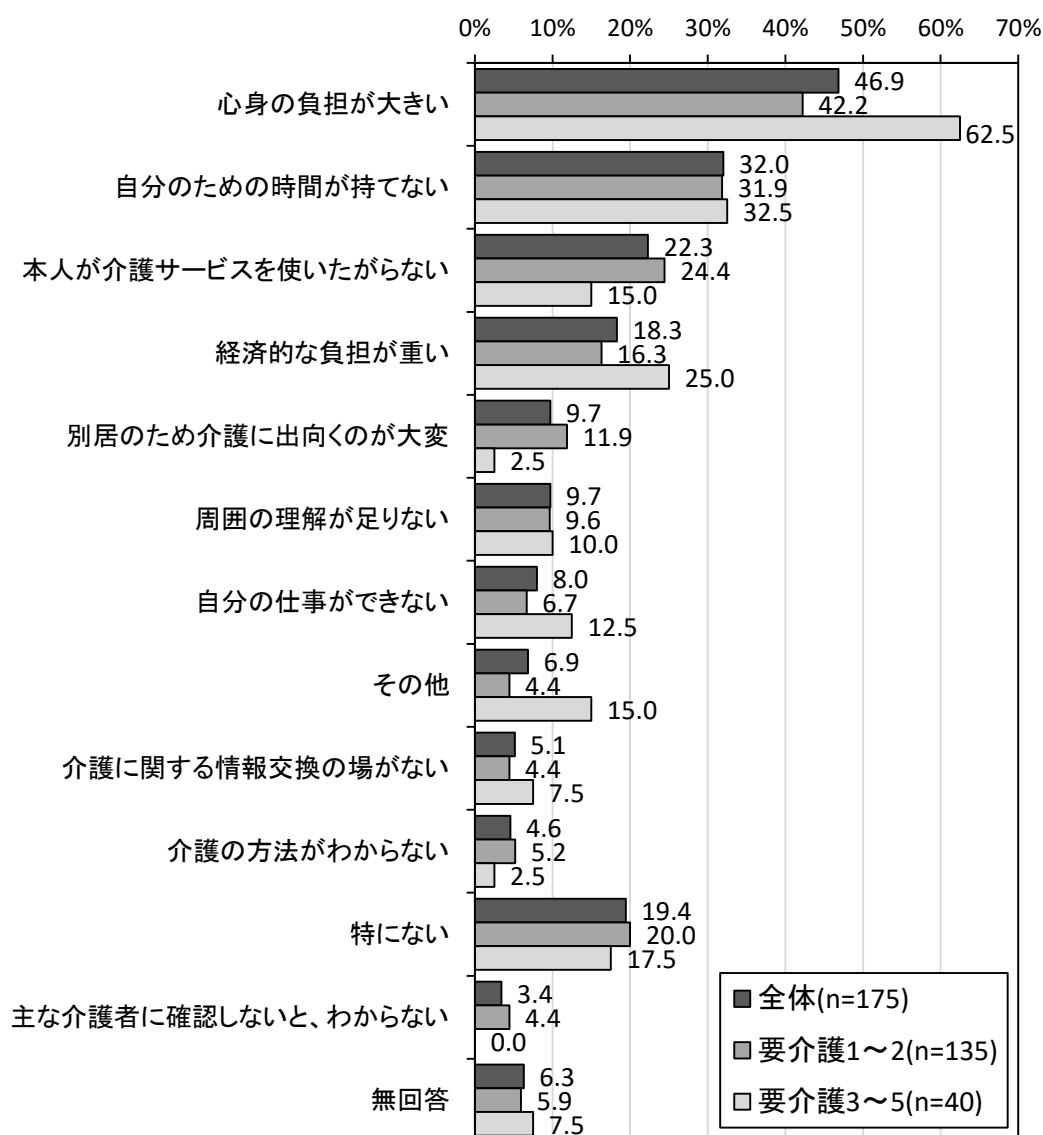
(6) 主な介護者が介護をする上で困っていること【複数回答】

①全体及び要介護度別

全体でみると、「心身の負担が大きい」が46.9%で最も多く、次いで「自分のための時間が持てない」(32.0%)、「本人が介護サービスを使いたがらない」(22.3%)が続いています。

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「心身の負担が大きい」が62.5%と非常に多く、介護負担の大きさが回答に表れていると考えられます。

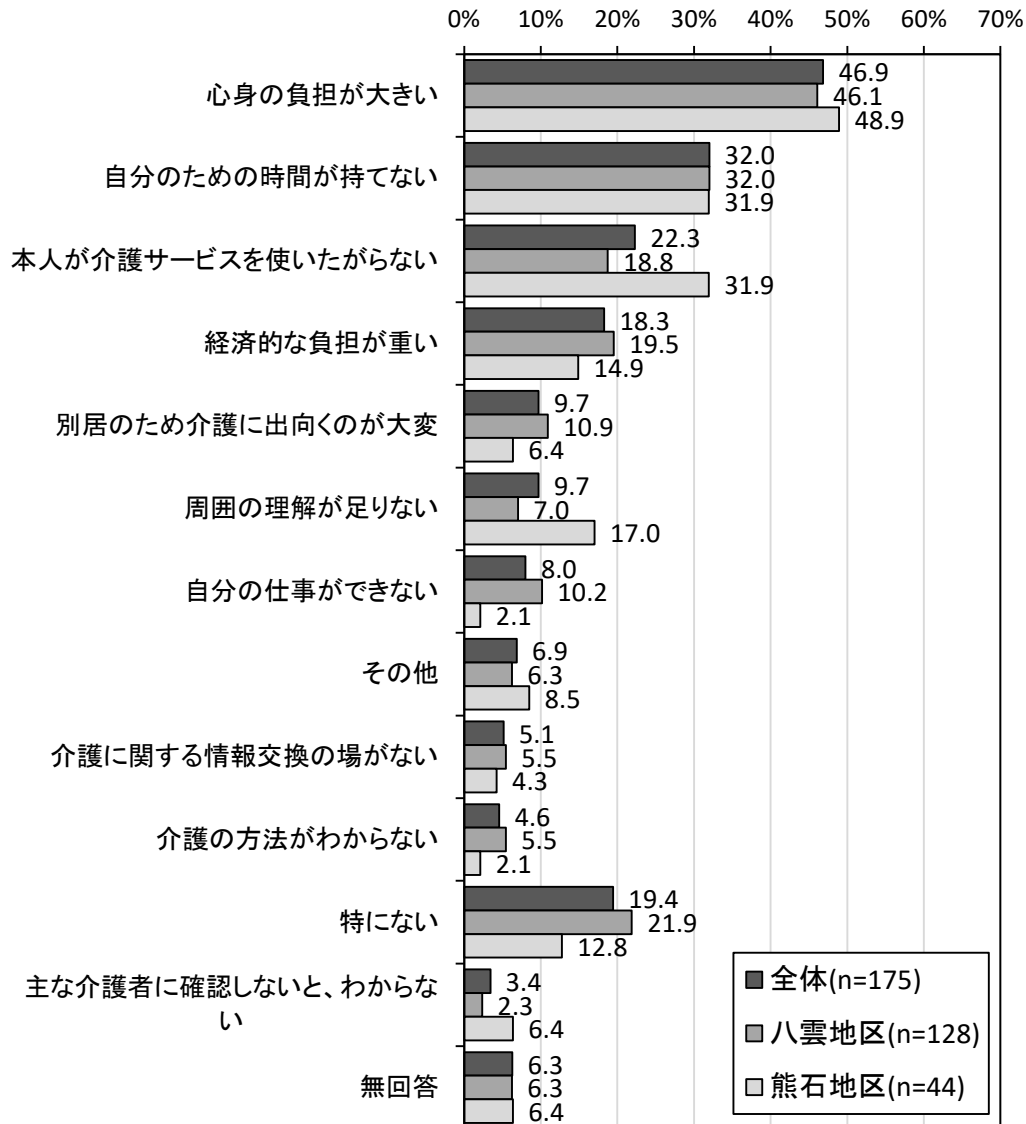
《主な介護者が介護をする上で困っていること／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でみると、八雲地区は全体と同様の傾向となっていますが、熊石地区は「本人が介護サービスを使いたがらない」(31.9%)、「周囲の理解が足りない」(17.0%)が八雲地区と比べて多くなっています。

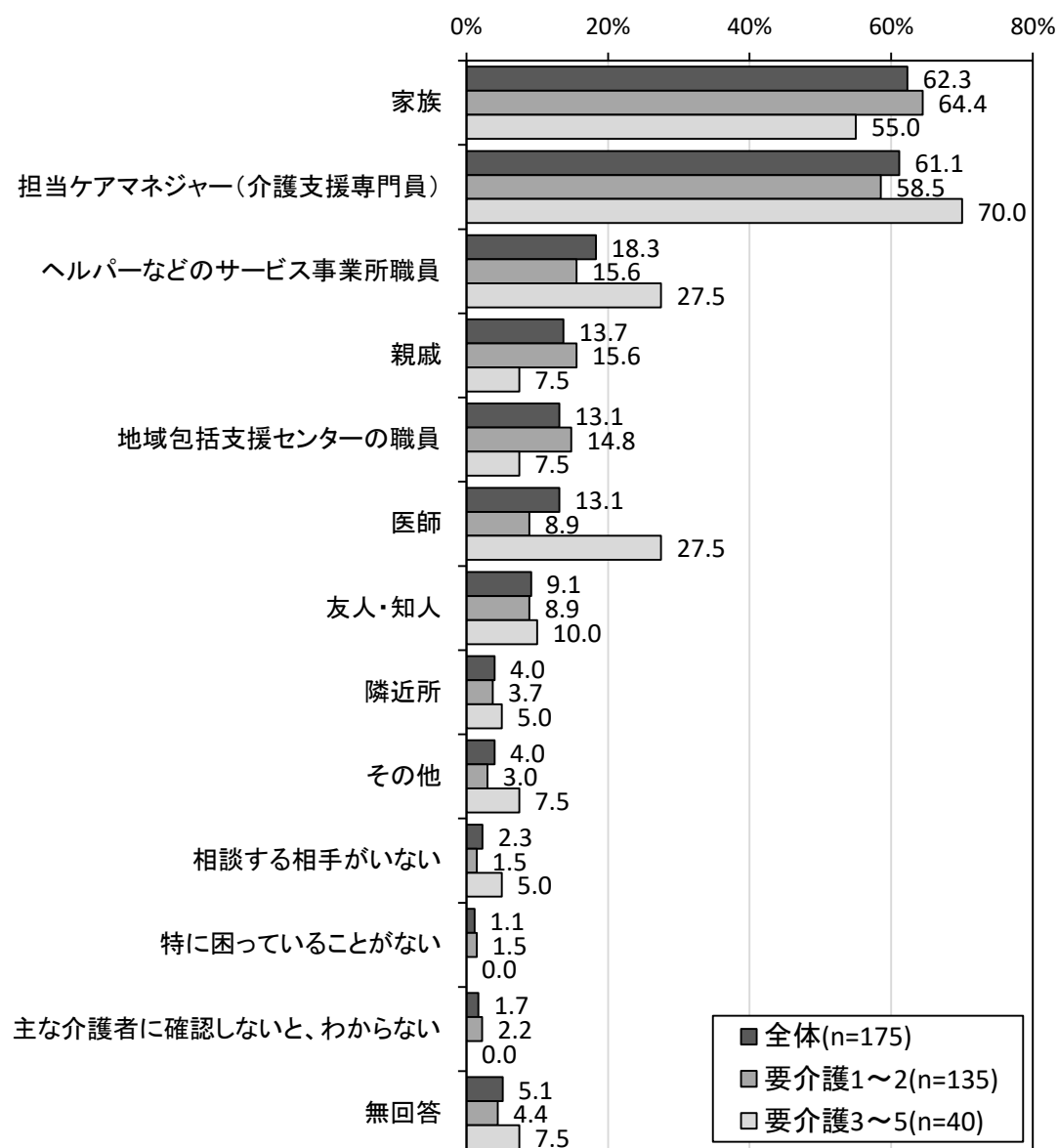
《主な介護者が介護をする上で困っていること／圏域別》



(7) 介護に困ったときの相談相手【複数回答】

全体でみると、「家族」が 62.3%で最も多く、次いで「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」(61.1%)が続いています。

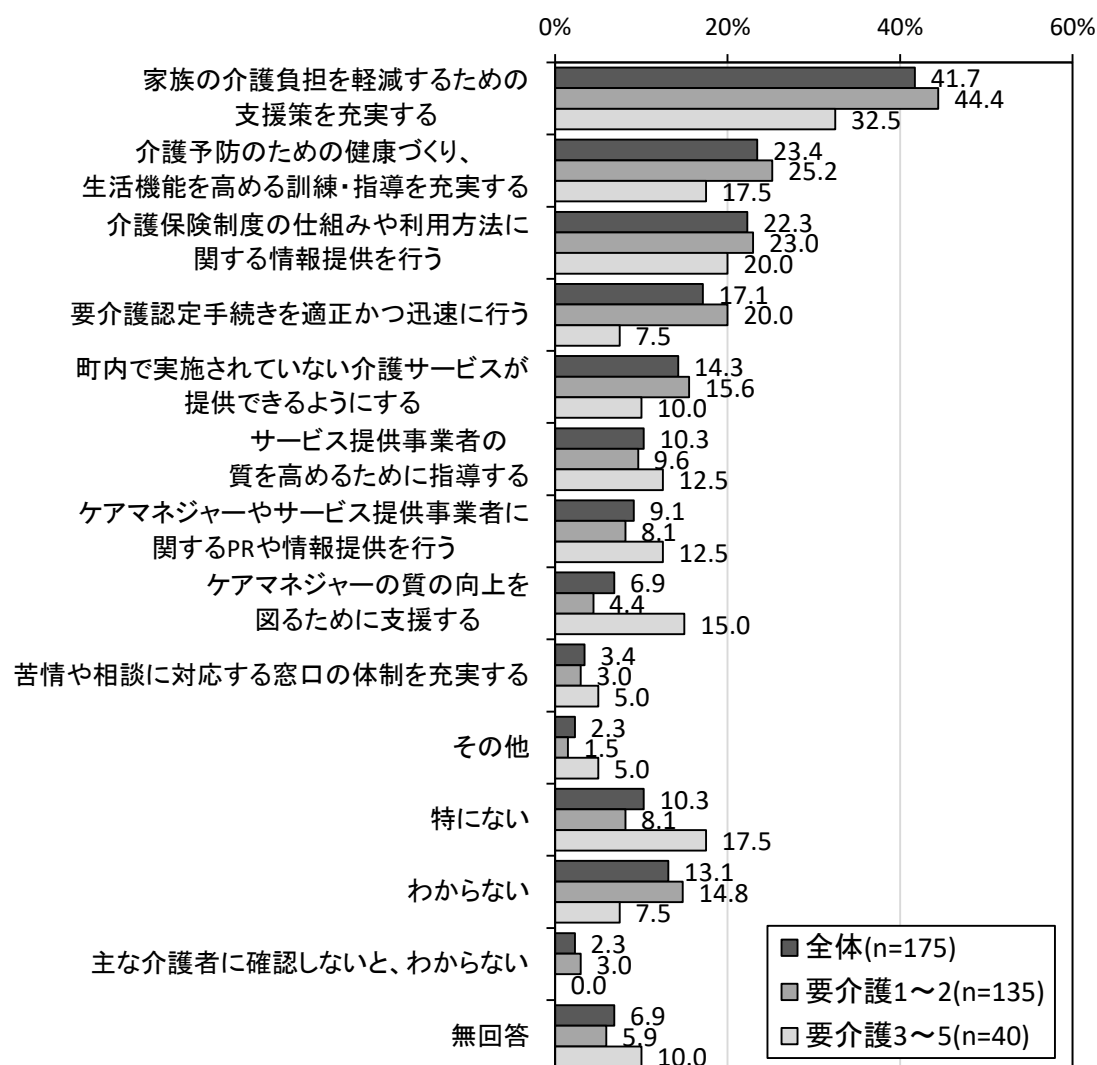
要介護度別でみると、要介護 3～5 は「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が最も多くなっています。



(8) 今後、介護保険制度として特に力を入れるべきこと

全体でみると、「家族の介護負担を軽減するための支援策を充実する」が 41.7%で最も多く、次いで「介護予防のための健康づくり、生活機能を高める訓練・指導を充実する」が 23.4%で続いています。

介護度別でみると、要介護 1～2 は全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護 3～5 は、「ケアマネジャーの質の向上を図るために支援する」が要支援 1～2 と比べて多くなっています。



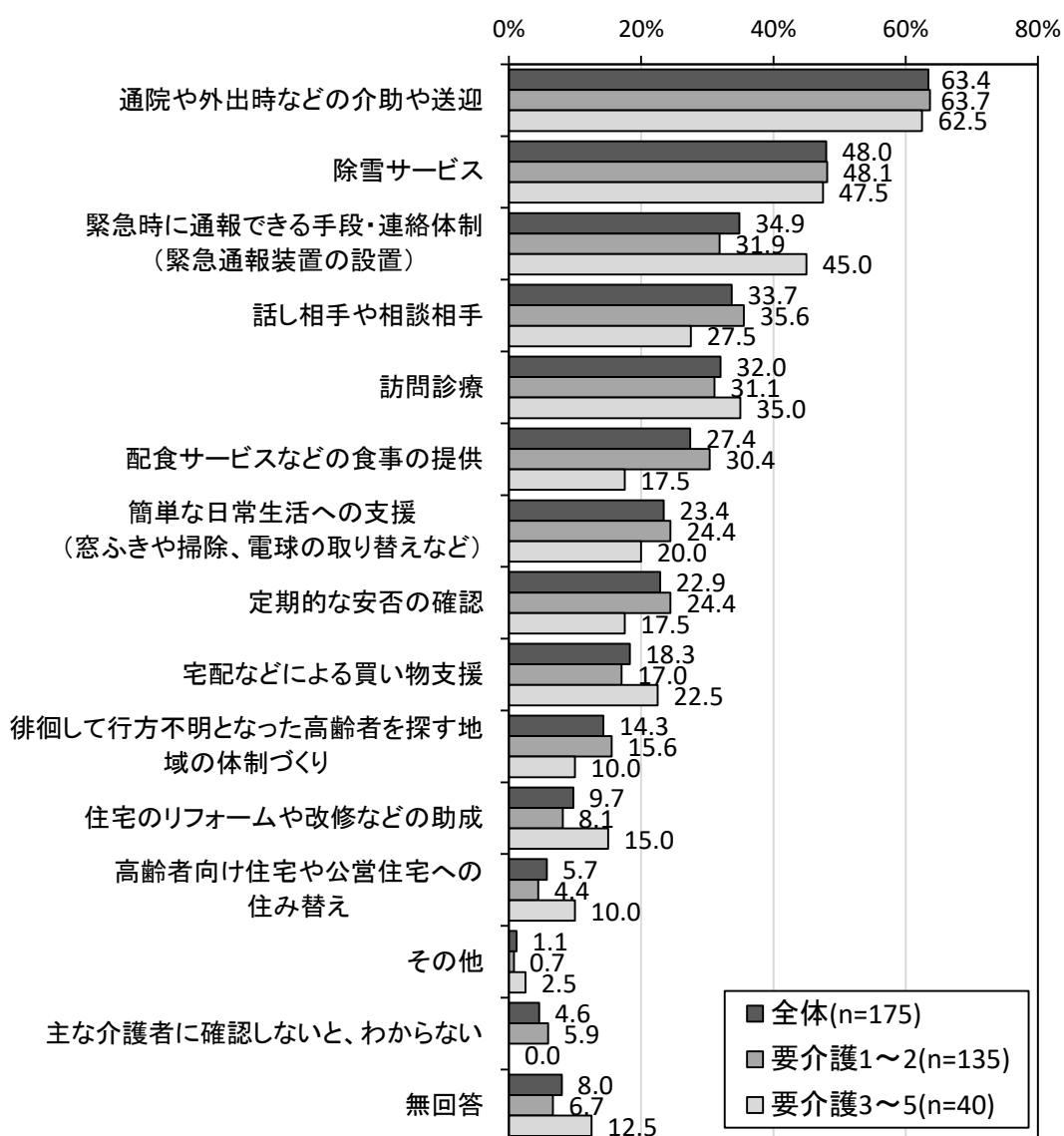
(9) 高齢者が身近な地域や自宅での生活続けるために特に必要なこと

①全体及び要介護度別

全体でみると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 63.4%で最も多く、次いで「除雪サービス」(48.0%)、「緊急時に通報できる手段・連絡体制(緊急通報装置の設置)」(34.9%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護 3～5 は、「緊急時に通報できる手段・連絡体制(緊急通報装置の設置)」が要介護 1～2 と比べて多くなっています。

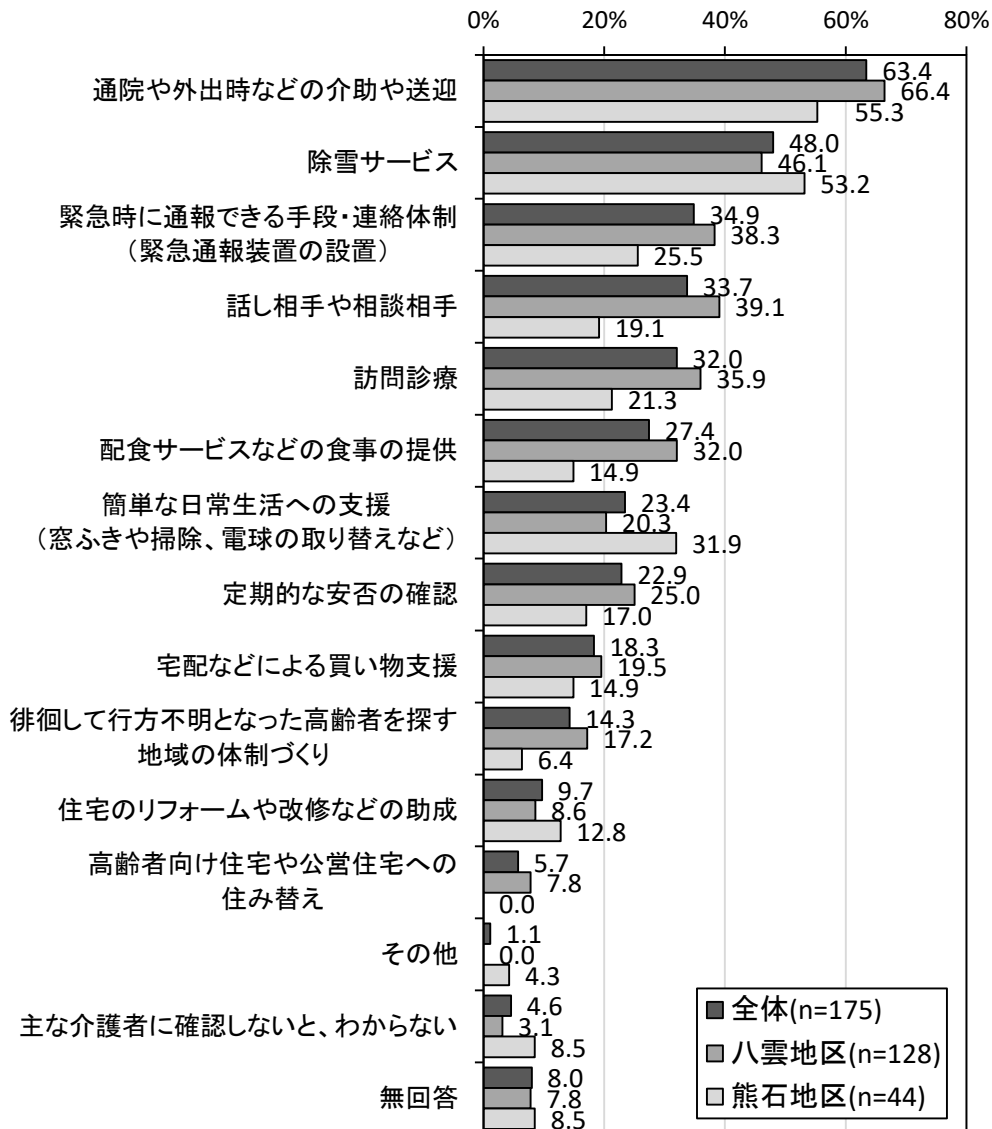
《主な介護者が介護をする上で困っていること／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも全体と同様の傾向となっており、「通院や外出時などの介助や送迎」が最も多くなっていますが、熊石地区は「除雪サービス」(53.2%)が八雲地区よりも多くなっています。

《主な介護者が介護をする上で困っていること／圏域別》



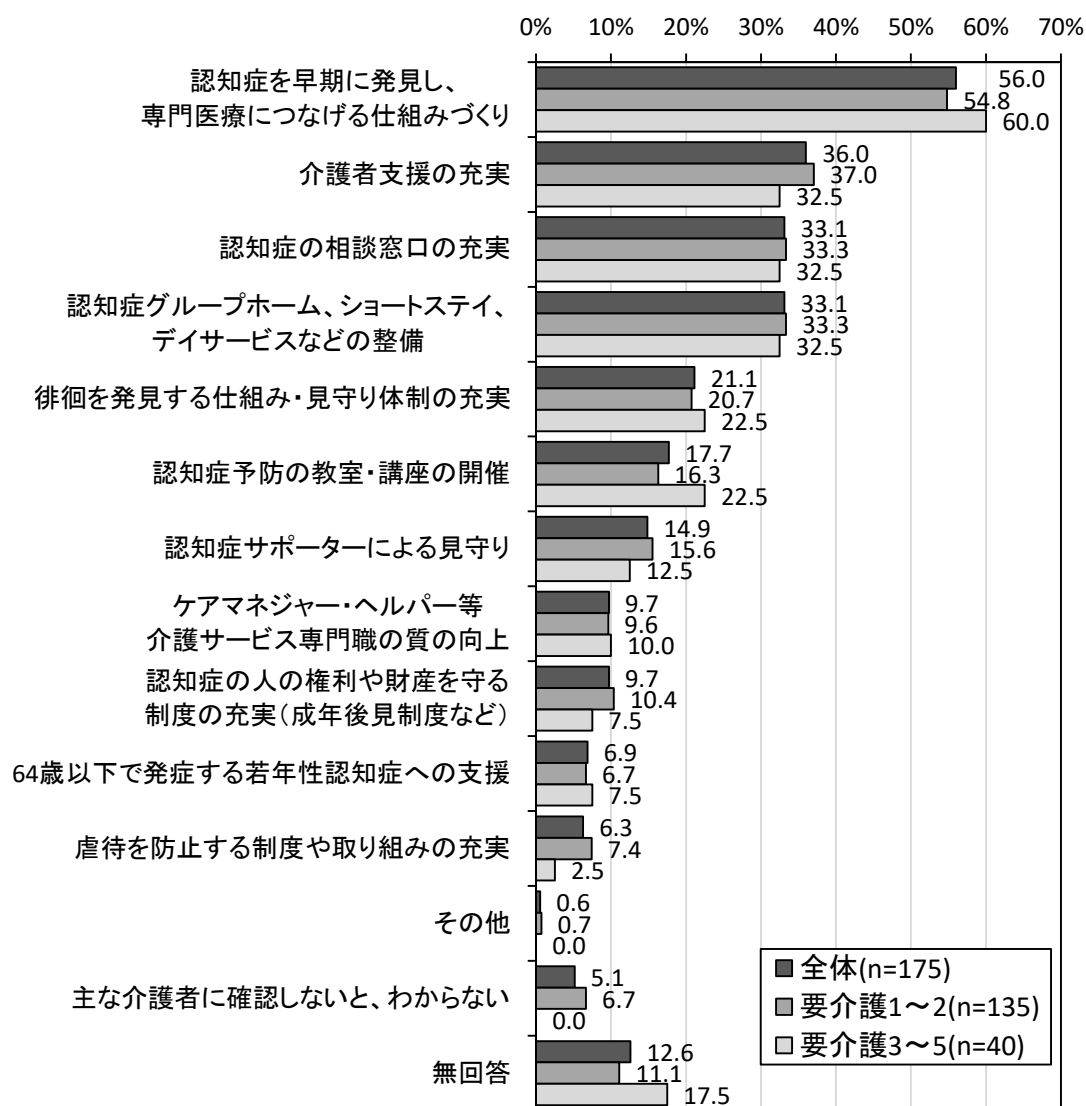
(10) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと

①全体及び要介護度別

全体でみると、「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」が 56.0% で最も多く、次いで「介護者支援の充実」(36.0%)、「認知症の相談窓口の充実」(33.1%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護 3～5 は「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」(60.0%)、「認知症予防の教室・講座の開催」(22.5%)が要支援 1～2 と比べて多くなっています。

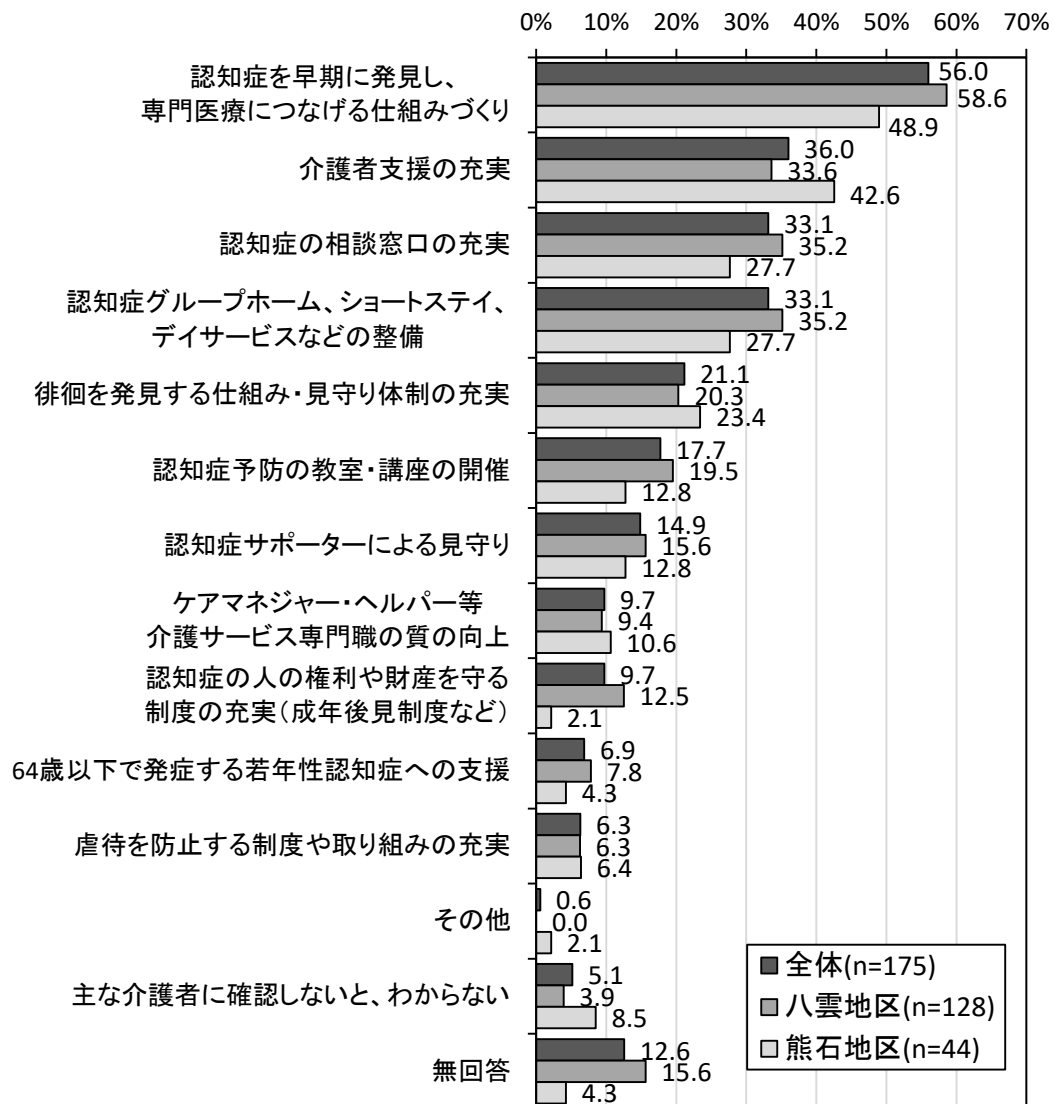
《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも、「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」が最も多く、上位回答は全体と比べて大きな差異はみられませんが、熊石地区は「介護者支援の充実」(42.6%)が八雲地区と比べて多くなっています。

《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／圏域別》



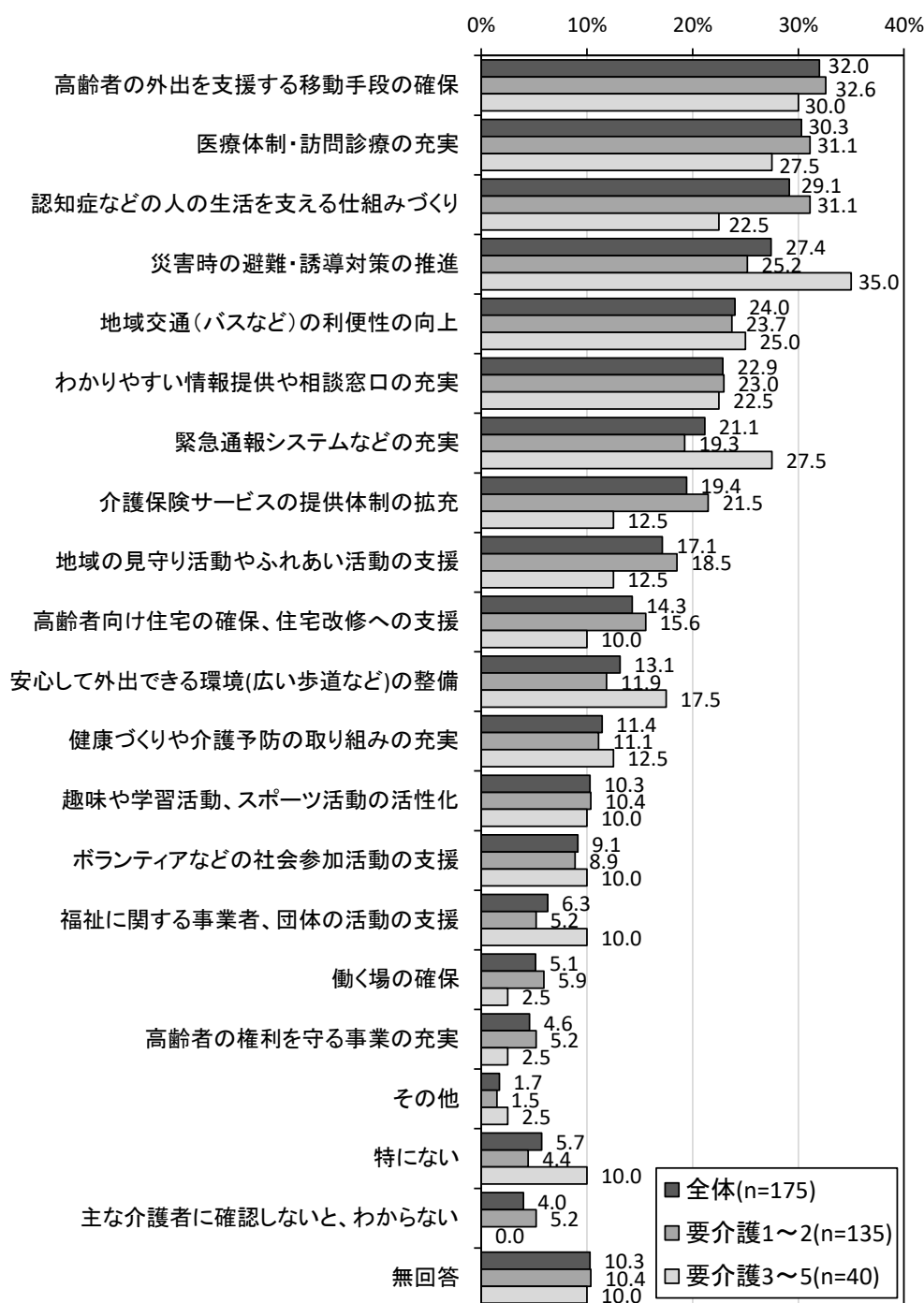
(11) 今後、特に力を入れてほしい高齢者施策

①全体及び要介護度別

全体でみると、「高齢者の外出を支援する移動手段の確保」が 32.0%で最も多く、次いで「医療体制・訪問診療の充実」(30.3%)、「認知症などの人の生活を支える仕組みづくり」(29.1%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護 3～5 は「災害時の避難・誘導対策の推進」(35.0%)が要支援 1～2 と比べて多くなっています。

《今後、特に力を入れてほしい高齢者施策／全体及び要介護度別》

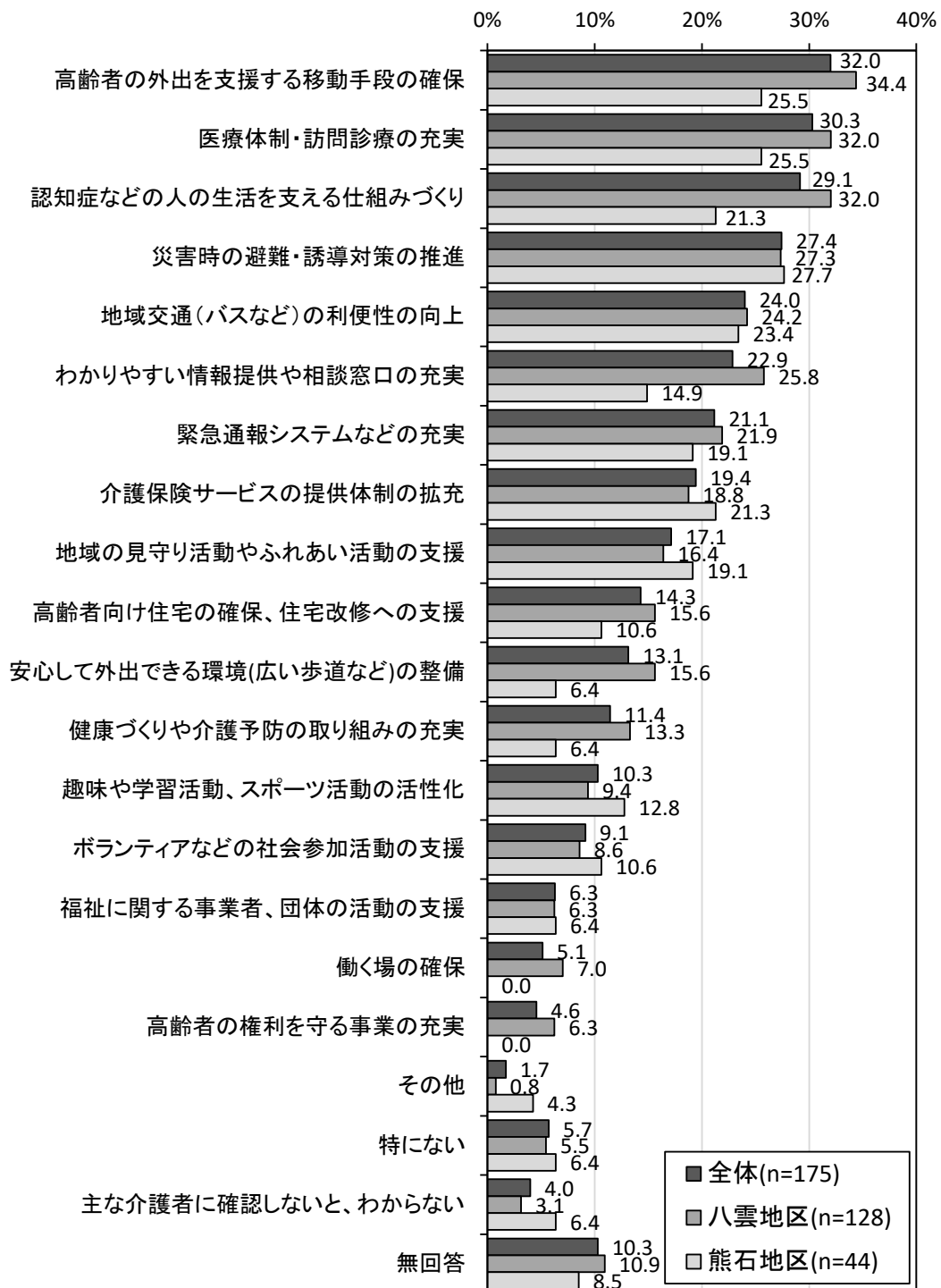


②圏域別

圏域別でみると、八雲地区は「高齢者の外出を支援する移動手段の確保」(34.4%)、「医療体制・訪問診療の充実」(32.0%)、「認知症などの人の生活を支える仕組みづくり」(32.0%)が熊石地区よりも多くなっています。

また、熊石地区は「災害時の避難・誘導対策の推進」が27.7%で最も多くなっています。

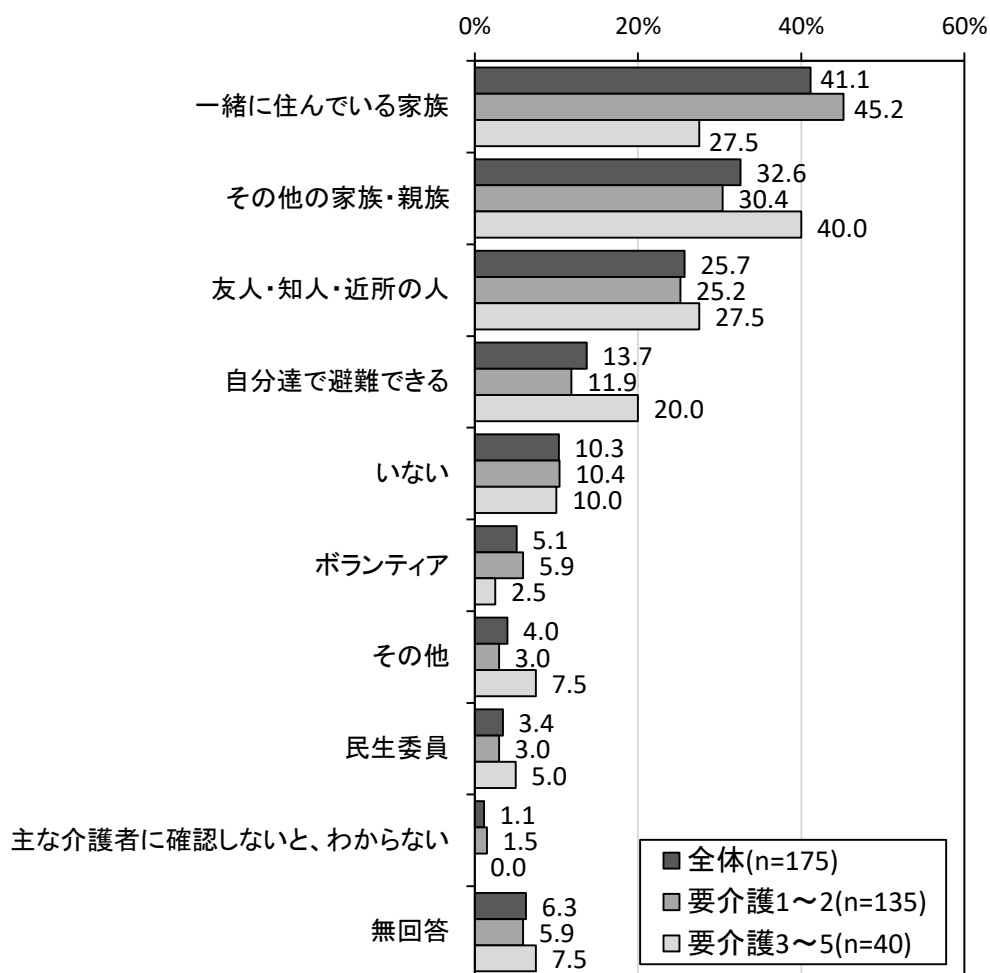
《今後、特に力を入れてほしい高齢者施策／圏域別》



(12) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

全体でみると、「一緒に住んでいる家族」が41.1%で最も多く、次いで「その他の家族・親族」(32.6%)、「友人・知人・近所の人」(25.7%)と続いています。

要介護度別にみると、要支援者1～2は全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「その他の家族・親族」が40.0%で最も多く、また「自分達で避難できる」も要介護1～2に比べてやや多くなっています。



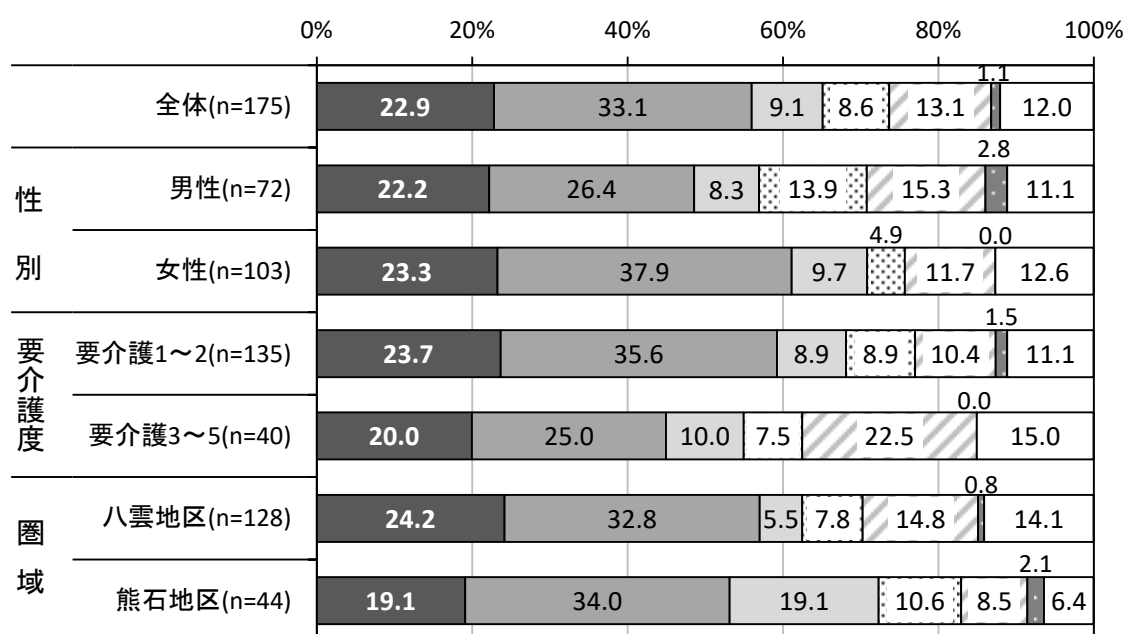
(13) 介護を受けている方にとっての町の暮らしやすさ

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(22.9%)、「どちらかといえばそう思う」(33.1%)の合計56.0%が暮らしやすいと回答しています。

男女別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、女性は61.2%で男性の48.6%よりも多くなっています。

要介護度別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、要介護1～2の59.3%に対して、要介護3～5は45.0%と少なくなっています。

圏域別みると、「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は八雲地区と熊石地区で大きな差異はありませんが、熊石地区は「どちらかといえばそう思わない」(19.1%)、「暮らしやすいとは思わない」(10.6%)の合計が29.7%で八雲地区の13.3%と比べて多くなっています。



■ 暮らしやすいと思う

□ どちらかといえばそう思わない

□ わからない

□ 無回答

■ どちらかといえばそう思う

▨ 暮らしやすいとは思わない

■ 主な介護者に確認しないと、わからない